基本計画書

別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画										
事　項	記　入　欄									備　考
計　画　の　区　分	学部の設置									
フ　リ　ガ　ナ 設　置　者	ガッコウホウジン　ジョウサイダイガク 学校法人 城西大学									
フ　リ　ガ　ナ 大　学　の　名　称	ジョウサイコクサイダイガク 城西国際大学　（Josai International University）									
大　学　本　部　の　位　置	千葉県東金市求名１番地									
大　学　の　目　的	城西国際大学は、本学の建学の精神「学問による人間形成」及び教育理念「国際社会で生きる人間としての人格形成」に基づき、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、最高水準の教育研究拠点となり、社会的公器として、大学の教育研究に対する国民の要請に応えるとともに、我が国の高等教育及び学術研究の水準の向上と人類文化の発展に貢献することを目的とする。									
新設学部等の目的	健康科学部は、保健・医療・福祉分野を横断し、現代の健康問題に対応することができる総合的視野を持った人材を養成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次 人	人			年　月 第　年次		
	健康科学部 【Faculty of Health Sciences】									
	看護学科 【Department of Nursing】	4	100	－	400	学士 （看護学） 【Bachelor of Science in Nursing】	保健衛生学関係 (看護学関係)	令和8年4月 第１年次	千葉県東金市 求名１番地	
	理学療法学科 【Department of Physical Therapy】	4	80	－	320	学士 （理学療法学） 【Bachelor of Physical Therapy】	保健衛生学関係 （リハビリテーション関係）	令和8年4月 第１年次		
	福祉総合学科 【Department of Social Work Studies】	4	65	3年次 15	290	学士 （福祉総合） 【Bachelor of Arts in Social Work Studies】	社会学・社会福祉学関係	令和8年4月 第１年次		
	計		245	15	1,010					
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	城西大学 大学院経営学研究科 ビジネス・イノベーション専攻　博士後期課程（令和8年4月設置）（　3）（令和7年3月認可申請済み） 薬学部 薬学科（定員減）　（△ 50）（令和8年4月）（令和7年3月認可申請済み） 理学部 情報数理学科（定員増）　（　20）（令和8年4月）（令和7年3月認可申請済み） 令和8年4月名称変更予定 現代政策学部→総合政策学部 現代政策学部 社会経済システム学科→総合政策学科 城西国際大学 福祉総合学部（廃止） 福祉総合学科　（△140） （3年次編入学定員）　（△　5） 理学療法学科　（△ 80）　※令和8年4月学生募集停止 （3年次編入学定員は令和10年4月学生募集停止） 看護学部（廃止） 看護学科　（△100）　※令和8年4月学生募集停止 薬学部 医療薬学科（定員減）　（△ 50）（令和8年4月）（令和7年6月認可申請予定） 国際人文学部 国際交流学科（定員減）　（△ 40）（令和8年4月）（令和7年5月届出予定）									

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	健康科学部看護学科	182科目	42科目	17科目	241科目	126単位	
	健康科学部理学療法学科	139科目	34科目	13科目	186科目	124単位	
	健康科学部福祉総合学科	243科目	36科目	24科目	303科目	124単位	

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	健康科学部　看護学科	人 13 (11)	人 10 (10)	人 0 (0)	人 13 (15)	人 36 (36)	人 0 (3)	人 97 (97)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 (11)	9 (9)	0 (0)	11 (12)	32 (32)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	1 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (3)	4 (4)			
	小計（a ～ b）	13 (11)	10 (10)	0 (0)	13 (15)	36 (36)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	13 (11)	10 (10)	0 (0)	13 (15)	36 (36)			
	健康科学部　理学療法学科	9 (7)	8 (8)	0 (0)	1 (3)	18 (18)	0 (0)	91 (91)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (5)	7 (8)	0 (0)	1 (2)	15 (15)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　11人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	1 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	2 (2)			
	小計（a ～ b）	8 (6)	8 (8)	0 (0)	1 (3)	17 (17)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	計（a ～ d）	9 (7)	8 (8)	0 (0)	1 (3)	18 (18)			
	健康科学部　福祉総合学科	10 (8)	2 (4)	0 (0)	6 (6)	18 (18)	0 (0)	101 (101)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (8)	2 (4)	0 (0)	6 (6)	18 (18)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　11人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	10 (8)	2 (4)	0 (0)	6 (6)	18 (18)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	10 (8)	2 (4)	0 (0)	6 (6)	18 (18)			
	計	32 (26)	20 (22)	0 (0)	20 (24)	72 (72)	0 (3)	82 (82)	

既設分	経営情報学部　総合経営学科	16 (18)	12 (13)	0 (0)	6 (4)	34 (35)	0 (0)	117 (117)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	16 (17)	11 (13)	0 (0)	5 (2)	32 (32)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 16人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (1)	1 (0)	0 (0)	1 (2)	2 (3)			
	小計（a ～ b）	16 (18)	12 (13)	0 (0)	6 (4)	34 (35)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	16 (18)	12 (13)	0 (0)	6 (4)	34 (35)			
	国際人文学部　国際文化学科	7 (7)	6 (5)	0 (0)	1 (2)	14 (14)	0 (0)	102 (102)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	6 (5)	0 (0)	1 (2)	13 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	小計（a ～ b）	7 (7)	6 (5)	0 (0)	1 (2)	14 (14)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	7 (7)	6 (5)	0 (0)	1 (2)	14 (14)			
	国際人文学部　国際交流学科	9 (9)	10 (7)	0 (0)	0 (3)	19 (19)	0 (0)	97 (97)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	9 (7)	0 (0)	0 (2)	18 (18)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (1)			
	小計（a ～ b）	9 (9)	10 (7)	0 (0)	0 (3)	19 (19)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	9 (9)	10 (7)	0 (0)	0 (3)	19 (19)			
	薬学部　医療薬学科	16 (17)	9 (10)	0 (0)	4 (5)	29 (32)	1 (1)	92 (92)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	14 (16)	9 (9)	0 (0)	4 (5)	27 (30)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 23人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	1 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	小計（a ～ b）	15 (16)	9 (10)	0 (0)	4 (5)	28 (31)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	計（a ～ d）	16 (17)	9 (10)	0 (0)	4 (5)	29 (32)			

既設分	メディア学部　メディア情報学科	11 (13)	12 (12)	0 (0)	8 (8)	31 (33)	0 (0)	151 (151)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (12)	10 (10)	0 (0)	8 (8)	28 (30)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 16人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	3 (3)			
	小計（ａ～ｂ）	11 (13)	12 (12)	0 (0)	8 (8)	31 (33)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	11 (13)	12 (12)	0 (0)	8 (8)	31 (33)			
	観光学部　観光学科	10 (10)	3 (5)	0 (0)	3 (2)	16 (17)	0 (0)	92 (92)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	2 (4)	0 (0)	3 (2)	14 (15)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)			
	小計（ａ～ｂ）	10 (10)	3 (5)	0 (0)	3 (2)	16 (17)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	10 (10)	3 (5)	0 (0)	3 (2)	16 (17)			
	計	69 (74)	52 (52)	0 (0)	22 (24)	143 (150)	1 (1)	144 (144)	
合計		101 (100)	72 (74)	0 (0)	42 (48)	215 (222)	1 (4)	173 (173)	

職種	専属	その他	計
事務職員	人 131 (131)	人 20 (20)	人 151 (151)
技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
図書館職員	5 (5)	0 (0)	5 (5)
その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
指導補助者	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	136 (136)	20 (20)	156 (156)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	176,452㎡	5,496㎡	0㎡	181,948㎡	千葉東金キャンパス 東京紀尾井町キャンパス
	その他	26,376㎡	0㎡	0㎡	26,376㎡	
	合計	202,828㎡	5,496㎡	0㎡	208,324㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	72,794㎡ (72,794㎡)	19,249㎡ (19,249㎡)	0㎡ (0㎡)	92,043㎡ (92,043㎡)	

教室・教員研究室	教室	282室	教員研究室	70室	大学全体

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分図書 321,328冊 (56,592)
	健康科学部	83,198〔9,231〕 (83,198〔9,231〕)	102〔 1 〕 (102〔 1 〕)	36,029〔34,270〕 (36,029〔34,270〕)	35,880〔34,257〕 (35,880〔34,257〕)	ー (ー)	ー (ー)	
	計	83,198〔9,231〕 (83,198〔9,231〕)	102〔 1 〕 (102〔 1 〕)	36,029〔34,270〕 (36,029〔34,270〕)	35,880〔34,257〕 (35,880〔34,257〕)	ー (ー)	ー (ー)	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	大学全体
	7,565㎡	0㎡	0㎡	

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
		教員１人当り研究費等		教授 563千円 准教授 526千円 助教 519千円	教授 563千円 准教授 526千円 助教 519千円	教授 563千円 准教授 526千円 助教 519千円	教授 563千円 准教授 526千円 助教 519千円	ー	ー
		共同研究費等		16,631千円	10,976千円	4,985千円	962千円	ー	ー
		図書購入費	1,350千円	1,350千円	1,350千円	1,350千円	1,350千円	ー	ー
		設備購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	ー	ー
	学生１人当り納付金			第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
				1,850千円	1,580千円	1,580千円	1,580千円	ー千円	ー千円
				1,650千円	1,580千円	1,580千円	1,580千円	ー千円	ー千円
				1,310千円	1,100千円	1,100千円	1,100千円	ー千円	ー千円
	学生納付金以外の維持方法の概要		入学検定料、補助金収入、資金運用収入、事業収入、雑収入等により維持を図る。						

既設大学等の状況	大学等の名称	城西国際大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次 人	人		倍		
	経営情報学部						0.79		
	総合経営学科	4	410	3年次 30	1,680	学士(経営情報)	0.79	平成17年度	千葉県東金市求名1番地 東京都千代田区紀尾井町3番26号
	国際人文学部						0.75		
	国際文化学科	4	80	ー	320	学士(国際文化)	0.92	平成4年度	千葉県東金市求名1番地
	国際交流学科	4	120	3年次 10	500	学士(国際交流)	0.64	平成8年度	同上
	福祉総合学部						0.58		
	福祉総合学科	4	140	3年次 5	570	学士(福祉総合)	0.47	平成19年度	同上
	理学療法学科	4	80	ー	320	学士(理学療法学)	0.80	平成28年度	同上
	薬学部						0.49		
	医療薬学科	6	110	ー	740	学士(薬学)	0.49	平成18年度	同上
	メディア学部						0.99		
	メディア情報学科	4	370	3年次 30	1,500	学士(ﾒﾃﾞｨｱ情報)	0.99	平成17年度	千葉県東金市求名1番地 東京都千代田区平河町2丁目3番20号
	観光学部						0.91		
	観光学科	4	100	ー	400	学士(観光学)	0.91	平成18年度	千葉県東金市求名1番地
	看護学部						1.03		
	看護学科	4	100	ー	400	学士(看護学)	1.03	平成24年度	同上

経営情報学部 総合経営学科	令和7年4月入学定員増(10人)、令和9年4月編入学定員増(10人)
国際交流学科	令和8年4月入学定員減(△40人)
福祉総合学科	令和8年度（編入学は令和10年度）より学生募集停止
理学療法学科	令和8年度より学生募集停止
医療薬学科	令和8年4月入学定員減(△50人)
メディア情報学科	令和7年4月入学定員増(10人)、令和9年4月編入学定員増(10人)
看護学科	令和8年度より学生募集停止

既設大学等の状況	大学院 人文科学研究科 比較文化専攻 （博士後期課程）	3	6	－	18	博士(比較文学)	1.61	平成10年度	同上	
	国際文化専攻 （修士課程）	2	15	－	30	修士(国際文化)	0.90	平成8年度	同上	
	女性学専攻 （修士課程）	2	7	－	14	修士(女性学)	1.00	平成8年度	同上	
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 専攻（修士課程）	2	25	－	50	修士(国際文化)	0.98	平成25年度	東京都千代田区紀尾井町3番26号	
	経営情報学研究科 起業ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻 （博士後期課程）	3	6	－	18	博士(経営学)	1.22	平成12年度	千葉県東金市求名1番地	
	起業ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻 （修士課程）	2	36	－	72	修士(経営学)	1.23	平成10年度	千葉県東金市求名1番地 東京都千代田区紀尾井町3番26号	
	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾃﾞｻﾞｲﾝ研究科 ﾋﾞｼﾞﾈｽﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻 （修士課程）	2	30	－	60	修士(経営学)	1.85	平成17年度	東京都千代田区紀尾井町3番26号	
	福祉総合学研究科 福祉社会専攻 （修士課程）	2	25	－	50	修士(福祉社会)	1.20	平成17年度	千葉県東金市求名1番地	
	薬学研究科 医療薬学専攻 （博士課程）	4	3	－	12	博士(薬学)	0.58	平成24年度	同上	
	国際ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰｼｮﾝ研究科 国際ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰｼｮﾝ専攻 （修士課程）	2	35	－	70	修士(国際ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰｼｮﾝ)	1.12	平成25年度	東京都千代田区紀尾井町3番26号	
	健康科学研究科 健康学専攻 （修士課程）	2	8	－	16	修士(健康科学)	1.56	令和5年度	千葉県東金市求名1番地	

大学等の名称	城西大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
経済学部						1.01			
経済学科	4	300	－	1,200	学士（経済学）	1.01	昭和40年度	埼玉県坂戸市けやき台1番1号	
現代政策学部						0.87			
社会経済システム学科	4	250	－	1,000	学士（現代政策学）	0.87	平成18年度	同上	
経営学部						1.02			
マネジメント総合学科	4	500	－	2,000	学士（経営学）	1.02	平成16年度	同上	
理学部						0.94			
情報数理学科	4	60	－	60	学士（理学）	0.88	令和7年度	東京都千代田区紀尾井町3番26号	令和7年4月開設
数学科	4	60	－	420	学士（理学）	1.11	昭和40年度	埼玉県坂戸市けやき台1番1号 東京都千代田区紀尾井町3-26	令和7年度入学定員減（△60）
化学・生命科学科	4	90	－	360	学士（理学）	0.74	昭和40年度	埼玉県坂戸市けやき台1番1号	
薬学部						0.74			
薬学科	6	250	－	1,500	学士（薬学）	0.72	平成18年度	同上	

既設大学等の状況	薬科学科	4	50	－	200	学士（薬科学）	0.88	平成18年度	同上	
	医療栄養学科	4	100		400	学士（医療栄養学）	0.76	平成13年度	同上	
	大学院 経済学研究科 経済政策専攻（修士課程）	2	10	－	20	修士（経済学）	1.10	昭和53年度	同上	
	経営学研究科 ビジネス・イノベーション専攻（修士課程）	2	25	－	50	修士（経営学）	0.94	平成15年度	同上	
	理学研究科 数学専攻（修士課程）	2	10	－	20	修士（理学）	0.45	平成10年度	同上	
	物質科学専攻（修士課程）	2	12	－	24	修士（理学）	0.79	平成16年度	同上	
	薬学研究科 （博士課程）	4	6	－	24	博士（薬学）	0.50	平成24年度	同上	
	薬科学専攻（博士後期課程）	3	3	－	9	博士（薬科学）	0.66	平成24年度	同上	
	（博士前期課程）	2	32	－	64	修士（薬科学）	0.67	平成22年度	同上	
	医療栄養学専攻（博士前期課程）	2	20	－	40	修士（医療栄養学）	0.40	平成17年度	同上	

	大学等の名称	城西短期大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	ビジネス総合学科	2	120	－	120	短期大学士（ビジネス総合）	0.37	平成18年度	埼玉県坂戸市けやき台1番1号	令和7年度より学生募集停止（ビジネス総合学科）
附属施設の概要										

補足資料（組織の移行表）

学校法人城西大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
城西大学				城西大学				
経済学部				経済学部				
経済学科	300	－	1,200	経済学科	300	－	1,200	
現代政策学部				現代政策学部				
社会経済システム学科	250	－	1,000	社会経済システム学科	250	－	1,000	
経営学部				経営学部				
マネジメント総合学科	500	－	2,000	マネジメント総合学科	500	－	2,000	
理学部				理学部				
情報数理学科	60	－	240	情報数理学科	80	－	320	定員変更（ 20）
数学科	60	－	240	数学科	60	－	240	
化学科	90	－	360	化学・生命科学科	90	－	360	
薬学部				薬学部				
薬学科	250	－	1,500	薬学科	200	－	1,200	定員変更（△50）
薬科学科	50	－	200	薬科学科	50	－	200	
医療栄養学科	100	－	400	医療栄養学科	100	－	400	
計	1,660		7,140	計	1,630		6,920	
城西大学大学院				城西大学大学院				
経済学研究科				経済学研究科				
経済政策専攻(M)	10	－	20	経済政策専攻(M)	10	－	20	
経営学研究科				経営学研究科				
ﾋﾞｼﾞﾈｽ･ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ専攻(M)	25	－	50	ﾋﾞｼﾞﾈｽ･ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ専攻(M)	25	－	50	
				ﾋﾞｼﾞﾈｽ･ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ専攻(D)	3	－	9	研究科の設置（認可申請）
理学研究科				理学研究科				
数学専攻(M)	10	－	20	数学専攻(M)	10	－	20	
物質科学専攻(M)	12	－	24	物質科学専攻(M)	12	－	24	
薬学研究科				薬学研究科				
薬学専攻(4年制D)	6	－	24	薬学専攻(4年制D)	6	－	24	
薬科学専攻(D)	3	－	9	薬科学専攻(D)	3	－	9	
薬科学専攻(M)	32	－	64	薬科学専攻(M)	32	－	64	
医療栄養学専攻(M)	20	－	40	医療栄養学専攻(M)	20	－	40	
計	118		251	計	121		260	
城西短期大学				城西短期大学				
ビジネス総合学科	120	－	240		0	－	0	令和7年4月学生募集停止
計	120		240	計	0		0	

城西国際大学					
経営情報学部					
総合経営学科	410	3年次	30	1,700	
国際人文学部					
国際文化学科	80		―	320	
国際交流学科	120	3年次	10	500	
福祉総合学部					
福祉総合学科	140	3年次	5	570	
理学療法学科	80		―	320	
薬学部					
医療薬学科(6年制)	110		―	660	
メディア学部					
メディア情報学科	370	3年次	30	1,540	
観光学部					
観光学科	100		―	400	
看護学部					
看護学科	100		―	400	
計	1,510	3年次	75	6,410	
城西国際大学大学院					
人文科学研究科					
比較文化専攻(D)	6		―	18	
国際文化専攻(M)	15		―	30	
女性学専攻(M)	7		―	14	
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻(M)	25		―	50	
経営情報学研究科					
起業マネジメント専攻(D)	6		―	18	
起業マネジメント専攻(M)	36		―	72	
福祉総合学研究科					
福祉社会専攻(M)	25		―	50	
ビジネスデザイン研究科					
ビジネスデザイン専攻(M)	30		―	60	
薬学研究科					
医療薬学専攻(D)	3		―	12	
国際ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰｼｮﾝ研究科					
国際ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰｼｮﾝ専攻(M)	35		―	70	
健康科学研究科					
健康科学専攻(M)	8		―	16	
計	196			410	

城西国際大学					
経営情報学部					
総合経営学科	410	3年次	30	1,700	
国際人文学部					
国際文化学科	80		―	320	
国際交流学科	80	3年次	10	340	定員変更（△40）（届出）
	0	3年次	0	0	令和8年4月学生募集停止、3年次編入学定員令和10年4月学生募集停止
	0		―	0	令和8年4月学生募集停止
薬学部					
医療薬学科(6年制)	60		―	360	定員変更（△50）（認可申請）
メディア学部					
メディア情報学科	370	3年次	30	1,540	
観光学部					
観光学科	100		―	400	
	0		―	0	令和8年4月学生募集停止
健康科学部					学部の設置（届出）
看護学科	100		―	400	
理学療法学科	80		―	320	
福祉総合学科	65	3年次	15	290	
計	1,345	3年次	85	5,670	
城西国際大学大学院					
人文科学研究科					
比較文化専攻(D)	6		―	18	
国際文化専攻(M)	15		―	30	
女性学専攻(M)	7		―	14	
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻(M)	25		―	50	
経営情報学研究科					
起業マネジメント専攻(D)	6		―	18	
起業マネジメント専攻(M)	36		―	72	
福祉総合学研究科					
福祉社会専攻(M)	25		―	50	
ビジネスデザイン研究科					
ビジネスデザイン専攻(M)	30		―	60	
薬学研究科					
医療薬学専攻(D)	3		―	12	
国際ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰｼｮﾝ研究科					
国際ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰｼｮﾝ専攻(M)	35		―	70	
健康科学研究科					
健康科学専攻(M)	8		―	16	
計	196			410	

設置前後の学位
基礎となる学部等の改編状況

別記様式第２号・別添１

（用紙　日本産業規格A4縦型）

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届出時における状況						新設学部等の学年進行終了時における状況					
学部等の名称	授与する学位等		異動先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	基幹教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
福祉総合学部福祉総合学科（廃止）	学士（福祉総合）	社会学・社会福祉学関係	健康科学部福祉総合学科	18	8	健康科学部福祉総合学科	学士（福祉総合）	社会学・社会福祉学関係	福祉総合学部福祉総合学科	18	10
			計	18	8				計	18	10
福祉総合学部理学療法学科（廃止）	学士（理学療法学）	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）	健康科学部理学療法学科	18	7	健康科学部理学療法学科	学士（理学療法学）	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）	福祉総合学部理学療法学科	18	9
			退職	2	1						
			計	20	8				計	18	9
看護学部看護学科（廃止）	学士（看護学）	保健衛生学関係（看護学関係）	健康科学部看護学科	31	11	健康科学部看護学科	学士（看護学）	保健衛生学関係（看護学関係）	看護学部看護学科	36	13
			退職	1	0						
			計	32	11				計	36	13
			計								

別記様式第２号・別添２

（用紙　日本産業規格A4縦型）

基　礎　と　な　る　学　部　等　の　改　編　状　況

開設又は改編時期	改　編　内　容　等	学　位　又　は学　科　の　分　野	手続きの区分
平成8年4月	人文学部福祉文化学科　設置	文学関係、社会学・社会福祉学関係	設置認可（学科）
平成11年4月	経営情報学部福祉環境情報学科　設置	経済学関係、社会学・社会福祉学関係	設置認可（学科）
	人文学部福祉文化学科のカリキュラム変更	文学関係、社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成12年4月	人文学部福祉文化学科のカリキュラム変更	文学関係、社会学・社会福祉学関係	学則変更
	経営情報学部福祉環境情報学科のカリキュラム変更	経済学関係、社会学・社会福祉学関係	
平成13年4月	人文学部福祉文化学科のカリキュラム変更	文学関係、社会学・社会福祉学関係	学則変更
	経営情報学部福祉環境情報学科のカリキュラム変更	経済学関係、社会学・社会福祉学関係	
平成14年4月	人文学部福祉文化学科のカリキュラム変更	文学関係、社会学・社会福祉学関係	学則変更
	経営情報学部福祉環境情報学科のカリキュラム変更	経済学関係、社会学・社会福祉学関係	
平成15年4月	人文学部福祉文化学科のカリキュラム変更	文学関係、社会学・社会福祉学関係	学則変更
	経営情報学部福祉環境情報学科のカリキュラム変更	経済学関係、社会学・社会福祉学関係	
平成16年4月	薬学部医療薬学科（4年制）　設置	薬学関係	設置認可（学部）
	福祉総合学部福祉文化学科　設置	社会学・社会福祉学関係	設置届出（学部）
	福祉総合学部福祉経営学科　設置	経済学関係、社会学・社会福祉学関係	
	人文学部福祉文化学科、経営情報学部福祉環境情報学科の学生募集停止	―	学生募集停止（学科）
平成17年4月	福祉総合学部福祉文化学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成18年4月	福祉総合学部福祉文化学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
	福祉総合学部福祉経営学科のカリキュラム変更	経済学関係、社会学・社会福祉学関係	
平成19年4月	福祉総合学部福祉総合学科　設置	社会学・社会福祉学関係	設置届出（学科）
	福祉総合学部福祉文化学科、福祉経営学科の学生募集停止	―	学生募集停止（学科）
平成20年4月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成21年4月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成22年4月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成23年4月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成24年4月	看護学部看護学科　設置	保健衛生学関係（看護学関係）	設置認可（学部）
	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成24年10月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
	看護学部看護学科のカリキュラム変更	保健衛生学関係（看護学関係）	
平成25年4月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成26年4月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成26年9月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成27年4月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成27年9月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更

平成28年4月	福祉総合学部理学療法学科　設置	保健衛生学関係(リハビリテーション学関係)	設置認可(学科)
	看護学部看護学科(助産師課程)　設置	保健衛生学関係(看護学関係)	設置認可(課程)
	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
	看護学部看護学科のカリキュラム変更	保健衛生学関係(看護学関係)	
平成28年9月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成29年4月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
	看護学部看護学科のカリキュラム変更	保健衛生学関係(看護学関係)	
平成30年4月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成31年4月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
	看護学部看護学科のカリキュラム変更	保健衛生学関係(看護学関係)	
令和2年4月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
	福祉総合学部理学療法学科のカリキュラム変更	保健衛生学関係(リハビリテーション学関係)	
令和3年4月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
令和4年4月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
	福祉総合学部理学療法学科のカリキュラム変更	保健衛生学関係(リハビリテーション学関係)	
	看護学部看護学科のカリキュラム変更	保健衛生学関係(看護学関係)	
令和6年4月	福祉総合学部福祉総合学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学関係	学則変更
	福祉総合学部理学療法学科のカリキュラム変更	保健衛生学関係(リハビリテーション学関係)	
	看護学部看護学科のカリキュラム変更	保健衛生学関係(看護学関係)	
令和8年4月	福祉総合学部福祉総合学科の学生募集停止	―	学生募集停止(学部) ※3年次編入学定員は令和10年4月学生募集停止
	福祉総合学部理学療法学科の学生募集停止	―	
	看護学部看護学科の学生募集停止	―	
	健康科学部看護学科　設置	保健衛生学関係(看護学関係)	設置届出(学部)
	健康科学部理学療法学科　設置	保健衛生学関係(リハビリテーション学関係)	
	健康科学部福祉総合学科　設置	社会学・社会福祉学関係	

教育課程等の概要

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（健康科学部看護学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学部共通基盤科目群	アカデミック･スキルズ	1前		1			○			1						
	自然科学概論	1後			2		○								1	
	生命現象の理解とその応用－生命科学	1後			2		○								2	オムニバス
	生物からみた環境の仕組み－生態学	1前			2		○								1	
	食環境論	1前			2		○								1	
	香りと環境	1後			2		○								1	
	身体の理解	1前			2		○								2	オムニバス
	デジタルアプリA	1前			2		○								1	
	デジタルアプリB	1後			2		○								1	
	情報セキュリティA	1後			2		○								1	
	情報社会と情報倫理	1後			2		○								1	
	人工知能論	1前			2		○								1	
	データサイエンスI	1前		2			○								1	
	データサイエンスII	1後			2		○								1	
	モデル化とシミュレーション	2前			2		○								1	
	プログラミングA	2後			2		○								1	
	アルゴリズムA	2前			2		○								1	
	情報システム論	2後			2		○								1	
	統計学	2後			2		○								1	
	データ分析の基礎(解析)	1前			2		○								1	
	データ分析の基礎(線形代数)	1前			2		○								1	
	インターネット配信	1後			2		○								1	
	観光の現在と未来	1前			2		○								1	
	ヘルスツーリズム	1前			2		○								1	
	社会心理学	1後			2		○								1	
	生活と文化	2前			2		○								1	
	生涯スポーツ概論	1後			2		○								1	
	スポーツ社会学	1後			2		○								1	
	ボランティア論	1後			2		○								1	
	コミュニケーションの基礎	1後			2		○								1	
	域学共創プロジェクトA	1通			2			○			1		1		1	共同
	域学共創プロジェクトB	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトC	1通			2			○		1	1				4	共同
	域学共創プロジェクトD	1通			2			○					1		2	共同
	域学共創プロジェクトE	1後			2			○							2	共同
	域学共創プロジェクトF	1通			2			○							3	共同
	域学共創プロジェクトG	1通			2			○			1					
	域学共創プロジェクトH	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトI	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトJ	1後			2			○							1	
	史学概論	1前			2		○								1	
	日本史を学ぶ	1後			2		○								1	
	アジア史概論	1前			2		○								1	
	現代史入門	1前			2		○								1	
	房総の文化と歴史	1前			2		○								1	
	映像メディア史	1後			2		○								1	
	音楽史	1後			2		○								1	
	政治学入門	1前			2		○								1	
	経済学入門	1後			2		○								1	
	社会と経営	1後			2		○								1	
	社会と会計	1前			2		○								1	
	マーケティング論	1前			2		○								1	
	広告戦略論	1前			2		○								1	
	社会学	1前			2		○								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学部共通基盤科目群	社会調査	2後			2		○								1	
	法律学概論	1前			2		○								1	
	日本国憲法	1前			2		○								1	
	著作権	1後			2		○								1	
	社会福祉学A	1後			2		○								1	
	社会福祉学B	2前			2		○								1	
	経営情報基礎論A	1後			2		○								1	
	世界遺産のいま	1前			2		○								1	
	美学･芸術学	1後			2		○								1	
	表象文化研究	1前			2		○								1	
	世界の文学	1後			2		○								1	
	演劇研究	1前			2		○								1	
	古典芸能研究	1前			2		○								1	
	文学を読む	1前			2		○								1	
	教育学	1後			2		○								1	
	心理学	1後			2		○								1	
	基礎の数学	1前			2		○								1	
	ジェンダー論	1前			2		○								1	
	根拠への問いー哲学へのとびら	1前			2		○								1	
	異文化適応論	1後			2		○								1	
	宗教学概論	1後			2		○								1	
	倫理学概論	1後			2		○								1	
	スポーツ科学A	1前			1			○							1	
	スポーツ科学B	1後			1			○							1	
	しゃべりのスキルUp Ⅰ	1後			2		○								1	
	小計（ 79 科目）	―	―	3	152	0	―			2	3	0	2	0	62	―
外国語科目群	Fundamentals of English I	1前			2		○								1	
	Fundamentals of English II	1前			2		○								1	
	Oral Fluency I	1後			2		○								1	
	Oral Fluency II	1後			2		○								1	
	TOEIC Preparation A	1前			2		○								1	
	TOEIC Preparation B	1前			2		○								1	
	TOEIC Preparation C	1後			2		○								1	
	TOEIC Preparation D	1後			2		○								1	
	English for Specific Purposes A	1前			2		○								1	
	English for Specific Purposes B	1後			2		○								1	
	English for Advanced Studies A	1前			2		○								1	
	English for Advanced Studies B	1後			2		○								1	
	中国語I	2前			2		○								1	
	中国語II	2後			2		○								1	
	韓国語I	2前			2		○								1	
	韓国語II	2後			2		○								1	
	スペイン語I	1前			2		○								1	
	スペイン語II	1後			2		○								1	
	ドイツ語I	1前			2		○								1	
	ドイツ語II	1後			2		○								1	
	フランス語I	1前			2		○								1	
	フランス語II	1後			2		○								1	
	ハンガリー語I	1前			2		○								1	
	ハンガリー語II	1後			2		○								1	
	ポーランド語I	1前			2		○								1	
	ポーランド語II	1後			2		○								1	
	チェコ語I	1前			2		○								1	
	チェコ語II	1後			2		○								1	
	小計（ 28 科目）	―	―	0	56	0	―			0	0	0	0	0	13	―

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
キャリア形成科目群		プロジェクト教育A	1通		1				○		11	9		18			共同
		プロジェクト教育B	2通			1			○		11	9		18			共同
		グローバルヘルスA	1前	○		1			○		3	1		2		1	共同
		グローバルヘルスB	2前			1			○		1	2					共同
		小計（ 4 科目）	－	－	1	3	0	－			11	10	0	15	0	1	－
専門基礎科目群Ⅰ		死生学	4前			2		○						1			
		社会福祉原論	1前		2			○								1	
		児童福祉論	1後			1		○								1	
		高齢者福祉論	2前			1		○								1	
		保健医療福祉行政論	2後			2		○			1						
		ライフステージIPE A	2前		1			○			1	2				5	共同
		ライフステージIPE B	2前		1			○				1				5	共同
		ライフステージIPE C	3前			1			○			1				3	共同
		関係法規	4前		1			○								1	
		保健医療統計学	3前		2			○			1						
		地域母子保健A	3前			1		○			1			1			共同
		学校保健	3前			2		○						1			
		家族発達支援論	3前			1		○			3	1		2			共同
		医療英語	4前			2		○				1				2	
		人間関係論	1前		2			○								1	
		看護情報学	1後		1			○								1	
		科学基礎	1前		1				○		2						共同
		小計（ 17 科目）	－	－	11	13	0	－			9	6	0	5	0	17	－
専門基礎科目群Ⅱ		医学概論	1後			1		○			1			2			
		人体の構造機能A	1前		2			○				1		1		1	オムニバス
		人体の構造機能B	1前		2			○								2	オムニバス
		疾病治療学A	2前		2			○			1			1			
		疾病治療学B	2後		2			○			1			1			
		臨床栄養学	1後		2			○								1	
		疫学	2前		2			○			1						
		病原微生物学	1後		2			○								1	
		臨床生化学	1後	○	1			○			1						
		臨床心理学	1後			1		○			1						
		臨床免疫学	1後			2		○			1						
		周産期医学A	2前		1			○			1			1			共同
		周産期医学B	3前			1		○			1						
		ポイントオブケア(POC)理論	1後			2		○			1						
		感染症学	2前		1			○			1						
		臨床薬理学	2前	○	2			○			1						
		薬学系演習	2後	○	1				○		2						共同
		臨床薬物動態論	2後	○	1			○			1						
		ゲノム医療	4後			2		○			2						
		薬物療法管理論	4前			2		○			2	4		1			オムニバス
		臨床治験学概論	4後			2		○			2						
		東洋医学概論	4後			1		○			1						
		小計（ 22 科目）	－	－	21	14	0	－			11	5	0	7	0	5	－
専門科目群Ⅰ	（基礎看護学）	看護学概論	1前	○	1			○			1						共同
		看護方法論A	2前	○	2			○			2	1		2			共同
		看護方法論B	2後	○	1			○			2	2		2			共同
		看護方法論演習A	1前	○	1				○		2	2		2			共同
		看護方法論演習B	1後	○	2				○		2	2		2			共同
		看護方法論演習C	2後	○	2				○		2	2		2			共同
		看護方法論演習D	2後	○	1				○		2	2		2			共同
		看護管理	4前	○	1			○			1						
		基礎看護学実習A	1後	○	1					○	2	2		2			共同
		基礎看護学実習B	2後	○	2					○	2	2		2			共同
		サービスラーニング	1通	○	1					○	1	1		1			共同
		小計（ 11 科目）	－	－	15	0	0	－			11	10	0	15	0	0	－

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門科目群Ⅱ	（専門看護学）	成人・老年看護学概論	1後	○	2			○			2	3		1			オムニバス
		クリティカルケア方法論	2後	○	2			○			1	1		1			共同
		クリティカルケア方法論演習	3前	○	1				○		1	1		1			共同
		クリティカルケア実習	3後	○	3					○	1	1		1			共同
		慢性疾患看護方法論	2後	○	2			○			1	1		1			共同
		慢性疾患看護方法論演習	3前	○	1				○		1	1		1			共同
		慢性疾患看護実習	3後	○	3					○	1	1		1			共同
		老年看護方法論	2後	○	2			○				2		1			共同
		老年看護方法論演習	3前	○	1				○			2		1			共同
		老年看護学実習	3後	○	2					○		2		1			共同
		母子看護学概論	2前	○	2			○			1	1		2			オムニバス
		母性看護方法論	2後	○	2			○			2			3			共同
		母性看護方法論演習	3前	○	1				○		1			3			共同
		母性看護学実習	3後	○	2					○	1			3			共同
		小児看護方法論	2後	○	2			○				1		2			共同
		小児看護方法論演習	3前	○	1				○			1		2			共同
		小児看護学実習	3後	○	2					○		1		2			共同
		精神看護学概論	1後	○	1			○				1		2			共同
		精神看護方法論	2後	○	2			○				1		2			共同
		精神看護方法論演習	3前	○	1				○			1		2			共同
		精神看護学実習	3後	○	2					○		1		2			共同
		小計（ 21 科目）	－	－	37	0	0	－			11	10	0	15	0	0	
専門科目群Ⅲ	（広域看護学）	世界の中の日本	1前			1		○			1	1		1		1	共同
		地域・在宅看護概論	1後	○	1			○			2			1			共同
		地域・在宅看護方法論	2後	○	2			○			3			1			共同
		地域・在宅看護方法論演習	3前	○	1				○		2			3			共同
		公衆衛生看護学概論	2前	○	2			○			2			2			共同
		地域・在宅看護実習	3後	○	2					○	2			3			共同
		地域包括ケア実習	3後	○	1					○	1	3		3			共同
		国際看護	4前			1		○			1	1		1			
		フォレンジック看護	4前			1		○			1					1	
		災害看護	4前		1			○				1				1	
		災害看護演習	4前			1			○		1	1		1		1	
		感染看護	3前	○	1			○			1	1					共同
		終末期看護論	3前		2			○			2						共同
		小計（ 13 科目）	－	－	13	4	0	－			11	8	0	15	0	4	
専門科目群Ⅳ	（統合看護学）	医療倫理学	3前		2			○						1			
		看護研究方法論	3前		1			○			1						
		総合看護学演習A	4前		1				○		1						
		総合看護学演習B	4後		1				○		1						
		卒業論文	4通			2			○		11	9		15			共同
		フィールド教育	4通			1			○		1	3		2			共同
		地域母子保健実習A	4通			1				○	1	1		1			共同
		インターンシップ	4通			1			○		1	3		2			共同
		ライフステージIPE D	4通			1			○			1				5	共同
		地域母子保健実習B	4通			1				○	1	1		1			共同
		未来講座-これからの看護	4後			1		○			3						
		小計（ 11 科目）	－	－	5	8	0	－			11	10	0	15	0	5	
専門科目群Ⅴ	（保健師課程）	健康支援と健康教育	2後				2	○			2			2			共同
		地域診断と地域活動	3前				2	○			1			1			
		公衆衛生看護活動論	2後				2	○			3			2			共同
		公衆衛生看護活動論演習A	3前				1		○		2			2			共同
		公衆衛生看護活動論演習B	4前				2		○		2			2			共同
		健康政策論	4前				1	○			1			2			
		公衆衛生看護学実習	4通				3			○	3			3			共同

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門科目群Ⅴ	（助産師課程）	助産学概論	3前				1	○			1	1					共同
		周産期医学C	3後				2	○			1	1		1		3	共同
		助産診断・技術学A	4前				1	○				1					
		助産診断・技術学B	4前				3		○		1	1		1		1	共同
		助産診断・技術学C	3後				1	○			1	1				1	共同
		助産診断・技術学D	4前				1	○			1	1		1			
		助産診断・技術学E	4前				1	○			1	1		1			共同
		助産診断・技術学F	4前				1		○		1	1		1			共同
		ウィメンズヘルス支援論	3前				2	○			1	1					共同
		助産管理	4前				1	○			1	1					共同
		地域母子保健B	4前				1	○			1			1			共同
		助産学実習A	4通				1			○	1	1		1			共同
		助産学実習B	4通				8			○	1	1		1			共同
		周産期の家族支援	3前				1	○			1	1					
専門科目群Ⅴ	（教職課程）	養護概説	3後				2	○						1			
		教職論	1前				2	○								1	
		教育原理	2前				2	○								1	
		教育心理学	3前				2	○								2	
		特別のニーズ教育論	3前				2	○								1	
		教育課程論	1後				2	○								1	
		教育制度	2前				2	○								1	
		道徳教育の理論と方法	1前				2	○								1	
		教育方法論	1前				2	○								1	
		特別活動と総合的な学習の時間	3前				2	○								1	
		生徒指導	1前				2	○								1	
		教育相談（カウンセリングを含む）	3前				2	○								1	
		養護実習（事前及び事後指導を含む）	4通				5			○	1	1		1			共同
		教職実践演習（養護）	4後				2		○		1	1		1			共同
		小計（ 35 科目）	－	－	0	0	69	－			11	10	0	15	0	10	
合計（ 241 科目）			－	－	106	250	69	－			11	10	0	15	0	97	

学位又は称号	学士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
卒業に必要な単位は、次の通りである。 ただし、自由科目は卒業に必要な単位には含めない。 全学部共通基盤科目群：3単位 外国語科目群：0単位 キャリア形成科目群：1単位 専門基礎科目群Ⅰ：11単位 専門基礎科目群Ⅱ：21単位 専門科目群Ⅰ（基礎看護学）：15単位 専門科目群Ⅱ（専門看護学）：37単位 専門科目群Ⅲ（広域看護学）：13単位 専門科目群Ⅳ（統合看護学）：5単位 指定された各科目群より修得した科目以外に、全学部共通基盤科目群より選択必修：3単位 指定された各科目群より修得した科目以外に、外国語科目群より選択必修：6単位 指定された各科目群より修得した科目以外に、キャリア形成科目群より選択必修：1単位 指定された各科目群より修得した科目以外に、専門基礎科目群Ⅰ・同Ⅱより選択必修：4単位 指定された各科目群より修得した科目以外に、専門科目群Ⅲ・同Ⅳより選択必修：2単位 指定された各科目群より修得した科目以外に、専門科目群Ⅳより選択必修：2単位 計124単位	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	13週
	１時限の授業の標準時間	105分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（看護学部看護学科：健康科学部看護学科の基礎となる学部等）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
全学部共通基盤科目群	アカデミック･スキルズ	1前		1			○			1						
	SDGs × 大学生	1前			1		○								1	
	Fundamentals of English I	1前		2			○								1	
	Fundamentals of English II	1前			2		○								1	
	Oral Fluency I	1後		2			○								1	
	Oral Fluency II	1後			2		○								1	
	TOEIC Preparation A	1前			2		○								1	
	TOEIC Preparation B	1前			2		○								1	
	TOEIC Preparation C	1後			2		○								1	
	TOEIC Preparation D	1後			2		○								1	
	English for Specific Purposes A	1前			2		○								1	
	English for Specific Purposes B	1後			2		○								1	
	English for Advanced Studies A	1前			2		○								1	
	English for Advanced Studies B	1後			2		○								1	
	中国語I	2前			2		○								1	
	中国語II	2後			2		○								1	
	韓国語I	2前			2		○								1	
	韓国語II	2後			2		○								1	
	スペイン語I	1前			2		○								1	
	スペイン語II	1後			2		○								1	
	ドイツ語I	1前			2		○								1	
	ドイツ語II	1後			2		○								1	
	フランス語I	1前			2		○								1	
	フランス語II	1後			2		○								1	
	ハンガリー語I	1前			2		○								1	
	ハンガリー語II	1後			2		○								1	
	ポーランド語I	1前			2		○								1	
	ポーランド語II	1後			2		○								1	
	チェコ語I	1前			2		○								1	
	チェコ語II	1後			2		○								1	
	データ分析の基礎(解析)	1前			2		○								1	
	データ分析の基礎(線形代数)	1前			2		○								1	
	自然科学概論	1後			2		○								1	
	生命現象の理解とその応用－生命科学	1後			2		○								2	オムニバス
	環境科学	1後			2		○								1	
	食環境論	1前			2		○								1	
	香りと環境	1後			2		○								1	
	情報セキュリティA	1前			2		○								1	
	情報社会と情報倫理	1後			2		○								1	
	人工知能論	1前			2		○								1	
	データサイエンスI	1前		2			○								1	
	データサイエンスII	1後			2		○								1	
	統計学	1後			2		○								1	
	身体の理解	1前			2		○								2	オムニバス
	デジタルアプリA	1前		2			○								1	
	デジタルアプリB	1後			2		○								1	
	生物からみた環境の仕組み－生態学	1前			2		○								1	
	インターネット配信	1後			2		○								1	
	エリアスタディーズA	1前			2		○								1	
	エリアスタディーズB	1後			2		○								1	
	観光の現在と未来	1前			2		○								1	
	ヘルスツーリズム	1前			2		○								1	
	社会心理学	1後			2		○								1	
	生活と文化	2前			2		○								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学部共通基盤科目群	生涯スポーツ概論	1前			2		○								1	
	スポーツ社会学	1前			2		○								1	
	ボランティア論	1後			2		○								1	
	国際日本学	1後			2		○								1	
	コミュニケーションの基礎	1後			2		○								1	
	域学共創プロジェクトA	1通			2			○			1		1		1	共同
	域学共創プロジェクトB	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトC	1通			2			○		1	1				5	共同
	域学共創プロジェクトD	1通			2			○					1		1	共同
	域学共創プロジェクトE	1通			2			○							2	共同
	域学共創プロジェクトF	1通			2			○							3	共同
	域学共創プロジェクトG	1通			2			○			1		1			共同
	域学共創プロジェクトH	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトI	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトJ	1通			2			○							1	
	史学概論	1前			2		○								1	
	日本の歴史A	1前			2		○								1	
	日本の歴史B	1後			2		○								1	
	西洋史概論	1後			2		○								1	
	アジア史概論	1前			2		○								1	
	現代史入門	1前			2		○								1	
	人類とモノづくり	1後			2		○								1	
	房総の文化と歴史	1前			2		○								1	
	科学史	1後			2		○								1	
	映像メディア史	1後			2		○								1	
	音楽史	1後			2		○								1	
	政治学入門	1前			2		○								1	
	国際関係論	2前			2		○								1	
	経済学入門	1後			2		○								1	
	経済原論A	1前			2		○								1	
	経済原論B	1後			2		○								1	
	社会と経営	1後			2		○								1	
	社会と会計	1前			2		○								1	
	マーケティング論	1前			2		○								1	
	広告戦略論	1前			2		○								1	
	社会学	1前			2		○								1	
	社会調査	2後			2		○								1	
	法律学概論	1前			2		○								1	
	日本国憲法	1前			2		○								1	
	民法A	2前			2		○								1	
	商法	2前			2		○								1	
	著作権	1後			2		○								1	
	社会福祉学A	1後			2		○								1	
	社会福祉学B	2前			2		○								1	
	経営情報基礎論A	1前			2		○								1	
	地理学A	1前			2		○								1	
	地理学B	1前			2		○								1	
	世界遺産のいま	1前			2		○								1	
	西洋美術	1前			2		○								1	
	美学・芸術学	1後			2		○								1	
	表象文化研究	1前			2		○								1	
	日本の現代文化	1後			2		○								1	
	日本の伝統文化	1後			2		○								1	
	日本文学概論	1前			2		○								1	
	日本の文学(古典)	2前			2		○								1	
	日本の文学(近・現代)	2前			2		○								1	
	日本語表現	1後			2		○								1	
	文学のはじまり－古代ギリシア・ローマの文学	1後			2		○								1	
	世界の文学	1後			2		○								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学部共通基盤科目群	演劇研究	1前			2		○								1	
	古典芸能研究	1前			2		○								1	
	教育学	1後			2		○								1	
	心理学	1前			2		○								1	
	基礎の数学	1前			2		○								1	
	ジェンダー論	1前			2		○								1	
	根拠への問いー哲学へのとびら	1前			2		○								1	
	宗教学概論	1前			2		○								1	
	倫理学概論	1後			2		○								1	
	文化人類学	1前			2		○								1	
	異文化適応論	1前			2		○								1	
	比較文化概論	1前			2		○								1	
	言語学概論	1前			2		○								1	
	スポーツ科学A	1前			1			○							1	
	スポーツ科学B	1後			1			○							1	
	スポーツ科学(ダンス)IA	1後			1			○							1	
	スポーツ科学(ダンス)IB	1後			1			○							1	
	しゃべりのスキルUp Ⅰ	1後			2		○								1	
	小計（ 131 科目）	－	－	9	247	0	－			2	3	0	3	0	85	－
グローバルリテラシー科目群	医療英語	4前			2		○				1				1	オムニバス
	世界の中の日本	1前		1			○			1	1		1			共同
	人間関係論	1前		2			○								1	
	小計（ 3 科目）	－	－	3	2	0	－			1	1	0	1	0	2	－
看護基盤科目群	看護情報学	1前		1			○								1	
	科学基礎	1前		1			○			2						オムニバス
	小計（ 2 科目）	－	－	2	0	0	－			2	0	0	0	0	1	－
キャリア形成科目群	プロジェクト教育A	1通		1				○		11	11		10	4		共同
	プロジェクト教育B	2通		1				○		11	11		10	4		共同
	未来講座-これからの看護	4前			1		○			1						
	小計（ 3 科目）	－	－	2	1	0	－			11	11	0	10	4	0	－
専門基礎科目群Ⅰ	死生学	4前			2		○								1	
	社会福祉原論	1前		2			○								1	
	児童福祉論	1後			1		○								1	
	高齢者福祉論	1前			1		○								1	
	保健医療福祉行政論	2後			2		○								1	
	ライフステージIPE A	2前		1			○			1	2				5	共同
	ライフステージIPE B	2前		1			○				1				4	共同
	ライフステージIPE C	3前			1			○			1		1		4	共同
	関係法規	4前		1			○								1	
	保健医療統計学	3前		2			○			2						
	地域母子保健A	3前			1		○			1	1		1			共同
	学校保健	3前			2		○						1			
	家族発達支援論	2後			1		○			3	2		2			共同
	小計（ 13 科目）	－	－	7	11	0	－			5	3	0	4	0	13	－
専門基礎科目群Ⅱ	医学概論	1後			1		○			1					1	
	人体の構造機能A	1前		2			○				1		1		1	
	人体の構造機能B	1前		2			○								2	
	疾病治療学A	2前		2			○			1					1	
	疾病治療学B	2後		2			○			1					1	
	臨床栄養学	1後		2			○								2	
	疫学	1後		2			○			1						
	病原微生物学	1後		2			○								1	
	臨床生化学	1前	○	1			○			1						
	臨床心理学	1後			1		○								1	
	臨床免疫学	1後			2		○			1						
	周産期医学A	2前		1			○			1			1			共同
	周産期医学B	2前			1		○			1						
	医用工学概論	1後			2		○			1						
	感染症学	2前		1			○			1						
	臨床薬理学	2前	○	2			○			1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門基礎科目群Ⅱ		薬学系演習	2後	○	1				○		2						共同
		臨床薬物動態論	2後	○	1			○			1						
		ゲノム医療	4後			2		○			2						
		薬物療法管理論	4前			2		○			2	4					オムニバス
		東洋医学概論	4後			1		○			1						
		小計（ 21 科目）	－	－	21	12	0	－			5	4	0	2	0	7	－
専門科目群Ⅰ	（基礎看護学）	看護学概論	1前	○	1			○			2						
		看護方法論A	2前	○	2			○			2	2		1	1		共同
		看護方法論B	2後	○	1			○			2	2		1	1		共同
		看護方法論演習A	1前	○	1				○		2	2		1	1		共同
		看護方法論演習B	1後	○	2				○		2	2		1	1		共同
		看護方法論演習C	2後	○	2				○		2	2		1	1		共同
		看護方法論演習D	2後	○	1				○		2	2		1	1		共同
		看護管理	4前	○	1			○			1						
		基礎看護学実習A	1後	○	1					○	2	2		1	1		共同
		基礎看護学実習B	2後	○	2					○	2	2		1	1		共同
		サービスラーニング	1通	○	1					○	1	1		1			共同
		小計（ 11 科目）	－	－	15	0	0	－			2	3	0	2	1	0	－
専門科目群Ⅱ	（専門看護学）	成人・老年看護学概論	1後	○	2			○			2	2					オムニバス
		クリティカルケア方法論	2後	○	2			○			1	1		1			共同
		クリティカルケア方法論演習	3前	○	1				○		1	1		1			共同
		クリティカルケア実習	3後	○	3					○	1	1		1			共同
		慢性疾患看護方法論	2後	○	2			○			1	1					共同
		慢性疾患看護方法論演習	3前	○	1				○		1	1					共同
		慢性疾患看護実習	3後	○	3					○	1	1					共同
		老年看護方法論	2後	○	2			○				2		1			共同
		老年看護方法論演習	3前	○	1				○			2		1			共同
		老年看護学実習	3後	○	2					○		2		1			共同
		母子看護学概論	2前	○	2			○			1	2		2	2		オムニバス
		母性看護方法論	2後	○	2			○			2	2			1		共同
		母性看護方法論演習	3前	○	1				○		1	1		1	1		共同
		母性看護学実習	3後	○	2					○	1	1		1	1		共同
		小児看護方法論	2後	○	2			○				1		1	1		共同
		小児看護方法論演習	3前	○	1				○			1		1	1		共同
		小児看護学実習	3後	○	2					○		1		1	1		共同
		精神看護学概論	1後	○	1			○				1		1	1		共同
		精神看護方法論	2後	○	2			○				1		1	1		共同
		精神看護方法論演習	3前	○	1				○			1		1	1		共同
		精神看護学実習	3後	○	2					○		1		1	1		共同
		小計（ 21 科目）	－	－	37	0	0	－			4	7	0	5	3	0	
専門科目群Ⅲ	（広域看護学）	地域・在宅看護概論	1後	○	1			○			1			1			共同
		地域・在宅看護方法論	2後	○	2			○			1			1			共同
		地域・在宅看護方法論演習	3前	○	1				○		2			3			共同
		公衆衛生看護学概論	2前	○	2			○			3			2			共同
		地域・在宅看護実習	3後	○	2					○	2			3			共同
		地域包括ケア実習	3後	○	1					○	3	2		4			共同
		グローバルヘルスA	1前	○	1				○		5	1		3			共同
		グローバルヘルスB	2前			1			○		1	3					共同
		国際看護	4前			1		○			1	1		1			
		フォレンジック看護	4前			1		○			1					1	
		災害看護	4前		1			○				1				1	
		災害看護演習	4前			1			○		1	1		1		1	
		感染看護	3前	○	1			○			1	1					共同
		終末期看護論	3前		2			○			2						共同
		小計（ 14 科目）	－	－	14	4	0	－			8	5	0	7	0	2	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門科目群Ⅳ	（統合看護学）	医療倫理学	3前		2			○								1	
		看護研究方法論	3前		1			○			1						
		総合看護学演習A	4前		1				○		3	3		1			
		総合看護学演習B	4後		1				○		4	3		2	1		
		卒業論文	4通			2			○		11	10		10	4		共同
		フィールド教育	4通			1			○		1	2		1			共同
		地域母子保健実習A	4通			1				○	1	1					共同
		インターンシップ	4通			1			○		1	3		1			共同
専門科目群Ⅳ	（統合看護学）	ライフステージIPE D	4通			1			○			1		1		8	共同
		地域母子保健実習B	4通			1				○	1	1					共同
		小計（ 10 科目）	－	－	5	7	0	－			11	10	0	10	4	9	
自由科目群	（保健師課程）	健康支援と健康教育	2前				2	○			1			2			共同
		地域診断と地域活動	3前				2	○			1			1			
		公衆衛生看護活動論	2後				2	○			3			2			共同
		公衆衛生看護活動論演習A	3前				1		○		3			2			共同
		公衆衛生看護活動論演習B	4前				2		○		1			1			共同
		健康政策論	4前				1	○			1			1			
		公衆衛生看護学実習	4通				3			○	3			3			共同
	（助産師課程）	助産学概論	3前				1	○			1						
		周産期医学C	3前				2	○			1	1				3	共同
		助産診断・技術学A	4前				1	○				1					
		助産診断・技術学B	4前				3		○		1	1				1	共同
		助産診断・技術学C	3後				1	○			1						
		助産診断・技術学D	4前				1	○			1						
		助産診断・技術学E	4前				1	○			1						
		助産診断・技術学F	4前				1		○		1						
		ウィメンズヘルス支援論	3前				2	○			1	2					共同
		助産管理	4前				1	○			1						
		地域母子保健B	4前				1	○			1	1					共同
		助産学実習A	4通				1			○	1	1					共同
		助産学実習B	4通				8			○	1	1					共同
		周産期の家族支援	3前				1	○			1	1					
自由科目群	（教職課程）	養護概説	3後				2	○						1			
		教職論	1前				2	○								1	
		教育原理	2前				2	○								1	
		教育心理学	3前				2	○								1	
		特別のニーズ教育論	3前				2	○								1	
		教育課程論	1後				2	○								1	
		教育制度	2前				2	○								1	
		道徳教育の理論と方法	1前				2	○								1	
		教育方法論	1前				2	○								1	
		特別活動と総合的な学習の時間	2前				2	○								1	
		生徒指導	1前				2	○								1	
		教育相談（カウンセリングを含む）	2後				2	○								1	
		養護実習（事前及び事後指導を含む）	4通				5			○		1		1			共同
		教職実践演習（養護）	4後				2		○		1	1		1			共同
		小計（ 35 科目）	－	－	0	0	69	－			4	3	0	4	0	8	
合計（ 264 科目）			－	－	115	284	69	－			11	11	0	10	4	111	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	

学位又は称号	学士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
卒業に必要な単位は、次の通りである。 ただし、自由科目は卒業に必要な単位には含めない。 全学部共通基盤科目群：9単位 グローバルリテラシー科目群：3単位 看護基盤科目群：2単位 キャリア形成科目群：2単位 専門基礎科目群Ⅰ：7単位 専門基礎科目群Ⅱ：21単位 専門科目群Ⅰ（基礎看護学）：15単位 専門科目群Ⅱ（専門看護学）：37単位 専門科目群Ⅲ（広域看護学）：14単位 専門科目群Ⅳ（統合看護学）：7単位 指定された各科目群より修得した科目以外に、全学部共通基盤科目群より選択必修：3単位 指定された各科目群より修得した科目以外に、専門基礎科目群Ⅰ・同Ⅱより選択必修：4単位 指定された各科目群より修得した科目以外に、専門科目群Ⅲ・同Ⅳより選択必修：2単位 計126単位	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	13週
	1時限の授業の標準時間	105分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（健康科学部理学療法学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学部共通基盤科目群	アカデミック･スキルズ	1前		1			○			6	8		2			
	自然科学概論	1後			2		○								1	
	生命現象の理解とその応用－生命科学	1後			2		○								2	オムニバス
	生物からみた環境の仕組み－生態学	1前			2		○								1	
	食環境論	1前			2		○								1	
	香りと環境	1後			2		○								1	
	身体の理解	1前			2		○				2					オムニバス
	デジタルアプリA	1前		2			○								1	
	デジタルアプリB	1後			2		○								1	
	情報セキュリティA	1後			2		○								1	
	情報社会と情報倫理	1後			2		○								1	
	人工知能論	1前			2		○								1	
	データサイエンスI	1前		2			○								1	
	データサイエンスII	1後			2		○								1	
	モデル化とシミュレーション	2前			2		○								1	
	プログラミングA	2後			2		○								1	
	アルゴリズムA	2前			2		○								1	
	情報システム論	2後			2		○								1	
	統計学	2後			2		○								1	
	データ分析の基礎(解析)	1前			2		○								1	
	データ分析の基礎(線形代数)	1前			2		○								1	
	インターネット配信	1後			2		○								1	
	観光の現在と未来	1前			2		○								1	
	ヘルスツーリズム	1前			2		○								1	
	社会心理学	1後			2		○								1	
	生活と文化	2前			2		○								1	
	生涯スポーツ概論	1後			2		○								1	
	スポーツ社会学	1後			2		○								1	
	ボランティア論	1後			2		○								1	
	コミュニケーションの基礎	1後			2		○								1	
	域学共創プロジェクトA	1通			2			○							3	共同
	域学共創プロジェクトB	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトC	1通			2			○		1	2				3	共同
	域学共創プロジェクトD	1通			2			○							3	共同
	域学共創プロジェクトE	1後			2			○							2	共同
	域学共創プロジェクトF	1通			2			○			1		2			共同
	域学共創プロジェクトG	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトH	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトI	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトJ	1後			2			○							1	
	史学概論	1前			2		○								1	
	日本史を学ぶ	1後			2		○								1	
	アジア史概論	1前			2		○								1	
	現代史入門	1前			2		○								1	
	房総の文化と歴史	1前			2		○								1	
	映像メディア史	1後			2		○								1	
	音楽史	1後			2		○								1	
	政治学入門	1前			2		○								1	
	経済学入門	1後			2		○								1	
	社会と経営	1後			2		○								1	
	社会と会計	1前			2		○								1	
	マーケティング論	1前			2		○								1	
	広告戦略論	1前			2		○								1	
	社会学	1前			2		○								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学部共通基盤科目群	社会調査	2後			2		○								1	
	法律学概論	1前			2		○								1	
	日本国憲法	1前			2		○								1	
	著作権	1後			2		○								1	
	社会福祉学A	1後			2		○								1	
	社会福祉学B	2前			2		○								1	
	経営情報基礎論A	1後			2		○								1	
	世界遺産のいま	1前			2		○								1	
	美学･芸術学	1後			2		○								1	
	表象文化研究	1前			2		○								1	
	世界の文学	1後			2		○								1	
	演劇研究	1前			2		○								1	
	古典芸能研究	1前			2		○								1	
	文学を読む	1前			2		○								1	
	教育学	1後			2		○								1	
	心理学	1後			2		○								1	
	基礎の数学	1前			2		○								1	
	ジェンダー論	1前			2		○								1	
	根拠への問いー哲学へのとびら	1前			2		○								1	
	異文化適応論	1後			2		○								1	
	宗教学概論	1後			2		○								1	
	倫理学概論	1後			2		○								1	
	スポーツ科学A	1前			1			○							1	
	スポーツ科学B	1後			1			○							1	
	しゃべりのスキルUp Ⅰ	1後			2		○								1	
	小計（79科目）	―	―	5	150	0	―			6	8	0	2	0	58	―
外国語科目群	Fundamentals of English I	1前		2			○			1			1			
	Fundamentals of English II	1前			2		○								1	
	Oral Fluency I	1後		2			○						1			
	Oral Fluency II	1後			2		○								1	
	TOEIC Preparation A	1前			2		○								1	
	TOEIC Preparation B	1前			2		○								1	
	TOEIC Preparation C	1後			2		○								1	
	TOEIC Preparation D	1後			2		○								1	
	English for Specific Purposes A	1前			2		○			1						
	English for Specific Purposes B	1後			2		○			1						
	English for Advanced Studies A	1前			2		○			1						
	English for Advanced Studies B	1後			2		○			1						
	中国語I	1前			2		○								1	
	中国語II	1後			2		○								1	
	韓国語I	1前			2		○								1	
	韓国語II	1後			2		○								1	
	スペイン語I	1前			2		○								1	
	スペイン語II	1後			2		○								1	
	ドイツ語I	1前			2		○								1	
	ドイツ語II	1後			2		○								1	
	フランス語I	1前			2		○								1	
	フランス語II	1後			2		○								1	
	ハンガリー語I	1前			2		○								1	
	ハンガリー語II	1後			2		○								1	
	ポーランド語I	1前			2		○								1	
	ポーランド語II	1後			2		○								1	
	チェコ語I	1前			2		○								1	
	チェコ語II	1後			2		○								1	
	小計（28科目）	―	―	4	52	0	―			1	0	0	1	0	12	―

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
キャリア形成科目群	基礎ゼミⅠ	1前		1			○			6	8		2			
	基礎ゼミⅡ	2後		1			○			6	8		2			
	理学療法ゼミ	3後		1			○			6	8		2			
	世界の理学療法	1後		1			○				1					
	グローバル研修A	2・3前			1			○			1					隔年
	グローバル研修B	2・3前			1			○		1						隔年
	小計（６科目）	－	－	4	2	0	－			6	8	0	2	0	0	－
専門基礎科目群Ⅰ	基礎物理学	1前		1			○				1					
	医療倫理学	1前		2			○								1	
	医療コミュニケーション論	1前		2			○								1	
	小計（３科目）	－	－	5	0	0	－			0	1	0	0	0	2	－
専門基礎科目群Ⅱ	人体の構造	1前	○	2			○				1				2	オムニバス
	人体の構造演習	1後	○	2				○			2					
	人体の機能	1前	○	2			○			2						オムニバス
	人体の機能演習	1後	○	2				○		1	1					
	運動学Ⅰ	1後	○	2			○				1					
	運動学Ⅱ	1後	○	2			○				1					
	運動学演習	2前	○	1				○		1	2					
	人間発達学	1後		2			○				1					
	臨床心理学	2後		1			○								1	
	機能解剖学	3前			1		○				1					
	小計（10科目）	－	－	16	1	0	－			4	7	0	0	0	3	－
専門基礎科目群Ⅲ	整形外科系医療学	2前		2			○								7	オムニバス
	内科系医療学	2前		2			○								1	
	精神医学系医療学	2前		1			○								1	
	公衆衛生学	3前	○	1			○						1			
	病理学	2後		2			○						1			
	神経内科系医療学	2前		2			○								1	
	薬学概論	2前		1			○			1						
	医療概論	2後		2			○			1	1				1	オムニバス
	老年学	3前	○	1			○						1			
	障害予防概論	3後	○	1			○						1			
	小計（10科目）	－	－	15	0	0	－			1	1	0	2	0	11	－
専門基礎科目群Ⅳ	リハビリテーション科学	1後	○	2			○			1						
	保健医療福祉概論	2前	○	1			○						1			
	多職種間連携教育	3前	○	1			○						1			
	多職種間連携教育実習	3前			1				○		1		1			共同
	生活環境論	3前	○		1		○				1					
	理学療法教育法	4後			2		○				1					
	小計（６科目）	－	－	4	4	0	－			1	2	0	2	0	0	－
専門科目群Ⅰ	理学療法概論	1前	○	2			○			2						オムニバス
	理学療法研究法	3前	○	1			○			1						
	医療統計学	3前			1		○			1						
	卒業研究Ⅰ	3後			1			○		6	8		2			
	卒業研究Ⅱ	4後			1			○		6	8		2			
	基礎理学療法学	2前	○	2			○				1					
	基礎理学療法学演習	2前	○	1				○			2					
	バイオメカニクス論	3前			1		○			1						
	小計（８科目）	－	－	6	4	0	－			6	8	0	2	0	0	－
専門科目群Ⅱ	職業倫理管理学	4前	○	2			○				1					
	基礎理学療法評価学	1後	○	2			○			1						
	基礎理学療法評価学実習	2前	○	1					○		2					
	疾患別理学療法評価学	2前	○	2			○			1						
	疾患別理学療法評価学演習（神経系）	2後	○	1				○		1	1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門科目群Ⅱ	疾患別理学療法評価学演習（運動器系）	2後	○	1				○		1	2					
	疾患別理学療法評価学演習（内部障害系）	2後	○	1				○			1		1			
	疾患別理学療法治療学	2後	○	2			○			1	2					オムニバス
	疾患別理学療法治療学実習（神経系）	3前	○	1					○	1	1					
	疾患別理学療法治療学実習（運動器系）	3前	○	1					○	1	2					
	疾患別理学療法治療学実習（内部障害系）	3前	○	1					○		2					
	日常生活活動学	2前	○	1			○			1						
	日常生活活動学実習	2後	○	1					○	1			1			
	義肢装具学	2後	○	2			○			1						
	義肢装具学実習	3前	○	1					○	1			1			
	物理療法学	2前	○	2			○			1	1					オムニバス
	物理療法学実習	2後	○	1					○	1	1					
	発達系理学療法学	3前		2			○								5	オムニバス
	スポーツ系理学療法学	3前	○	1			○			1						
	理学療法学セミナーⅠ	2後	○	1				○			2					
	理学療法学セミナーⅡ	3前	○	1				○		1	1					
	理学療法技術演習（発達・高次脳機能）	3後			1			○		1						
	理学療法技術演習（徒手技術）	3後			1			○			2					オムニバス
	理学療法技術演習（呼吸・循環・代謝）	3後			1			○			1		1			オムニバス
	理学療法技術演習（先進医療機器）	3後			1			○			2					オムニバス
	理学療法技術演習（スポーツ）	3後			1			○		1	1					
	理学療法技術演習（トレーニング）	3後			1			○			1					
	地域理学療法学	3前	○	2			○				1					
	地域理学療法学演習	3後	○	1				○			1		1			
	小計(29科目)	－	－	31	6	0	－			5	8	0	3	0	5	－
専門科目群Ⅲ	理学療法学総合演習A	4前	○	1				○		5	8		2			オムニバス
	理学療法学総合演習B	4後	○	2				○		5	8		2			オムニバス
	臨床実習Ⅰ（見学）	1前	○	1					○	5	8		2			共同
	臨床実習Ⅱ（検査・測定）	2後	○	3					○	5	8		2			共同
	臨床実習Ⅲ（評価）	3後	○	4					○	5	8		2			共同
	臨床実習Ⅳ（総合）	4前	○	10					○	5	8		2			共同
	地域実習	4前	○	2					○	5	8		2			共同
	小計（７科目）	－	－	23	0	0	－			5	8	0	2	0	0	－
合計（186科目）		－	－	113	219	0	－			7	8	0	3	0	91	－

学位又は称号	学士（理学療法学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
1.全学部共通基盤科目群より、5単位必修を含み、11単位以上選択必修 2.外国語科目群より、4単位必修 3.キャリア形成科目群より、4単位必修 4.専門基礎科目群Ⅰより、5単位必修 5.専門基礎科目群Ⅱより、16単位必修 6.専門基礎科目群Ⅲより、15単位必修 7.専門基礎科目群Ⅳより、4単位必修 8.専門科目群Ⅰより、6単位必修を含み、8単位以上選択必修 9.専門科目群Ⅱより、31単位必修を含み、34単位以上選択必修 10.専門科目群Ⅲより、23単位必修 11.卒業要件単位数は124単位 (履修科目の上限：年間42単位。GPA2.0以上の場合は、年間49単位。)	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	13週
	1時限の授業の標準時間	105分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉総合学部理学療法学科：健康科学部理学療法学科の基礎となる学部等）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学部共通基盤科目群	アカデミック･スキルズ	1前		1			○			7	6		5			
	SDGs × 大学生	1前			1		○								1	
	Fundamentals of English I	1前		2			○			1			1			
	Fundamentals of English II	1前			2		○						1			
	Oral Fluency I	1後		2			○			1						
	Oral Fluency II	1後			2		○								1	
	TOEIC Preparation A	1前			2		○			1						
	TOEIC Preparation B	1前			2		○			1						
	TOEIC Preparation C	1後			2		○								1	
	TOEIC Preparation D	1後			2		○								1	
	English for Specific Purposes A	1前			2		○			1						
	English for Specific Purposes B	1後			2		○			1						
	English for Advanced Studies A	1前			2		○								1	
	English for Advanced Studies B	1後			2		○								1	
	中国語I	1前			2		○								1	
	中国語II	1後			2		○								1	
	韓国語I	1前			2		○								1	
	韓国語II	1後			2		○								1	
	スペイン語I	1前			2		○								1	
	スペイン語II	1後			2		○								1	
	ドイツ語I	1前			2		○								1	
	ドイツ語II	1後			2		○								1	
	フランス語I	1前			2		○								1	
	フランス語II	1後			2		○								1	
	ハンガリー語I	1前			2		○								1	
	ハンガリー語II	1後			2		○								1	
	ポーランド語I	1前			2		○								1	
	ポーランド語II	1後			2		○								1	
	チェコ語I	1前			2		○								1	
	チェコ語II	1後			2		○								1	
	データ分析の基礎(解析)	1前			2		○								1	
	データ分析の基礎(線形代数)	1前			2		○								1	
	自然科学概論	1後			2		○								1	
	生命現象の理解とその応用－生命科学	1後			2		○								2	
	環境科学	1後			2		○								1	
	食環境論	1前			2		○								1	
	香りと環境	1後			2		○								1	
	情報セキュリティA	1前			2		○								1	
	情報社会と情報倫理	1後			2		○								1	
	人工知能論	1前			2		○								1	
	データサイエンスI	1前		2			○								1	
	データサイエンスII	1後			2		○								1	
	統計学	2後			2		○								1	
	身体の理解	1前			2		○				2					オムニバス
	デジタルアプリA	1前		2			○								1	
	デジタルアプリB	1後			2		○								1	
	生物からみた環境の仕組み－生態学	1前			2		○								1	
	インターネット配信	1後			2		○								1	
	エリアスタディーズA	1前			2		○								1	
	エリアスタディーズB	1後			2		○								1	
	観光の現在と未来	1前			2		○								1	
	ヘルスツーリズム	1前			2		○								1	
	社会心理学	1後			2		○								1	
	生活と文化	2前			2		○								1	
	生涯スポーツ概論	1前			2		○								1	
	スポーツ社会学	1後			2		○								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学部共通基盤科目群	ボランティア論	1後			2		○								1	
	国際日本学	1後			2		○								1	
	コミュニケーションの基礎	1後			2		○								1	
	域学共創プロジェクトA	1通			2			○							3	共同
	域学共創プロジェクトB	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトC	1通			2			○		1	1		1		4	共同
	域学共創プロジェクトD	1通			2			○							2	共同
	域学共創プロジェクトE	1通			2			○							2	共同
	域学共創プロジェクトF	1通			2			○					3			共同
	域学共創プロジェクトG	1通			2			○							2	共同
	域学共創プロジェクトH	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトI	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトJ	1通			2			○							1	
	史学概論	1前			2		○								1	
	日本の歴史A	1前			2		○								1	
	日本の歴史B	1後			2		○								1	
	西洋史概論	1後			2		○								1	
	アジア史概論	1前			2		○								1	
	現代史入門	1前			2		○								1	
	人類とモノづくり	1後			2		○								1	
	房総の文化と歴史	1前			2		○								1	
	科学史	1後			2		○								1	
	映像メディア史	1後			2		○								1	
	音楽史	1後			2		○								1	
	政治学入門	1前			2		○								1	
	国際関係論	2前			2		○								1	
	経済学入門	1後			2		○								1	
	経済原論A	1前			2		○								1	
	経済原論B	1後			2		○								1	
	社会と経営	1後			2		○								1	
	社会と会計	1前			2		○								1	
	マーケティング論	1前			2		○								1	
	広告戦略論	1前			2		○								1	
	社会学	1前			2		○			1						
	社会調査	2後			2		○								1	
	法律学概論	1前			2		○								1	
	日本国憲法	1前			2		○								1	
	民法A	2前			2		○								1	
	商法	2前			2		○								1	
	著作権	1後			2		○								1	
	社会福祉学A	1後			2		○			1						
	社会福祉学B	2前			2		○								1	
	経営情報基礎論A	1前			2		○								1	
	地理学A	1前			2		○								1	
	地理学B	1前			2		○								1	
	世界遺産のいま	1前			2		○								1	
	西洋美術	1前			2		○								1	
	美学･芸術学	1後			2		○								1	
	表象文化研究	1前			2		○								1	
	日本の現代文化	1後			2		○								1	
	日本の伝統文化	1後			2		○								1	
	日本文学概論	1前			2		○								1	
	日本の文学(古典)	2前			2		○								1	
	日本の文学(近･現代)	2前			2		○								1	
	日本語表現	1後			2		○								1	
	文学のはじまり－古代ギリシア･ローマの文学	1後			2		○								1	
	世界の文学	1後			2		○								1	
	演劇研究	1前			2		○								1	
	古典芸能研究	1前			2		○								1	
	教育学	1後			2		○								1	
	心理学	1前			2		○								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学部共通基盤科目群	基礎の数学	1前			2		○								1	
	ジェンダー論	1前			2		○								1	
	根拠への問いー哲学へのとびら	1前			2		○								1	
	宗教学概論	1前			2		○								1	
	倫理学概論	1後			2		○								1	
	文化人類学	1前			2		○								1	
	異文化適応論	1前			2		○								1	
	比較文化概論	1前			2		○								1	
	言語学概論	1前			2		○								1	
	スポーツ科学A	1前			1			○							1	
	スポーツ科学B	1後			1			○							1	
	スポーツ科学(ダンス)IA	1後			1			○							1	
	スポーツ科学(ダンス)IB	1後			1			○							1	
	しゃべりのスキルUp Ⅰ	1後			2		○								1	
	小計（131科目）	－	－	9	247	0	－			8	6	0	6	0	83	－
キャリア形成科目群	基礎ゼミⅠ	1前		1			○			7	6		5			
	基礎ゼミⅡ	2後		1			○			7	6		5			
	理学療法ゼミ	3後		1			○			7	6		5			
	世界の理学療法	1後		1			○				1					
	グローバル研修A	2・3前			1			○			1					隔年・集中
	グローバル研修B	2・3前			1			○		1						隔年・集中
	小計（６科目）	－	－	4	2	0	－			7	6	0	5	0	0	－
専門基礎科目群Ⅰ	基礎物理学	1前		1			○				1					
	医療倫理学	1前		2			○								1	
	医療コミュニケーション論	1前		2			○				1				1	
	小計（３科目）	－	－	5	0	0	－			0	2	0	0	0	2	－
専門基礎科目群Ⅱ	人体の構造	1前	○	2			○				1				2	オムニバス
	人体の構造演習	1後	○	2				○			1		1			
	人体の機能	1前	○	2			○			2						オムニバス
	人体の機能演習	1後	○	2				○		1			1			
	運動学Ⅰ	1後	○	2			○				1					
	運動学Ⅱ	1後	○	2			○				1					
	運動学演習	2前	○	1				○		1	2					
	人間発達学	1後	○	2			○						1			
	臨床心理学	2前	○	1			○								1	
	機能解剖学	3前			1		○				1					
	小計（10科目）	－	－	16	1	0	－			3	5	0	2	0	3	－
専門基礎科目群Ⅲ	整形外科系医療学	2前		2			○								7	オムニバス
	内科系医療学	2前		2			○								1	
	精神医学系医療学	2前		1			○								1	
	公衆衛生学	3前	○	1			○						1			
	病理学	2後		2			○						1			
	神経内科系医療学	2後		2			○								1	
	薬学概論	2前		1			○			1						
	医療概論	2後		2			○			1	1				1	オムニバス
	老年学	3前	○	1			○						1			
	障害予防概論	3後	○	1			○						1			
	小計（10科目）	－	－	15	0	0	－			1	1	0	2	0	11	－
専門基礎科目群Ⅳ	リハビリテーション科学	1後	○	2			○			1						
	保健医療福祉概論	2前	○	1			○						1			
	多職種間連携教育	3前	○	1			○						1			
	多職種間連携教育実習	3前			1				○				2			共同
	生活環境論	3前	○		1		○						1			
	理学療法教育法	4後			2		○				1					
	小計（６科目）	－	－	4	4	0	－			1	1	0	3	0	0	－

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門科目群Ⅰ	理学療法概論	1前	○	2			○			2						
	理学療法研究法	3前	○	1			○			1						
	医療統計学	3前			1		○			1						
	卒業研究Ⅰ	3後			1			○		6	6		5			
	卒業研究Ⅱ	4後			1			○		6	6		5			
	基礎理学療法学	2前	○	2			○				1					
	基礎理学療法学演習	2前	○	1				○			1		1			
	バイオメカニクス論	3前			1		○			1						
	小計（８科目）	－	－	6	4	0	－			6	6	0	5	0	0	－
専門科目群Ⅱ	職業倫理管理学	4前	○	2			○				1					
	基礎理学療法評価学	1後	○	2			○			1						
	基礎理学療法評価学実習	2前	○	1					○		2					
	疾患別理学療法評価学	2前	○	2			○			1						
	疾患別理学療法評価学演習（神経系）	2後	○	1				○		1	1					
	疾患別理学療法評価学演習（運動器系）	2後	○	1				○		1	1					
	疾患別理学療法評価学演習（内部障害系）	2後	○	1				○			1		1			
	疾患別理学療法治療学	2後	○	2			○			1	2					
	疾患別理学療法治療学実習（神経系）	3前	○	1					○	1			1			
	疾患別理学療法治療学実習（運動器系）	3前	○	1					○	1	1					
	疾患別理学療法治療学実習（内部障害系）	3前	○	1					○		1		1			
	日常生活活動学	2前	○	1			○			1						
	日常生活活動学実習	2後	○	1					○	1			1			
	義肢装具学	2後	○	2			○			1						
	義肢装具学実習	3前	○	1					○	1			1			
	物理療法学	2前	○	2			○			1	1					
	物理療法学実習	2後	○	1					○	1	1					
	発達系理学療法学	3前		2			○								5	オムニバス
	スポーツ系理学療法学	3前	○	1			○			1						
	理学療法学セミナーⅠ	2後	○	1				○			1		1			
	理学療法学セミナーⅡ	3前	○	1				○		1	1					
	理学療法技術演習（発達・高次脳機能）	3後			1			○		1			1			オムニバス
	理学療法技術演習（徒手技術）	3後			1			○			1		1			オムニバス
	理学療法技術演習（呼吸・循環・代謝）	3後			1			○					2			オムニバス
	理学療法技術演習（先進医療機器）	3後			1			○			2					オムニバス
	理学療法技術演習（スポーツ）	3後			1			○		1	1					
専門科目群Ⅱ科目	地域理学療法学	3前	○	2			○						1			
	地域理学療法学演習	3後	○	1			○						2			
	小計(28科目)	－	－	31	5	0	－			6	6	0	5	0	5	－
専門科目群Ⅲ	理学療法学総合演習A	4前	○	1				○		5	6		5			オムニバス
	理学療法学総合演習B	4後	○	2				○		5	6		5			オムニバス
	臨床実習Ⅰ（見学）	1前	○	1					○	5	6		5			共同
	臨床実習Ⅱ（検査・測定）	2後	○	3					○	5	6		5			共同
	臨床実習Ⅲ（評価）	3後	○	4					○	5	6		5			共同
	臨床実習Ⅳ（総合）	4前	○	10					○	5	6		5			共同
	地域実習	4後	○	2					○	5	6		5			共同
	小計（７科目）	－	－	23	0	0	－			5	6	0	5	0	0	－
合計（209科目）		－	－	113	263	0	－			8	6	0	6	0	105	－

学位又は称号	学士（理学療法学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
1.全学部共通基盤科目群より、9単位必修を含み、15単位以上選択必修 2.キャリア形成科目群より、4単位必修 3.専門基礎科目群Ⅰより、5単位必修 4.専門基礎科目群Ⅱより、16単位必 5.専門基礎科目群Ⅲより、15単位必修 6.専門基礎科目群Ⅳより、4単位必修 7.専門科目群Ⅰより、6単位必修を含み、8単位以上選択必修 8.専門科目群Ⅱより、31単位必修を含み、34単位以上選択必修 9.専門科目群Ⅲより、23単位必修 10.卒業要件単位数は124単位 (履修科目の上限：年間42単位。GPA2.0以上の場合は、年間49単位。)	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	13週
	１時限の授業の標準時間	105分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（健康科学部福祉総合学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学部共通基盤科目	アカデミック･スキルズ	1前		1			○				1		2			
	自然科学概論	1後			2		○								1	
	生命現象の理解とその応用-生命科学	1後			2		○								2	オムニバス
	生物からみた環境の仕組みー生態学	1前			2		○								1	
	食環境論	1前			2		○								1	
	香りと環境	1後			2		○								1	
	身体の理解	1前			2		○								2	オムニバス
	デジタルアプリA	1前		2			○				1					
	デジタルアプリB	1後		2			○				1					
	情報セキュリティA	1後			2		○								1	
	情報社会と情報倫理	1後			2		○								1	
	人工知能論	1前			2		○								1	
	データサイエンスI	1前		2			○								1	
	データサイエンスII	1後			2		○								1	
	モデル化とシミュレーション	2前			2		○								1	
	プログラミングA	2後			2		○								1	
	アルゴリズムA	2前			2		○								1	
	情報システム論	2後			2		○								1	
	統計学	2後			2		○								1	
	データ分析の基礎(解析)	1前			2		○								1	
	データ分析の基礎(線形代数)	1前			2		○								1	
	インターネット配信	1後			2		○								1	
	観光の現在と未来	1前			2		○								1	
	ヘルスツーリズム	1前			2		○								1	
	社会心理学	1後			2		○								1	
	生活と文化	2前			2		○				1					
	生涯スポーツ概論	1後			2		○								1	
	スポーツ社会学	1後			2		○								1	
	ボランティア論	1後			2		○				1					
	コミュニケーションの基礎	1後			2		○								1	
	域学共創プロジェクトA	1通			2			○			1				2	共同
	域学共創プロジェクトB	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトC	1通			2			○			1				5	共同
	域学共創プロジェクトD	1通			2			○							3	共同
	域学共創プロジェクトE	1後			2			○			1		1			共同
	域学共創プロジェクトF	1通			2			○							3	共同
	域学共創プロジェクトG	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトH	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトI	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトJ	1後			2			○							1	
	史学概論	1前			2		○								1	
	日本史を学ぶ	1後			2		○								1	
	アジア史概論	1前			2		○								1	
	現代史入門	1前			2		○								1	
	房総の文化と歴史	1前			2		○								1	
	映像メディア史	1後			2		○								1	
	音楽史	1後			2		○								1	
	政治学入門	1前			2		○								1	
	経済学入門	1後			2		○								1	
	社会と経営	1後			2		○								1	
	社会と会計	1前			2		○								1	
	マーケティング論	1前			2		○								1	
	広告戦略論	1前			2		○								1	
	社会学	1前	○		2		○			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学部共通基盤科目	社会調査	2後	○		2		○				1					
	法律学概論	1前			2		○								1	
	日本国憲法	1前			2		○								1	
	著作権	1後			2		○								1	
	社会福祉学A	1後			2		○			1						
	社会福祉学B	2前			2		○			1						
	経営情報基礎論A	1後			2		○								1	
	世界遺産のいま	1前			2		○								1	
	美学･芸術学	1後			2		○								1	
	表象文化研究	1前			2		○								1	
	世界の文学	1後			2		○								1	
	演劇研究	1前			2		○								1	
	古典芸能研究	1前			2		○								1	
	文学を読む	1前			2		○								1	
	教育学	1後			2		○				1					
	心理学	1後			2		○								1	
	基礎の数学	1前			2		○								1	
	ジェンダー論	1前			2		○								1	
	根拠への問いー哲学へのとびら	1前			2		○								1	
	異文化適応論	1後			2		○								1	
	宗教学概論	1後			2		○								1	
	倫理学概論	1後			2		○								1	
	スポーツ科学A	1前			1			○							1	
	スポーツ科学B	1後			1			○							1	
	しゃべりのスキルUp Ⅰ	1後			2		○								1	
	小計（79科目）	―	―	7	148	0	―			3	4	0	2	0	60	―
外国語科目群	Fundamentals of English I	1前		2			○								2	
	Fundamentals of English II	1前			2		○								1	
	Oral Fluency I	1後			2		○								1	
	Oral Fluency II	1後			2		○								1	
	TOEIC Preparation A	1前			2		○								1	
	TOEIC Preparation B	1前			2		○								1	
	TOEIC Preparation C	1後			2		○								1	
	TOEIC Preparation D	1後			2		○								1	
	English for Specific Purposes A	1前			2		○								1	
	English for Specific Purposes B	1後			2		○								1	
	English for Advanced Studies A	1前			2		○								1	
	English for Advanced Studies B	1後			2		○								1	
	中国語I	1前			2		○								1	
	中国語II	1後			2		○								1	
	韓国語I	1前			2		○								1	
	韓国語II	1後			2		○								1	
	スペイン語I	1前			2		○								1	
	スペイン語II	1後			2		○								1	
	ドイツ語I	1前			2		○								1	
	ドイツ語II	1後			2		○								1	
	フランス語I	1前			2		○								1	
	フランス語II	1後			2		○								1	
	ハンガリー語I	1前			2		○								1	
	ハンガリー語II	1後			2		○								1	
	ポーランド語I	1前			2		○								1	
	ポーランド語II	1後			2		○								1	
	チェコ語I	1前			2		○								1	
	チェコ語II	1後			2		○								1	
	日本語I	1前			2		○								1	
	日本語II	1前			2		○								1	
	統合日本語I	1前			2		○								1	
	統合日本語II	1前			2		○								1	
	日本語アカデミック・ライティング	1前			2		○								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
外国語科目	日本語アカデミック・スピーキング	1前			2		○								1	
	社会と文化の日本語A	1前			2		○								1	
	社会と文化の日本語B	1前			2		○								1	
	小計（36科目）			2	70		－			0	0	0	0	0	17	
キャリア形成科目	地域ボランティア研修	1前			2				○				2			共同
	福祉疑似体験	1後			2				○				2			共同
	ICT活用論	1後			2		○								1	
	福祉グローバル研修A	1後			2			○			1		1			共同
	福祉グローバル研修B	2後			2			○		2						共同
	ライフステージIPE A	2前			1		○				2		1		5	共同
	ライフステージIPE B	2前			1		○				1		1		4	共同
	ライフステージIPE C	3前			1		○				1				3	共同
	ライフステージIPE D	3前			1		○						2		4	共同
	基礎ゼミ	1後		1			○			1			3			共同
	地域共生演習	3後			1			○					1			
	ゼミナールA	2･3前		1			○			7	4		6			
	ゼミナールB	2･3前		1			○			7	4		6			
	ゼミナールC	3後		1			○			7	4		6			
	ゼミナールD	3後		1			○			7	4		6			
	ゼミナールE	3･4前		1			○			7	4		6			
	ゼミナールF	3･4前		1			○			7	4		6			
	ゼミナールG	4後		1			○			7	4		6			
	ゼミナールH	4後		1			○			7	4		6			
	専門日本語(福祉･介護)	2前			2		○								1	
	キャリア日本語（就職）	3後			2		○								1	
	キャリア日本語（進学）	3前			2		○								1	
	小計（22科目）	－	－	9	21	0	－			8	4	0	6	0	11	－
専門基礎科目	人間学	1前	○		2		○				1					
	ジェンダーと福祉社会	1前			2		○						1			
	サステイナブル社会論	1前	○		2		○			1						
	福祉文化･社会論	1後	○		2		○			1			1			共同
	小計（4科目）	－	－	0	8	0	－			2	1	0	1	0	0	－
専門科目	ソーシャルワークの基盤と専門職I	1前	○		2		○			1						
	ソーシャルワークの基盤と専門職II	1後	○		2		○						1			
	ソーシャルワークの理論と方法I	2前	○		2		○			1						
	ソーシャルワークの理論と方法II	2前	○		2		○			1						
	ソーシャルワークの理論と方法III	2後	○		2		○			1						
	ソーシャルワークの理論と方法IV	2後	○		2		○			1						
	医学概論I	2前	○		2		○						1			
	介護の知識と技術	1後			2		○						1			
	高齢者福祉サービス	1前	○		2		○						1			
	子ども家庭福祉論	1前	○		2		○			1						
	子ども家庭福祉	1後			2		○			1						
	社会福祉原論	1前	○		2		○			1						
	福祉政策	1後	○		2		○			1						
	社会福祉	1後			2		○			1						
	障がいとリハビリテーション	1後			2		○				1					
	障がい児・者福祉サービス	1後			2		○								1	
	司法福祉	2後			2		○								1	
	女性福祉論	1後			2		○			1						
	国際福祉論	1後			2		○						1			
	貧困に対する支援論	2前	○		2		○			1						
	社会保障論I	1前	○		2		○			1						
	社会保障論II	1後	○		2		○			1						
	地域福祉の理論と方法I	1前			2		○								1	
	地域福祉の理論と方法II	1後	○		2		○						1			
	ソーシャルワークの基礎	1後	○		1			○		2						
	ソーシャルワーク演習I	2前	○		1			○		2						
	ソーシャルワーク演習II	2前	○		1			○		2						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門科目	ソーシャルワーク演習III	4前	○		1			○		1			1			
	ソーシャルワーク演習IV	4前	○		1			○		1			1			
	ソーシャルワーク実習I	3後	○		6				○	3			1			
	ソーシャルワーク実習II	4後	○		2				○	3			1			
	ソーシャルワーク実習指導I	3前	○		1				○	3			1			
	ソーシャルワーク実習指導II	3後	○		1				○	3			1			
	ソーシャルワーク実習指導III	4前	○		1				○	3			1			
	福祉専門研究	3後			1		○			4			2			オムニバス
	福祉応用研究I	4前			1		○						1			
	福祉応用研究II	4前			1		○						1			
	福祉応用研究III	4後			1		○						1			
	福祉応用研究IV	4後			1		○						1			
	社会福祉経営	2後			2		○								1	
	医療ソーシャルワーク論	2後	○		2		○				1					
	権利擁護と成年後見制度	2前	○		2		○				1					
	Oral English for Children A	1後			2		○								1	
	Oral English for Children B	1後			2		○								1	
	保育の表現理解(音楽)A	2前			1		○								2	
	保育の表現理解(音楽)B	2後			1		○								2	
	保育の表現理解(造形)A	2前	○		1		○						1			
	保育の表現理解(造形)B	2前	○		1		○						1			
	保育の表現理解(体育)A	2前			1		○								1	
	保育の表現理解(体育)B	2前			1		○								1	
	幼児国語	3後			2		○						1			
	子どもの生活と社会	2後	○		2		○			1						
	音楽入門A	1前			1		○								2	
	音楽入門B	1後			1		○								2	
	幼児文化論	3後	○		2		○						1			
	子どもの食と栄養A	2前			1		○								1	
	子どもの食と栄養B	2前			1		○								1	
	子どもの保健	2前			2		○								1	共同
	子どもの健康と安全	2前			1		○								1	
	特別な保育ニーズの理解と支援A	2後	○		1		○				1					
	特別な保育ニーズの理解と支援B	2後	○		1		○				1					
	乳児保育	2前	○		2		○						1			
	乳児保育演習	2前	○		1			○					1			
	保育の心理学	1前	○		2		○				1					
	子どもの理解と援助	2後	○		1		○				1					
	子ども家庭支援の心理学	2前	○		2		○			2						
	保育実習(保育所)I	2後	○		2				○		1		1			共同
	保育実習(施設)I	3後	○		2				○	1			1			共同
	保育実習(保育所)II	3後	○		2				○		1		1			共同
	保育実習(施設)II	3後	○		2				○	1			1			共同
	保育実習指導(保育所)I	2前	○		1				○		1		1			共同
	保育実習指導(施設)I	3後	○		1				○	1			1			共同
	保育実習指導(保育所)II	3後	○		1				○		1		1			共同
	保育実習指導(施設)II	3後	○		1				○	1			1			共同
	保育内容総論	2前	○		1		○			1						
	保育内容演習(健康)	2後			1			○							1	
	保育内容演習(人間関係)	2後	○		1			○		1						
	保育内容演習(表現)	3前	○		1			○					1			
	社会的養護	2前	○		2		○			1						
	社会的養護演習	2後	○		1			○		1						
	子ども家庭支援論	3前	○		2		○			1						
	保育･教職実践演習A	4後	○		1			○		1	1		2			
	保育･教職実践演習B	4後	○		1			○		1	1		2			
	保育原理	2後	○		2		○						1			
	保育者論	1前	○		2		○						1			
	幼児教育原理	1前	○		2		○			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門科目	教育社会学	1後			2		○								1	
	保育･教育課程論	2後	○		2		○			1						
	保育内容指導法	2後	○		2		○						1			
	幼児教育研究(遊びの援助)	3後	○		2		○			1						
	幼児教育方法論	3前	○		2		○			1						
	教育実習(事前及び事後指導を含む)	4前	○		5				○	1	1					共同
	地域における子育て支援A	3後	○		1		○						1			
	地域における子育て支援B	3後	○		1		○						1			
	子どもの権利と福祉	3前			2		○				1					
	子どもの発達と相談	3後	○		2		○				1					
	特別支援保育	3前	○		2		○				1					
	子どもの人間関係と観察	3前	○		2		○			1						
	保育内容演習（環境）	3後	○		1			○					1			
	保育内容演習（言葉）	3後	○		1			○		1						
	保育実践と表現A	3後			1		○								2	
	保育実践と表現B	3後			1		○								2	
	子どもの生活と遊びA	3後			1		○						1			
	子どもの生活と遊びB	3後			1		○						1			
	精神医学I	1後			2		○								1	
	精神医学II	2後			2		○								1	
	精神保健学I	2前			2		○								1	
	精神保健学II	2前			2		○								1	
	精神保健福祉の原理I	1後	○		2		○			1						
	精神保健福祉の原理II	1後	○		2		○			1						
	臨床心理学	2後			2		○				1					
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)I	2前	○		2		○				1					
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)II	2前	○		2		○				1					
	精神保健福祉制度論	2前	○		2		○				1					
	精神障害リハビリテーション論	2前			2		○								1	
	精神保健福祉援助演習I	3前			1			○							1	
	精神保健福祉援助演習II	3前			1			○							1	
	精神保健福祉援助演習III	4後			1			○							1	
	精神保健福祉援助実習指導I	3前	○		1				○	1						
	精神保健福祉援助実習指導II	3後	○		1				○	1						
	精神保健福祉援助実習指導III	4前	○		1				○		1					
	精神保健福祉援助実習I	3後	○		4				○	1						
	精神保健福祉援助実習II	4前	○		3				○		1					
	福祉専門書講読A	2後			1		○						1			
	福祉専門書講読B	2後			1		○								1	
	人間関係とコミュニケーション	1前	○		2		○			1						
	チームマネジメント論	1後			2		○								1	
	生命科学	1後			2		○								1	
	リハビリテーション論	3前			2		○								1	
	レクリエーション活動援助法A	2前	○		1		○						1			
	レクリエーション活動援助法B	2前	○		1		○						1			
	介護概論	2前	○		2		○			1						
	コミュニケーション技法A	2前	○		2		○			1						
	コミュニケーション技法B	2後	○		2		○			1					2	オムニバス
	生活支援技術IA	2前	○		2		○						1			共同
	生活支援技術IB	2前	○		2		○						1			共同
	生活支援技術Ⅱ	2後	○		2		○						1			
	生活支援技術Ⅲ	2前	○		2		○						1			
	生活支援技術Ⅳ	2後			2		○								1	
	医療的ケアA	3前	○		2		○						1			
	医療的ケアB	3後	○		1		○						1			
	介護過程I	2前	○		2		○						1			
	介護過程Ⅱ	2後	○		2		○						1			
	介護過程Ⅲ	2後			2		○								1	
	介護総合演習I	2前	○		1			○		1			2		1	共同

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門科目	介護総合演習Ⅱ	2後	○		1			○		1			2		1	共同
	介護総合演習Ⅲ	3前	○		1			○		1			2		1	共同
	介護総合演習Ⅳ	4前	○		1			○		1			2		1	共同
	介護実習Ⅰ	2前	○		2				○	1			2		1	共同
	介護実習Ⅱ	2前	○		4				○	1			2		1	共同
	介護実習Ⅲ	3前	○		4				○	1			2		1	共同
	発達と老化の理解A	2前	○		2		○				1					
	発達と老化の理解B	2後	○		2		○						1			
	認知症の理解A	1前	○		2		○						1			
	認知症の理解B	1後	○		2		○			1						
	医学概論Ⅱ	2後	○		2		○						1			
	からだのしくみ	1前	○		2		○						1			
	リスクマネジメント論	2後			2		○								1	
	福祉ビジネス論	2後			2		○								1	
	福祉マネジメント論	1後			2		○								1	
	災害福祉論	3後	○		2		○						1			
	福祉運営論	1前			2		○								1	
	小計（162科目）	－	－	0	276	0	―			8	4	0	6	0	19	－
合計（303科目）		－	－	18	523	0	―			8	4	0	6	0	101	－

学位又は称号	学士（福祉総合）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
1.全学部共通基盤科目群より、7単位必修を含み、10単位以上選択必修 2.外国語科目群より、2単位必修を含み、4単位以上選択必修 3.キャリア形成科目群より、9単位必修を含み、12単位以上選択必修 4.専門基礎科目群より、2単位以上選択必修 5.専門科目群より、66単位以上選択必修 6.各科目群の最低修得単位数以外に上記の科目群より、30単位以上選択必修 7.卒業要件単位数は124単位 （履修科目の上限：年間42単位。累積GPAが2.0を超えた場合には年間49単位。）	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	13週
	１時限の授業の標準時間	105分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉総合学部福祉総合学科：健康科学部福祉総合学科の基礎となる学部等）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学部共通基盤科目	アカデミック･スキルズ	1前		1			○			1	2		2			
	SDGs × 大学生	1前			1		○								1	
	Fundamentals of English I	1前		2			○								1	
	Fundamentals of English II	1前			2		○								1	
	Oral Fluency I	1後			2		○								1	
	Oral Fluency II	1後			2		○								1	
	TOEIC Preparation A	1前			2		○								1	
	TOEIC Preparation B	1前			2		○								1	
	TOEIC Preparation C	1後			2		○								1	
	TOEIC Preparation D	1後			2		○								1	
	English for Specific Purposes A	1前			2		○								1	
	English for Specific Purposes B	1後			2		○								1	
	English for Advanced Studies A	1前			2		○								1	
	English for Advanced Studies B	1後			2		○								1	
	中国語I	1前			2		○								1	
	中国語II	1後			2		○								1	
	韓国語I	1前			2		○								1	
	韓国語II	1後			2		○								1	
	スペイン語I	1前			2		○								1	
	スペイン語II	1後			2		○								1	
	ドイツ語I	1前			2		○								1	
	ドイツ語II	1後			2		○								1	
	フランス語I	1前			2		○								1	
	フランス語II	1後			2		○								1	
	ハンガリー語I	1前			2		○								1	
	ハンガリー語II	1後			2		○								1	
	ポーランド語I	1前			2		○								1	
	ポーランド語II	1後			2		○								1	
	チェコ語I	1前			2		○								1	
	チェコ語II	1後			2		○								1	
	日本語I	1前			2		○								1	
	日本語II	1前			2		○								1	
	統合日本語I	1前			2		○								1	
	統合日本語II	1前			2		○								1	
	日本語アカデミック・ライティング	1前			2		○								1	
	日本語アカデミック・スピーキング	1前			2		○								1	
	社会と文化の日本語A	1前			2		○								1	
	社会と文化の日本語B	1前			2		○								1	
	データ分析の基礎(解析)	1前			2		○								1	
	データ分析の基礎(線形代数)	1前			2		○								1	
	自然科学概論	1後			2		○								1	
	生命現象の理解とその応用-生命科学	1後			2		○								2	オムニバス
	環境科学	1後			2		○								1	
	食環境論	1前			2		○								1	
	香りと環境	1後			2		○								1	
	情報セキュリティA	1前			2		○								1	
	情報社会と情報倫理	1後			2		○								1	
	人工知能論	1前			2		○								1	
	データサイエンスI	1前		2			○								1	
	データサイエンスII	1後			2		○								1	
	統計学	1後			2		○								1	
	身体の理解	1前			2		○								2	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学部共通基盤科目	デジタルアプリA	1前		2			○				1					
	デジタルアプリB	1後		2			○				1					
	生物からみた環境の仕組み－生態学	1前			2		○								1	
	インターネット配信	1後			2		○								1	
	エリアスタディーズA	1前			2		○								1	
	エリアスタディーズB	1後			2		○								1	
	観光の現在と未来	1前			2		○								1	
	ヘルスツーリズム	1前			2		○								1	
	社会心理学	1後			2		○								1	
	生活と文化	2前			2		○				1					
	生涯スポーツ概論	1前			2		○								1	
	スポーツ社会学	1後			2		○								1	
	ボランティア論	1後			2		○				1					
	国際日本学	1後			2		○								1	
	コミュニケーションの基礎	1後			2		○								1	
	域学共創プロジェクトA	1通			2			○			1				2	共同
	域学共創プロジェクトB	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトC	1通			2			○			1				6	共同
	域学共創プロジェクトD	1通			2			○							2	共同
	域学共創プロジェクトE	1通			2			○			1		1			共同
	域学共創プロジェクトF	1通			2			○							3	共同
	域学共創プロジェクトG	1通			2			○							2	共同
	域学共創プロジェクトH	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトI	1通			2			○							1	
	域学共創プロジェクトJ	1通			2			○							1	
	史学概論	1前			2		○								1	
	日本の歴史A	1前			2		○								1	
	日本の歴史B	1後			2		○								1	
	西洋史概論	1後			2		○								1	
	アジア史概論	1前			2		○								1	
	現代史入門	1前			2		○								1	
	人類とモノづくり	1後			2		○								1	
	房総の文化と歴史	1前			2		○								1	
	科学史	1後			2		○								1	
	映像メディア史	1後			2		○								1	
	音楽史	1後			2		○								1	
	政治学入門	1前			2		○								1	
	国際関係論	2前			2		○								1	
	経済学入門	1後			2		○								1	
	経済原論A	1前			2		○								1	
	経済原論B	1後			2		○								1	
	社会と経営	1後			2		○								1	
	社会と会計	1前			2		○								1	
	マーケティング論	1前			2		○								1	
	広告戦略論	1前			2		○								1	
	社会学	1前	○		2		○								1	
	社会調査	2後	○		2		○				1					
	法律学概論	1前			2		○								1	
	日本国憲法	1前			2		○								1	
	民法A	2前			2		○								1	
	商法	2前			2		○								1	
	著作権	1後			2		○								1	
	社会福祉学A	1後			2		○								1	
	社会福祉学B	2前			2		○			1						
	経営情報基礎論A	1前			2		○								1	
	地理学A	1前			2		○								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学部共通基盤科目	地理学B	1前			2		○								1	
	世界遺産のいま	1前			2		○								1	
	西洋美術	1前			2		○								1	
	美学・芸術学	1後			2		○								1	
	表象文化研究	1前			2		○								1	
	日本の現代文化	1後			2		○								1	
	日本の伝統文化	1後			2		○								1	
	日本文学概論	1前			2		○								1	
	日本の文学(古典)	2前			2		○								1	
	日本の文学(近・現代)	2前			2		○								1	
	日本語表現	1後			2		○								1	
	文学のはじまり－古代ギリシア・ローマの文学	1後			2		○								1	
	世界の文学	1後			2		○								1	
	演劇研究	1前			2		○								1	
	古典芸能研究	1前			2		○								1	
	教育学	1後			2		○				1				1	
	心理学	1前			2		○								1	
	基礎の数学	1前			2		○								1	
	ジェンダー論	1前			2		○								1	
	根拠への問い－哲学へのとびら	1前			2		○								1	
	宗教学概論	1前			2		○								1	
	倫理学概論	1後			2		○								1	
	文化人類学	1前			2		○								1	
	異文化適応論	1前			2		○								1	
	比較文化概論	1前			2		○								1	
	言語学概論	1前			2		○								1	
	スポーツ科学A	1前			1			○							1	
	スポーツ科学B	1後			1			○							1	
	スポーツ科学(ダンス)IA	1後			1			○							1	
	スポーツ科学(ダンス)IB	1後			1			○							1	
	しゃべりのスキルUp Ⅰ	1後			2		○								1	
	小計（139科目）	－	－	9	263	0	－			2	4	0	2	0	93	－
キャリア形成科目	地域ボランティア研修	1前			2				○				2			共同
	福祉疑似体験	1後			2				○				2			共同
	ICT活用論	1後			2		○								1	
	福祉グローバル研修A	1後			2			○			1		1			共同
	福祉グローバル研修B	2後			2			○		2						共同
	ライフステージIPE A	2前			1		○				2		1		4	共同
	ライフステージIPE B	2前			1		○				1		1		3	共同
	ライフステージIPE C	3前			1		○				1				5	共同
	ライフステージIPE D	3前			1		○						2		8	共同
	基礎ゼミ	1後		1			○			1			3			共同
	地域共生演習	3後			1			○					1			
	ゼミナールA	2･3前		1			○			7	4		6			
	ゼミナールB	2･3前		1			○			7	4		6			
	ゼミナールC	3後		1			○			7	4		6			
	ゼミナールD	3後		1			○			7	4		6			
	ゼミナールE	3･4前		1			○			7	4		6			
	ゼミナールF	3･4前		1			○			7	4		6			
	ゼミナールG	4後		1			○			7	4		6			
	ゼミナールH	4後		1			○			7	4		6			
	専門日本語(福祉・介護)	2前			2		○								1	
	キャリア日本語（就職）	3後			2		○								1	
	キャリア日本語（進学）	3前			2		○								1	
	小計（22科目）	－	－	9	21	0	－			7	4	0	6	0	16	－

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門基礎科目	人間学	1後	○		2		○				1					
	ジェンダーと福祉社会	1前			2		○						1			
	サステイナブル社会論	1後			2		○			1						
	福祉文化･社会論	1後	○		2		○			1			1			共同
	小計（4科目）	－	－	0	8	0	－			2	1	0	1	0	0	－
専門科目	ソーシャルワークの基盤と専門職I	1前	○		2		○			1						
	ソーシャルワークの基盤と専門職II	1後	○		2		○						1			
	ソーシャルワークの理論と方法I	2前	○		2		○			1						
	ソーシャルワークの理論と方法II	2前	○		2		○			1						
	ソーシャルワークの理論と方法III	2後	○		2		○			1						
	ソーシャルワークの理論と方法IV	2後	○		2		○			1						
	医学概論I	2前	○		2		○						1			
	介護の知識と技術	1後			2		○						1			
	高齢者福祉サービス	1前			2		○						1			
	子ども家庭福祉論	1前	○		2		○			1						
	子ども家庭福祉	1後			2		○			1						
	社会福祉原論	1前	○		2		○								1	
	福祉政策	1後	○		2		○			1						
	社会福祉	1後			2		○								1	
	障がいとリハビリテーション	1後			2		○				1					
	障がい児・者福祉サービス	1後			2		○								1	
	司法福祉	2後			2		○								1	
	女性福祉論	1後			2		○			1						
	国際福祉論	1後			2		○						1			
	貧困に対する支援論	1前	○		2		○			1						
	社会保障論I	1前	○		2		○			1						
	社会保障論II	1後	○		2		○			1						
	地域福祉の理論と方法I	1前	○		2		○								1	
	地域福祉の理論と方法II	1後	○		2		○						1			
	ソーシャルワークの基礎	1後	○		1			○		2						
	ソーシャルワーク演習I	2前	○		1			○		2						
	ソーシャルワーク演習II	2前	○		1			○		2			1			
	ソーシャルワーク演習III	4前	○		1			○		1			1			
	ソーシャルワーク演習IV	4前	○		1			○		1			1			
	ソーシャルワーク実習I	3後	○		6				○	3			1			
	ソーシャルワーク実習II	4後	○		2				○	3			1			
	ソーシャルワーク実習指導I	3前	○		1				○	3			1			
	ソーシャルワーク実習指導II	3前	○		1				○	3			1			
	ソーシャルワーク実習指導III	4前	○		1				○	3			1			
	福祉専門研究	3後			1		○			4			1			オムニバス
	福祉応用研究I	4前			1		○			5			1			
	福祉応用研究II	4前			1		○			4			1			
	福祉応用研究III	4後			1		○			4			1			
	福祉応用研究IV	4後			1		○			4			1			
	社会福祉経営	2後			2		○								1	
	医療ソーシャルワーク論	2後	○		2		○				1					
	権利擁護と成年後見制度	2前	○		2		○				1					
	Oral English for Children A	1前			2		○								1	
	Oral English for Children B	1前			2		○								1	
	保育の表現理解(音楽)A	2前			1		○								2	
	保育の表現理解(音楽)B	2後			1		○								2	
	保育の表現理解(造形)A	2前	○		1		○						1			
	保育の表現理解(造形)B	2前	○		1		○						1			
	保育の表現理解(体育)A	2前			1		○								1	
	保育の表現理解(体育)B	2前			1		○								1	
	幼児国語	3後			2		○						1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門科目	子どもの生活と社会	2後	○		2		○			1						
	音楽入門A	1前			1		○								2	
	音楽入門B	1後			1		○								2	
	幼児文化論	3後	○		2		○						1			
	子どもの食と栄養A	2前			1		○								1	
	子どもの食と栄養B	2前			1		○								1	
	子どもの保健	2前			2		○								2	共同
	子どもの健康と安全	2前			1		○								2	共同
	特別な保育ニーズの理解と支援A	2後	○		1		○				1					
	特別な保育ニーズの理解と支援B	2後	○		1		○				1					
	乳児保育	2前	○		2		○						1			
	乳児保育演習	2前	○		1			○					1			
	保育の心理学	1前	○		2		○				1					
	子どもの理解と援助	2後	○		1		○				1					
	子ども家庭支援の心理学	2前	○		2		○			1						
	保育実習(保育所)I	2後	○		2				○		1		1			共同
	保育実習(施設)I	3前	○		2				○	1			1			共同
	保育実習(保育所)II	3後	○		2				○		1		1			共同
	保育実習(施設)II	3後	○		2				○	1			1			共同
	保育実習指導(保育所)I	2前	○		1				○		1		1			共同
	保育実習指導(施設)I	3前	○		1				○	2			1			共同
	保育実習指導(保育所)II	3前	○		1				○		1		1			共同
	保育実習指導(施設)II	3前	○		1				○	1			1			共同
	保育内容総論	2前	○		1		○			1						
	保育内容演習(健康)	2後			1			○							1	
	保育内容演習(人間関係)	2後	○		1			○		1						
	保育内容演習(表現)	3前	○		1			○					1			
	社会的養護	2前	○		2		○			1						
	社会的養護演習	2後	○		1			○		1						
	子ども家庭支援論	3前	○		2		○			1						
	保育・教職実践演習A	4後	○		1			○		1			2			
	保育・教職実践演習B	4後	○		1			○		1			2			
	保育原理	2前	○		2		○						1			
	保育者論	1後	○		2		○						1			
	幼児教育原理	1前	○		2		○			1						
	教育社会学	1後			2		○								1	
	保育・教育課程論	2後	○		2		○			1						
	保育内容指導法	2後	○		2		○						1			
	幼児教育研究(遊びの援助)	3後	○		2		○			1						
	幼児教育方法論	3前	○		2		○			1						
	教育実習(事前及び事後指導を含む)	4前	○		5				○	1	1					共同
	地域における子育て支援A	3前	○		1		○						1			
	地域における子育て支援B	3前	○		1		○						1			
	子どもの権利と福祉	3前			2		○				1					
	子どもの発達と相談	3後	○		2		○				1					
	特別支援保育	3前	○		2		○				1					
	子どもの人間関係と観察	3前	○		2		○			1						
	保育内容演習（環境）	3後	○		1			○					1			
	保育内容演習（言葉）	3後	○		1			○		1						
	保育実践と表現A	3後			1		○								1	
	保育実践と表現B	3後			1		○								1	
	子どもの生活と遊びA	3後			1		○						1			
	子どもの生活と遊びB	3後			1		○						1			
	精神医学I	1後			2		○								1	
	精神医学II	2後			2		○								1	
	精神保健学I	2前			2		○								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門科目	精神保健学II	2前			2		○								1	
	精神保健福祉の原理I	1後	○		2		○			1						
	精神保健福祉の原理II	1後	○		2		○			1						
	臨床心理学	2後			2		○				1					
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)I	2前	○		2		○				1					
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)II	2前	○		2		○				1					
	精神保健福祉制度論	2前	○		2		○				1					
	精神障害リハビリテーション論	2前			2		○								1	
	精神保健福祉援助演習I	3前			1			○							1	
	精神保健福祉援助演習II	3前			1			○							1	
	精神保健福祉援助演習III	4後			1			○							1	
	精神保健福祉援助実習指導I	3前	○		1				○	1						
	精神保健福祉援助実習指導II	3後	○		1				○	1						
	精神保健福祉援助実習指導III	4前	○		1				○		1					
	精神保健福祉援助実習I	3後	○		4				○	1						
	精神保健福祉援助実習II	4前	○		3				○		1					
	福祉専門書講読A	2後			1		○						1			
	福祉専門書講読B	2後			1		○								1	
	人間関係とコミュニケーション	1前	○		2		○			1						
	チームマネジメント論	1後			2		○								1	
	生命科学	1後			2		○								2	オムニバス
	リハビリテーション論	3前			2		○								1	
	レクリエーション活動援助法A	2前	○		1		○						1			
	レクリエーション活動援助法B	2前	○		1		○						1			
	介護概論	2前	○		2		○			1						
	コミュニケーション技法A	2前	○		2		○			1						
	コミュニケーション技法B	2後	○		2		○			1					1	
	生活支援技術IA	2前	○		2		○						1		1	共同
	生活支援技術IB	2前	○		2		○						1		1	共同
	生活支援技術Ⅱ	2後	○		2		○						1			
	生活支援技術Ⅲ	2前	○		2		○						1			
	生活支援技術Ⅳ	2後			2		○								1	
	医療的ケアA	3前	○		2		○						1			
	医療的ケアB	3後	○		1		○						1			
	介護過程I	2前	○		2		○						1			
	介護過程Ⅱ	2後	○		2		○						1			
	介護過程Ⅲ	2後			2		○								1	
	介護総合演習I	2前	○		1			○		1			2		1	共同
	介護総合演習Ⅱ	2後	○		1			○		1			2		1	共同
	介護総合演習Ⅲ	3前	○		1			○		1			2		1	共同
	介護総合演習IV	4前	○		1			○		1			2		1	共同
	介護実習I	2前	○		2				○	1			2		1	共同
	介護実習Ⅱ	2後	○		4				○	1			2		1	共同
	介護実習Ⅲ	3前	○		4				○	1			2		1	共同
	発達と老化の理解A	2前	○		2		○						1			
	発達と老化の理解B	2後	○		2		○				1					
	認知症の理解A	1前	○		2		○						1			
	認知症の理解B	1後	○		2		○			1						
	医学概論Ⅱ	2後	○		2		○						1			
	からだのしくみ	1前	○		2		○						1			
	リスクマネジメント論	2後			2		○								1	
	福祉ビジネス論	2後			2		○								1	
	福祉マネジメント論	1後	○		2		○								1	
	災害福祉論	3後	○		2		○						1			
	福祉運営論	1前			2		○								1	
	小計（162科目）	－	－	0	276	0	―			7	4	0	6	0	24	－

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
特設科目群	日本語（言語知識）	1前・後				2	○								1	
	日本語（読解・聴解）	1前・後				2	○								1	
	日本語A	1前・後				2	○								1	
	日本語B	1前・後				2	○								1	
	日本語C	1前・後				2	○								1	
	日本語D	1前・後				2	○								1	
	日本語E	1前・後				2	○								1	
	小計（7科目）	－	－	0	0	14	－			0	0	0	0	0	4	－
合計（334科目）		－	－	18	568	14	―			8	4	0	6	0	123	－

学位又は称号	学士（福祉総合）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
1.全学部共通基盤科目群より、9単位必修を含み、14単位以上選択必修 2.キャリア形成科目群より、10単位必修を含み、12単位以上選択必修 3.専門基礎科目群より、2単位以上選択必修 4.専門科目群より、66単位以上選択必修 5.卒業要件単位数は124単位 （履修科目の上限：年間42単位。累積GPAが2.0を超えた場合には年間49単位。）	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	13週
	1時限の授業の標準時間	105分

授業科目の概要

授業科目の概要

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（健康科学部看護学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	アカデミック･スキルズ		授業内に求められる学習作法（ディスカッション、グループ学習、演習など）、予習、復習、授業課題など授業外で要請される学習作法に習熟する。 (a)批判的に読むこと−文と文、パラグラフとパラグラフとの論理関係を分析、把握する。 (b)批判的に書くこと−論理構成、課題提起、結論の明確な論述をなす能力（小論課題、レポート、期末論述試験、論文）。 (c)ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション。 (d)ノート・テイキング、記録、報告。 (e)学習関連資料調査法−(1)レファレンス、視聴覚資料、文化財含む図書館利用法、(2)オンライン資料調査法、(3)フィールドワーク、(4)資料整理、保存法。 (f)PC活用術−(1)文書作成、作表、計算、電子ファイル化、(2)通信、伝達の倫理と基本マナー。	
	自然科学概論		3.11以降、様々な科学用語と数値が報道され、我々は、その内容を理解し、判断する必要に迫られた。また、エネルギー問題を常に意識して生活することを余儀なくされた。現代社会はエネルギーを大量に消費することで成り立っている。エネルギー源として何を選択するべきかについても、市民レベルでの理性的な理解と判断が求められる。本講義では、科学的思考とは何かについて考え、エネルギーの問題を意識しつつ、現代科学が自然をどのように捉えているかを講義する。我々の住む地球、太陽系、天の川銀河から始まり、宇宙の構造・始まりと終わりに至るまで、人類の知の到達点についても触れたい。	
	生命現象の理解とその応用ー生命科学		生命科学は生命現象を科学的に理解し、その知見をもとに、医学や薬学だけでなく、食料をはじめとする資源の生産に応用される学問領域である。現代人の生活に大きく影響し、様々な意思決定の場で必要とされる知識を学ぶ。 （オムニバス方式／全13回） （41 国武陽子/7回） 生物とはどのようなものであり、「いのち」はどのような仕組みで成り立っているのか、生物の多様性はどのように生まれてきたのか、生命の本質を科学の視点から理解を深める。 （42 西口慶一/6回） 遺伝子工学や細胞工学などを中心に、ガン治療、生殖医療、ワクチン等予防医学などの先端的な医療や食糧増産技術など、我々の生活に活用されている生命科学の応用技術についての基礎知識を学ぶ。	オムニバス方式
	生物からみた環境の仕組み - 生態学		地球環境を理解するうえで重要な生態学（Ecology)の基礎を学ぶ。「自然」の仕組みとして生態系の構成要素やその機能、様々な生物の生活史（生きざま）を知り、生物の多様さ及び生物が我々の「環境」をどのように支えているのかを理解する。特に、このような多様な生物が進化したメカニズムの一つとして、生物が互いに影響を与える生物間相互作用の重要性に注目し、地球上の生物の進化のメカニズムへの理解を深める。	
	食環境論		食品衛生行政、食育、食中毒等について学び、「安全・安心な食」とは何かを考える。また、SDGs（SustainableDevelopment Goals：持続可能な開発目標）、フードテック、食品廃棄、プラスチック問題、食料危機等の近年の国際的な取り組みや課題について理解を深め、私たちを取り巻く食環境をどのように持続可能なものにしていけばよいのかを考える。	
	香りと環境		毎回、香りやにおいをテーマとした新聞記事を読み、異なる視点からその作用や役割を考える。授業の事前・事後で感じたことをワークシートにまとめる。また、香りに関する自身の経験を振り返ったり、香りを生かすアイディアを提案したりする機会を設け、香りやにおいがもつ可能性を探る。	
	身体の理解		運動生理学（骨・筋・神経・循環・呼吸・代謝）を中心に学習を進め、身体運動に関わる基礎知識の理解を深めていく。 （オムニバス方式／全13回） （44 栗原靖/6回） 骨・循環・呼吸・代謝・体温調節に関わる基礎知識の理解を深める。 （45 中尾英俊/7回） 神経・運動エネルギー・身体組成・栄養食事・加齢に関わる基礎知識の理解を深める。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	デジタルアプリA		社会で必要な情報活用技術として、文書作成、およびインターネット活用（サイト検索、メール）の方法を、パソコン演習を通して修得する。演習では毎回、各アプリケーションを利用した課題作成を行い、課題作成の中で、必要な操作の習熟を行う。	
	デジタルアプリB		既に情報機器、情報ネットワークについて基礎的な知識を有している者を対象として、コンピュータ利用の実践的利用方法について学ぶ。情報学の歴史的、技術的、理論的背景を元に情報機器を実際に運用しつつ、文書作成および表計算について学ぶ。	
	情報セキュリティA		インターネットを中核とするITが企業の活動に深く浸透することに伴い、適切な情報セキュリティの確保は企業が有効かつ効率的に活動するにあたっての前提条件となってきている。情報セキュリティを体系的に把握し、情報セキュリティにおける脅威や脆弱性、最新の技術動向、関連法制度、関連する情報システムなどを踏まえ、具体的な情報セキュリティマネジメントについて理解することを目標とする。	
	情報社会と情報倫理		指定したテキストに従って、情報法を俯瞰しつつ、「ビックデータ」、「サイバーセキュリティ」、「個人情報保護」、「情報通信と憲法」、「知的財産権」、「ネット上における犯罪とその規制」、「サイバースペースにおける表現規制」、「プロバイダの法的責任」、「電子データの真正性と完全性」、「行政手続のオンライン化とその法規制」および「ネットセキュリティの法制化」など特定のテーマについて深く議論していく。	
	人工知能論		近年話題になってる機械学習/AIに関わる様々な知識を身につけ、今後のITで実現できるであろうことを想像できるようにします。	
	データサイエンスI		本講義は、文科省「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」の内容に準拠している事前の統計学や数学、またExcelの知識は仮定しない。データサイエンスに興味のあるものや、Excelによるデータ演習に興味のあるものの受講も歓迎する。	
	データサイエンスII		本講義は、文科省「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」の内容に準拠している。事前の統計学やプログラミングの知識は仮定しない。統計学やプログラミングに興味のある初心者の受講を歓迎する。	
	モデル化とシミュレーション		社会現象、自然現象を数理的に捉え、分析し、適切なモデルを立案してコンピュータによりシミュレーションを行うための基本的理論を学ぶ。コンピュータシミュレーションが問題解決のための有効な手段であることを理解する。	
	プログラミングA		プログラミング言語にはさまざまな種類があるが、その中でも特に基本的で重要である C 言語の基礎をこの授業では取り扱う。前半はプログラミングの概要やプログラムの書き方、文字列の表示、変数の使い方などの基礎を学び、後半は分岐処理や繰り返し処理について学ぶ。	
	アルゴリズムA		情報機器（ハードウェア、ソフトウェア）を自在に活用するためには、アルゴリズムの理解が必要不可欠である。特にプログラミングでは必須の知識となる。アルゴリズムの知識があれば、ワープロや表計算ソフトウェアにおいてもマクロプログラミングを行うことにより、高度な処理を実現することができる。ビジネスの現場で効率的に仕事をこなすためには身につけておくべき知識である。本授業では、初心者を対象にアルゴリズムの基礎理論を教授し、一歩進んだ情報機器の利用能力を身につける。	
	情報システム論		Chat GPT、Adobe Firefly、Adobe PhotoshopなどのGenerative AI（生成AI）を実践的に学び、技術的スキルを身につける。Generative AI（生成AI）によるクリエイティブな企画や表現を学ぶ。 Generative AIは、テキスト、画像、音楽、ビデオなど、さまざまな形式のコンテンツを生成することができる。新しい企画・広告・物語・商品などのコンテンツを創る際の有力なブレーンストーミング・ツールであり、活用できるように学ぶ。ソーシャルメディアやGenerative AI（生成AI）が引き起こす倫理的・社会的な課題への対応： ソーシャルメディアやGenerative AIの使用は、著作権侵害、プライバシーの侵害、誤情報の拡散といった倫理的・社会的な問題を引き起こす可能性がある。これら課題を理解し正確に活用できるように学ぶ。インターネット、スマートフォン、ソーシャルメディア、Generative AI（生成AI）が、多くの経済的・社会的な変革を引き起こしており、これらの変革の真髄を理解する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	統計学		統計的なものの考え方を理解し、統計データ解析のための基礎的な手法を習得する。 １．記述統計の基礎：統計データは数字の集まりであり，そのまま眺めていても全体の傾向は見えてこないが，平均値，グラフ化などの統計処理を行うことにより，データの特徴を把握することができる。統計データの記述・整理の方法の基礎を習得する。 ２．確率変数と確率分布：統計的推測においては、統計データの発生メカニズムに対して、様々な統計モデルを仮定する。統計モデルを定式化にするために必要不可欠である確率変数と確率分布の基礎を理解する。 ３．推測統計の基礎：統計的推測とは、サンプルデータに基づいて母集団分布に関する推測を行うことである。統計的推測には、母集団分布の特性値を推定するための方法（統計的推定法）と母集団分布に関する仮説を検証するための方法（統計的検定法）がある。特に、母集団分布として正規分布と二項分布を仮定した場合における統計的推定法の基礎を習得する。	
	データ分析の基礎(解析)		この授業では、あらゆる分野において重要な基礎となり得る解析学について、特に微分法および積分法について学ぶ。前半は微分法および積分法を学修する上で必要な知識となる数列とその極限について学び、後半は微分法および積分法の意義や役割について学ぶ。学修した内容についての理解を確実なものにするため、授業内の要所要所で例題や練習問題を解いてもらいながら授業を進めていく。	
	データ分析の基礎(線形代数)		この授業では、あらゆる分野において重要な基礎となり得る線形代数学について、特に行列の取り扱いについて学ぶ。前半は行列を用いた連立1次方程式の解法について学び、後半は行列の演算、逆行列、行列式、さらにはそれらの応用として産業連関分析やMarkov 連鎖について学ぶ。学修した内容についての理解を確実なものにするため、授業内の要所要所で例題や練習問題を解いてもらいながら授業を進めていく。	
	インターネット配信		近年、一気に普及したインターネットによる動画配信は、これまでのテレビや映画といった従来の動画の枠を超え、またネットにおけるSNSの活用などとも相まって、新たな表現形態・特性を持つメディアとして進化・成立しようとしています。従来のメディアの影響を受けつつも、それらの枠を軽々と超えていく動画配信について、専用機材や汎用機材の活用を通じて、特に生配信コンテンツを実際に制作・発信していく過程を通して理解を深めます。	
	観光の現在と未来		本講義は、観光学の入門講座として、観光における基礎的な事象を網羅的に学ぶことが目標である。講義を通して、人の移動の歴史を紐解き、人の移動が世界を動かしてきた事実の再認識を行った上で、観光の多様性、多面性を理解し、観光と社会の関わりについて学修する。社会学や人類学、心理学などの切り口から観光を学ぶとともに、地域社会に存在する様々な観光の要素（芸術、健康、自然など）や、観光と社会の様々な関わり（ビジネス、まちづくり、メディア）についての事象を取り上げ、観光学への理解を深めることが目的である。	
	ヘルスツーリズム		①ヘルスツーリズム（狭義）、セラピーツーリズム、メディカルツーリズムの概念、特徴、歴史などの基礎知識と関する先進事例への研究及び②様々な実践を通して、自分のライフスタイルを点検し、日常生活において健康を留意して、③広義のヘルスツーリズムが目指すものを総合的に理解すると同時に、④ニューツーリズム発展の観点から、ヘルスツーリズムの現状や課題及び問題の解決方法を学ぶ内容となっている。	
	社会心理学		本講義ではまず、自己概念や自己意識などに関する捉え方を学ぶことで私たちが他者から影響を受けていることを理解する。その上で、対人認知や印象形成など他者をどのように認知するのか、他者とのかかわりはどのように作られていくのかということについて心理学的な観点から理解していく。さらに私たちが集団の中でどのように行動するのか、集団における心理についても理解を深める。	
	生活と文化		私たちは古来から育まれてきた日本の文化を受け継いで生活している。また、日々の生活を通して日本の文化、地域の文化、家族の文化を紡いでいる。授業では、共生社会の基本的理念と課題を学び、少子高齢社会の市民生活の動向とライフスタイルの変化を考察し、具体的事例を通してその方向性と課題について、講義および振り返りによって理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	生涯スポーツ概論		生涯スポーツとは、生涯にわたって生活の質が向上するように個人のライフスタイルに適した運動・スポーツを継続して楽しむことである。本授業では、主にスポーツ科学的な観点から運動・スポーツの必要性に対する理解および運動・スポーツを行うため基礎知識の習得を目標とする。運動・スポーツの必要性では、健康・体力について考え、生活習慣病予防のための運動プログラムを学ぶ。また、運動・スポーツを行うための基礎知識では、身体の構造と機能について学び、エアロビック運動とアネロビック運動の理論と方法を学習する。この授業を履修することにより、健康のために必要な基本的な運動プログラムが作成できる能力を学ぶ。	
	スポーツ社会学		現代スポーツの話題として、スポーツマンシップ、ドーピング、スポーツ指導のあり方、障がい者とスポーツなどを取り上げる予定である。	
	ボランティア論		この授業では、地域もしくはコミュニティ、ボランティアというキーワードが含みもつ意味を整理した上で、日本における地域社会やボランティアの現状について精査していく。次いで、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉など福祉の各領域において展開するボランティア、環境ボランティアや災害ボランティアといった様々なボランティアの意義をコミュニティという文脈において整理してみる。最後に地域において展開されるボランティア活動をどう支援し、とりまとめていくかという視点を示し、今後の地域社会におけるボランティアの可能性を考察する。	
	コミュニケーションの基礎		現代社会における「コミュニケーション」の重要性は日々高まっていますが、「コミュニケーション」とはそもそもいかなる概念・行為として定義できるのでしょうか。また、コミュニケーションはそれ自体単独で存在するものではなく、他者や「メディア」の存在を抜きに論じることはできません。本講義では、コミュニケーションを成立させる存在や情報環境を論じるとともに、20世紀半ば以降から現在に至るメディアを通じたコミュニケーションがどのように実証的に捉えられてきたのかを個別の事例とともに取り上げ、現代のコミュニケーションに対する基礎的な視点を獲得することを主眼とします。	
	域学共創プロジェクトA		アール・ブリュットとは、「生の芸術」と言われる、芸術の教育を受けていない人々のアートを指す。今回、「生の芸術」を手掛けるのは、地域で生活されている、障害のある方々である。かつて、障害をもつ方々は、私宅監置や長期入院が強いられ、社会から隔離された時代が長らく続いた。昨今、ようやく、彼らが地域で生活できる社会が築かれつつある。障害のある方々が地域で安定した生活を送るためには、地域との「つながり」が重要であり、安心できる「つながり」は、コミュニティケアとも言える。 自身の思いを表現することが難しい彼らの、アール・ブリュット（生の芸術）を通して、障害のある方の「生」と、学生・地域が「つながる」ことを目的とした、地域共生社会の実現に向けた展覧会である。	共同
	域学共創プロジェクトB		本プロジェクト型授業は、地域調査(フィールドワーク)、展示の企画・立案(グループワーク)、展示の検討(グループワーク)、展示の運営、検証、報告といった一連の流れを通して観光人材が身につける表現力について学びます。	
	域学共創プロジェクトC		現在、社会全体ではデジタル化が進んでいるが、デジタルデバイド（情報格差）が生じている。デジタルデバイドをもたらす要因は、所得や年齢、住む地域、人種や教育の違いなど、数多く挙げられるが、とりわけ高齢化が進む日本においては、若者と比較的インターネットに触れる機会が少ない高齢者との間にあるデジタルデバイドに対する課題意識が高まっている。そこで、本プロジェクトにおいては、インターネットに触れる機会の多い学生をデジタルコーチとして、デジタルシニアを育成していくプロジェクトである。デジタルは手段であり、学生、教職員、高齢者すべての人が幸福（well-being,生活満足度、QOL向上）になることを目的としてプロジェクトを展開する。	共同
	域学共創プロジェクトD		東金市が進めているオリーブの地域ブランド化に対し、本科目は様々な形で応援していくプロジェクトです。具体的な取組テーマは、「オリーブ収穫体験の企画・運営」「大学祭イベントの企画・実行」「オリーブクラウンの制作・提供」などです。地域の課題を見つけ、解決策を提案し、実践することを通して、課題発見問題解決力を身につけます。オリーブに興味がある学生、地域を元気にするアイデアを持つ学生の参画をお待ちしています。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトE		本授業は、地域共生の価値を学び、地域共生社会の実現に向けた課題解決に取り組むプロジェクトである。 プロジェクトでは参加学生一人ひとりが主体的に行動し、異なる背景を持つ多様な人々、例えば、他学部の学生や、企業・地域の方々などと協働する。また、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。 今回取り組むのは「川代棚田共育プロジェクト」で、これは福祉総合学部「世代間交流と学びから考える地域協働」の研究活動を引き継いだものである。具体的には、学校法人城西大学創立者水田三喜男先生の故郷である千葉県鴨川市を訪問し、棚田での活動を通じて、地域課題の解決策を探求する。日本の田植え文化は地域ぐるみの助け合いの象徴であり、農作業は協力と連帯の精神を必要とするため、ここでの「共育」で互いに学び合い、成長し合うことを目指す。その際、建学の精神である「学問による人間形成」を体感するとともに、SDGsの目標に沿った社会貢献を実践する。	共同
	域学共創プロジェクトF		学内で、地域での健康増進活動に必要な知識・技術の学習を行うとともに、地域に顕在する課題を解決するプログラムを立案、実施する。この実践活動を通してプロジェクトマネジメント力を醸成する。また、理学療法だけでなく、多領域の視点を持ち、様々な視野を取り入れて課題を解決することで知識の多様性を図る。	共同
	域学共創プロジェクトG		本プロジェクトは、「ケア機能のあるまちづくりー多世代交流プロジェクトー」をテーマとし、主に学童保育・クラブ（防災かるた普及活動の企画と実施）のフィールドで活動する。（子どもに合わせた防災かるたへの改善や、手話・外国語などの災害時に必要な伝達方法についても、検討することを考えている） 地域コミュニティにおいて人と人とのつながりが希薄化している課題に注目し、地域のコミュニティづくり・活性化に向けてコミュニティの力を発見し、多世代交流を通して相互にケアし合う世代間相互依存関係を育む新たなまちづくりを考える機会とする。	
	域学共創プロジェクトH		東金市で古くから行われている祭りや伝統芸能について、実際にそれに関わっている街の人々から学ぶ。また実際に祭りに参加することにより、祭りと地域、人々と関わりについて理解を深め、人々との触れ合いを体感することにより地域の一員としての意識を高める。	
	域学共創プロジェクトI		本授業において到達の目標とされる項目は以下のとおりである。 １．地域・社会の課題に興味を持つことができる。 ２．地域の自然環境に興味をもち、自分事として考えることができる。 ３．地域の課題を解決に貢献できる実効性のある行動の計画を立てることができる。 ４．地域の様々な人と積極的にコミュニケーションをとることができる ５．他の学生や地域の方々と協力してプロジェクトを進めていくことができる。 ６．プロジェクトの背景を理解し、実行したことをプレゼンテーションできる。 テーマ：東金・山武を中心とする千葉県内の自然環境の保全及び、農業などの一次産業に関わる複数のプロジェクトを年間 を通じて実施する。地域に貢献し、地域で学び、活動を通じて自らの力を養う。	
	域学共創プロジェクトJ		スポーツツーリズムを行なっている地域の現状と課題を事前調査研究し、実際に現地での体験や視察を通して、プロジェクト運営能力等を養う。	
	史学概論		先ず、歴史を研究するとはどんな行為なのかについて考える。事実と史実と真実の違いはなにか。 次に、日本以外の地域の歴史のなかから、いくつかのテーマを選んで、人類の歩みにおける因果律について考察したい。 政治史を主としながらも、その裏にある、テクノロジー・経済活動や思想・宗教といった要因を重視して、人類社会の発展を概観する。	
	日本史を学ぶ		本科目は、日本の古代から中世、近世を経て、近代、現代へといたる歴史の展開について、いくつかのテーマを設けて講義を行う。近代から現代にいたる政治史についての講義が多くなるが、社会史や文化史などのテーマも適宜取り上げたい。この受講によって、学生は、近代史が中心になるが、日本の歴史の基礎的な流れを理解できるようにすることを目指すとともに、今後の日本と世界のかかわりを考える力をつけることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	アジア史概論		地形・気候・植生・生態の面からユーラシア大陸と西太平洋地域の全体を先ず理解し、その上で東アジア地域について詳しく検討する。古代と中世については、単なる王朝交代の政治史だけではなく、社会経済史や文化史の側面に目を配り、中華文明と王朝制度の変遷を辿っていく。近世から近代にかけては、ヨーロッパ勢力のアジア進出と「中国史の世界史への組み込み」の過程を丁寧に追っていきたい。現代については、中国・日本・アメリカ・ロシア・ヨーロッパ諸国の相互関係が中心的な話題となろう。	
	現代史入門		授業のテーマについて講義で解説し、内容を理解するために必要な、歴史的背景、情報、知識を伝える。内容に関連した映像等を講義の中で紹介することもある。	
	房総の文化と歴史		【オンデマンド型】授業の形式にて、千葉県すなわち「房総」、及び東京都区部すなわち「江戸」の地理的、歴史的、文化的な枠組みや特色等について、原則として歴史的な時間軸に沿う形で学修する。 併せて、各自が関心を持つ「地域」の特色や課題の掘り起しに必要な視点等も取り上げ、各自の自主的な資料調査等への取組みを通して、「地域」に関連する問題意識を深めていく。	
	映像メディア史		映画が誕生してから約１２０年、現在、私たちの生活に欠かせないものとなっている映像メディア。その誕生から現在まで、世界はどのようにして映像メディアを利用、活用してきたかを探る。娯楽としてだけではなく、ニュースや報道、またプロパガンダ、広告などにも利用され、映画だけでなく、テレビやミュージックビデオなど幅広く進化を続けている。そうした映像メディアの動きを１２０年の世界の歴史に沿いながら解説をしていく。	
	音楽史		ポピュラー音楽の歴史的展開の概説およびジャンルごとに取り上げる作品を鑑賞し、作品の特徴、作品成立の時代について学ぶ。	
	政治学入門		第一に、民主政治における権力の意味を知り、権力抑止の必要性について学ぶ。第二に、アメリカの大統領制の特質を日本の議院内閣制と比較しながら学ぶ。第三に、現代アメリカ政治における分極化の背景を学ぶ。但し、受講生の理解度に応じて、授業計画の項目を精選する。	
	経済学入門		日常生活の中で多くの経済的行動をし、経済現象に接している。このような行動、現象を自分の言葉で正しく説明しようとすると、意外と難しい。それは、経済学的な考え方や理解力が身についていないからである。授業は、このような経済的行動・現象に対する理解・解釈能力を養うことをねらいとする。そのため、講義は経済学の入門知識としてマクロ経済の仕組みを中心に進める。各種時事問題や関心話題を取り入れて進めていく。	
	社会と経営		企業経営を学ぶための基本的領域としては、経営戦略、財務会計、組織、マーケティングなどがある。本講義では、これらの要素を「企業価値」のアプローチで解説してゆく。具体的には「株主にとっての企業価値」「従業員やその家族にとっての企業価値」「顧客にとっての企業価値」「取引先企業にとっての企業価値」の視点から企業経営の基本と社会との関わり方を学ぶ。SDGｓや事業承継など今日的なトピックスにも触れる。	
	社会と会計		会計は、経済社会を生きていく上で不可欠な知識である。本講義では、会社の会計数字から何がわかるのか、またどのように読み取ったらよいのかについて学習する。本講義を履修することによって、「薄利多売」、「黒字倒産」や「会社が儲かる仕組みをどのように作るのか」などが理解できる。	
	マーケティング論		本講義では、大きく２つのパートから構成される。最初に、マーケティング戦略の基礎を学び、ビジネスにおける戦略の意味や働きについて理解を深め、戦略的思考とは何かを体得してもらいたい。続いて、マーケティングを実践する当事者の視点や立場から顧客価値とは何か、またどのように提供するかといった実践的課題について考えていく。事例を出来る限り豊富に取り上げ、一緒に紐解きながら、理論とそれらの実践について追体験ができるよう努めたい。また、今日的なテーマについても時間の許すかぎり取り上げたい。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	広告戦略論		広告業界というのはどのような役割を持った人たちが、どのようなビジネスの仕組みの中で働いているのであろうか。そして広告が完成するまでの流れはどうなっているのであろうか。特にマスメディア業界の概要を中心に、最新のデジタルメディアの状況や広告会社のコンテンツ戦略まで踏み込んで学習する。広告代理店、広告制作会社など、広告関連業界に興味があり、将来的に進みたい業界の一つだと考えている学生には是非履修してほしい講座である。	
	社会学		単なる生き方指南に堕さないために、家族の恒常的変化と多様性の認識は変わらない底層として、もう一度ニュートラルな視座から「家族」をとらえなおしていく。この視座を身につけることを通して、患者や家族のライフコースに寄り添う援助者としての生涯にわたる態度形成のための「気づき」を提供していく。	
	社会調査		この授業では、前半で社会調査に関する基礎的な知識を理解し、作業を通して実践的に調査法を学ぶ。その作業を通じて、複雑な社会の現実を思い込みにとらわれずに理解するために、客観的な情報を取り出す方法として社会調査という方法を体感する。誰もがデータを扱って、読み解く力が求められる時代にふさわしい力を習得する。	
	法律学概論		法律について一通りの常識を身につけておく必要があることを念頭に、法とは何か、法と裁判、国家と法、家庭生活と法、企業法、財産法等の基本的なテーマについて、身近な事例をとりあげながら、講義する。	
	日本国憲法		日本国憲法の理解を通して国政全般の基本的枠組みを知る。その際、国の統治機構や地方自治制度、現行憲法が掲げる基本原理（たとえば、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義等々）の考察をなし、その全体像の把握に務める。さらに、現行憲法制定の背景を探ることにより、昨今、話題の護憲・改憲論にも論究する。	
	著作権		まず著作権の概念や目的の基本を理解する。著作物とは何であるかを理解した上で、著作権の役割や目的の理解をさらに深めていく。その後、現代における著作権の問題点や今後の展開なども含めて具体例や実例を挙げて考察していく。	
	社会福祉学A		21世紀の福祉社会を生き抜くためばかりでなく、援助職にあるものにとって不可欠な人間観、死生観、社会観、福祉観が身につくように福祉社会のありようを深くとらえる視点から、福祉社会の思想、視点と枠組みおよびその発展について学んでいく。	
	社会福祉学B		本講義では、社会福祉の原理に関する内容を整理し、社会福祉の歴史、思想、哲学、理論、現代の社会問題とその構造的背景、福祉政策の基本的視点、ニーズ・資源を学ぶ。さらに、ソーシャルワークの専門職として個人、家族、集団、地域、社会、世界のウェルビーイングの実現・向上を目指すため、福祉政策の理論や理念、歴史に関する基本的内容と、今日的な展開、動向、課題について事実や現状を身に付けるようにする。	
	経営情報基礎論A		ICTの進展に伴い、企業における情報化が深化してきている今日の社会において、企業が競合相手との競争に勝って生き残るためには情報化が必須条件となっており、われわれ一人一人がICTの利活用のための知識やノウハウを修得することが求められている。この授業では、経営情報学部での学びにおける基礎、特に、情報システム技術の基礎について学修する。ITパスポート試験で出題される大分類項目のうち、基礎理論、コンピュータシステム、技術要素に関する問題の70%以上を確実に正解できる能力を身につけることが到達目標である。	
	世界遺産のいま		担当教員は、地球上の世界遺産のほぼ半分を実際に自分の足で訪れた世界遺産のエキスパートである。 こうした体験を学生と共有し、世界遺産の魅力と課題について、多角的に紹介するとともに、自然環境や文化財の保護にあり方について考える講義とする。	
	美学･芸術学		現代商業社会における「美術」や「芸術」の多様性を確認する。即ち、諸ジャンルの作品創出・制作には、歴史相、享受階層、社会経済関係、技術的条件等が関り社会的に造られている実態があることを確認する。この多様性の確認の上で、先行する学問的分析手法や理論の助けにより、作品創造・享受の理念を問うことを通して、「芸術」ならびに「美」に関する人類的共通基盤の可能性を考察する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	表象文化研究		本授業では歴史上の様々な視覚表現の変遷を「ヴィジュアル・カルチャー」として広く考察する。その変化が最も明瞭ともいえる西洋美術史の発展を中心に、音楽や建築、印刷技術などにも触れながら横断的に表現の歴史を学び、教養を高める。史学的な視点に加え、絵画制作の実技におけるテクニカルな部分にも触れていく。また、自身の表現や興味が歴史上どの文脈に関係しているかを考察し、言語化する力を身に付けることを目的とする。	
	世界の文学		本講義は幅広い教養を育むための「全学部共通基盤科目」の一つであり、「世界を創造する」というカテゴリーに属し、文学を全人的に体験して創造力を高めることを広い意味での目的としている。従って本講義の到達目標は、読書体験（他には視聴体験）を通して、多種多様な「世界の文学」に触れて教養を育むと共に、個人の創造力を高めることにある。文学は小説・物語・詩・短詩（和歌・短歌・俳句・川柳なども含む）・童話・民話・児童文学・劇作・評論・警句集などの総称である。文学作品の大部分は文字で記載されており、主に読書を通して、時には視聴したり、自ら創作（執筆）するなどして体験して味わうものである。観念的に文学全般を論じても、畳の上の水練（畳の上で水泳の練習をすること）のようなものに過ぎなくなる。そこで、水泳でまずは水に親しむことが重要なように、本講義では古今東西の様々なジャンルの作品を読んだり、視聴するなどして、体験してもらう。受講生は講義終了時には30を超える文学作品に接することになる。その上で、受講生には自分自身の文学観や文学を通しての世界観・人間観を培ってもらいたいと思う。	
	演劇研究		本講義では、日本および海外の主要な演劇作品と作家を切り口にして、演劇の成り立ちを理解するとともに、演劇の持つ力、社会における役割を分析していく。演劇を知るには実際に観るのが一番。その手掛かりとなるよう、講義の中で可能な限り映像資料を視聴し、最新の演劇事情を概観しつつ、各自の演劇体験などをディスカションしていきながら、多種多彩な演劇作品に触れていきたい。	
	古典芸能研究		伝統芸能の一つである落語の歴史と現在について学び、口承文化の継承と変容について考える。また、落語を通して、古今の日本人の物事の見方や捉え方について理解を深めることを目標とする。落語の背景や歴史、落語の発生、変容、寄席の成立、中興の祖、昭和落語史、現代の落語に加え、枕、本題、古典落語、新作落語、寄席、ホール落語、亭号、おはやし、太鼓、寄席文字、色物などの意味を理解する。古典落語から学ぶものとしては、江戸の時間、江戸のお金、遊郭、芝居噺、滑稽噺、怪談噺、人情噺などがあげられる。新作落語から学ぶものとしては、大正昭和の新作落語、現代の新作落語・落語の体験などを通して理解深める。	
	文学を読む		本授業は、オンデマンドによる開講である。日本の近現代文学において人や社会がどのように描かれているか、表現と内容の両面からみていくことで小説を読む力を育む。履修者自身が作品の全編を読み通すことを重視し、比較的入手しやすい短編を取り上げる。作品について基礎的な解説を行ったうえで、文学理論の基礎的概念を導入しつつ、読みを例示する。内容については、生死、家族、運命といったテーマを設けて人間や社会のありようについて考える機会を提供する。	
	教育学		教師として子どもの発達を支援するには、どのような知識が必要となるのか、また、後半では、子どもの学習を促すには、動機づけやわかる授業をどうおこなうかを考えながら学習をすすめる。	
	心理学		将来、医療、福祉等の職に就く者が、心理学の基礎的な知識を得ることで、現場において直面するであろう様々な課題や問題の解決策を考える際に多面的なとらえ方ができるようになることを目指し、理解を深めていく。	
	基礎の数学		授業は、オンデマンド用の録画を視聴する演習方式で行う。受講者は、動画を視聴するための電子デバイスとインターネット環境、計算を行うための紙と筆記用具が必要となる。毎回の授業では、講師はまずその回のトピックと例題について簡単に解説をする。受講者は出題された演習問題を1問ずつ解き、講師はそれらの問題の解説を行う。	
	ジェンダー論		世界で女性解放運動（フェミニズム）がどのように展開し、女性学やジェンダー研究へと結実したのかを理解する。また現代日本においてジェンダー平等がどの程度達成されているのか、いないのかを多様なデータをもとに理解する。家庭や職場、学校、地域社会など、様々な局面でのジェンダー問題を数値や具体的事例をもとに捉えて理解し、問題を解決していくための方策を考える。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	根拠への問いー哲学へのとびら		本授業では、オンデマンド講義ファイルを視聴することを通してみずから問いを引きうけ、問いを展開していくことを、受講者ひとりひとりが学びとして進めて行く。毎回、みずから自分自身を振り返って、気づいたことをまとめ、自分なりに問いを一歩でも先に進めることを試みる。受講者自身、答えを出さなければいけない学び、教師と称する立場の者がすでに隠し持って、定めている正解を求め暗記して復唱する学びから、自らを解放し、いかに問いそのものを明確にできるかをこころみる。	
	異文化適応論		この授業では、異文化コミュニケーション学、第二言語習得及び社会心理学の諸分野の視点から異文化適応を考えていく。具体的には、まず、文化や適応などの基礎概念を導入し、異文化体験により生じた不適応の実態と要因を紹介する。次に、カルチャーショックの諸相、U字曲線の適応、W字曲線そしてらせん型の適応について解説する。さらに第二言語コミュニケーションはどのように異文化適応に影響を与えるのか、適応するための相手との違いへの気づき、そして自分自身を知ることなどの大切な知覚要素を取り入れる。最後に適応の条件を紹介し、異文化適応は成長の過程でもあることを認識し、少しでも異文化適応力を身につけることを期待する。	
	宗教学概論		日本人は無宗教とされますが、寺院数だけでもコンビニの総数を上回ります。多文化共生が叫ばれますが、文化と宗教の関係は密接です。本講義では一見すると宗教とは無関係なアニメ・マンガなどからも「宗教」を問います。また、「宗教」からさまざまな現代問題に迫ります。現代人に必須な一般教養として「宗教」を講義します。	
	倫理学概論		倫理学の現代的課題を理解し自らが倫理学の人類的遺産を活かして日々社会的倫理的実践に生きる。具体的には、「善」や「正義」ということがらは、個人や文化によって異なるとか、数学や論理学のような明確な答えがないとか、そのような理由で、道徳的指令集としての「倫理学」が否定されてきている状況を理解した上で、自らが日々、倫理的、政治的、宗教的に中立的であり得ているのか再吟味する。その上で、21世紀におけるみずからの地域社会、市民社会、国家、世界共和制における顕在的、潜在的な現実的コミットを、哲学、倫理学の歴史的な英知を基に、自分自身で再構築して、日々自覚的に実践的世界を生きることを追究する。	
	スポーツ科学A		本授業ではスポーツ実技を行う。スポーツ種目は、競技スポーツ、レクリエーションスポーツ、アダプテッドスポーツから複数の種目を選択して行う。また、スポーツあるいは体力づくりに関連するスポーツ科学の知識を学習し、安全かつ適切な方法でスポーツ・運動を実践する習慣を身につけるようにする。	
	スポーツ科学B		スポーツは、我々の生活を楽しく豊かなものにしてくれる。ところが、スポーツを定期的に行う者は大学入学頃から減少し、その結果、学生のなかには青年期に必要な体力を喪失している者も存在するように思われる。本授業では、主に球技などチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得の４点をねらいとして展開していく。スポーツ種目は、フットサル、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、インディアカ、インディアカテニス、アルティメット、テニス、ソフトボール、レクリエーションまたはアダプテッドスポーツなどから複数行う。	
	しゃべりのスキルUp Ⅰ		コミュニケーションや対話の基盤をなす言語能力は、生きていく上で欠かせないスキルである。加えて目まぐるしく変化を続ける状況を的確に言葉にし説明する力、自身の意見を魅力的に表現する力は、仕事の効率を高め、そのクォリティーを上げる。社会生活のために必要な「言語能力」を今一度見直し、より正しい情報収集力、その情報を元に繰り広げる思考力、そしてそれらを的確に伝える有効な表現力を身に着ける事をこの授業の最終目的 としている。プレゼン、面接等でいかに説得力のある言葉を選び、自身の中にあるイメージや考えを言葉にするか。すべての学部生にとって必要な「しゃべりのスキル」向上を目指す。	
外国語科目群	Fundamentals of English Ⅰ		英語の基礎となる「読む」「聞く」「書く」「話す」の４技能の基礎を習得するための授業である。英語による「コミュニケーション能力」「文化的知識」「アカデミックスキルズ」などの習得を図るため、ペアワークやグループワークを多く取り入れるとともに、オンライン課題に取り組むことによって実践的な運用能力の習得を図る。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目群	Fundamentals of English II		この授業は、「Fundamentals of English Ⅰ」で身に付けた英語の基礎となる４技能をさらに向上させる。英語による「コミュニケーション能力」「文化的知識」「アカデミックスキルズ」などの習得を図るため、ペアワークやグループワークを多く取り入れるとともに、オンライン課題に取り組むことによって実践的な運用能力の習得を図る。	
	Oral Fluency I		この授業は、英語によるスピーキング、会話、ディスカッション能力の向上を目的とする。ペアワークや小グループで会話やディスカッションに取り組むとともに、会話やディスカッションに応用できる表現や語彙を身に付ける。	
	Oral Fluency II		この授業は、「Oral Fluency I」で身に付けたスピーキング能力をさらに向上させる。英語によるスピーキング、会話、ディスカッション能力の向上を目的とする。ペアワークや小グループで会話やディスカッションに取り組むとともに、会話やディスカッションに応用できる表現や語彙を身に付ける。	
	TOEIC Preparation A		この授業はTOEICテストのスコアアップを目的とする。特にリーディングとリスニングセクションに重点を置き、テストに関連する文法と語彙の定着・向上に取り組む。模擬テストを定期的に行い、各パートの出題傾向を把握し、問題に取り組むためのテクニックを実践する。この授業では、ショッピングやレストラン、健康面に関する会話など日常的な場面を想定したテーマを扱う。	
	TOEIC Preparation B		この授業はTOEICテストのスコアアップを目的とする。特にリーディングとリスニングセクションに焦点をあて、テストに関連する文法と語彙の定着・向上に取り組む。模擬テストを定期的に行い、各パートの出題傾向を把握し、問題に取り組むためのテクニックを実践する。 このオンデマンドコースは、受講者のTOEICの総合的なスコアの向上を目的としています。TOEICテストのリスニングとリーディングセクションに焦点を当てた指導を行い、テストに関連する文法や語彙の向上、リスニング戦略の開発、そしてより高いスコアを獲得するために必要なTOEIC特有のテスト対策スキルの強化に特に重点を置きます。	
	TOEIC Preparation C		この授業はTOEICテストのスコアアップを目的とする。特にリーディングとリスニングセクションに焦点をあて、テストに関連する文法と語彙の定着・向上に取り組む。模擬テストを定期的に行い、各パートの出題傾向を把握し、問題に取り組むためのテクニックを実践する。 このオンデマンドコースは、学生のTOEICスコアの全体的な向上を目的としています。学生は模擬TOEICテストを定期的に受けることで、一般的に使用される文法や語彙に慣れ、TOEICテストに適用できるリスニング戦略を開発します。	
	TOEIC Preparation D		この授業はTOEICテストのリーディングとリスニングセクションに重点を置き、さらに高得点を目指す。テストに関連する文法と語彙の定着・向上に取り組む。模擬テストを定期的に行い、各パートの出題傾向を把握し、問題に取り組むためのテクニックを実践する。	
	English for Specific Purposes A		この授業は、小規模な聴衆に向けて英語で自分の考えや意見を明確な構成で伝える能力を目的としている。日常的なトピックに関する様々なアイディアを探求し、トピックに基づいた語彙、プレゼンテーションフレーズ、意見のまとめ方を学び、トピックに関するプレゼンテーションやレポートの作成により実践的な能力を養う。	
	English for Specific Purposes B		この授業は、小規模な聴衆に向けて英語で自分の考えや意見を明確な構成で伝える能力を目的としている。より高度なトピックに対するアイディアを探求し、トピックに基づいた語彙、プレゼンテーションフレーズ、意見のまとめ方を学び、トピックに関するプレゼンテーションやレポートの作成により実践的な能力を養う。	
	English for Advanced Studies A		リスニングとディスカッション中心の総合的な英語能力の習得を目的とした授業で、心理学、メディア研究、科学、人文科学の4つのテーマで構成されている。事前学習として、各自テーマについて調べ、授業ではテーマに関する興味、語彙、知識を深めるための実践的なアクティビティを行うことで、英語による実践的なコミュニケーション能力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目群	English for Advanced Studies B		リスニングとディスカッション中心の総合的な英語能力の習得を目的とした授業で、マーケティング、社会科学、メディア研究、言語学の4つのテーマで構成されている。事前学習として、各自テーマについて調べ、授業ではテーマに関する興味、語彙、知識を深めるための実践的なアクティビティを行うことで、英語による実践的なコミュニケーション能力を養う。	
	中国語I		教科書に従って授業を進める。発音、語彙、文法項目、会話、練習問題などの学習を行う。発音（ピンイン）は、読み方と４つの声調のリズムは毎回の授業で聞く・発音するという練習を繰り返しながら定着していく。語彙と文法は、まず教員が意味と用法の解説をする。そのあと学生は例文を訳したり、文を作ったり確認するという形で学習する。会話の学習は、学生はグループ学習により、日本語訳、朗読、置き換え練習で確認し合うという形でする。 ＊対面授業とオンデマンド授業の併用で行う。オンデマンドは、小テストや課題により、毎回の授業の理解度を確認し出席確認とする。授業情報の連絡はユニパで行う。履修者が教員への連絡、授業内容についての議論などはユニパの掲示板を利用する。教員から学生への個別連絡が必要な場合は、JIUメールを利用する。	
	中国語II		教科書に従って授業を進める。発音、語彙、文法項目、会話、練習問題などの学習を行う。語彙と文法は、まず教員が意味と用法の解説をする。そのあと学生は例文を訳したり、文を作ったり確認するという形で学習する。会話の学習は、学生はグループ学習により、日本語訳、朗読、置き換え練習で確認し合うという形でする。また、中国語検定試験対策の指導を行う。 ＊対面授業とオンデマンドの併用で行う。オンデマンドは、小テストや課題により、毎回の授業の理解度を確認し出席確認とする。授業情報の連絡はユニパで行う。履修者が教員への連絡、授業内容についての議論などはユニパの掲示板を利用する。教員から学生への個別連絡が必要な場合は、JIUメールを利用する。	
	韓国語I		ハングルと基礎的な文法を理解し、身近な話題についての簡単な会話と作文ができるように練習する。	
	韓国語II		「韓国語I」を履修した学生を対象とする。「韓国語I」で学んだ内容を確実に復習した上、より多彩な表現と文法を学習し、多様な場面でコミュニケーションができるように練習する。	
	スペイン語I		スペイン語は現在スペインのみでなく、米国やメキシコそして中南米の諸国の人々に母国語として話されている。そこで簡単な会話ができるよう、ABCの読み方、音の出し方から授業をはじめる。スペイン語Iの学習者は後期のIIの継続学習をすすめていく。	
	スペイン語II		スペイン語は現在スペインのみでなく、米国やメキシコそして中南米の諸国の人々に母国語として話されています。そこで簡単な会話ができるよう、ABCの読み方、音の出し方から授業をはじめます。 DELE A1試験が合格できるようになる。 スペイン語I&IIで勉強した文法や単語を深める。	
	ドイツ語I		ドイツ語初級に不可欠な文法事項を習得し、文法の進度に合わせて簡単な日常会話ができるようになることが目標である。 (独検5級：初歩的なドイツ語を理解し、日常生活でよく使われる簡単な表現や文を運用できる。）読解力が深まる。ドイツ語を学ぶことを通して、ドイツ語を母語とする社会についての知識と関心を深めていってほしい。	
	ドイツ語II		教科書に掲載されている12の課のうち、第4課～第6課まで行う。文法の説明は日本語で行い、練習問題はドイツ語で行う。会話はパートナー練習の形式をとり、日常的なドイツ語が身につくようにする。 なお、ドイツ語Iの単位取得がIIの履修条件になっている。	
	フランス語I		この授業は、初級レベルのフランス語、フランス文化、フランス語圏について学ぶ。この授業はフランス語を学んだ経験のない学生を対象として、基本的な語彙と文法を習得することを目的とし、自己紹介、日常生活における簡単な会話ができるようになることを目指す。聞く、話す、読む、書くの４技能を網羅し、総合的なフランス語の力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目群	フランス語II		この授業は、「フランス語I」で身に付けた初級フランス語文法の理解をさらに深め、やさしいフランス語を使って、自分や自分を取り巻く環境、人々についてさらに詳しく説明できることを目標とする。	
	ハンガリー語I		初めてハンガリー語を勉強する学生のための入門クラスです。基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につけます。授業中に時々英語も使います。英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習もやりますので、授業は英語学習も支えています。教材（教科書と辞書）は無料で、授業中に配ります。教科書の各章などを紹介する授業の専用YOUTUBEチャンネルもありますが、それを授業中に紹介します。ハンガリー語の授業はＪＩＵのハンガリー研修とハンガリー留学プログラムの準備コースと夏の大学の奨学金の準備コースでもあります。	
	ハンガリー語II		初めてハンガリー語を勉強する学生のための入門クラスです。基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につけます。授業中に時々英語も使います。英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習もやりますので、授業は英語学習も支えています。教材（教科書と辞書）は無料で、授業中に配ります。教科書の各章などを紹介する授業の専用YOUTUBEチャンネルもありますが、それを授業中に紹介します。ハンガリー語の授業はＪＩＵのハンガリー研修とハンガリー留学プログラムの準備コースと夏の大学の奨学金の準備コースでもあります。	
	ポーランド語I		原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法などについて解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習ではなく、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのさまざまな資料も活用しながらポーランドの魅力の紹介をしていく。	
	ポーランド語II		原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法事項について解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習に終わらず、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのヴィジュアル資料なども活用しながらポーランドの多様な魅力の紹介に努めたい。	
	チェコ語I		チェコ語のアルファベット、発音、文法の初歩知識を習得する。徐々に語彙を広げ、日常でよく使われる表現を覚え、会話を練習することにより、会話力の基礎を固める。ヒアリングの練習もし、理解する・話す力を少しずつ身につけることがこの授業の目標である。前期終了時に簡単な文章や自己紹介をチェコ語で言える力を身に付ける。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。	
	チェコ語II		正しい発音、文法の初歩知識を習得する。徐々に語彙を広げ、日常でよく使われる表現を覚え、会話を練習することにより、会話力の基礎を固める。ヒアリングの練習もし、理解する・話す力を少しずつ身につけることがこの授業の目標である。前期終了時に簡単な文章や自己紹介をチェコ語で言える力を身に付ける。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。	
キャリア形成科目群	プロジェクト教育A		主体的な大学での学び方について修得する。また、医療・看護、健康、生活などに関わる興味あるテーマを自ら設定して同じテーマでグループを編成し、教員の指導の基で、成果発表を行う。この過程を通して、探究心を養い、クリティカルシンキング、および科学的思考を身につける。	共同
	プロジェクト教育B		医療・看護、健康、生活などに関わる興味あるテーマを自ら設定し、同じテーマでグループを構成し、教員の指導の基で研究的な取り組みを行い、成果発表を行う。この課程を通して、探究心を養い、クリティカルシンキング、および科学的思考を身につける。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
キャリア形成科目群	グローバルヘルスA	○	入学後の早い時期に「看護とは」ということについての思考を深め、看護への興味・関心を高めることを目的として国内外研修を実施する。異なる国・文化の生活や医療に実際に触れることを機に国内の医療施設・医療制度への関心を高め、広い視野で看護のあり方を考える力を涵養する。	共同 主要授業科目
	グローバルヘルスB		アジアにある、本学提携校における国際医療の授業、病院見学、学生との交流を通して、海外の医療を知り、国際医療を実践するための基盤となる異文化理解や他者への思考を深め、アジアの一員としての架け橋としての役割を遂行できるコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。将来的には我が国の国際看護、地域医療に貢献できるグローバルナースを目指す。	共同
専門基礎科目群Ⅰ	死生学		死にゆく人のケアに当たる者の心の準備をすることを目的とする。代表的な東洋と西洋の生と死の思想を概観した後、生命の誕生、生命の危機と死、老い、葬送儀礼という具体的問題に視点を定めて生と死について学ぶ。	
	社会福祉原論		福祉制度や福祉政策は、極めて社会との関連が深い領域である。そこで、現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、福祉をめぐる理論、哲学を理解する。また、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の課題について理解しながら、さまざまな福祉関連政策を学ぶ。さらに、相談援助活動と福祉政策との関連や、職業についても理解する。	
	児童福祉論		児童福祉の意義、歴史的展開過程を理解し、児童福祉に関する法律、制度、福祉機関・施設について学習し、続いて児童福祉の現状と課題を把握し、児童福祉の専門職としての保育士の役割を理解し、子ども・家族への相談援助活動について学習する。	
	高齢者福祉論		高齢者福祉の社会的背景を学習し、高齢者福祉の理念・目的に加え、高齢者保健の概要とサービスの体系、内容及び利用手続き等、具体的な実践活動を理解する。授業では、高齢社会の中の高齢者、現代社会と高齢者サービス、地域・住環境と福祉機器、相談援助業務と介護業務などについて、２１世紀の高齢社会との絡みから緊急重大な分野であることの認識を常に持ち続けられるよう学習を進める。	
	保健医療福祉行政論		保健医療福祉における行財政の理念と概要、社会情勢の変化と保健医療福祉行政の変遷、行政計画の策定と評価の過程について理解し、地域における看護活動を展開するための基礎を学ぶ。	
	ライフステージIPE A		専門職連携教育の科目として位置し、医療、福祉系学部生と共に学ぶ。人の一生を胎生期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、成熟期、老年期の発達段階から身体的、心理的、社会的側面から理解し、ライフサイクルからみた生涯にわたる発達の課題を学ぶ。そして、健康課題をもつ人の講演を拝聴し、専門職者へのニーズを知る。	共同
	ライフステージIPE B		専門職連携教育の科目として位置し、医療、福祉系学部の学生と共に学ぶ。医療ニーズによりよく対応するために、各専門職がチームとして組織的に活動する意義を理解する。各専門職の機能と役割を学び、多職種連携によるチーム医療の重要性を理解する。	共同
	ライフステージIPE C		専門職連携教育の科目として位置し、医療、福祉系学部の学生と共に学ぶ。他学部と同時開講し、模擬症例検討を通してチームビルディングを体験し、他の専門職と協働できる基本姿勢を養い、地域に暮らす人々の医療・福祉ニーズによりよく対応するための、有益なケアサービスについて理解を深める。	共同
	関係法規		医療を提供するにあたって知っておかなければならない医療者の資格に関する法規（医師法、保助看法他）や医療機関に関する法規（医療法、地域保健法他）、および薬事法や麻薬取り扱い法などの薬品や医療機器に関する法規の概略を学び、看護職者が遵守しなければならない法律や、責任と義務について学習する。	
	保健医療統計学		根拠に基づいた看護を実践するために、人口統計・疾病構造、保健医療福祉の基本的統計や指標について理解する。また、地域集団の健康指標を理解するために、統計学的指標とその分析手法の意義・目的・方法について学ぶ。	
	地域母子保健A		母子保健の推進、社会資源の活用及び関係機関との連携について概観するとともに、国際協働による母子保健活動の実際を学ぶ。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目群Ⅰ	学校保健		小児の生活の中心である学校における保健管理上の課題、学校安全と学校危機管理、学校環境衛生について学習し、地域看護の観点から学校保健活動(保健管理･組織活動)と養護教諭の役割について理解を深める。	
	家族発達支援論		家族を単位としたニーズの理解やアセスメントについて学び、各ライフステージや健康レベルに発生する家族の問題を理解し、家族の保健機能や介護機能を高めるための支援を考えることができる。	共同
	医療英語		医療現場で用いられる会話表現や専門用語などを学習する。将来国際保健や国際看護の場で活躍できる人材としての基礎的能力を身につける。	
	人間関係論		社会活動は人と人との関係性を基盤として成立する。自己認知過程及び対人認知過程の基礎理論を学び、社会活動の基盤となる人間関係の諸要素と集団形成過程におけるコミュニケーション、対人関係、リーダーシップに関する基礎知識を習得する。	
	看護情報学		さまざまなデータや情報について、検索、分析、活用の仕方や、医療・看護情報を有効に扱うリテラシーを習得し、情報通信技術を活用するための基礎的な能力を養う。	
	科学基礎		現代科学の基礎概念を幅広く理解し、科学的思考を養う。自然科学の基本的な知識を学ぶとともに、科学が社会や日常生活にどのように影響を与えるかを考察する。また、論理的な推論や問題解決能力を培い、探究する土台を作り、学びを主体的に進める習慣を身につけながら、次のステップである専門科目にスムーズに進める基礎力を身につける。	共同
専門基礎科目群Ⅱ	医学概論		医療現場における医師－患者関係や看護師の役割、治療の実際、よりよい医療を提供することを妨げる要素等について理解を深め、さまざまな視点から医療をとらえて今後の看護専門分野の学修への興味・関心を高める。	
	人体の構造機能A		人体の発生と構成、および各系統（運動器系・神経系・感覚器系・循環器系・呼吸器系・消化器系・内分泌系・泌尿器系・生殖器系）の構造と機能を学修し、疾患や障害の理解へとつなげる。 （オムニバス形式／全13回） （124 森下 勝行／7回） 人体の発生と構成、運動器系、神経系、感覚器系の構造と機能について学修し、疾患や障害の理解へとつなげる。 （18 中野 元／3回） 循環器系、呼吸器系、泌尿器系の構造と機能について学修し、疾患や障害の理解へとつなげる。 （22 志賀 亮太／3回） 消化器系、内分泌系、生殖器系の構造と機能について学修し、疾患や障害の理解へとつなげる。	オムニバス方式
	人体の構造機能B		人体の機能・役割について学習する。特に運動器系（筋・骨格・関節系・呼吸循環系との関係性）やそれらを調整・支配する神経系（中枢神経系・末梢神経系）、内臓系（消化器・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・循環器系）、それらを調整する内分泌系と自律神経系の機能を理解し、疾患や障害の理解につなげる。 （オムニバス方式／全13回） （125 烏野大/7回） 運動器系（筋・骨格・関節系・呼吸循環系との関係性）やそれらを調整・支配する神経系（中枢神経系・末梢神経系）を理解する。 （128 酒井健介/6回） 内臓系（消化器・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・循環器系）、それらを調整する内分泌系と自律神経系の機能を理解する。	オムニバス方式
	疾病治療学A		炎症・循環障害・腫瘍など、臓器の違いをこえて共通にみられる疾病について、診断、検査法、治療の特徴について学び、疾病に関する理解を深める。	
	疾病治療学B		各々の器官、臓器に生じる疾病について、病態生理、診断、検査法、治療の特徴について学び、疾病に関する理解を深める。	
	臨床栄養学		健康障害に関連する栄養学的変化とその影響、健康回復への栄養学的支援の理念と方法について学ぶ。	
	疫学		人間集団の健康リスクとその要因を理解し、健康増進、疾病予防等に必要な疫学的分析、介入について学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目群Ⅱ	病原微生物学		主要な病原微生物の特徴と人体の防御機制との関係及びその反応過程について学ぶ。	
	臨床生化学	○	生命現象を化学の観点から捉え、生命体を構成し、また生命体での物質変化に関与する有機物質について学ぶ。具体的には生命体を構成する有機化合物とその物質代謝およびそのメカニズム、摂取した栄養素の代謝メカニズム、そして遺伝のメカニズムの基礎（セントラルドグマ）を学ぶ。	主要授業科目
	臨床心理学		精神疾患、心理的問題・行動に関する支援、予防についての理解を深め、精神的健康の保持増進の観点からの心理学的アプローチについて学ぶ。	
	臨床免疫学		臨床において重要となる免疫反応の理解は抗体医薬品の出現で近年ますます重要となっている。そこで、細胞性免疫・体液性免疫の仕組み、Ｔ細胞・Ｂ細胞の基礎、補体の基礎、抗体の基礎、アレルギーの種類とメカニズムの基礎、移植免疫の基礎を学ぶ。	
	周産期医学A		妊娠期・分娩期・産褥期の診断に必要な解剖学・生理学・発生学を学ぶ。また正常な妊娠・分娩・産褥・新生児の基礎について学修する。	共同
	周産期医学B		母子の健康に影響を及ぼす様々な要因（環境汚染・有害物質・薬剤・栄養など）について学修する。	
	ポイントオブケア(POC)理論		音や光の波・摩擦・圧力・電気など物理学と生体の機能を利用した医療機器の基本原理を理解し、臨床の場で、医療機器からのデータと患者の健康状態が理論的に関連づけることができるよう学修する。	
	感染症学		主要な病原微生物の特徴と人体の防御機構との関係及びその反応過程について学ぶ。看護に必要な「人体の構造と機能および健康障害と回復」についての基礎的知識を、微生物感染と治療、免疫の観点から理解する。また、「看護技術の基本」に関して、感染予防の技術、院内感染防止対策の観点から考えられるようになる。	
	臨床薬理学	○	医薬品の薬効発現のメカニズムを理解し、臨床における投薬治療の目的と留意点を理解する。具体的には各薬物を薬効発現のメカニズム毎に分類し、遺伝子レベル、分子レベル、細胞レベルそして臓器レベルで薬効発現の仕組みを理解する。	主要授業科目
	薬学系演習	○	臨床における投薬治療の目的と留意点に関する理解を深めるため、薬理・薬物動態を中心にさまざまな医薬品取扱いの事例を学ぶ。既存の医薬品だけでなく、新しい医薬品や、実際に医療現場で未知の医薬品に接した時に、どう対処すべきか応用できるように学ぶ。	共同 主要授業科目
	臨床薬物動態論	○	薬物動態は薬理と並んで医薬品による治療の理解において根幹をなすものである。具体的には薬物の吸収、分布、代謝そして排泄の各ステップについてそのメカニズムを学び、コンパートメントモデルの定量的取り扱いを学ぶ。	主要授業科目
	ゲノム医療		近年数々の疾患が遺伝子レベルでの異常と関連づけられて理解されるようになった。そこで疾病と遺伝子異常の関係を学び、これを応用した遺伝子治療、アンチセンス医薬品、リボザイム医薬品、デコイ医薬品、RNAi医薬品の基礎を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目群Ⅱ	薬物療法管理論		薬剤に関してのアセスメント、作用機序、副作用に関して理解できる。看護職として、薬物療法を総合的な観点から、患者の立場にたった説明をすることができる。さらに、薬物療法に関するリスクを、疾患及び患者の状態からアセスメントができる。 （オムニバス方式／全13回） （7 四十竹美千代／3回）（18 中野元／4回）【成人看護学・周手術期看護・がん看護】アレルギー・免疫不全、関節リウマチ、がん・痛みの薬物療法について理解する。麻酔薬等の使用上の注意について理解する。医薬品投与に関連した緊急状態とその対応について理解する。加齢に伴う薬物動態と薬力学の特徴および高齢者の薬物療法の留意点を理解する。 （16 柚山香世子／1回）【小児看護学】子どもの服薬指導、医薬品の誤嚥事故について理解することができる。 （22 志賀亮太／1回）【小児看護学】子どもの薬物動態の特徴について理解することができる。 （1 宮澤純子／2回）【母性看護学】女性のライフステージ各期における薬物療法について理解することができる。妊娠期・授乳期の薬物療法とその留意点について理解することができる。 （17 太田幸雄／1回）【精神看護学】精神科の臨床現場で使用頻度の薬剤に関する基本的な知識を身に付ける。 （13 髙栁千賀子／1回）【老年看護学】薬物療法を受ける高齢者への援助とリスクマネジメントのあり方について理解する。	オムニバス方式
	臨床治験学概論		医薬品の開発過程で重要な役割を担う治験の基本概念を学ぶ。治験実施の倫理的側面や法的規制、国際基準を理解し、治験コーディネーターや臨床開発モニターの基礎知識を習得する。また、治験実施におけるコミュニケーションの基礎についても学び、患者管理や医療従事者との連携を円滑に進めるスキルを養う。これにより、治験業務におけるデータ収集や患者管理、モニタリング手法の基盤を築くことができる。	
	東洋医学概論		西洋医学とは異なる身体観、病態観、全人的な視点を基にした東洋医学について、理念や知識、実践を学ぶことによって、多様な視点での疾病と治療を学ぶ。	
専門科目群Ⅰ（基礎看護学）	看護学概論	○	看護の目的論、対象論、方法論を概観し、「看護とは何か」についてのきっかけを創る入門講座。看護と看護学に対する興味・関心を高めることを目的として関連図書や医療トピックスを随時紹介しながら学生の学習態勢を整える。	共同 主要授業科目
	看護方法論A	○	対象の健康状態を身体的側面からアセスメントする方法を学び、正常からの逸脱の有無を判断するための基礎的能力を養う。問診、計測、視診、聴診、触診、打診の方法を用いフィジカルアセスメントに必要な基本技術をもとに、系統別にそれぞれのアセスメント方法について小グループに分かれて学習する。	共同 主要授業科目
	看護方法論B	○	看護学専門科目に共通する問題解決の思考プロセスとして、看護過程の概念と展開の方法を学ぶ。看護過程の役割と意義、および看護過程のステップと看護実践における展開方法を理解する。食事、排泄、睡眠に対する健康問題を持つ対象への症状マネージメントと看護に必要な技術を学習し、関連する具体的な事例を用いた看護過程を展開する。	共同 主要授業科目
	看護方法論演習A	○	すべての看護行為において必要となる看護技術である、感染予防技術、環境調整技術、コミュニケーション技術について講義・演習をとおして学習する。それぞれの看護技術に必要な基本的知識・技術について学習し、科学的根拠に基づいた原理・原則のもと看護技術を習得していくための基盤を作る。	共同 主要授業科目
	看護方法論演習B	○	バイタルサインの観察と日常生活行動の援助を中心とした看護技術を講義、演習を通して学習し、看護技術を構成する知識、技能、態度の3要素を身につける。援助を行う際に必要な原理原則および安全・安楽に基づく援助方法についての理解を深めながら技術を習得していく。また、提供する看護技術には目的（根拠）が存在することをふまえ、援助の実施による対象への影響について考え、行った援助を観察評価できる姿勢を養う。	共同 主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群Ⅰ（基礎看護学）	看護方法論演習C	○	健康問題に対処するための診断、治療、検査、処置技術の根拠を学習し、安全、安楽な看護技術を提供するための基本的な知識と技術を習得する。ここでは健康障害をもった人々に対して行われる薬物療法に伴う看護、検査に伴う看護を中心に各種診療に伴う基本的な看護技術の習得をシミュレータや模型を用いてグループ単位で学ぶ。	共同 主要授業科目
	看護方法論演習D	○	事例における模擬患者へのケア演習やシミュレーション教育を活用し、臨床判断能力や倫理判断能力を養う。多様な看護場面において、看護過程の展開のもと、全人的・多角的に患者をとらえた上で、的確な臨床判断・倫理判断とは何か、どのように実施するか、その根拠とともに学ぶ。	共同 主要授業科目
	看護管理	○	看護における管理の対象は、人、物、経済、時間等多岐にわたり、看護の質向上につながっていることを理解する。また、管理者のみならず、初学者であっても看護管理の視点を持つことの重要性を認識し、実践できるようにするために、看護管理プロセスとそのアウトカム評価について学ぶ。	主要授業科目
	基礎看護学実習A	○	看護の対象理解と対象が療養する場の理解を深め、医療の場で看護師とともに既習の日常生活援助技術を学ぶ。看護援助の実施までの思考過程および患者や看護師とのコミュニケーションを通して、医療の場における看護の役割と機能、看護学を学ぶ視点をより明確にする。	共同 主要授業科目
	基礎看護学実習B	○	健康障害を持ち療養している対象の理解を深め、生活における基本的ニーズの観点から情報収集、アセスメント、計画立案という看護の系統的思考過程の展開について学ぶ。あわせて、科学的な根拠に基づく確かな技術を提供できる看護実践の基礎を身につけることを目的とする。	共同 主要授業科目
	サービスラーニング	○	本科目は、地域社会のニーズに沿った地区活動に参加し、地域に暮らす市民として地域に貢献できる素養を身につけ、看護専門職としてのスキルを発揮する上の基盤とし、看護学を学ぶ準備学習とする。	共同 主要授業科目
専門科目群Ⅱ（専門看護学）	成人・老年看護学概論	○	治療および療養を必要とする成人期から老年期の特徴をライフサイクルの観点から理解し、治療および療養の必要な大人を対象とした円滑な治療・療養の支援と回復過程・自立過程およびQOL の維持・向上に向けた看護の役割機能及び基本的な実践活動について学ぶ。 （オムニバス方式／全13回） （6 和野千枝子／4回）【慢性疾患看護学】成人とは何か、発達、自律、家族、社会、文化の視点から理解できる。慢性疾患をもつ対象者が、病と付き合いながらその人らしい生活を営めるようセルフマネジメントを支援する看護を述べることができる （12 山村美恵子／3回）【老年看護学】高齢者とその家族を対象とし、老いの理解、社会状況、社会保障に関する知識を習得することができる。 （13 髙栁千賀子／2回）【老年看護学】高齢者の多様な価値観・信条、生活背景を尊重した健康の回復、維持・向上に向けた看護を理解できる。 （7 四十竹美千代／1回）（18 中野元／2回）（28 池上萌／1回）【急性期看護学】ICUなどのクリティカルな場から患者の日常生活、地域に戻ることを見据えた看護展開について知識を習得することができる。	オムニバス方式 主要授業科目
	クリティカルケア方法論	○	急性期医療及び看護、周手術期の治療、看護について理解し、クリティカル領域で遭遇しやすい事例において、術前、術後看護について解剖整理から疾患、治療法、看護について習得する。	共同 主要授業科目
	クリティカルケア方法論演習	○	手術療法を必要とするクリティカル領域の患者を対象に患者の特徴を理解し、治療と円滑な回復を支援するために必要な看護実践の基礎的技術を習得する。シミュレーション演習・ロールプレイ・事例検討を通してクリティカルケア領域の特徴を捉えた、実践のための患者の状況把握・看護の概念、手術侵襲に関する基礎知識、術前・術中・術後の看護アセスメント、術後合併症予防、不安への看護、術後の痛みケア・回復支援について看護の役割と援助を習得する。	共同 主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群Ⅱ（専門看護学）	クリティカルケア実習	○	クリティカル領域にあり健康回復に向けての急性期的治療を受ける成人期から老年期の対象を受け持ち、この期に行われる治療、処置の意味を理解し、合併症予防、苦痛の緩和及び日常生活の回復に向けた看護援助を行うための基礎的能力を修得する。	共同 主要授業科目
	慢性疾患看護方法論	○	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ成人期から老年期の患者とその家族の特徴を理解し、健康障害と折り合いをつけながら生活する対象のケアに必要な看護実践の理論と方法を学ぶ。慢性症状を呈する代表的な疾患の検査、治療の特徴や食事療法、運動療法、薬物療法、放射線療法等を学習し、慢性疾患患者に対する生活支援と自己管理に関してセルフケア理論、成人教育理論等の理解を基盤とした看護実践方法を学修する。	共同 主要授業科目
	慢性疾患看護方法論演習	○	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ成人期から老年期の患者とその家族の特徴を理解し、慢性期に特有の看護を展開するための基礎的技術を習得する。慢性疾患患者の事例展開を通して、アセスメント能力を習得し療養支援に必要な看護技術を学ぶ。また、慢性疾患の治療に特徴的な食事療法、運動療法、薬物療法におけるセルフマネジメント支援を患者教育技術や看護実践の理論を用いて、シミュレーション演習、ロールプレイを通して習得する。	共同 主要授業科目
	慢性疾患看護実習	○	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ成人期から老年期の対象を受け持ち、患者とその家族の理解を基盤として慢性期の治療の意味を理解し、残存機能やセルフケア能力を考慮した看護実践を提供できる基礎的能力を修得する。	共同 主要授業科目
	老年看護方法論	○	老年者を対象に、加齢のプロセスで生じる身体的、心理的、社会的な影響を理解し、老年者のその人らしさを尊重した健康生活の維持、向上を目指して、老年期に発症しやすい健康障害・機能障害についてのヘルスアセスメント方法を学習し、健康回復、発現の予防や異常の早期発見、症状の緩和などの看護実践を理解する。	共同 主要授業科目
	老年看護方法論演習	○	老年者を対象に、老年看護学の理論、知識、技術を踏まえ、残存機能を活かし自立を促進させる老年看護技術を習得する。老年期の生活者の紙上事例を用いて看護計画の立案をグループ単位で演習し、生活機能を重視した目標志向型思考を養う。また、老年期に発症しやすい摂食・嚥下障害、皮膚障害、移動障害について、シミュレーション・ロールプレイを用いて演習を行い、基本的な援助方法について学ぶ。	共同 主要授業科目
	老年看護学実習	○	介護保険施設における実習を通して、老年期にある人と家族の生活、および加齢、疾病、障がいが身体・心理・社会面に及ぼす影響を理解し、生活の質（Quality of life ： QOL）の維持・向上に向けた老年看護について学ぶ。	共同 主要授業科目
	母子看護学概論	○	小児看護・母性看護の概念と対象を理解し、ライフサイクル各期における家族の健康と看護について考えることができる。また、現代社会における子ども・女性の健康と関連する環境についての知識を深め、健やかな成長発達や健康を支えるための施策や法律を理解することができる。 （オムニバス方式／全13回） （16 柚山香世子／6回）（22 志賀亮太／1回）【小児看護学】子どもの権利、小児期各期の成長発達と健康支援、看護師の役割について理解することができる。 （1 宮澤純子／5回）（27 石井恵美子／1回）【母性看護学】ウィメンズヘルス・リプロダクティブヘルスの概念および課題、女性のライフサイクル各期における健康と看護、母子保健関連の法律・制度について理解することができる。	オムニバス方式 主要授業科目
	母性看護方法論	○	妊婦・産婦・褥婦・胎児・新生児・家族の健康上の諸課題への理解をさらに深め、妊娠・分娩・産褥の経過及び新生児の特徴から、経過に応じた看護を展開するための知識を習得する。	共同 主要授業科目
	母性看護方法論演習	○	妊婦・産婦・褥婦・胎児・新生児・家族の健康上の諸課題への理解を深め、看護実践に活用できる知識、技術を習得する。周産期各期の特徴的な課題を持つ事例を展開し、保健指導技術、妊娠期のアセスメント技術、産婦・褥婦への適切な看護技術について学ぶ。また新生児のアセスメント技術、哺乳技術、沐浴技術等についてもモデル人形、シミュレーション等を使用して演習する。	共同 主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群Ⅱ（専門看護学）	母性看護学実習	○	妊婦、産婦、褥婦及び新生児の特徴を理解し、生命を産み育てる過程と対象となる母児の適応過程を学習する。また受け持ち患者を通して、周産期にある健康な母子、家族のニーズを理解し対象に合わせた看護過程の展開をはかり、あわせて新しい生命の誕生を尊ぶ態度の育成を図る。	共同 主要授業科目
	小児看護方法論	○	小児期に出現しやすい健康障害について学び、小児の健康障害が小児とその家族に及ぼす影響について理解する。さらに、小児と家族の健康レベルに応じた看護と、子どもに特有の症状（発熱・脱水・嘔吐・下痢など）の理解と看護について学ぶことを通して、健康を障害された小児とその家族の理解と、フィジカルアセスメント・救命救急看護などの具体的な援助方法等についての基礎的知識を習得する。	共同 主要授業科目
	小児看護方法論演習	○	小児の成長と発達段階に応じた観察の方法、発達段階と健康状態に応じた看護介入や援助技術の基本を、講義や視聴覚教材・モデル人形を用いた演習を通して理解する。バイタルサインの測定、身体計測の方法、検査や与薬技術ならびに発達段階に応じた効果的な遊びや説明の技術について学習する。ビデオテープや新聞記事を用いて事例展開し、グループ間で討論することによって思考を深める。	共同 主要授業科目
	小児看護学実習	○	講義で得た知識を統合して、子どもやその家族の健康を保持増進するために必要な小児看護の基礎的能力を養えるように助言・指導を行う。健康な子どもとの関わりから子どもの日常生活や生活の援助、小児の成長発達について学習し、さらに健康障害をもつ子どもとの関わりを通して、小児看護に求められる基礎的看護能力や看護実践能力を身につける。	共同 主要授業科目
	精神看護学概論	○	こころの健康のあり方、こころのしくみと働き、ストレスや危機がこころの健康に及ぼす影響、ライフサイクルとメンタルヘルスについて広く学びながら、こころの健康とは何かについて概要を理解する。また、現代社会が抱えるメンタルヘルスの問題について、現状から原因を考察しながら理解する。	共同 主要授業科目
	精神看護方法論	○	代表的な精神疾患について、病態像、症状、経過や治療の特徴について理解する。その上で、精神の健康問題を抱える人とその家族に対する看護について理解することで、必要な看護について考える力を養う。さらに、精神医療・看護の歴史を知ることの意味と精神医療保健福祉の法制度について理解する。また、地域社会で生活している精神障害の当事者の視点をもって看護を考えることができるようにする。合わせて、安心、安全を意識した看護の視点、援助についても理解を深めながら、精神医療保健福祉における看護師の役割について理解する。	共同 主要授業科目
	精神看護方法論演習	○	精神看護学概論、精神看護方法論で学んだ知識をもとに、精神の健康課題のために生活上の困難をかかえている患者について、セルフケアの視点に基づいた多角的なアセスメントとケアプランの立案の方法を学習する。また、精神保健医療福祉を取り巻く多職種連携の実際や倫理的課題、人権と権利擁護を知り、より多角的な視点で精神看護実践をできる力を培う。	共同 主要授業科目
	精神看護学実習	○	精神の健康上の問題のために生活上の困難を抱えている患者について、セルフケアの視点からその人を捉え、その人らしい生活や生き方に向けた援助の基礎的能力を習得する。精神保健医療福祉領域における地域支援と患者やその家族に対する支援を考える力を養う。また、対象との関わりを通して自分自身を見つめ、対象との関係形成のプロセスを通して、治療的存在としての自己を考えることができる能力を身に着ける。	共同 主要授業科目
専門科目群Ⅲ（広域看護学）	世界の中の日本		初年次教育として、大学での学びについて理解し、学ぶための基本的なスキルを身につける。また、グローバル社会における看護と看護の対象を理解するために、国内外のヘルスケアシステムや看護教育システム、民族や文化の多様性、看護師のキャリア形成について理解を深める。	共同
	地域・在宅看護概論	○	在宅看護の基本理念、在宅看護成立の条件、在宅看護の提供される場や対象が理解でき、在宅看護において必要な看護倫理を学ぶ。また、地域で生活しながら療養する人々とその家族の特徴を理解するとともに、在宅看護の必要性とその意義、現状、在宅で療養している対象者とその家族、社会資源について知り、在宅で適切な看護が提供できる知識、技術、態度を学ぶ。	共同 主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群Ⅲ（広域看護学）	地域・在宅看護方法論	○	在宅で療養する人々とその家族の特性に応じた看護支援を展開するための基礎的理論と方法を学ぶ。在宅看護に必要な医学の知識とフィジカルアセスメントを学習し、在宅療養者とその家族の生活状況を包括的にアセスメントする在宅看護過程の考え方を習得する。また、在宅療養者の疾病の悪化予防、健康維持、QOLの維持・向上を第一義とする在宅看護における疾病管理や生活援助、終末期ケアのあり方について地域包括ケアの観点から学習し、在宅看護の課題を考察する。	共同 主要授業科目
	地域・在宅看護方法論演習	○	在宅の場の理解を基盤に適切な看護支援を展開するために必要な基礎的技術を習得する。在宅という療養の場と健康レベル、家族関係を想定した訪問看護事例を用いて、少数のグループで具体的な援助方法を計画し、在宅演習室において実践する。この演習を通して、訪問マナー、ケアマネージメント技術、相談・指導技術、日常生活援助技術など在宅における基本的な技術を習得する。	共同 主要授業科目
	公衆衛生看護学概論	○	公衆衛生看護活動の歴史を概観し、公衆衛生看護学の基盤となる諸理論から、対象論、目的論、方法論を捉え、地域住民に対する健康支援と保健師の役割について理解を深める。また、地域包括ケアシステムの理念を理解し、システムの先駆的取り組み事例を学習することにより、地域の特性とニーズに応じた地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みを考察する。	共同 主要授業科目
	地域・在宅看護実習	○	訪問看護ステーションでの実習を通して、在宅で健康障害をもちながら暮らす人々とその家族の看護活動の実際を学ぶ。さまざまな健康課題と健康障害が生活に及ぼす影響、保健・医療・福祉サービスの活用方法と、および多職種との連携・協働について学習し、ケアサイクルにおける訪問看護師の役割と機能、看護職としての責務について理解する。	共同 主要授業科目
	地域包括ケア実習	○	地域包括支援センターや地域活動支援センターの実習を通して、地域で暮らす人々の健康課題とそれを支援する機関・制度・地域ケアシステムの実際を学ぶ。	共同 主要授業科目
	国際看護		国際的視点に立つ看護の役割と実践を理解し、国際協力における看護の在り方と国際看護に必要な知識と技術の基礎を学ぶ。国際看護における多様性理解の重要性、発展途上国の健康・栄養問題、母子保健と看護の役割、海外災害時、戦争・紛争時における看護活動とその実情等についての知見を深める。	
	フォレンジック看護		暴力等の犯罪により被害を負った対象に、法医学的知見を活かしてケアを行う「フォレンジック看護」の基盤となる知識について理解を深める。	
	災害看護		日本や世界で発生した災害を概観し、被災者や支援者の体験から学んだ災害看護の知識を修復する。また、災害時の看護活動に参加するために必要な能力について考える。災害を振り返り、被災者の健康破綻の特徴、生活や地域社会に及ぼす影響を理解する。さらに、災害直後から急性期、回復期、慢性期、静穏期の災害サイクルに沿った支援の方法や考え方および看護職の役割、各機関との連携について理解を深める。	
	災害看護演習		災害現場における医療や看護活動について学習し、演習を通して医療チームの役割を経験する。また、災害発生時に必要な現場におけるトリアージ・応急手当に必要な技術を習得する。	
	感染看護	○	細菌、病原微生物によって起こる感染のメカニズムを理解し、感染予防の基本と感染防止対策に関する科学的根拠、感染症対策の法的側面と病院における感染防止システム構築と組織的方略について学ぶ。	共同 主要授業科目
	終末期看護論		まもなく生命の終焉を迎えようとする人やその家族にとって、いかに終末を送るのかということは大きな課題である。ここではがん患者の終末期ケアに焦点をあわせ、終末期の身体的、心理的、社会的特徴とケアの基軸となる基礎理論を学び、看護職者に求められる看護技術の具体内容を学習する。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群Ⅳ（統合看護学）	医療倫理学		生命倫理、職業倫理に関する理論的背景を理解したうえで、医療の現場における患者と医療者の倫理的関係、とりわけ患者の尊厳、権利、自己決定の尊重を中心としたあり方を学習する。	
	看護研究方法論		看護実践の質の向上に貢献するための研究活動の意義と目的を理解し、研究の基本的プロセス、主要な看護研究法の特徴、研究における倫理性、文献検討の意義、分析手法の基礎、論文化の意義と方法を学ぶ。	
	総合看護学演習A		1年次から4年前期までに学習した看護学およびそれに関連する分野の科目に関する知識、技能、理念を総合的に統括する方法を演習形式であらためて学ぶ。	
	総合看護学演習B		総合看護学演習Ⅰをもとに、学生のひとりひとりに定着させることを目的として課題に繰り返して取組み、看護実践力への知識基盤を強固にする。	
	卒業論文		看護現象に関する自己の探究課題を明確化し、研究方法の選定、データ収集の方法、データ分析の仕方等、研究プロセスに基づき研究論文をまとめることを通して科学的思考を深める。	共同
	フィールド教育		事前学習により、学生は自身の関心テーマを明確にして実践を行い、看護学の総合的、体系的理解を深める。	共同
	地域母子保健実習A		子育て世代包括支援センター事業(目的、事業計画の立案、実施方法等)について学び、地域－病産院－地域における切れ目のない母子保健活動について理解する。また、母子手帳交付・乳幼児健診・育児相談等に参加し母子保健活動における助産師の役割について考察する。	共同
	インターンシップ		看護管理、リスクマネジメント、多重課題の解決などの観点から実践をシャドーイングし、看護に関する重要な課題の理解を深め、看護学の総合的、体系的理解を深める。	共同
	ライフステージIPE D		医療および福祉学部の学生と共にフィールドワークを行い、各専門性および専門職の連携・協働の理解を深め、協働的能力を養う。	共同
	地域母子保健実習B		助産所・診療所の実習を通して、助産実践と保健・医療・福祉との連携のあり方や協働に向けた調整と管理を行うための方法と実際を修得する。また、新生児集中管理室(NICU)実習を通して、ハイリスクの児のケアの基本や母子のケアの実際、NICUにおける看護職者の役割について学ぶ。	共同
	未来講座-これからの看護		社会や時代の要請によって変遷する看護の役割について理解し、施設での看護にとどまらない、これからの看護について、想像し、創造する力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群Ⅴ（保健師課程）	健康支援と健康教育		健康教育・健康支援を行う上で必要な理論を学んだ上で、対象別（成人、小児、精神疾患をもつ人とその家族、労働者、グループ等）健康教育・健康支援についての講義により、実践に必要な配慮と方法を知る。また、児童・生徒を対象として健康教育の指導案を実際に作成し、模擬授業を行う。体験および教員・学生相互によるフィードバックを通し、健康教育を実施する上で必要な知識、技術、配慮についての理解を深める。	共同
	地域診断と地域活動		公衆衛生看護活動の基礎となる地域診断および、ダイナミックに地域ケアシステムを構築するための活動方法等について理解する。また、地域の健康に関連する情報を実際に収集し、それらを統合してアセスメントを行い、地域の健康課題と背景要因を明らかにして、公衆衛生看護活動を計画する力を養う。	
	公衆衛生看護活動論		小児期から高齢期、感染症、精神疾患、健康障害、健康危機発生時、産業、学校、島嶼等、公衆衛生看護活動が求められる多様な場における実践活動を概観し、場と対象の特性に応じた公衆衛生看護活動の展開について学ぶ。	共同
	公衆衛生看護活動論演習A		公衆衛生看護活動場面における必要な技術として、家庭訪問、健康相談、健康診査の活用方法を学ぶ。	共同
	公衆衛生看護活動論演習B		地区診断を行い、その情報から地域の課題解決へのアプローチへと展開する基礎的能力を養う。ライフステージ別や対象アプローチとしての事例検討を行い、事例を交えた活動技術の展開を学ぶ。	共同
	健康政策論		公衆衛生看護活動に関連する国や地方自治体の政策を学習し、地域における健康課題を解決するための健康政策のあり方について理解を深めるとともに、住民のニーズと生活環境をもとに、政策形成をするための保健師に求められる能力を養う。	
	公衆衛生看護学実習		行政看護学、学校看護学、産業看護学それぞれについて、千葉県内の保健所、市町村保健センター、小・中学校、企業等での臨地実習、および学内実習を行う。公衆衛生看護活動が展開される多様な場において、保健師の役割と機能の実際を学習し、個人・家族・集団・地域の健康を支援する保健師としての基礎的能力について理解を深める。	共同
専門科目群Ⅴ（助産師課程）	助産学概論		助産学の概念、意義、母子保健と助産の変遷・動向・諸制度・関連法規と助産業務との関連を学習し、助産師の役割、活動範囲、責務・機能・職業倫理への理解を深める。また、助産の対象となる女性、子ども、パートナー、家族の意思決定や生命倫理等について学び、より望ましい助産師のあり方と助産ケアについて考察し、今後の方向性を探求する。	共同
	周産期医学C		妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における代表的な疾患の病態と診断の根拠を学習し、異常経過における対処と治療を学習する。また、助産師として必要な新生児蘇生法について習得する。	共同
	助産診断・技術学A		産科学の病態生理を踏まえ、妊娠期における対象を総合的に捉え、健康診査に基づいた助産診断や助産過程を展開するための基礎的知識と助産技術について学習する。また、妊娠期における異常時の看護、救急処置などの基礎的知識と技術についても修得する。	
	助産診断・技術学B		産婦（分娩第1期～第4期）及び胎児・新生児（出生後24時間迄）の健康状態を診断し、出産が安全に経過するよう援助できる能力を養う。助産に必要な理論と基本的技術を習得する。	共同
	助産診断・技術学C		産科学の病態生理を踏まえ、産褥期における対象を総合的に捉え、健康診査に基づいた助産診断や助産過程を展開するための基礎的知識と助産技術について学修する。また、産褥期の異常についても学修する。	共同
	助産診断・技術学D		乳幼児の成長・発達、健康状態をアセスメントし、予防接種を含め正常からの逸脱を予防するためのケアを習得する。また、代表的な胎児期・早期新生児のハイリスクおよび疾患を学習し、保育器に収容された児への基本的な支援法について学ぶ。	
	助産診断・技術学E		助産活動を支える相談・教育の健康教育の意義、種類と方法・評価について理解し、対象のニーズに合ったアプローチ方法を学修する。また、家族計画に関する基礎知識を生かした保健指導の実際も学修する。	共同
	助産診断・技術学F		ハイリスク妊産婦や緊急時に臨機応変に対応できる実践能力を強化するために、ハイリスク妊産婦のアセスメントおよび援助技術について学び、実践できる基礎的能力を養う。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群Ⅴ（助産師課程）	ウィメンズヘルス支援論		女性の健康にかかわる専門家としてライフサイクル各期に応じた支援を行うための知識、身体的・社会的・心理的側面からみた女性の健康、倫理および人権に基づいた援助方法を学修する。	共同
	助産管理		助産施設の管理者としての施設管理、運営、助産師の役割について理解し、リスクマネジメントの視点から、助産業務管理の原理と技法について学ぶ。	共同
	地域母子保健B		子育て世代を包括的に支援するための社会的資源、他職種と連携・協働について学ぶ。特に生後4か月程度までの母子のアセスメントを行い、産後うつや児童虐待予防のための支援について学修する。	共同
	助産学実習A		妊娠・分娩・産褥期にある女性とその家族、新生児を受け持ち、継続的な関わりから個別性に応じた助産過程を展開することができる。	共同
	助産学実習B		分娩期にある女性とその家族および胎児・新生児の身体的、心理的、社会的健康状態に応じた助産課程を展開する。助産実践に必要な基本的理論・知識、技術、態度を習得する。また、産婦とその家族にとって満足感のある出産について考察する。	共同
	周産期の家族支援		母性・父性の心理社会的特徴を理解し、複雑化・多様化する家族における子育て支援のために必要な知識と社会資源について学修する。	
専門科目群Ⅴ（教職課程）	養護概説		養護教諭制度とその職務内容の変遷、養護教諭の職務の実際について概説し、養護教諭に求められる能力、専門的な機能と役割、養護実践に関する基礎的内容を検討する。併せてグループワークを通して、今後拡大深化する養護教諭の新たな役割について考究する。	
	教職論		現代日本の学校と教職の過去と現在について、歴史的社会的アプローチをおこなっていく。そうした理解をベースに教職への進路選択のために、今日の教員採用の現状と方法について確認しつつ、自己理解や目指すべき教師像について探求していく。特に日本や西洋の教育史で活躍の教師について、人物研究や文献を通じて理解をすすめる。あわせて教員の職務の基本について、特に学校教育法の規定を踏まえ多角的に事例を通じて考察し理解を進める。そして教育公務員としての在り方について、地方公務員法・教育公務員特例法をふまえ法律論的に正しく理解をすすめるとともに、災害や学校事故を克服するための学校の安全と教職の在り方について考察をすすめる。	
	教育原理		欧米における近代教育の成立と発展に関して、市民革命や産業革命と教育との歴史的かかわりをおさえつつ、近代学校に影響を与えた先駆的近代教育思想について理解を持ち、さらに現代教育に影響をあたえた新教育運動の教育思想について言及していく。そして第２次大戦後の日本国憲法に依拠した新たな教育の社会的原理や教育改革について考察していく。さらにユネスコが提唱し世界で受容されていった生涯学習論こそが、グローバル時代の教育原理であり、そこに基づきつつ日本のみならず各国での教育改革の進展も紹介していく。	
	教育心理学		本授業では「子どもの発達」と「子どもの学習とその指導」について基本的な理解を深めることを目的とする。特に「教育とは本来、個々の子どもに合わせた個別的行為ではないか」と仮定し、そうした視点から「授業」を考えてみる。具体的な達成目標として「子どもの発達を生物的にも心理社会的にも適切に把握し援助できる」「子どもの学習指導についてその個人差に応じて計画し、指導できる」ことをめざす。	
	特別のニーズ教育論		インクルーシブ教育が通常学級において進められている現状を踏まえ、特別のニーズのある生徒への支援の方向性について学びつつ、特別支援教育の基本的な理解することを目的とする。特に、通常学級に在籍する“特別の教育的ニーズ”をもつ生徒の基本的な理解を前提として、特別の支援を必要とする生徒に対する教育課程や支援の方法、特別の支援を必要とする生徒の障害の特性及び心身の発達、障害の有無に関わらず特別な教育的ニーズのある生徒の学習上の困難とその支援などを理解することを目指している。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群Ⅴ（教職課程）	教育課程論		現代日本の学校教育における教育目的に関して、教育基本法と学校教育法の教育目的規定を確認しつつ、教育課程の国家基準である『学習指導要領』の総合的理解のために、これまでの歴史的変遷や今回の改訂の背景や基本方針、さらに改訂のポイントや移行措置等について取り上げていく。さらに中学校や高等学校での教育課程の編成の実際についても事例研究を進めていく。あわせて教育評価の基準である『生徒指導要録』の改定とその要点について考察していく。そして今日の全国一斉学力調査やOECDの国際学力調査の内容や結果さらに教育課程改革の動向にも言及していきたい。	
	教育制度		近代社会における近代公教育の成立と発展につて、欧米と日本の歩みについて概観するとともに、現代日本の教育制度を方向つけている日本の戦後教育改革の内容と特色さらには1950年代以降の教育制度の再編について、日本国憲法や教育基本法さらに学校教育法をふまえ具体的に考察していく。そして今日の教育制度の諸側面（幼児教育・義務教育・中等教育・高等教育・特別支援教育・教育委員会制度等）に関して、制度の現状と今日的課題点の把握とともにそして改革の方向性について考察をすすめていく。	
	道徳教育の理論と方法		教員としてどのようにして道徳の指導にあたるのかという課題に対し、そのための知的準備と指導力の自信を育むことをめざす。学校で行われる道徳の指導に関し、歴史、法令、カリキュラム上の位置関係と、指導方法、副教材、学校内・外の教師たちの研修の在り方、子どもの道徳性の発達理論、今日の社会環境の変化と子どもへの影響関係、他の主要国の徳育のあり方や改革動向などを理解する。	
	教育方法論		教育実践のために必要な教育の方法および技術の知識・技能について理論的・実践的に考え、その成果を受講者各自が教育課題に適用する方法を見出すことを目標とする。学習指導者がよりよい授業を開発し実践していくため、教育情報をどのように取り扱っていけばよいのかの方法論を学び、教育情報の分析・解釈・創造・編集・表現・伝達や理解等の、教える心理や学ぶ心理についての理論と具体的な方法と技術の理解を深める。	
	特別活動と総合的な学習の時間		生徒の全人的成長を促すための教育活動としての特質を有する特別活動を指導するために必要な知識・理論、具体的な指導方法などを理解するとともに、各教科等の学びを横断的・総合的に探究し、自己の生き方を考えていく総合的な学習の時間の特質を踏まえ、往還的な探究学習を展開するに必要な知識・理論、具体的な指導方法などを理解する。	
	生徒指導		生徒指導の基本的なとらえ方、学習指導・教育相談との関わりについて幅広く学ぶ。そして、学校における児童・生徒の心理や状況を把握し、それらに応じた諸々の指導がどのように行われているのか、課題や対応の仕方について理解を深める。	
	教育相談（カウンセリングを含む）		現代の学校でおきている不登校、いじめ、非行などの問題を通して、思春期・青年期にある生徒に特有の心の特性を、教師として受容的・共感的に理解し、自ら乗り越えることを通して人格的成長を促す関り、態度を養う。また、教育相談の理論的・技術的な基本となるカウンセリングの理論と方法を学習し、生徒の相談に応じるための聴き方、傾聴的関わりを実践できることをめざす。さらにカウンセリングの基本となる考え方を自らの教育実践に生かすことのできる教師になることを期待している。	
	養護実習（事前及び事後指導を含む）		児童生徒の学校場面における健康管理、疾病予防、応急対応、保健教育、健康相談などの場に参加し、養護教諭の指導のもと活動することにより、児童生徒の成長発達と関係性構築の方法について理解を深め、養護教諭の機能と役割、養護実践活動における観察・判断・介入に関する実践能力を養う。さらに、事後指導においてグループワークなどにより、学校保健における今後の課題と養護教諭に求められる資質・能力について理解を深める。	共同
	教職実践演習（養護）		これまでに学習した教職・養護に関する科目で習得した知識・技術、養護実習で培った養護の実践能力と明確化した課題を整理統合し、自己の探究課題を見出す。探究課題をテーマとしてグループを形成し、課題探究のための活動（フィールドワーク・インタビュー等）計画を立案、実施し、結果を考察する。グループの成果の発表、教員としての社会性、対人関係能力、児童生徒の理解と支援、学校組織と保健室運営、健康管理活動における養護教諭の専門性の視点で討議する。	共同

授業科目の概要

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（健康科学部理学療法学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	アカデミック･スキルズ		授業内に求められる学習作法（ディスカッション、グループ学習、演習など）、予習、復習、授業課題など授業外で要請される学習作法に習熟する。 (a)批判的に読むこと−文と文、パラグラフとパラグラフとの論理関係を分析、把握する。 (b)批判的に書くこと−論理構成、課題提起、結論の明確な論述をなす能力（小論課題、レポート、期末論述試験、論文）。 (c)ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション。 (d)ノート・テイキング、記録、報告。 (e)学習関連資料調査法−(1)レファレンス、視聴覚資料、文化財含む図書館利用法、(2)オンライン資料調査法、(3)フィールドワーク、(4)資料整理、保存法。 (f)PC活用術−(1)文書作成、作表、計算、電子ファイル化、(2)通信、伝達の倫理と基本マナー。	
	自然科学概論		3.11以降、様々な科学用語と数値が報道され、我々は、その内容を理解し、判断する必要に迫られた。また、エネルギー問題を常に意識して生活することを余儀なくされた。現代社会はエネルギーを大量に消費することで成り立っている。エネルギー源として何を選択するべきかについても、市民レベルでの理性的な理解と判断が求められる。本講義では、科学的思考とは何かについて考え、エネルギーの問題を意識しつつ、現代科学が自然をどのように捉えているかを講義する。我々の住む地球、太陽系、天の川銀河から始まり、宇宙の構造・始まりと終わりに至るまで、人類の知の到達点についても触れたい。	
	生命現象の理解とその応用ー生命科学		生命科学は生命現象を科学的に理解し、その知見をもとに、医学や薬学だけでなく、食料をはじめとする資源の生産に応用される学問領域である。現代人の生活に大きく影響し、様々な意思決定の場で必要とされる知識を学ぶ。 （オムニバス方式／全13回） （20 国武陽子/7回） 生物とはどのようなものであり、「いのち」はどのような仕組みで成り立っているのか、生物の多様性はどのように生まれてきたのか、生命の本質を科学の視点から理解を深める。 （21 西口慶一/6回） 遺伝子工学や細胞工学などを中心に、ガン治療、生殖医療、ワクチン等予防医学などの先端的な医療や食糧増産技術など、我々の生活に活用されている生命科学の応用技術についての基礎知識を学ぶ。	オムニバス方式
	生物からみた環境の仕組み - 生態学		地球環境を理解するうえで重要な生態学（Ecology)の基礎を学ぶ。「自然」の仕組みとして生態系の構成要素やその機能、様々な生物の生活史（生きざま）を知り、生物の多様さ及び生物が我々の「環境」をどのように支えているのかを理解する。特に、このような多様な生物が進化したメカニズムの一つとして、生物が互いに影響を与える生物間相互作用の重要性に注目し、地球上の生物の進化のメカニズムへの理解を深める。	
	食環境論		食品衛生行政、食育、食中毒等について学び、「安全・安心な食」とは何かを考える。また、SDGs（SustainableDevelopment Goals：持続可能な開発目標）、フードテック、食品廃棄、プラスチック問題、食料危機等の近年の国際的な取り組みや課題について理解を深め、私たちを取り巻く食環境をどのように持続可能なものにしていけばよいのかを考える。	
	香りと環境		毎回、香りやにおいをテーマとした新聞記事を読み、異なる視点からその作用や役割を考える。授業の事前・事後で感じたことをワークシートにまとめる。また、香りに関する自身の経験を振り返ったり、香りを生かすアイディアを提案したりする機会を設け、香りやにおいがもつ可能性を探る。	
	身体の理解		運動生理学（骨・筋・神経・循環・呼吸・代謝）を中心に学習を進め、身体運動に関わる基礎知識の理解を深めていく。 （オムニバス方式／全13回） （12 栗原靖/6回） 骨・循環・呼吸・代謝・体温調節に関わる基礎知識の理解を深める。 （11 中尾英俊/7回） 神経・運動エネルギー・身体組成・栄養食事・加齢に関わる基礎知識の理解を深める。	オムニバス方式
	デジタルアプリA		社会で必要な情報活用技術として、文書作成、およびインターネット活用（サイト検索、メール）の方法を、パソコン演習を通して修得する。演習では毎回、各アプリケーションを利用した課題作成を行い、課題作成の中で、必要な操作の習熟を行う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	デジタルアプリB		既に情報機器、情報ネットワークについて基礎的な知識を有している者を対象として、コンピュータ利用の実践的利用方法について学ぶ。情報学の歴史的、技術的、理論的背景を元に情報機器を実際に運用しつつ、文書作成および表計算について学ぶ。	
	情報セキュリティA		インターネットを中核とするITが企業の活動に深く浸透することに伴い、適切な情報セキュリティの確保は企業が有効かつ効率的に活動するにあたっての前提条件となってきている。情報セキュリティを体系的に把握し、情報セキュリティにおける脅威や脆弱性、最新の技術動向、関連法制度、関連する情報システムなどを踏まえ、具体的な情報セキュリティマネジメントについて理解することを目標とする。	
	情報社会と情報倫理		指定したテキストに従って、情報法を俯瞰しつつ、「ビックデータ」、「サイバーセキュリティ」、「個人情報保護」、「情報通信と憲法」、「知的財産権」、「ネット上における犯罪とその規制」、「サイバースペースにおける表現規制」、「プロバイダの法的責任」、「電子データの真正性と完全性」、「行政手続のオンライン化とその法規制」および「ネットセキュリティの法制化」など特定のテーマについて深く議論していく。	
	人工知能論		近年話題になってる機械学習/AIに関わる様々な知識を身につけ、今後のITで実現できるであろうことを想像できるようにします。	
	データサイエンスI		本講義は、文科省「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」の内容に準拠している事前の統計学や数学、またExcelの知識は仮定しない。データサイエンスに興味のあるものや、Excelによるデータ演習に興味のあるものの受講も歓迎する。	
	データサイエンスII		本講義は、文科省「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」の内容に準拠している。事前の統計学やプログラミングの知識は仮定しない。統計学やプログラミングに興味のある初心者の受講を歓迎する。	
	モデル化とシミュレーション		社会現象、自然現象を数理的に捉え、分析し、適切なモデルを立案してコンピュータによりシミュレーションを行うための基本的理論を学ぶ。コンピュータシミュレーションが問題解決のための有効な手段であることを理解する。	
	プログラミングA		プログラミング言語にはさまざまな種類があるが、その中でも特に基本的で重要である C 言語の基礎をこの授業では取り扱う。前半はプログラミングの概要やプログラムの書き方、文字列の表示、変数の使い方などの基礎を学び、後半は分岐処理や繰り返し処理について学ぶ。	
	アルゴリズムA		情報機器（ハードウェア、ソフトウェア）を自在に活用するためには、アルゴリズムの理解が必要不可欠である。特にプログラミングでは必須の知識となる。アルゴリズムの知識があれば、ワープロや表計算ソフトウェアにおいてもマクロプログラミングを行うことにより、高度な処理を実現することができる。ビジネスの現場で効率的に仕事をこなすためには身につけておくべき知識である。本授業では、初心者を対象にアルゴリズムの基礎理論を教授し、一歩進んだ情報機器の利用能力を身につける。	
	情報システム論		Chat GPT、Adobe Firefly、Adobe PhotoshopなどのGenerative AI（生成AI）を実践的に学び、技術的スキルを身につける。Generative AI（生成AI）によるクリエイティブな企画や表現を学ぶ。 Generative AIは、テキスト、画像、音楽、ビデオなど、さまざまな形式のコンテンツを生成することができる。新しい企画・広告・物語・商品などのコンテンツを創る際の有力なブレーンストーミング・ツールであり、活用できるように学ぶ。ソーシャルメディアやGenerative AI（生成AI）が引き起こす倫理的・社会的な課題への対応： ソーシャルメディアやGenerative AIの使用は、著作権侵害、プライバシーの侵害、誤情報の拡散といった倫理的・社会的な問題を引き起こす可能性がある。これら課題を理解し正確に活用できるように学ぶ。インターネット、スマートフォン、ソーシャルメディア、Generative AI（生成AI）が、多くの経済的・社会的な変革を引き起こしており、これらの変革の真髄を理解する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	統計学		統計的なものの考え方を理解し、統計データ解析のための基礎的な手法を習得する。 １．記述統計の基礎：統計データは数字の集まりであり，そのまま眺めていても全体の傾向は見えてこないが，平均値，グラフ化などの統計処理を行うことにより，データの特徴を把握することができる。統計データの記述・整理の方法の基礎を習得する。 ２．確率変数と確率分布：統計的推測においては、統計データの発生メカニズムに対して、様々な統計モデルを仮定する。統計モデルを定式化にするために必要不可欠である確率変数と確率分布の基礎を理解する。 ３．推測統計の基礎：統計的推測とは、サンプルデータに基づいて母集団分布に関する推測を行うことである。統計的推測には、母集団分布の特性値を推定するための方法（統計的推定法）と母集団分布に関する仮説を検証するための方法（統計的検定法）がある。特に、母集団分布として正規分布と二項分布を仮定した場合における統計的推定法の基礎を習得する。	
	データ分析の基礎(解析)		この授業では、あらゆる分野において重要な基礎となり得る解析学について、特に微分法および積分法について学ぶ。前半は微分法および積分法を学修する上で必要な知識となる数列とその極限について学び、後半は微分法および積分法の意義や役割について学ぶ。学修した内容についての理解を確実なものにするため、授業内の要所要所で例題や練習問題を解いてもらいながら授業を進めていく。	
	データ分析の基礎(線形代数)		この授業では、あらゆる分野において重要な基礎となり得る線形代数学について、特に行列の取り扱いについて学ぶ。前半は行列を用いた連立1次方程式の解法について学び、後半は行列の演算、逆行列、行列式、さらにはそれらの応用として産業連関分析やMarkov 連鎖について学ぶ。学修した内容についての理解を確実なものにするため、授業内の要所要所で例題や練習問題を解いてもらいながら授業を進めていく。	
	インターネット配信		近年、一気に普及したインターネットによる動画配信は、これまでのテレビや映画といった従来の動画の枠を超え、またネットにおけるSNSの活用などとも相まって、新たな表現形態・特性を持つメディアとして進化・成立しようとしています。従来のメディアの影響を受けつつも、それらの枠を軽々と超えていく動画配信について、専用機材や汎用機材の活用を通じて、特に生配信コンテンツを実際に制作・発信していく過程を通して理解を深めます。	
	観光の現在と未来		本講義は、観光学の入門講座として、観光における基礎的な事象を網羅的に学ぶことが目標である。講義を通して、人の移動の歴史を紐解き、人の移動が世界を動かしてきた事実の再認識を行った上で、観光の多様性、多面性を理解し、観光と社会の関わりについて学修する。社会学や人類学、心理学などの切り口から観光を学ぶとともに、地域社会に存在する様々な観光の要素（芸術、健康、自然など）や、観光と社会の様々な関わり（ビジネス、まちづくり、メディア）についての事象を取り上げ、観光学への理解を深めることが目的である。	
	ヘルスツーリズム		①ヘルスツーリズム（狭義）、セラピーツーリズム、メディカルツーリズムの概念、特徴、歴史などの基礎知識と関する先進事例への研究及び②様々な実践を通して、自分のライフスタイルを点検し、日常生活において健康を留意して、③広義のヘルスツーリズムが目指すものを総合的に理解すると同時に、④ニューツーリズム発展の観点から、ヘルスツーリズムの現状や課題及び問題の解決方法を学ぶ内容となっている。	
	社会心理学		本講義ではまず、自己概念や自己意識などに関する捉え方を学ぶことで私たちが他者から影響を受けていることを理解する。その上で、対人認知や印象形成など他者をどのように認知するのか、他者とのかかわりはどのように作られていくのかということについて心理学的な観点から理解していく。さらに私たちが集団の中でどのように行動するのか、集団における心理についても理解を深める。	
	生活と文化		私たちは古来から育まれてきた日本の文化を受け継いで生活している。また、日々の生活を通して日本の文化、地域の文化、家族の文化を紡いでいる。授業では、共生社会の基本的理念と課題を学び、少子高齢社会の市民生活の動向とライフスタイルの変化を考察し、具体的事例を通してその方向性と課題について、講義および振り返りによって理解を深める。	
	生涯スポーツ概論		生涯スポーツとは、生涯にわたって生活の質が向上するように個人のライフスタイルに適した運動・スポーツを継続して楽しむことである。本授業では、主にスポーツ科学的な観点から運動・スポーツの必要性に対する理解および運動・スポーツを行うため基礎知識の習得を目標とする。運動・スポーツの必要性では、健康・体力について考え、生活習慣病予防のための運動プログラムを学ぶ。また、運動・スポーツを行うための基礎知識では、身体の構造と機能について学び、エアロビック運動とアネロビック運動の理論と方法を学習する。この授業を履修することにより、健康のために必要な基本的な運動プログラムが作成できる能力を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	スポーツ社会学		現代スポーツの話題として、スポーツマンシップ、ドーピング、スポーツ指導のあり方、障がい者とスポーツなどを取り上げる予定である。	
	ボランティア論		この授業では、地域もしくはコミュニティ、ボランティアというキーワードが含みもつ意味を整理した上で、日本における地域社会やボランティアの現状について精査していく。次いで、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉など福祉の各領域において展開するボランティア、環境ボランティアや災害ボランティアといった様々なボランティアの意義をコミュニティという文脈において整理してみる。最後に地域において展開されるボランティア活動をどう支援し、とりまとめていくかという視点を示し、今後の地域社会におけるボランティアの可能性を考察する。	
	コミュニケーションの基礎		現代社会における「コミュニケーション」の重要性は日々高まっていますが、「コミュニケーション」とはそもそもいかなる概念・行為として定義できるのでしょうか。また、コミュニケーションはそれ自体単独で存在するものではなく、他者や「メディア」の存在を抜きに論じることはできません。本講義では、コミュニケーションを成立させる存在や情報環境を論じるとともに、20世紀半ば以降から現在に至るメディアを通じたコミュニケーションがどのように実証的に捉えられてきたのかを個別の事例とともに取り上げ、現代のコミュニケーションに対する基礎的な視点を獲得することを主眼とします。	
	域学共創プロジェクトA		アール・ブリュットとは、「生の芸術」と言われる、芸術の教育を受けていない人々のアートを指す。今回、「生の芸術」を手掛けるのは、地域で生活されている、障害のある方々である。かつて、障害をもつ方々は、私宅監置や長期入院が強いられ、社会から隔離された時代が長らく続いた。昨今、ようやく、彼らが地域で生活できる社会が築かれつつある。障害のある方々が地域で安定した生活を送るためには、地域との「つながり」が重要であり、安心できる「つながり」は、コミュニティケアとも言える。 自身の思いを表現することが難しい彼らの、アール・ブリュット（生の芸術）を通して、障害のある方の「生」と、学生・地域が「つながる」ことを目的とした、地域共生社会の実現に向けた展覧会である。	共同
	域学共創プロジェクトB		本プロジェクト型授業は、地域調査(フィールドワーク)、展示の企画・立案(グループワーク)、展示の検討(グループワーク)、展示の運営、検証、報告といった一連の流れを通して観光人材が身につける表現力について学びます。	
	域学共創プロジェクトC		現在、社会全体ではデジタル化が進んでいるが、デジタルデバイド（情報格差）が生じている。デジタルデバイドをもたらす要因は、所得や年齢、住む地域、人種や教育の違いなど、数多く挙げられるが、とりわけ高齢化が進む日本においては、若者と比較的インターネットに触れる機会が少ない高齢者との間にあるデジタルデバイドに対する課題意識が高まっている。そこで、本プロジェクトにおいては、インターネットに触れる機会の多い学生をデジタルコーチとして、デジタルシニアを育成していくプロジェクトである。デジタルは手段であり、学生、教職員、高齢者すべての人が幸福（well-being,生活満足度、QOL向上）になることを目的としてプロジェクトを展開する。	共同
	域学共創プロジェクトD		東金市が進めているオリーブの地域ブランド化に対し、本科目は様々な形で応援していくプロジェクトです。具体的な取組テーマは、「オリーブ収穫体験の企画・運営」「大学祭イベントの企画・実行」「オリーブクラウンの制作・提供」などです。地域の課題を見つけ、解決策を提案し、実践することを通して、課題発見問題解決力を身につけます。オリーブに興味がある学生、地域を元気にするアイデアを持つ学生の参画をお待ちしています。	共同
	域学共創プロジェクトE		本授業は、地域共生の価値を学び、地域共生社会の実現に向けた課題解決に取り組むプロジェクトである。 プロジェクトでは参加学生一人ひとりが主体的に行動し、異なる背景を持つ多様な人々、例えば、他学部の学生や、企業・地域の方々などと協働する。また、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。 今回取り組むのは「川代棚田共育プロジェクト」で、これは福祉総合学部「世代間交流と学びから考える地域協働」の研究活動を引き継いだものである。具体的には、学校法人城西大学創立者水田三喜男先生の故郷である千葉県鴨川市を訪問し、棚田での活動を通じて、地域課題の解決策を探求する。日本の田植え文化は地域ぐるみの助け合いの象徴であり、農作業は協力と連帯の精神を必要とするため、ここでの「共育」で互いに学び合い、成長し合うことを目指す。その際、建学の精神である「学問による人間形成」を体感するとともに、SDGsの目標に沿った社会貢献を実践する。	共同
	域学共創プロジェクトF		学内で、地域での健康増進活動に必要な知識・技術の学習を行うとともに、地域に顕在する課題を解決するプログラムを立案、実施する。この実践活動を通してプロジェクトマネジメント力を醸成する。また、理学療法だけでなく、多領域の視点を持ち、様々な視野を取り入れて課題を解決することで知識の多様性を図る。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトG		本プロジェクトは、「ケア機能のあるまちづくりー多世代交流プロジェクトー」をテーマとし、主に学童保育・クラブ（防災かるた普及活動の企画と実施）のフィールドで活動する。（子どもに合わせた防災かるたへの改善や、手話・外国語などの災害時に必要な伝達方法についても、検討することを考えている） 地域コミュニティにおいて人と人とのつながりが希薄化している課題に注目し、地域のコミュニティづくり・活性化に向けてコミュニティの力を発見し、多世代交流を通して相互にケアし合う世代間相互依存関係を育む新たなまちづくりを考える機会とする。	
	域学共創プロジェクトH		東金市で古くから行われている祭りや伝統芸能について、実際にそれに関わっている街の人々から学ぶ。また実際に祭りに参加することにより、祭りと地域、人々と関わりについて理解を深め、人々との触れ合いを体感することにより地域の一員としての意識を高める。	
	域学共創プロジェクトI		本授業において到達の目標とされる項目は以下のとおりである。 １．地域・社会の課題に興味を持つことができる。 ２．地域の自然環境に興味をもち、自分事として考えることができる。 ３．地域の課題を解決に貢献できる実効性のある行動の計画を立てることができる。 ４．地域の様々な人と積極的にコミュニケーションをとることができる ５．他の学生や地域の方々と協力してプロジェクトを進めていくことができる。 ６．プロジェクトの背景を理解し、実行したことをプレゼンテーションできる。 テーマ：東金・山武を中心とする千葉県内の自然環境の保全及び、農業などの一次産業に関わる複数のプロジェクトを年間 を通じて実施する。地域に貢献し、地域で学び、活動を通じて自らの力を養う。	
	域学共創プロジェクトJ		スポーツツーリズムを行なっている地域の現状と課題を事前調査研究し、実際に現地での体験や視察を通して、プロジェクト運営能力等を養う。	
	史学概論		先ず、歴史を研究するとはどんな行為なのかについて考える。事実と史実と真実の違いはなにか。 次に、日本以外の地域の歴史のなかから、いくつかのテーマを選んで、人類の歩みにおける因果律について考察したい。 政治史を主としながらも、その裏にある、テクノロジー・経済活動や思想・宗教といった要因を重視して、人類社会の発展を概観する。	
	日本史を学ぶ		本科目は、日本の古代から中世、近世を経て、近代、現代へといたる歴史の展開について、いくつかのテーマを設けて講義を行う。近代から現代にいたる政治史についての講義が多くなるが、社会史や文化史などのテーマも適宜取り上げたい。この受講によって、学生は、近代史が中心になるが、日本の歴史の基礎的な流れを理解できるようにすることを目指すとともに、今後の日本と世界のかかわりを考える力をつけることを目指す。	
	アジア史概論		地形・気候・植生・生態の面からユーラシア大陸と西太平洋地域の全体を先ず理解し、その上で東アジア地域について詳しく検討する。古代と中世については、単なる王朝交代の政治史だけではなく、社会経済史や文化史の側面に目を配り、中華文明と王朝制度の変遷を辿っていく。近世から近代にかけては、ヨーロッパ勢力のアジア進出と「中国史の世界史への組み込み」の過程を丁寧に追っていきたい。現代については、中国・日本・アメリカ・ロシア・ヨーロッパ諸国の相互関係が中心的な話題となろう。	
	現代史入門		授業のテーマについて講義で解説し、内容を理解するために必要な、歴史的背景、情報、知識を伝える。内容に関連した映像等を講義の中で紹介することもある。	
	房総の文化と歴史		千葉県すなわち「房総」、及び東京都区部すなわち「江戸」の地理的、歴史的、文化的な枠組みや特色等について、原則として歴史的な時間軸に沿う形で学修する。 併せて、各自が関心を持つ「地域」の特色や課題の掘り起しに必要な視点等も取り上げ、各自の自主的な資料調査等への取組みを通して、「地域」に関連する問題意識を深めていく。	
	映像メディア史		映画が誕生してから約１２０年、現在、私たちの生活に欠かせないものとなっている映像メディア。その誕生から現在まで、世界はどのようにして映像メディアを利用、活用してきたかを探る。娯楽としてだけではなく、ニュースや報道、またプロパガンダ、広告などにも利用され、映画だけでなく、テレビやミュージックビデオなど幅広く進化を続けている。そうした映像メディアの動きを１２０年の世界の歴史に沿いながら解説をしていく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	音楽史		ポピュラー音楽の歴史的展開の概説およびジャンルごとに取り上げる作品を鑑賞し、作品の特徴、作品成立の時代について学ぶ。	
	政治学入門		第一に、民主政治における権力の意味を知り、権力抑止の必要性について学ぶ。第二に、アメリカの大統領制の特質を日本の議院内閣制と比較しながら学ぶ。第三に、現代アメリカ政治における分極化の背景を学ぶ。但し、受講生の理解度に応じて、授業計画の項目を精選する。	
	経済学入門		日常生活の中で多くの経済的行動をし、経済現象に接している。このような行動、現象を自分の言葉で正しく説明しようとすると、意外と難しい。それは、経済学的な考え方や理解力が身についていないからである。授業は、このような経済的行動・現象に対する理解・解釈能力を養うことをねらいとする。そのため、講義は経済学の入門知識としてマクロ経済の仕組みを中心に進める。各種時事問題や関心話題を取り入れて進めていく。	
	社会と経営		企業経営を学ぶための基本的領域としては、経営戦略、財務会計、組織、マーケティングなどがある。本講義では、これらの要素を「企業価値」のアプローチで解説してゆく。具体的には「株主にとっての企業価値」「従業員やその家族にとっての企業価値」「顧客にとっての企業価値」「取引先企業にとっての企業価値」の視点から企業経営の基本と社会との関わり方を学ぶ。SDGｓや事業承継など今日的なトピックスにも触れる。	
	社会と会計		会計は、経済社会を生きていく上で不可欠な知識である。本講義では、会社の会計数字から何がわかるのか、またどのように読み取ったらよいのかについて学習する。本講義を履修することによって、「薄利多売」、「黒字倒産」や「会社が儲かる仕組みをどのように作るのか」などが理解できる。	
	マーケティング論		本講義では、大きく２つのパートから構成される。最初に、マーケティング戦略の基礎を学び、ビジネスにおける戦略の意味や働きについて理解を深め、戦略的思考とは何かを体得してもらいたい。続いて、マーケティングを実践する当事者の視点や立場から顧客価値とは何か、またどのように提供するかといった実践的課題について考えていく。事例を出来る限り豊富に取り上げ、一緒に紐解きながら、理論とそれらの実践について追体験ができるよう努めたい。また、今日的なテーマについても時間の許すかぎり取り上げたい。	
	広告戦略論		広告業界というのはどのような役割を持った人たちが、どのようなビジネスの仕組みの中で働いているのであろうか。そして広告が完成するまでの流れはどうなっているのであろうか。特にマスメディア業界の概要を中心に、最新のデジタルメディアの状況や広告会社のコンテンツ戦略まで踏み込んで学習する。広告代理店、広告制作会社など、広告関連業界に興味があり、将来的に進みたい業界の一つだと考えている学生には是非履修してほしい講座である。	
	社会学		単なる生き方指南に堕さないために、家族の恒常的変化と多様性の認識は変わらない底層として、もう一度ニュートラルな視座から「家族」をとらえなおしていく。この視座を身につけることを通して、患者や家族のライフコースに寄り添う援助者としての生涯にわたる態度形成のための「気づき」を提供していく。	
	社会調査		この授業では、前半で社会調査に関する基礎的な知識を理解し、作業を通して実践的に調査法を学ぶ。その作業を通じて、複雑な社会の現実を思い込みにとらわれずに理解するために、客観的な情報を取り出す方法として社会調査という方法を体感する。誰もがデータを扱って、読み解く力が求められる時代にふさわしい力を習得する。	
	法律学概論		法律について一通りの常識を身につけておく必要があることを念頭に、法とは何か、法と裁判、国家と法、家庭生活と法、企業法、財産法等の基本的なテーマについて、身近な事例をとりあげながら、講義する。	
	日本国憲法		日本国憲法の理解を通して国政全般の基本的枠組みを知る。その際、国の統治機構や地方自治制度、現行憲法が掲げる基本原理（たとえば、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義等々）の考察をなし、その全体像の把握に務める。さらに、現行憲法制定の背景を探ることにより、昨今、話題の護憲・改憲論にも論究する。	
	著作権		まず著作権の概念や目的の基本を理解する。著作物とは何であるかを理解した上で、著作権の役割や目的の理解をさらに深めていく。その後、現代における著作権の問題点や今後の展開なども含めて具体例や実例を挙げて考察していく。	
	社会福祉学A		21世紀の福祉社会を生き抜くためばかりでなく、援助職にあるものにとって不可欠な人間観、死生観、社会観、福祉観が身につくように福祉社会のありようを深くとらえる視点から、福祉社会の思想、視点と枠組みおよびその発展について学んでいく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	社会福祉学B		本講義では、社会福祉の原理に関する内容を整理し、社会福祉の歴史、思想、哲学、理論、現代の社会問題とその構造的背景、福祉政策の基本的視点、ニーズ・資源を学ぶ。さらに、ソーシャルワークの専門職として個人、家族、集団、地域、社会、世界のウェルビーイングの実現・向上を目指すため、福祉政策の理論や理念、歴史に関する基本的内容と、今日的な展開、動向、課題について事実や現状を身に付けるようにする。	
	経営情報基礎論A		ICTの進展に伴い、企業における情報化が深化してきている今日の社会において、企業が競合相手との競争に勝って生き残るためには情報化が必須条件となっており、われわれ一人一人がICTの利活用のための知識やノウハウを修得することが求められている。この授業では、経営情報学部での学びにおける基礎、特に、情報システム技術の基礎について学修する。ITパスポート試験で出題される大分類項目のうち、基礎理論、コンピュータシステム、技術要素に関する問題の70%以上を確実に正解できる能力を身につけることが到達目標である。	
	世界遺産のいま		世界遺産の魅力と課題について、多角的に紹介するとともに、自然環境や文化財の保護にあり方について考える講義とする。	
	美学･芸術学		現代商業社会における「美術」や「芸術」の多様性を確認する。即ち、諸ジャンルの作品創出・制作には、歴史相、享受階層、社会経済関係、技術的条件等が関り社会的に造られている実態があることを確認する。この多様性の確認の上で、先行する学問的分析手法や理論の助けにより、作品創造・享受の理念を問うことを通して、「芸術」ならびに「美」に関する人類的共通基盤の可能性を考察する。	
	表象文化研究		本授業では歴史上の様々な視覚表現の変遷を「ヴィジュアル・カルチャー」として広く考察する。その変化が最も明瞭ともいえる西洋美術史の発展を中心に、音楽や建築、印刷技術などにも触れながら横断的に表現の歴史を学び、教養を高める。史学的な視点に加え、絵画制作の実技におけるテクニカルな部分にも触れていく。また、自身の表現や興味が歴史上どの文脈に関係しているかを考察し、言語化する力を身に付けることを目的とする。	
	世界の文学		本講義は幅広い教養を育むための「全学部共通基盤科目」の一つであり、「世界を創造する」というカテゴリーに属し、文学を全人的に体験して創造力を高めることを広い意味での目的としている。従って本講義の到達目標は、読書体験（他には視聴体験）を通して、多種多様な「世界の文学」に触れて教養を育むと共に、個人の創造力を高めることにある。文学は小説・物語・詩・短詩（和歌・短歌・俳句・川柳なども含む）・童話・民話・児童文学・劇作・評論・警句集などの総称である。文学作品の大部分は文字で記載されており、主に読書を通して、時には視聴したり、自ら創作（執筆）するなどして体験して味わうものである。観念的に文学全般を論じても、畳の上の水練（畳の上で水泳の練習をすること）のようなものに過ぎなくなる。そこで、水泳でまずは水に親しむことが重要なように、本講義では古今東西の様々なジャンルの作品を読んだり、視聴するなどして、体験してもらう。受講生は講義終了時には30を超える文学作品に接することになる。その上で、受講生には自分自身の文学観や文学を通しての世界観・人間観を培ってもらいたいと思う。	
	演劇研究		本講義では、日本および海外の主要な演劇作品と作家を切り口にして、演劇の成り立ちを理解するとともに、演劇の持つ力、社会における役割を分析していく。演劇を知るには実際に観るのが一番。その手掛かりとなるよう、講義の中で可能な限り映像資料を視聴し、最新の演劇事情を概観しつつ、各自の演劇体験などをディスカションしていきながら、多種多彩な演劇作品に触れていきたい。	
	古典芸能研究		伝統芸能の一つである落語の歴史と現在について学び、口承文化の継承と変容について考える。また、落語を通して、古今の日本人の物事の見方や捉え方について理解を深めることを目標とする。落語の背景や歴史、落語の発生、変容、寄席の成立、中興の祖、昭和落語史、現代の落語に加え、枕、本題、古典落語、新作落語、寄席、ホール落語、亭号、おはやし、太鼓、寄席文字、色物などの意味を理解する。古典落語から学ぶものとしては、江戸の時間、江戸のお金、遊郭、芝居噺、滑稽噺、怪談噺、人情噺などがあげられる。新作落語から学ぶものとしては、大正昭和の新作落語、現代の新作落語・落語の体験などを通して理解深める。	
	文学を読む		本授業は、オンデマンドによる開講である。日本の近現代文学において人や社会がどのように描かれているか、表現と内容の両面からみていくことで小説を読む力を育む。履修者自身が作品の全編を読み通すことを重視し、比較的入手しやすい短編を取り上げる。作品について基礎的な解説を行ったうえで、文学理論の基礎的概念を導入しつつ、読みを例示する。内容については、生死、家族、運命といったテーマを設けて人間や社会のありようについて考える機会を提供する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	教育学		教師として子どもの発達を支援するには、どのような知識が必要となるのか、また、後半では、子どもの学習を促すには、動機づけやわかる授業をどうおこなうかを考えながら学習をすすめる。	
	心理学		将来、医療、福祉等の職に就く者が、心理学の基礎的な知識を得ることで、現場において直面するであろう様々な課題や問題の解決策を考える際に多面的なとらえ方ができるようになることを目指し、理解を深めていく。	
	基礎の数学		授業は、オンデマンド用の録画を視聴する演習方式で行う。受講者は、動画を視聴するための電子デバイスとインターネット環境、計算を行うための紙と筆記用具が必要となる。毎回の授業では、講師はまずその回のトピックと例題について簡単に解説をする。受講者は出題された演習問題を1問ずつ解き、講師はそれらの問題の解説を行う。	
	ジェンダー論		世界で女性解放運動（フェミニズム）がどのように展開し、女性学やジェンダー研究へと結実したのかを理解する。また現代日本においてジェンダー平等がどの程度達成されているのか、いないのかを多様なデータをもとに理解する。家庭や職場、学校、地域社会など、様々な局面でのジェンダー問題を数値や具体的事例をもとに捉えて理解し、問題を解決していくための方策を考える。	
	根拠への問いー哲学へのとびら		本授業では、オンデマンド講義ファイルを視聴することを通してみずから問いを引きうけ、問いを展開していくことを、受講者ひとりひとりが学びとして進めて行く。毎回、みずから自分自身を振り返って、気づいたことをまとめ、自分なりに問いを一歩でも先に進めることを試みる。受講者自身、答えを出さなければいけない学び、教師と称する立場の者がすでに隠し持って、定めている正解を求め暗記して復唱する学びから、自らを解放し、いかに問いそのものを明確にできるかをこころみる。	
	異文化適応論		この授業では、異文化コミュニケーション学、第二言語習得及び社会心理学の諸分野の視点から異文化適応を考えていく。具体的には、まず、文化や適応などの基礎概念を導入し、異文化体験により生じた不適応の実態と要因を紹介する。次に、カルチャーショックの諸相、U字曲線の適応、W字曲線そしてらせん型の適応について解説する。さらに第二言語コミュニケーションはどのように異文化適応に影響を与えるのか、適応するための相手との違いへの気づき、そして自分自身を知ることなどの大切な知覚要素を取り入れる。最後に適応の条件を紹介し、異文化適応は成長の過程でもあることを認識し、少しでも異文化適応力を身につけることを期待する。	
	宗教学概論		日本人は無宗教とされますが、寺院数だけでもコンビニの総数を上回ります。多文化共生が叫ばれますが、文化と宗教の関係は密接です。本講義では一見すると宗教とは無関係なアニメ・マンガなどからも「宗教」を問います。また、「宗教」からさまざまな現代問題に迫ります。現代人に必須な一般教養として「宗教」を講義します。	
	倫理学概論		倫理学の現代的課題を理解し自らが倫理学の人類的遺産を活かして日々社会的倫理的実践に生きる。具体的には、「善」や「正義」ということがらは、個人や文化によって異なるとか、数学や論理学のような明確な答えがないとか、そのような理由で、道徳的指令集としての「倫理学」が否定されてきている状況を理解した上で、自らが日々、倫理的、政治的、宗教的に中立的であり得ているのか再吟味する。その上で、21世紀におけるみずからの地域社会、市民社会、国家、世界共和制における顕在的、潜在的な現実的コミットを、哲学、倫理学の歴史的な英知を基に、自分自身で再構築して、日々自覚的に実践的世界を生きることを追究する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	スポーツ科学A		本授業ではスポーツ実技を行う。スポーツ種目は、競技スポーツ、レクリエーションスポーツ、アダプテッドスポーツから複数の種目を選択して行う。また、スポーツあるいは体力づくりに関連するスポーツ科学の知識を学習し、安全かつ適切な方法でスポーツ・運動を実践する習慣を身につけるようにする。	
	スポーツ科学B		スポーツは、我々の生活を楽しく豊かなものにしてくれる。ところが、スポーツを定期的に行う者は大学入学頃から減少し、その結果、学生のなかには青年期に必要な体力を喪失している者も存在するように思われる。本授業では、主に球技などチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得の４点をねらいとして展開していく。スポーツ種目は、フットサル、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、インディアカ、インディアカテニス、アルティメット、テニス、ソフトボール、レクリエーションまたはアダプテッドスポーツなどから複数行う。	
	しゃべりのスキルUp Ⅰ		コミュニケーションや対話の基盤をなす言語能力は、生きていく上で欠かせないスキルである。加えて目まぐるしく変化を続ける状況を的確に言葉にし説明する力、自身の意見を魅力的に表現する力は、仕事の効率を高め、そのクォリティーを上げる。社会生活のために必要な「言語能力」を今一度見直し、より正しい情報収集力、その情報を元に繰り広げる思考力、そしてそれらを的確に伝える有効な表現力を身に着ける事をこの授業の最終目的 としている。プレゼン、面接等でいかに説得力のある言葉を選び、自身の中にあるイメージや考えを言葉にするか。すべての学部生にとって必要な「しゃべりのスキル」向上を目指す。	
外国語科目群	Fundamentals of English Ⅰ		英語の基礎となる「読む」「聞く」「書く」「話す」の４技能の基礎を習得するための授業である。英語による「コミュニケーション能力」「文化的知識」「アカデミックスキルズ」などの習得を図るため、ペアワークやグループワークを多く取り入れるとともに、オンライン課題に取り組むことによって実践的な運用能力の習得を図る。	
	Fundamentals of English II		この授業は、「Fundamentals of EnglishⅠ」で身に付けた英語の基礎となる４技能をさらに発展させるための授業である。英語による「コミュニケーション能力」「文化的知識」「アカデミックスキルズ」などの習得を図るため、ペアワークやグループワークを多く取り入れるとともに、オンライン課題に取り組むことによって実践的な運用能力の習得を図る。	
	Oral Fluency Ⅰ		この授業は、英語によるスピーキング、会話、ディスカッション能力の向上を目的とする。ペアワークや小グループで会話やディスカッションに取り組むとともに、会話やディスカッションに応用できる表現や語彙を身に付ける。	
	Oral Fluency II		この授業は、「Oral Fluency Ⅰ」で身に付けたスピーキング能力をさらに発展させるための授業である。英語によるスピーキング、英語によるスピーキング、会話、ディスカッション能力の向上を目的とする。ペアワークや小グループで会話やディスカッションに取り組むとともに、会話やディスカッションに応用できる表現や語彙を身に付ける。	
	TOEIC Preparation A		この授業はTOEICテストのスコアアップを目的とする。特にリーディングとリスニングセクションに焦点をあて、テストに関連する文法と語彙の定着・向上に取り組む。模擬テストを定期的に行い、各パートの出題傾向を把握し、問題に取り組むためのテクニックを実践する。	
	TOEIC Preparation B		この授業はTOEICテストのスコアアップを目的とする。特にリーディングとリスニングセクションに焦点をあて、テストに関連する文法と語彙の定着・向上に取り組む。模擬テストを定期的に行い、各パートの出題傾向を把握し、問題に取り組むためのテクニックを実践する。 このオンデマンドコースは、受講者のTOEICの総合的なスコアの向上を目的としています。TOEICテストのリスニングとリーディングセクションに焦点を当てた指導を行い、テストに関連する文法や語彙の向上、リスニング戦略の開発、そしてより高いスコアを獲得するために必要なTOEIC特有のテスト対策スキルの強化に特に重点を置きます。	
	TOEIC Preparation C		この授業はTOEICテストのスコアアップを目的とする。特にリーディングとリスニングセクションに焦点をあて、テストに関連する文法と語彙の定着・向上に取り組む。模擬テストを定期的に行い、各パートの出題傾向を把握し、問題に取り組むためのテクニックを実践する。 このオンデマンドコースは、学生のTOEICスコアの全体的な向上を目的としています。学生は模擬TOEICテストを定期的に受けることで、一般的に使用される文法や語彙に慣れ、TOEICテストに適用できるリスニング戦略を開発します。	
	TOEIC Preparation D		この授業はTOEICテストのスコアアップを目的とする。特にリーディングとリスニングセクションに焦点をあて、テストに関連する文法と語彙の定着・向上に取り組む。模擬テストを定期的に行い、各パートの出題傾向を把握し、問題に取り組むためのテクニックを実践する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目群	English for Specific Purposes A		この授業は、小規模な聴衆に向けて英語で自分の考えや意見を明確な構成で伝える能力を目的としている。日常的なトピックに関する様々なアイディアを探求し、トピックに基づいた語彙、プレゼンテーションフレーズ、意見のまとめ方を学び、トピックに関するプレゼンテーションやレポートの作成により実践的な能力を養う。	
	English for Specific Purposes B		この授業は、小規模な聴衆に向けて英語で自分の考えや意見を明確な構成で伝える能力を目的としている。より高度なトピックに対するアイディアを探求し、トピックに基づいた語彙、プレゼンテーションフレーズ、意見のまとめ方を学び、トピックに関するプレゼンテーションやレポートの作成により実践的な能力を養う。	
	English for Advanced Studies A		リスニングとディスカッション中心の総合的な英語能力の習得を目的とした授業で、心理学、メディア研究、科学、人文科学の4つのテーマで構成されている。事前学習として、各自テーマについて調べ、授業ではテーマに関する興味、語彙、知識を深めるための実践的なアクティビティを行うことで、英語による実践的なコミュニケーション能力を養う。	
	English for Advanced Studies B		リスニングとディスカッション中心の総合的な英語能力の習得を目的とした授業で、マーケティング、社会科学、メディア研究、言語学の4つのテーマで構成されている。事前学習として、各自テーマについて調べ、授業ではテーマに関する興味、語彙、知識を深めるための実践的なアクティビティを行うことで、英語による実践的なコミュニケーション能力を養う。	
	中国語I		教科書に従って授業を進める。発音、語彙、文法項目、会話、練習問題などの学習を行う。発音（ピンイン）は、読み方と４つの声調のリズムは毎回の授業で聞く・発音するという練習を繰り返しながら定着していく。語彙と文法は、まず教員が意味と用法の解説をする。そのあと学生は例文を訳したり、文を作ったり確認するという形で学習する。会話の学習は、学生はグループ学習により、日本語訳、朗読、置き換え練習で確認し合うという形でする。	
	中国語II		教科書に従って授業を進める。発音、語彙、文法項目、会話、練習問題などの学習を行う。語彙と文法は、まず教員が意味と用法の解説をする。そのあと学生は例文を訳したり、文を作ったり確認するという形で学習する。会話の学習は、学生はグループ学習により、日本語訳、朗読、置き換え練習で確認し合うという形でする。また、中国語検定試験対策の指導を行う。	
	韓国語I		ハングルと基礎的な文法を理解し、身近な話題についての簡単な会話と作文ができるように練習する。	
	韓国語II		「韓国語I」を履修した学生を対象とする。「韓国語I」で学んだ内容を確実に復習した上、より多彩な表現と文法を学習し、多様な場面でコミュニケーションができるように練習する。	
	スペイン語I		スペイン語は現在スペインのみでなく、米国やメキシコそして中南米の諸国の人々に母国語として話されています。そこで簡単な会話ができるよう、ABCの読み方、音の出し方から授業をはじめます。スペイン語Iの学習者は後期のIIの継続学習をすすめます。	
	スペイン語II		スペイン語は現在スペインのみでなく、米国やメキシコそして中南米の諸国の人々に母国語として話されています。そこで簡単な会話ができるよう、ABCの読み方、音の出し方から授業をはじめます。 DELE A1試験が合格できるようになる。 スペイン語I&IIで勉強した文法や単語を深める。	
	ドイツ語I		ドイツ語初級に不可欠な文法事項を習得し、文法の進度に合わせて簡単な日常会話ができるようになることが目標である。 (独検5級：初歩的なドイツ語を理解し、日常生活でよく使われる簡単な表現や文を運用できる。）読解力が深まる。ドイツ語を学ぶことを通して、ドイツ語を母語とする社会についての知識と関心を深めていってほしい。	
	ドイツ語II		教科書に掲載されている12の課のうち、第4課～第6課まで行う。文法の説明は日本語で行い、練習問題はドイツ語で行う。会話はパートナー練習の形式をとり、日常的なドイツ語が身につくようにする。 なお、ドイツ語Iの単位取得がIIの履修条件になっている。	
	フランス語I		この授業は、初級レベルのフランス語、フランス文化、フランス語圏について学ぶ。この授業はフランス語を学んだ経験のない学生を対象として、基本的な語彙と文法を習得することを目的とし、自己紹介、日常生活における簡単な会話ができるようになることを目指す。聞く、話す、読む、書くの４技能を網羅し、総合的なフランス語の力を養う。	
	フランス語II		この授業は、「フランス語I」で身に付けた初級フランス語文法の理解をさらに深め、やさしいフランス語を使って、自分や自分を取り巻く環境、人々についてさらに詳しい情報について説明できることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目群	ハンガリー語I		この授業は、初めてハンガリー語を学ぶ学生のための入門クラスである。ハンガリー語の基本的な文法と語彙を学びながら、日常会話の表現も身につけていく。授業では、必要に応じて英語も併用する。英語からハンガリー語へ、またその逆の翻訳練習も行うことで、ハンガリー語の学習を通して英語力の向上もサポートする。また、「ランゲージシャワー」の手法を取り入れ、自然な言語習得を目指すと同時に、他の言語、特にヨーロッパの言語を使う経験も積むことができる。	
	ハンガリー語II		この授業はハンガリー語Iの続きのクラスである。ハンガリー語の基本的な文法と語彙を学び続けながら、日常会話の表現も身につけていく。授業では、必要に応じて英語も併用する。英語からハンガリー語へ、またその逆の翻訳練習も行うことで、ハンガリー語の学習を通して英語力の向上もサポートする。	
	ポーランド語I		原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法などについて解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習ではなく、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのさまざまな資料も活用しながらポーランドの魅力の紹介をしていく。	
	ポーランド語II		原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法事項について解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習に終わらず、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのヴィジュアル資料なども活用しながらポーランドの多様な魅力の紹介に努めたい。	
	チェコ語I		チェコ語のアルファベット、発音、文法の初歩知識を習得する。徐々に語彙を広げ、日常でよく使われる表現を覚え、会話を練習することにより、会話力の基礎を固める。ヒアリングの練習もし、理解する・話す力を少しずつ身につけることがこの授業の目標である。前期終了時に簡単な文章や自己紹介をチェコ語で言える力を身に付ける。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。	
	チェコ語II		正しい発音、文法の初歩知識を習得する。徐々に語彙を広げ、日常でよく使われる表現を覚え、会話を練習することにより、会話力の基礎を固める。ヒアリングの練習もし、理解する・話す力を少しずつ身につけることがこの授業の目標である。前期終了時に簡単な文章や自己紹介をチェコ語で言える力を身に付ける。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。	
キャリア形成科目群	基礎ゼミⅠ		リハビリテーション専門職としての患者・利用者との関係、コミュニケーションや立ち振る舞い、身だしなみや言葉づかいの重要性について学習する。加えて、自らが目指すべき理学療法士のイメージを再確認するとともに、理学療法周辺業務について理解する。	
	基礎ゼミⅡ		理学療法の臨床経験を学ぶことができる臨床実習場面を想定し、社会の中で必要とされるコミュニケーションや態度、ふるまい、文章作成など幅広く学ぶ。また、医療従事者として必須となる安全管理や感染予防について学ぶ。	
	理学療法ゼミ		理学療法専門職として実践していくために必要となるコミュニケーションやディスカッション、他者との協働などを実践的に学ぶ。また他者の意見を傾聴し相手の意思を理解すること、自らの意見を積極的に述べて相手に理解してもらうこと、意見の違いを受け入れること、合意形成をしていく過程を経験する。	
	世界の理学療法		主要国で実践されている理学療法の現状を知り、本邦における理学療法との違い、また各社会における理学療法士の立場の違いを認識する。理学療法を通してグローバルな視野を養い、日本に留まらず世界で活躍できる理学療法士の資質とは何か、理解できるようになることを目指す。本科目終了時には、本邦における理学療法と理学療法士のあり方を客観的にとらえ、主要国との違いを説明できることを目標とする。	
	グローバル研修A		学生が本学で学んだ国際教育を英語圏諸国で実践し体験する機会を設け、研修を通じて世界で活躍する人材、世界の人と協働できる人材に成長する研修を行う。	隔年
	グローバル研修B		学生が本学で学んだ国際教育をアジア圏において実践し体験する機会を設け、研修を通じて世界で活躍する人材、世界の人と協働できる人材に成長する研修を行う。	隔年

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目群Ⅰ	基礎物理学		理学療法学を学ぶために必要な大学教養レベルの物理学を学ぶ。具体的には物体の運動と力学、電磁波の性質、電気、圧力と流体学、エネルギーと保存則そして波（音波、光）の性質を学ぶ。授業では理学療法を学ぶ上で何故そのような物理的解釈、考察が必要なのかを、実際の理学療法で遭遇する事案に即して学ぶこととする。	
	医療倫理学		医療は、その対象者である患者のために医療従事者が実施する行為である。その行為が実施される時には、常に倫理が問われる。倫理観の確立した医療従事者となるために、医療倫理の歴史、原則、課題と死生観の問題を取り上げるとともに、生命倫理、臨床倫理など倫理原則について学ぶ。	
	医療コミュニケーション論		グローバル化が進む現代社会においては、文化的背景を異にする人々と接する機会が急激に増えている。また、高度情報化という状況の中で、相手と対面しない形でコミュニケーションをとる必要もある。この授業では、現代社会で必要とされるコミュニケーションの思考の枠組み、態度、スキルを実践的に学んでいく。	
専門基礎科目群Ⅱ	人体の構造	○	「人体の発生と構成、および各系統（運動器系・神経系・感覚器系・循環器系・呼吸器系・消化器系・内分泌系・泌尿器系・生殖器系）の構造と機能を学修し、疾患や障害の理解へとつなげる。」 （オムニバス方式／全13回） （8 森下勝行/7回） 人体の発生と構成、運動器系、神経系、感覚器系の構造と機能について学修し、疾患や障害の理解へとつなげる。 （42 中野元/3回） 循環器系、呼吸器系、泌尿器系の構造と機能について学修し、疾患や障害の理解へとつなげる。 （92 志賀亮太/3回） 消化器系、内分泌系、生殖器系の構造と機能について学修し、疾患や障害の理解へとつなげる。	オムニバス方式
	人体の構造演習	○	人体の構造で学習した解剖学の基礎的知識を基盤とし、解剖標本を用いて、運動器系（頭蓋・体幹・四肢の骨・関節・筋）、神経系（中枢神経系・末梢神経系）、感覚器系（皮膚・視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器）の構造を理解する。	
	人体の機能	○	人体の機能・役割について学習する。運動器系（筋・骨格・関節系・呼吸循環系との関係性）とそれらを調整・支配する神経系（中枢神経系・末梢神経系）や、内臓系（消化器・呼吸器系・泌尿器系）とそれらを調整する内分泌系と自律神経系の機能を理解し、疾患や障害の理解につなげる。 （オムニバス方式／全13回） （3 烏野大/7回） 神経系（中枢神経系・末梢神経系）、感覚系、循環器系、身体運動の機能とその仕組みを理解する。 （6 酒井健介/6回） 細胞系、血液、呼吸系、代謝系、排泄系の機能とその仕組みを理解する。	オムニバス方式
	人体の機能演習	○	人体の機能について演習を通して学習する。人体の機能で学んだ内容を踏まえて，さらに筋および心臓の機能について学ぶ。これらの人体の機能が，神経活動や運動・呼吸・循環においてどのように働いているかをより深く理解し，疾病や障害の理解につなげる。	
	運動学Ⅰ	○	身体運動の基礎を理解するため、物体の運動を表す力学、また生体で運動を行う筋骨格系の構造と機能、その関連性を学習する。各関節の形状・名称・筋肉・動きと力学について学習し、身体運動の基礎を理解する。具体的には、人間の関節運動や歩行などの複雑な運動のメカニズムを理解する。	
専門基礎科目群Ⅱ	運動学Ⅱ	○	運動学Ⅰで学習した身体運動の基礎知識を臨床応用させるべく学習を進める。特に運動・動作の分析方法と解釈、それにまつわる姿勢、歩行、運動発達、運動学習について学習し、身体運動の理解を深める。本科目終了時には、運動学を通して論理的にヒトの動作を説明・観察・分析できることを目標とする。また、すべての動作に多大な影響を及ぼす運動力学的考察力を養い、理学療法を実施する上での基礎知識を形成していく。	
	運動学演習	○	運動学Ⅰと運動学Ⅱで修得した知識について、ヒトの身体運動を計測機器等による分析を通して運動分析方法等を学習する。姿勢観察や基本動作における関節運動を観察や、筋電図・重心動揺計・ストップウォッチ等を用いた運動の評価・解析、心電図モニターや呼気ガス分析などについて理解する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目群Ⅱ	人間発達学		生命が誕生するしくみと生まれるまでの各組織の発生、さらに乳幼児から小児期・少年期までの運動と認知機能および情意面の発達の違いやその特徴について学習する。これらの学習を通じて、人間が発達するために多くの支援や環境が必要であることの理解を深める。また、成人期・老年期そして死に至るまでの量的・質的変化（老化）の過程について、発達という観点から生理機能、運動機能および認知機能について考究し理解を深める。それぞれの時期に特徴的に出現する病気や障害について、人間のライフサイクルという視点に立って理解する。	
	臨床心理学		病院の患者や施設などの入居者の心理を系統的に学び、各々のケースの心理状態を客観的に把握することで、患者や入居者の心理を理解するための知識を習得する。	
	機能解剖学		構造の学問である解剖学を基盤として、人体の運動がどのようなメカニズムで成り立っているかを学ぶ。機能解剖学では、解剖学と運動学を融合し、人体の運動を理解する。また、人体の内部で発生する運動を体表面から触診し観察する技術を身につける。	
専門基礎科目群Ⅲ	整形外科系医療学		骨関節障害や痛みを引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と薬理を含む治療を学ぶ。骨折、脱臼、および神経、関節、脊椎、上肢、下肢の外傷、先天異常、骨軟部腫瘍、感染症、骨系統疾患、筋疾患、各関節脊椎の慢性・変性疾患について解説し、そこから生じる障害について学習する。また、整形外科的診断に必要となる画像所見（レントゲン、CT、MRI、超音波エコーなど）の基礎を学ぶ。 （オムニバス方式／全13回） （94 石川哲大/2回） 整形外科疾患に関する診療・検査、および保存療法・手術療法の基礎的な知識を学ぶ。 （98 大前隆則/2回） 股関節の機能解剖・疾患についての基礎的な知識を学ぶ。 （100 松浦祐介/2回） 上肢・肘関節、手関節の機能解剖・疾患についての基礎的な知識を学ぶ。 （96 葛城穣/2回） 膝関節および足関節の診察・疾患についての基礎的な知識を学ぶ。さらに、スポーツ疾患について学ぶ。 （97 大田光俊/2回） 頸椎の機能解剖・疾患についての基礎的な知識を学ぶ。また、脊髄損傷の疾患について学ぶ。 （99 佐藤淳/2回） 胸椎・腰椎の疾患についての基礎的な知識を学ぶ。 （95 佐々木康人/1回） 肩関節の機能解剖・疾患についての基礎的な知識を学ぶ。	オムニバス方式
	内科系医療学		内部障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と薬理を含む治療を学ぶ。呼吸器系疾患、循環器系疾患、内分泌・代謝系疾患、消化器系疾患、腎・泌尿器系疾患、生殖器系疾患、血液疾患、自己免疫疾患、がん関連障害、皮膚障害に大別してそれぞれに解説し、そこから生じる障害について学習する。また、内科的診断に必要となる画像所見（レントゲン、CT、MRI、超音波エコーなど）の基礎を学ぶ。	
	精神医学系医療学		理学療法士学生が精神医学について学ぶことは、必要不可欠である。授業の中では、精神的疾患についての学習をおこなう。精神科領域疾患の種類は多く、内因性の精神疾患からストレスに起因するものまで、その症状は多岐にわたる。精神を病む、こころが病気になるとはどういったことを言うのか、臨床での具体的事例を踏まえ、内容を理解する。	
	公衆衛生学	○	公衆衛生とは、人類における疾病の予防、寿命の延長、身体・精神・社会的健康の向上を図り、人類の健康の保持増進を図るための活動である。健康とはなにかを知り、公衆衛生学について、系統的に学習する。	
	病理学		対象者理解のために必要な病因・病態や生体反応について学ぶ。炎症や感染症、腫瘍や免疫など理学療法を行う上で必要となる病理学の概要について系統的に学習する。	
	神経内科系医療学		中枢神経障害や末梢神経・筋疾患を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と薬理を含む治療を学ぶ。脳血管疾患や感染・炎症疾患、神経変性疾患、神経筋接合部疾患などの疫学、ヨボ、秒位、評価、検査などついて学習する。また、神経内科的診断に必要となる画像所見（レントゲン、CT、MRI、超音波エコーなど）の基礎を学ぶ。	
	薬学概論		薬物の作用機序や投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解したうえで、内科的治療の柱である「薬物療法」についての総論的な知識と、臨床で多用される代表薬物を薬理学的に理解する。あわせて、薬物の副作用やその有害事象についても学ぶ。薬物が起こす生体反応を理解し、基礎を築き、理学療法実施時の使用薬剤に対する留意点を知ることやリスク管理の必要性を理解する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目群Ⅲ	医療概論		医療の様々な側面を理解するとともに、摂食嚥下について理解する。また、医療人として必須の知識である栄養や、救急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方を学ぶ。さらに具体的な心肺蘇生・応急処置について学ぶ。 （オムニバス方式／全13回） （6 酒井健介/4回） 炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、食事摂取基準などの基礎的な知識を学ぶ。 （12 栗原靖/5回） 救急を要する病態や疾患・外傷などの医療現場におけるリスクについて基礎的な知識を学ぶ。さらに、具体的な心肺蘇生・応急処置について学ぶ。 （104 治田寛之/4回） 摂食嚥下についての基礎的な知識を学ぶ。さらに、医療現場のリスクである感染症・ストレス・コミュニケーション等に対する基本的な知識を理解する。	オムニバス方式
	老年学	○	加齢に伴う身体・精神・心理機能の変化を学ぶとともに、代表的な老年症候群や、廃用、褥瘡など高齢期に生じやすい疾病・障害について、病因や分類、病態、評価、診断、治療を学習する。	
	障害予防概論	○	疾病や外傷を防ぐという予防の重要性が示されている。理学療法士においても予防の面での関わりが求められるようになってきており、予防理学療法に通じる疾病予防や健康管理の在り方について学ぶ。また、自然災害時や復興支援期における活動についても理解する。	
専門基礎科目群Ⅳ	リハビリテーション科学	○	リハビリテーションの理念・概念を理解するとともに、リハビリテーションに係る障害の評価と治療を学ぶ。種々のリハビリテーション対象疾患の医学的情報について理解するとともに、必要な情報の整理、心身機能や身体構造、活動、社会参加、背景因子などに整理する術を理解する。さらにリスク管理やリハビリテーションチームとしてのアプローチなど各種専門家の役割や過程についても言及する。	
	保健医療福祉概論	○	国家的な視野で政策を理解し、保健医療福祉の目指す方向性を考察する。また、人々の多様な個別的ニーズやＱＯＬを尊重した質の高いケアやｻｰビスを提供するために必要となっている保健医療福祉の相互に係る総合的・包括的・継続的な活動支援方法、専門職の協働的なかかわり方の意義を学ぶ。さらに、地域ケア構想の推進のために、都道府県、自治体、小地域（日常生活圏域）における重層的で、包括的な支援システムの構築の意義や方法を地域実践事例を提示し、分析検討する。	
	多職種間連携教育	○	多職種間で協働して医療にあたる能力を育むために、コメディカル連携の基礎となる多職種の知見や演習課題を行い、学生の理解を確実なものとする。具体的には、福祉・看護・薬学及び人体や疾病に関する知見や課題を理学療法の立場から統合し、それらの知見・課題を理学療法にどのように反映させていくかを学んでいく。	
	多職種間連携教育実習		講義・演習で学んだ多職種間連携の知識を基盤として、現場における多職種間連携の実際を学ぶ。実技・演習を通して、実際の現場で行われる多職種の業務・専門性を知るとともに、理学療法士として必要な知識・技術を理解する。またチームを形成するためのコミュニケーション技能や伝達手段を知る。	共同
	生活環境論	○	障害者が自立した生活をおくるためには、環境の整備が大切である。その環境とは、対象者が生活する住環境にとどまらない。障害者の日常生活において、セルフケアを包括したＡＤＬについて、独力で行える能力を獲得させることがＱＯＬを守ることにつながるが、外出などの社会参加においても同様である。本講義では、ユニバーサルデザインを意識したまちづくり、障害者をとりまく生活環境について学ぶ。	
	理学療法教育法		理学療法養成教育の歴史、内容について理解し、理学療法士国家試験の出題基準について知る。また、患者担当型と診療参加型の臨床実習形態について知識を得るとともに、臨床実習前後の評価について説明できるようになる。さらに、臨床教育の方法や生涯学習制度など、理学療法に特化した教育内容について学習する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群Ⅰ	理学療法概論	○	理学療法学の全体像を把握し、理学療法士の臨床業務についても理解を深め、理学療法士としての資質を醸成する。理学療法分野における歴史、定義、種類について知る。また理学療法士学生の立場を認識し、医療従事者として必要なマナー、接遇ができるようになることを目指す。 （オムニバス方式／全13回） （3 烏野大/9回） 理学療法とは何か，理学療法士の教育・研究や活動領域、また安全管理について理解を深める。理学療法の評価（FIM）や治療（物理療法、義肢装具、運動療法）について、その概要を理解する。 （5 竹内弥彦/4回） 社会が理学療法士にもとめるものや，学外で行われる臨床実習について理解を深める。臨床実習で利用される理学療法検査（ROM-T・MMT）や評価（ICIDH・ICF）について、その概要を理解する。	オムニバス方式
	理学療法研究法	○	現在、理学療法に求められているのは治療の根拠（エビデンス）を確立することである。効果的治療法の中には経験則によるものが存在するのも事実である。理学療法の重要性や必要性を啓蒙し、これらを解決するには臨床研究の積み重ねが重要である。本講義では様々な実験・研究法を提示して結果のまとめ方や考察の仕方などを教授し、主に臨床研究に必要な基礎的な知識を獲得させることを目的とする。	
	医療統計学		医療分野において，疾病と要因の因果関係の把握や治療の効果判定などを目的に収集されたデータを，根拠に基づいて解釈・評価するための知識を学ぶ。統計学の基礎的手法の一つである3グループ以上の検定法とノンパラメトリック手法について学ぶとともに，医療統計解析の研究デザイン，及びその結果を解釈・評価するための基本的な考え方と方法について学習する。	
	卒業研究Ⅰ		指導教員の指導のもとで研究テーマに沿った実験研究や調査研究等を一人で行い研究論文を作成する能力の素地を養う。研究テーマ決定に必要な文献収集の方法や、研究計画の作成、研究実施能力、データ分析能力、論文作成能力など、研究遂行の一連の流れについて理解するととに、実際に経験することで理学療法研究について理解を深める。	
	卒業研究Ⅱ		卒業研究Ⅰで学んだ内容を基盤として、実際に研究テーマの決定、実験・調査計画の遂行、データ分析、結果の解釈を通して理学療法研究の一部を行えるようになることを目指す。また、論文作成に必要となる文献整理や先行研究との対比などを通して、文献の読解力を高める。研究論文を作成する過程を通して、論理的思考と学術的表現法を理解する。	
	基礎理学療法学	○	理学療法実施において基礎となる疼痛や筋緊張異常、関節可動域制限、筋力低下、創傷・靭帯損傷、骨損傷、運動麻痺、感覚異常、平行機能低下、認知機能低下などの病態とそのメカニズムについて学ぶ。	
	基礎理学療法学演習	○	種々の疾患に共通する機能障害（関節可動域制限、筋力低下、筋緊張異常、持久力低下、感覚異常、姿勢異常、バランス・並行機能低下）や能力低下（起居・移動能力やセルフケア能力）に対する基本的な運動療法について学び、実践する能力を養う。	
	バイオメカニクス論		人体の動きを力学的側面から理解するための基礎的なバイオメカニクスを学ぶことを目的とする。歩行を代表とする各種動作・運動における関節運動、筋出力、床反力などのメカニズムを理解し、その測定方法（動作観察・動作分析含む）も学ぶ。3次元動作解析装置による実際の測定も実施する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群Ⅱ	職業倫理管理学	○	医療人として必要になる医療安全、職業倫理、感染対策について理解するとともに、理学療法の職場管理において求められる診療報酬や診療記録、カルテ管理を学ぶ。また、理学療法機器の点検や法定必要物品、人事考課や労務管理など理学療法実施にあたり必要となる職業管理について学習する。さらに、理学療法教育の一連の流れを理解することで職業人集団の教育管理に必要な素養を養う。	
	基礎理学療法評価学	○	理学療法は，検査・測定や情報収集から得られた結果を統合し解釈することにより、治療指向的な問題点を抽出し、目標を設定、プログラムを立案することから始まる。本科目においては、理学療法士が行う検査測定結果から目標設定、理学療法プログラムの立案につながる臨床推論の基本的な流れが展開できる素地を養う。	
	基礎理学療法評価学実習	○	疾病に関係なく理学療法士が実施する種々の機能障害を把握するための検査測定技法を修得し、その結果の解釈について学ぶ。特に本科目ではバイタルサインや医療面接、機能形態計測、関節可動域、筋力の評価について理解を深め、それぞれの検査・測定し解釈する技能を養う。	
	疾患別理学療法評価学	○	様々な疾病・疾患によって生じる代表的な障害に対する理学療法評価法の基礎を学ぶ。また、ビデオなどの動作解析画像を解釈できるようになり、理学療法実施上の留意点を理解できるよう学習する。	
	疾患別理学療法評価学演習（神経系）	○	種々の中枢神経疾患や神経・筋疾患によって生じる障害について、検査・測定方法を学ぶとともに、実施できるよう技術を学ぶ。また、それぞれの障害の画像（レントゲン、CT、MRI、超音波など）上の特徴を理学療法の視点から解釈し、留意点などを理解できる素地を養う。	
	疾患別理学療法評価学演習（運動器系）	○	種々の運動器系疾患によって生じる障害について、検査・測定方法を学ぶとともに、実施できるよう技術を学ぶ。また、それぞれの障害の画像（レントゲン、CT、MRI、超音波など）上の特徴を理学療法の視点から解釈し、留意点などを理解できる素地を養う。	
	疾患別理学療法評価学演習（内部障害系）	○	種々の内部障害系疾患によって生じる障害について、検査・測定方法を学ぶとともに、実施できるよう技術を学ぶ。また、それぞれの障害の画像（レントゲン、CT、MRI、超音波など）上の特徴を理学療法の視点から解釈し、留意点などを理解できる素地を養う。	
	疾患別理学療法治療学	○	様々な疾病・疾患によって生じる代表的な障害に対する理学療法治療の基礎を学ぶ。また、各疾患特性に応じた患者教育や自主運動について理解する。 （オムニバス方式／全13回） （1 谷内幸喜/4回） 中枢神経疾患の概要に加え、脳卒中片麻痺症状、パーキンソン病、運動失調症、脊髄損傷の病態および理学療法の目的について理解する。 （9 横井悠加/5回） 運動器疾患の主症状、基本的な理学療法評価に加え、大腿骨近位部骨折、変形性膝関節症の主症状、理学療法評価、治療内容について理解する。 （13 小川明宏/4回） 内部傷害、呼吸機能障害、心臓（循環）機能障害、代謝障害、ガン、摂食嚥下障害に対する理学療法について理解する。	オムニバス方式
	疾患別理学療法治療学実習（神経系）	○	中枢神経系疾患や末梢神経・筋疾患に対する理学療法を理解し、実践できる技術を学ぶ。また、視覚障害やめまい、精神障害領域など、精神・神経に関わる障害に対する理学療法を知る。	
	疾患別理学療法治療学実習（運動器系）	○	骨関節結系疾患や痛み対する理学療法を理解し、実践できる技術を学ぶ。また、ウィメンズヘルス・メンズヘルス、排泄障害、産科・婦人科領域の機能障害などの障害に対する理学療法を知る。	
	疾患別理学療法治療学実習（内部障害系）	○	内部障害系疾患に対する理学療法を理解し、実践できる技術を学ぶ。また、がんや褥瘡・熱傷などの皮膚障害、摂食嚥下障害などに対する理学療法を知る。	
	日常生活活動学	○	人間の生活動作には様々のものがあり、障害によってそれらはすべて阻害される。日常生活活動（ＡＤＬ）能力の低下がＱＯＬの低下の最も大きな原因であることは疑う余地がない。理学療法士のアプローチには様々な手法があるが、それらの最終到達目標は「ＡＤＬの維持・向上」に集約されているのも事実である。特にＡＤＬの最もベーシックな機能である基本動作（寝返り、起き上がりなど）や移動・移乗動作を中心に論じ、理学療法の目的も含めて考察を加える。	
	日常生活活動学実習	○	日常生活活動学で学習する動作を分析し、障害と活動能力の関係を明らかにして、障害の程度や様相に応じて適切な治療を展開できるように、グループ実習を通じて具体的に問題解決法を考究する。特に基本動作や歩行動作を分析し、正常な動作と異常な動作の比較検証、関節運動と動作の関連性について具体的に実習する。さらにセルフケアである「食事」「排泄」「入浴」「整容」「更衣」などの分析にも触れ、日常生活活動のクオリティーを維持・向上を目指したアプローチを実習する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群Ⅱ	義肢装具学	○	義肢、装具にはどのようなものがあるか知り、その名称、基本的構造、適応、使用方法およびチェックアウトについて学習する。また、切断・離断など四肢の欠損状態に陥った患者に対する義肢の処方、装着訓練、痙性片麻痺に処方される短下肢装具やＳＨＢなどの構造や適応について考慮し、科学的な根拠に基づいた動作解析を加味しながら学習を進める。	
	義肢装具学実習	○	本実習は義肢装具学で学んだ基礎理論をさらに発展させ、各種疾患・障害別に指導できる技術を教授する。特に装具の構造やチェックアウト技術を理解するために装具の採寸実習、装具を分解させて継手や支柱などの各パーツの機能を学ぶ。義肢については擬似体験用下腿義足による装着体験、義足歩行観察・分析など実践的な実習を行う。	
	物理療法学	○	物理療法学は、各種のエネルギーを治療に応用する学問である。エネルギーの種類と発生原理およびその特性を理解することが重要である。各種のエネルギーを治療に応用するための原理などについて、基本的な事項を理解すると共に、温熱療法（表在温熱療法、深部温熱療法）、寒冷療法、電気刺激療法、牽引療法などの治療法などについて学習する。各種治療器の適切な使用方法や，各治療方法の適応と禁忌について学習する。 （オムニバス方式／全13回） （3 烏野大/7回） 物理療法の概要や、物理療法の主目的である疼痛についての理解を深め、その神経性理学的な適応について理解する。また，物理療法（温熱療法，寒冷療法，光線療法，水治療法，牽引療法）の治療原理や臨床応用について理解を深める。 （8 森下勝行/6回） 物理療法（超音波療法、電気刺激療法、随意運動介助型電気刺激療法）の治療原理や臨床応用について理解を深める。	オムニバス方式
	物理療法学実習	○	物理療法学実習は、各種のエネルギーの用いた治療機器を使用して、基本的な操作方法および安全で適切な治療方法を学習する。ホットパック、パラフィン浴、渦流浴、マイクロ波治療器、超音波治療器、電気刺激治療器（低周波、中周波）、レーザー（近赤外線）治療器、牽引治療器、アイスパック、極低温冷却治療器などを禁忌事項や注意点を確かめながら実際に使用する。物理療法機器の使用前後で、予測される生理学的効果を評価することで、物理療法に対する理解を深める。	
	発達系理学療法学		小児科領域の疾患の症状に対し、理学療法の治療体系がどのように対応するかを総合的に考察し、さらに疾患別におこる障害についてそれぞれ論じる。脳性麻痺、筋ジストロフィー、神経筋疾患、先天性（遺伝性）疾患などが理学療法の対象であり、これらの症状・障害を理解し発達学的視点から適切な治療を立案しなければならない。本講義ではこれらの具体的な内容について論じる。 （オムニバス方式／全13回） （105 後藤達也/3回） 小児神経筋疾患、遺伝性疾患の理学療法について理解する。さらに、小児の地域リハビリテーション、小児分野の福祉機器・環境整備について学ぶ。 （106 小川智美/4回） 子どもの発達と評価・介入において、筋骨格・神経・呼吸・循環等について学び、応用動作、日常生活等の評価について理解する。さらに、低出生体重児・ハイリスク児の理学療法について理解する。 （107 大矢祥平/2回） 小児期発症疾患に対する理学療法の概要および、胎児期から歩行ができるようになるまでの発達とそれに関わる反射・反応を理解する。 （108 石田麗子/2回） 脳性麻痺のアテトーゼ型・失調型および、重症心身障害児・者に対する理学療法について理解する。 （109 道家咲楽/2回） 脳性麻痺の病態・評価について学び、さらに、痙直型両麻痺・四肢麻痺に対する理学療法について理解する。	オムニバス方式
	スポーツ系理学療法学	○	スポーツの競技毎に発生しやすい傷害の特徴と理学療法学的評価方法および治療法を学習する。スポーツ業界で理学療法のNeedsが高い、サッカーや野球、バスケットボールをはじめ、その他各種競技の特徴的傷害とその理学療法を学ぶ。スポーツ理学療法の内容として、保存療法と観血的療法など手術の有無による理学療法の特徴とその内容について学ぶ。理学療法学の知識と手段を用いた治療や予防、競技パフォーマンスの向上を図るスポーツ理学療法の必要性とその重要性について学習する。	
	理学療法学セミナーⅠ	○	模擬臨床場面を設定し、実践的な事例教育の中から、チーム医療における理学療法の独自性と専門性を考察させる。さらに、理学療法に不可欠な治療技術、家族指導を含めた環境に対するアプローチなどについても検討を重ね、臨床応用を念頭に置いた教育を展開する。また、理学療法場面で起こり得る事故を想定し、いかに事故を避けるか、また安全管理を行うかを理解する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群Ⅱ	理学療法学セミナーⅡ	○	模擬臨床場面を設定し、実践的な事例教育の中から、チーム医療における理学療法の独自性と専門性を考察させる。さらに本科目では、理学療法士が扱う情報の重要性を理解し、その管理方法や漏洩防止作、コンプライアンスや医療広告ガイドラインなどに就いて学び、理学療法の実践と法整備との関わりについて理解する。	
	理学療法技術演習（発達・高次脳機能）		発達過程に生じる障害や、高次脳機能障害など、広く神経系疾患に関する理学療法治療法について、専門的に学ぶ。特に最新知見を収集し、各障害に応じた適切な理学療法を選択・実施できる知識・技術をみにつける。	
	理学療法技術演習（徒手技術）		理学療法における徒手技術の基礎を学び、実践的な技術を習得することを目的とする。授業では、徒手療法の理論、技術、評価法を体系的に学び、臨床現場での応用を目指す。また、参加者同士での実技演習を通じて、技術の習得を行い、自己評価やフィードバックを通じてスキルの向上を図る。これにより、患者へのアプローチを効果的にするために必要な能力を培う。 （オムニバス方式/全13回） （10 桑江豊/6回） 運動器及び中枢神経系疾患に対して使用されるPNF（proprioceptive neuromuscular facilitation：固有受容性神経筋促通法）の理論・技法を理解し、基本的手技を習得する。 （9 横井悠加/6回） 運動器疾患に対して使用される徒手技術、特に関節の動きの評価・治療に関する理論と臨床での活用方法を理解した上で、基本的な徒手技術を習得する。 （10 桑江豊・9 横井悠加/1回：共同） 患者の状態に応じた的確な技術選択と施行の能力を高めることを目的とし、具体的なケーススタディを通じた学びも取り入れる。	オムニバス方式
	理学療法技術演習（呼吸・循環・代謝）		呼吸器障害、循環器障害、代謝障害を中心に、最新の知見を紹介するとともに、各代表疾患に対する理学療法の実践を学ぶ。また、各領域の専門的な治療や多職種連携など実践的な学びを目的とする。 （オムニバス方式/全13回） （17 深谷泰山/7回） 循環器疾患（心不全や心筋梗塞など）、糖尿病と腎疾患に対する治療・運動療法、代謝障害と運動、再発予防と一次救命処置に関する理学療法の知識や技術を実技演習を通じて学び、実践できる能力をみにつける。 （15 山根主信/6回） 呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患や間質性肺炎など）に対する理学療法の知識を学び、実践できる能力をみにつける。また、呼吸理学療法に関わる手技や排痰法を実技演習を通して身につける。	オムニバス方式
	理学療法技術演習（先進医療機器）		発達著しいリハビリテーション工学の知識を基に、最新の医療機器を紹介するとともに、リハビリテーションロボットや新たな評価機器の応用方法、またそれらの情報収集方法を学び、臨床における最新知見の収集方法を理解する。 （オムニバス方式/全13回） （10 桑江豊/6回） 姿勢や歩行の画像や動画を通じて、姿勢や歩行の基礎的および応用的な知識を学習し、臨床場面で応用できる能力をみにつける。 （8 森下勝行/6回） 表面筋電図や超音波エコーなどのリハビリテーションに関わる医療機器の使用方法や評価、結果の解釈などを学び、臨床現場で活用できる能力をみにつける。 （10 桑江豊・8 森下勝行/1回：共同） リハビリテーションで用いられる先進医療機器に関する知識や技術を統括し、理解を深める。	オムニバス方式
	理学療法技術演習（スポーツ）		スポーツ分野における理学療法士の関わりを理解するとともに、各競技特性に応じた評価方法や介入方法を学ぶ。さらにスポーツ現場での理学療法士の取り組みを紹介し、実践的な学びを提供する。	
	理学療法技術演習（トレーニング）		トレーニングの目的はパフォーマンスを向上させることであり、トレーニングはスポーツやリハビリテーション分野において筋力、体力、スピードなどを増強させる運動を行うことである。本科目はトレーニングに精通する教員により授業を行う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群Ⅱ	地域理学療法学	○	近年、在宅医療が充実し、障害をもちながらも在宅生活を営む障害者が増加している。地域理学療法は単に医療機関以外での理学療法ではなく地域理論や異なる技術を包含している。この視点から地域理学療法の必要性について論じる。また、国際支援や災害時、健康増進や介護予防など、多岐にわたる近年の地域理学療法のあり方について教授する。	
	地域理学療法学演習	○	地域理学療法学の知識を基盤として、福祉施設および福祉職種の理解、チームの組み方、病院とは異なる理学療法の目標と指導方法の違いを学ぶ。また演習を通して生活活動の自立やQOLの向上を想定した目標設定、理学療法の進め方、さらに介護予防としての理学療法の実際を知る。	
専門科目群Ⅲ	理学療法学総合演習A	○	基礎医学系に関する知識の統合を図るため、講義とグループ演習のハイブリッド形式にて知識と理解を深める。特にこの科目では解剖学・生理学・運動学を基盤とし、基礎的な疾患や障害を論理的に理解できるように指導する。教員の専門性を生かし、多方面からの視点での統合解釈ができるよう指導を行う。 （オムニバス方式/全13回） クラス① （3 烏野大/2回） 授業内容：解剖学・生理学総復習 （9 横井悠加/2回） 授業内容：運動学総復習・病理学 （11 中尾英俊/1回） 授業内容：骨関節障害と臨床医学 （1 谷内幸喜/1回） 授業内容：中枢神経障害と臨床医学 （16 安齋紗保理/2回） 授業内容：末梢神経・筋障害と臨床医学、内部障害と臨床医学 （14 大杉紘徳/3回 授業内容：臨床心理学、精神障害と臨床医学、精神障害と臨床医学 （5 竹内弥彦/2回） 授業内容：リハビリテーション医学・リハビリテーション概論、専門基礎科目（基礎医学・臨床医学）の総復習 クラス② （8 森下勝行/2回） 授業内容：解剖学、生理学総復習 （2 森藤武/2回） 授業内容：運動学総復習、病理学 （4 大西忠輔/2回 授業内容：骨関節障害と臨床医学、中枢神経障害と臨床医学 （13 小川明宏/2回） 授業内容：末梢神経・筋障害と臨床医学、内部障害と臨床医学 （10 桑江豊/2回） 授業内容：臨床心理学、精神障害と臨床医学 （12 栗原靖/1回） 授業内容：精神障害と臨床医学 （17 深谷泰山/1回） 授業内容：リハビリテーション医学・リハビリテーション概論 （15 山根主信/1回） 授業内容：専門基礎科目（基礎医学・臨床医学）の総復習	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群Ⅲ	理学療法学総合演習B	○	基礎医学系及び臨床医学系の知識の統合を図り、疾患と障害の原因・本質・特徴などを講義，グループ演習の中で整理する。特にこの科目では運動器系の疾患と、それに起因する様々な障害について学び、各問題点に対する適切な治療法やリハビリテーションアプローチを論理的に導き出せるように指導する。教員の専門性を生かし、多方面からの視点での統合解釈ができるよう指導を行う。 （オムニバス方式/全26回） （8 森下/2回） 授業内容：解剖学・生理学総復習、物理療法 （3 烏野/2回） 授業内容：解剖学・生理学総復習、脳神経、Brunnstrom法、整形外科テスト、歩行、感覚 （9 横井/2回） 授業内容：運動学総復習、各種疾患、障害別評価 （17 深谷/1回） 授業内容：病理学 （15 山根/2回） 授業内容：内部障、呼吸・循環機能、心電図の評価 （2 森藤/1回） 授業内容：骨関節障害と臨床医学 （10 桑江/2回） 授業内容：中枢神経・末梢神経・筋の障害と臨床医学、中枢神経障害 （14 大杉/1回） 授業内容：精神障害と臨床医学 （11 中尾/4回） 授業内容：臨床心理学、運動療法の基礎、小児の反射・反応．発達検査、運動・発達障害 （16 安斎/ 2回） 授業内容：小児・老年期の障害と臨床医学およびリハビリテーション医学、リハビリテーション概論、その他の障害（熱傷、悪性腫瘍、高齢者特有の疾患など） （12 栗原/2回） 授業内容：基礎理学療法、骨関節障害 （13 小川/2回） 授業内容：徒手筋力テスト（MMT）、理学療法治療学（呼吸器、循環器、代謝性疾患） （5 竹内/1回） 授業内容：関節可動域測定（ROM）、身体測定、平衡機能 （4 大西/1回） 授業内容：義肢・装具を用いる療法、日常生活活動、地域理学療法 （1 谷内/1回） 授業内容：末梢神経・筋障害	オムニバス方式
専門科目群Ⅲ	臨床実習Ⅰ（見学）	○	早期の臨床経験として、実際に理学療法士が働く現場を見学する。特に本科目では、他者とのコミュニケーションを学ぶ場として、共感的態度を身につける。また、職場における理学療法士の役割と責任を知り、チーム医療や理学療法プロセスの実際を理解する。	共同
	臨床実習Ⅱ（検査・測定）	○	評価実習の一つとして行う。見学実習で学んだ臨床体験を発展させるとともに、学内での学びを基盤とした知識・技術を統合して、臨床実習指導者の指導のもとに実際の対象者に理学療法評価に必要なリスク管理や検査・測定を経験する。	共同
	臨床実習Ⅲ（評価）	○	検査・測定実習で得た経験と、学内で積み重ねた専門的な知識や技術を基にして、実際の現場において臨床実習指導者の指導のもと、理学療法評価のプロセスを学ぶ。実際に検査・測定を行うだけでなく、チームの一員として臨床に関わる。	共同
	臨床実習Ⅳ（総合）	○	臨床実習指導者の指導のもとに、これまでに積み重ねた知識・技術をもってチームの一員として理学療法の一連の過程（リスク管理、理学療法評価、理学療法治療）を経験する。理学療法実施においては、指導者の見学・協働参加・監視を基本とする。	共同
	地域実習	○	総合臨床実習の一部として実施する。本科目では、これまでに学んだすべての知識・技術を、地域理学療法場面に応用するために必要な経験の場となる。地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割を理解する。また、臨床実習指導者の指導のもとに、チームの一員としての役割を知る。	共同

授業科目の概要

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（健康科学部福祉総合学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	アカデミック･スキルズ		授業内に求められる学習作法（ディスカッション、グループ学習、演習など）、予習、復習、授業課題など授業外で要請される学習作法に習熟する。 (a)批判的に読むこと−文と文、パラグラフとパラグラフとの論理関係を分析、把握する。 (b)批判的に書くこと−論理構成、課題提起、結論の明確な論述をなす能力（小論課題、レポート、期末論述試験、論文）。 (c)ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション。 (d)ノート・テイキング、記録、報告。 (e)学習関連資料調査法−(1)レファレンス、視聴覚資料、文化財含む図書館利用法、(2)オンライン資料調査法、(3)フィールドワーク、(4)資料整理、保存法。 (f)PC活用術−(1)文書作成、作表、計算、電子ファイル化、(2)通信、伝達の倫理と基本マナー。	
	自然科学概論		3.11以降、様々な科学用語と数値が報道され、我々は、その内容を理解し、判断する必要に迫られた。また、エネルギー問題を常に意識して生活することを余儀なくされた。現代社会はエネルギーを大量に消費することで成り立っている。エネルギー源として何を選択するべきかについても、市民レベルでの理性的な理解と判断が求められる。本講義では、科学的思考とは何かについて考え、エネルギーの問題を意識しつつ、現代科学が自然をどのように捉えているかを講義する。我々の住む地球、太陽系、天の川銀河から始まり、宇宙の構造・始まりと終わりに至るまで、人類の知の到達点についても触れたい。	
	生命現象の理解とその応用ー生命科学		生命科学は生命現象を科学的に理解し、その知見をもとに、医学や薬学だけでなく、食料をはじめとする資源の生産に応用される学問領域である。現代人の生活に大きく影響し、様々な意思決定の場で必要とされる知識を学ぶ。 （オムニバス方式／全13回） （20 国武陽子/7回） 生物とはどのようなものであり、「いのち」はどのような仕組みで成り立っているのか、生物の多様性はどのように生まれてきたのか、生命の本質を科学の視点から理解を深める。 （21 西口慶一/6回） 遺伝子工学や細胞工学などを中心に、ガン治療、生殖医療、ワクチン等予防医学などの先端的な医療や食糧増産技術など、我々の生活に活用されている生命科学の応用技術についての基礎知識を学ぶ。	オムニバス方式
	生物からみた環境の仕組み - 生態学		地球環境を理解するうえで重要な生態学（Ecology)の基礎を学ぶ。「自然」の仕組みとして生態系の構成要素やその機能、様々な生物の生活史（生きざま）を知り、生物の多様さ及び生物が我々の「環境」をどのように支えているのかを理解する。特に、このような多様な生物が進化したメカニズムの一つとして、生物が互いに影響を与える生物間相互作用の重要性に注目し、地球上の生物の進化のメカニズムへの理解を深める。	
	食環境論		食品衛生行政、食育、食中毒等について学び、「安全・安心な食」とは何かを考える。また、SDGs（SustainableDevelopment Goals：持続可能な開発目標）、フードテック、食品廃棄、プラスチック問題、食料危機等の近年の国際的な取り組みや課題について理解を深め、私たちを取り巻く食環境をどのように持続可能なものにしていけばよいのかを考える。	
	香りと環境		毎回、香りやにおいをテーマとした新聞記事を読み、異なる視点からその作用や役割を考える。授業の事前・事後で感じたことをワークシートにまとめる。また、香りに関する自身の経験を振り返ったり、香りを生かすアイディアを提案したりする機会を設け、香りやにおいがもつ可能性を探る。	
	身体の理解		運動生理学（骨・筋・神経・循環・呼吸・代謝）を中心に学習を進め、身体運動に関わる基礎知識の理解を深めていく。 （オムニバス方式／全13回） （23 烏野大/6回） 骨・循環・呼吸・代謝・体温調節に関わる基礎知識の理解を深める。 （24 酒井健介/7回） 神経・運動エネルギー・身体組成・栄養食事・加齢に関わる基礎知識の理解を深める。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	デジタルアプリA		社会で必要な情報活用技術として、文書作成、およびインターネット活用（サイト検索、メール）の方法を、パソコン演習を通して修得する。演習では毎回、各アプリケーションを利用した課題作成を行い、課題作成の中で、必要な操作の習熟を行う。	
	デジタルアプリB		既に情報機器、情報ネットワークについて基礎的な知識を有している者を対象として、コンピュータ利用の実践的利用方法について学ぶ。情報学の歴史的、技術的、理論的背景を元に情報機器を実際に運用しつつ、文書作成および表計算について学ぶ。	
	情報セキュリティA		インターネットを中核とするITが企業の活動に深く浸透することに伴い、適切な情報セキュリティの確保は企業が有効かつ効率的に活動するにあたっての前提条件となってきている。情報セキュリティを体系的に把握し、情報セキュリティにおける脅威や脆弱性、最新の技術動向、関連法制度、関連する情報システムなどを踏まえ、具体的な情報セキュリティマネジメントについて理解することを目標とする。	
	情報社会と情報倫理		指定したテキストに従って、情報法を俯瞰しつつ、「ビックデータ」、「サイバーセキュリティ」、「個人情報保護」、「情報通信と憲法」、「知的財産権」、「ネット上における犯罪とその規制」、「サイバースペースにおける表現規制」、「プロバイダの法的責任」、「電子データの真正性と完全性」、「行政手続のオンライン化とその法規制」および「ネットセキュリティの法制化」など特定のテーマについて深く議論していく。	
	人工知能論		近年話題になってる機械学習/AIに関わる様々な知識を身につけ、今後のITで実現できるであろうことを想像できるようにします。	
	データサイエンスI		本講義は、文科省「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」の内容に準拠している事前の統計学や数学、またExcelの知識は仮定しない。データサイエンスに興味のあるものや、Excelによるデータ演習に興味のあるものの受講も歓迎する。	
	データサイエンスII		本講義は、文科省「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」の内容に準拠している。事前の統計学やプログラミングの知識は仮定しない。統計学やプログラミングに興味のある初心者の受講を歓迎する。	
	モデル化とシミュレーション		社会現象、自然現象を数理的に捉え、分析し、適切なモデルを立案してコンピュータによりシミュレーションを行うための基本的理論を学ぶ。コンピュータシミュレーションが問題解決のための有効な手段であることを理解する。	
	プログラミングA		プログラミング言語にはさまざまな種類があるが、その中でも特に基本的で重要である C 言語の基礎をこの授業では取り扱う。前半はプログラミングの概要やプログラムの書き方、文字列の表示、変数の使い方などの基礎を学び、後半は分岐処理や繰り返し処理について学ぶ。	
	アルゴリズムA		情報機器（ハードウェア、ソフトウェア）を自在に活用するためには、アルゴリズムの理解が必要不可欠である。特にプログラミングでは必須の知識となる。アルゴリズムの知識があれば、ワープロや表計算ソフトウェアにおいてもマクロプログラミングを行うことにより、高度な処理を実現することができる。ビジネスの現場で効率的に仕事をこなすためには身につけておくべき知識である。本授業では、初心者を対象にアルゴリズムの基礎理論を教授し、一歩進んだ情報機器の利用能力を身につける。	
	情報システム論		Chat GPT、Adobe Firefly、Adobe PhotoshopなどのGenerative AI（生成AI）を実践的に学び、技術的スキルを身につける。Generative AI（生成AI）によるクリエイティブな企画や表現を学ぶ。 Generative AIは、テキスト、画像、音楽、ビデオなど、さまざまな形式のコンテンツを生成することができる。新しい企画・広告・物語・商品などのコンテンツを創る際の有力なブレーンストーミング・ツールであり、活用できるように学ぶ。ソーシャルメディアやGenerative AI（生成AI）が引き起こす倫理的・社会的な課題への対応： ソーシャルメディアやGenerative AIの使用は、著作権侵害、プライバシーの侵害、誤情報の拡散といった倫理的・社会的な問題を引き起こす可能性がある。これら課題を理解し正確に活用できるように学ぶ。インターネット、スマートフォン、ソーシャルメディア、Generative AI（生成AI）が、多くの経済的・社会的な変革を引き起こしており、これらの変革の真髄を理解する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	統計学		統計的なものの考え方を理解し、統計データ解析のための基礎的な手法を習得する。 １．記述統計の基礎：統計データは数字の集まりであり、そのまま眺めていても全体の傾向は見えてこないが、平均値、グラフ化などの統計処理を行うことにより、データの特徴を把握することができる。統計データの記述・整理の方法の基礎を習得する。 ２．確率変数と確率分布：統計的推測においては、統計データの発生メカニズムに対して、様々な統計モデルを仮定する。統計モデルを定式化にするために必要不可欠である確率変数と確率分布の基礎を理解する。 ３．推測統計の基礎：統計的推測とは、サンプルデータに基づいて母集団分布に関する推測を行うことである。統計的推測には、母集団分布の特性値を推定するための方法（統計的推定法）と母集団分布に関する仮説を検証するための方法（統計的検定法）がある。特に、母集団分布として正規分布と二項分布を仮定した場合における統計的推定法の基礎を習得する。	
	データ分析の基礎(解析)		この授業では、あらゆる分野において重要な基礎となり得る解析学について、特に微分法および積分法について学ぶ。前半は微分法および積分法を学修する上で必要な知識となる数列とその極限について学び、後半は微分法および積分法の意義や役割について学ぶ。学修した内容についての理解を確実なものにするため、授業内の要所要所で例題や練習問題を解いてもらいながら授業を進めていく。	
	データ分析の基礎(線形代数)		この授業では、あらゆる分野において重要な基礎となり得る線形代数学について、特に行列の取り扱いについて学ぶ。前半は行列を用いた連立1次方程式の解法について学び、後半は行列の演算、逆行列、行列式、さらにはそれらの応用として産業連関分析やMarkov 連鎖について学ぶ。学修した内容についての理解を確実なものにするため、授業内の要所要所で例題や練習問題を解いてもらいながら授業を進めていく。	
	インターネット配信		近年、一気に普及したインターネットによる動画配信は、これまでのテレビや映画といった従来の動画の枠を超え、またネットにおけるSNSの活用などとも相まって、新たな表現形態・特性を持つメディアとして進化・成立しようとしています。従来のメディアの影響を受けつつも、それらの枠を軽々と超えていく動画配信について、専用機材や汎用機材の活用を通じて、特に生配信コンテンツを実際に制作・発信していく過程を通して理解を深めます。	
	観光の現在と未来		本講義は、観光学の入門講座として、観光における基礎的な事象を網羅的に学ぶことが目標である。講義を通して、人の移動の歴史を紐解き、人の移動が世界を動かしてきた事実の再認識を行った上で、観光の多様性、多面性を理解し、観光と社会の関わりについて学修する。社会学や人類学、心理学などの切り口から観光を学ぶとともに、地域社会に存在する様々な観光の要素（芸術、健康、自然など）や、観光と社会の様々な関わり（ビジネス、まちづくり、メディア）についての事象を取り上げ、観光学への理解を深めることが目的である。	
	ヘルスツーリズム		本講義では、①ヘルスツーリズム（狭義）、セラピーツーリズム、メディカルツーリズムの概念、特徴、歴史などの基礎知識と先進事例研究及び②様々な実践を通して、自分のライフスタイルを点検し、日常生活において健康を留意して、③広義のヘルスツーリズムが目指すものを総合的に理解すると同時に、④ニューツーリズム発展の観点から、ヘルスツーリズムの現状や課題及び問題の解決方法を学ぶ内容となっている。	
	社会心理学		本講義ではまず、自己概念や自己意識などに関する捉え方を学ぶことで私たちが他者から影響を受けていることを理解する。その上で、対人認知や印象形成など他者をどのように認知するのか、他者とのかかわりはどのように作られていくのかということについて心理学的な観点から理解していく。さらに私たちが集団の中でどのように行動するのか、集団における心理についても理解を深める。	
	生活と文化		私たちは古来から育まれてきた日本の文化を受け継いで生活している。また、日々の生活を通して日本の文化、地域の文化、家族の文化を紡いでいる。授業では、共生社会の基本的理念と課題を学び、少子高齢社会の市民生活の動向とライフスタイルの変化を考察し、具体的事例を通してその方向性と課題について、講義および振り返りによって理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	生涯スポーツ概論		生涯スポーツとは、生涯にわたって生活の質が向上するように個人のライフスタイルに適した運動・スポーツを継続して楽しむことである。本授業では、主にスポーツ科学的な観点から運動・スポーツの必要性に対する理解および運動・スポーツを行うため基礎知識の習得を目標とする。運動・スポーツの必要性では、健康・体力について考え、生活習慣病予防のための運動プログラムを学ぶ。また、運動・スポーツを行うための基礎知識では、身体の構造と機能について学び、エアロビック運動とアネロビック運動の理論と方法を学習する。この授業を履修することにより、健康のために必要な基本的な運動プログラムが作成できる能力を学ぶ。	
	スポーツ社会学		現代スポーツの話題として、スポーツマンシップ、ドーピング、スポーツ指導のあり方、障がい者とスポーツなどを取り上げる予定である。	
	ボランティア論		この授業では、地域もしくはコミュニティ、ボランティアというキーワードが含みもつ意味を整理した上で、日本における地域社会やボランティアの現状について精査していく。次いで、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉など福祉の各領域において展開するボランティア、環境ボランティアや災害ボランティアといった様々なボランティアの意義をコミュニティという文脈において整理してみる。最後に地域において展開されるボランティア活動をどう支援し、とりまとめていくかという視点を示し、今後の地域社会におけるボランティアの可能性を考察する。	
	コミュニケーションの基礎		現代社会における「コミュニケーション」の重要性は日々高まっていますが、「コミュニケーション」とはそもそもいかなる概念・行為として定義できるのでしょうか。また、コミュニケーションはそれ自体単独で存在するものではなく、他者や「メディア」の存在を抜きに論じることはできません。本講義では、コミュニケーションを成立させる存在や情報環境を論じるとともに、20世紀半ば以降から現在に至るメディアを通じたコミュニケーションがどのように実証的に捉えられてきたのかを個別の事例とともに取り上げ、現代のコミュニケーションに対する基礎的な視点を獲得することを主眼とします。	
	域学共創プロジェクトA		アール・ブリュットとは、「生の芸術」と言われる、芸術の教育を受けていない人々のアートを指す。今回、「生の芸術」を手掛けるのは、地域で生活されている、障害のある方々である。かつて、障害をもつ方々は、私宅監置や長期入院が強いられ、社会から隔離された時代が長らく続いた。昨今、ようやく、彼らが地域で生活できる社会が築かれつつある。障害のある方々が地域で安定した生活を送るためには、地域との「つながり」が重要であり、安心できる「つながり」は、コミュニティケアとも言える。 自身の思いを表現することが難しい彼らの、アール・ブリュット（生の芸術）を通して、障害のある方の「生」と、学生・地域が「つながる」ことを目的とした、地域共生社会の実現に向けた展覧会である。	共同
	域学共創プロジェクトB		本プロジェクト型授業は、地域調査(フィールドワーク)、展示の企画・立案(グループワーク)、展示の検討(グループワーク)、展示の運営、検証、報告といった一連の流れを通して観光人材が身につける表現力について学びます。	
	域学共創プロジェクトC		現在、社会全体ではデジタル化が進んでいるが、デジタルデバイド（情報格差）が生じている。デジタルデバイドをもたらす要因は、所得や年齢、住む地域、人種や教育の違いなど、数多く挙げられるが、とりわけ高齢化が進む日本においては、若者と比較的インターネットに触れる機会が少ない高齢者との間にあるデジタルデバイドに対する課題意識が高まっている。そこで、本プロジェクトにおいては、インターネットに触れる機会の多い学生をデジタルコーチとして、デジタルシニアを育成していくプロジェクトである。デジタルは手段であり、学生、教職員、高齢者すべての人が幸福（well-being、生活満足度、QOL向上）になることを目的としてプロジェクトを展開する。	共同
	域学共創プロジェクトD		東金市が進めているオリーブの地域ブランド化に対し、本科目は様々な形で応援していくプロジェクトです。具体的な取組テーマは、「オリーブ収穫体験の企画・運営」「大学祭イベントの企画・実行」「オリーブクラウンの制作・提供」などです。地域の課題を見つけ、解決策を提案し、実践することを通して、課題発見問題解決力を身につけます。オリーブに興味がある学生、地域を元気にするアイデアを持つ学生の参画をお待ちしています。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトE		本授業は、地域共生の価値を学び、地域共生社会の実現に向けた課題解決に取り組むプロジェクトである。 プロジェクトでは参加学生一人ひとりが主体的に行動し、異なる背景を持つ多様な人々、例えば、他学部の学生や、企業・地域の方々などと協働する。また、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。 今回取り組むのは「川代棚田共育プロジェクト」で、これは福祉総合学部「世代間交流と学びから考える地域協働」の研究活動を引き継いだものである。具体的には、学校法人城西大学創立者水田三喜男先生の故郷である千葉県鴨川市を訪問し、棚田での活動を通じて、地域課題の解決策を探求する。日本の田植え文化は地域ぐるみの助け合いの象徴であり、農作業は協力と連帯の精神を必要とするため、ここでの「共育」で互いに学び合い、成長し合うことを目指す。その際、建学の精神である「学問による人間形成」を体感するとともに、SDGsの目標に沿った社会貢献を実践する。	共同
	域学共創プロジェクトF		学内で、地域での健康増進活動に必要な知識・技術の学習を行うとともに、地域に顕在する課題を解決するプログラムを立案、実施する。この実践活動を通してプロジェクトマネジメント力を醸成する。また、理学療法だけでなく、多領域の視点を持ち、様々な視野を取り入れて課題を解決することで知識の多様性を図る。	共同
	域学共創プロジェクトG		本プロジェクトは、「ケア機能のあるまちづくりー多世代交流プロジェクトー」をテーマとし、主に学童保育・クラブ（防災かるた普及活動の企画と実施）のフィールドで活動する。(子どもに合わせた防災かるたへの改善や、手話・外国語などの災害時に必要な伝達方法についても、検討することを考えている) 地域コミュニティにおいて人と人とのつながりが希薄化している課題に注目し、地域のコミュニティづくり・活性化に向けてコミュニティの力を発見し、多世代交流を通して相互にケアし合う世代間相互依存関係を育む新たなまちづくりを考える機会とする。	
	域学共創プロジェクトH		東金市で古くから行われている祭りや伝統芸能について、実際にそれに関わっている街の人々から学ぶ。また実際に祭りに参加することにより、祭りと地域、人々と関わりについて理解を深め、人々との触れ合いを体感することにより地域の一員としての意識を高める。	
	域学共創プロジェクトI		本授業において到達の目標とされる項目は以下のとおりである。 １．地域・社会の課題に興味を持つことができる。 ２．地域の自然環境に興味をもち、自分事として考えることができる。 ３．地域の課題を解決に貢献できる実効性のある行動の計画を立てることができる。 ４．地域の様々な人と積極的にコミュニケーションをとることができる ５．他の学生や地域の方々と協力してプロジェクトを進めていくことができる。 ６．プロジェクトの背景を理解し、実行したことをプレゼンテーションできる。 テーマ：東金・山武を中心とする千葉県内の自然環境の保全及び、農業などの一次産業に関わる複数のプロジェクトを年間を通じて実施する。地域に貢献し、地域で学び、活動を通じて自らの力を養う。	
	域学共創プロジェクトJ		スポーツツーリズムを行なっている地域の現状と課題を事前調査研究し、実際に現地での体験や視察を通して、プロジェクト運営能力等を養う。	
	史学概論		先ず、歴史を研究するとはどんな行為なのかについて考える。事実と史実と真実の違いはなにか。 次に、日本以外の地域の歴史のなかから、いくつかのテーマを選んで、人類の歩みにおける因果律について考察したい。 政治史を主としながらも、その裏にある、テクノロジー・経済活動や思想・宗教といった要因を重視して、人類社会の発展を概観する。	
	日本史を学ぶ		本科目は、日本の古代から中世、近世を経て、近代、現代へといたる歴史の展開について、いくつかのテーマを設けて講義を行う。近代から現代にいたる政治史についての講義が多くなるが、社会史や文化史などのテーマも適宜取り上げたい。この受講によって、学生は、近代史が中心になるが、日本の歴史の基礎的な流れを理解できるようにすることを目指すとともに、今後の日本と世界のかかわりを考える力をつけることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	アジア史概論		地形・気候・植生・生態の面からユーラシア大陸と西太平洋地域の全体を先ず理解し、その上で東アジア地域について詳しく検討する。古代と中世については、単なる王朝交代の政治史だけではなく、社会経済史や文化史の側面に目を配り、中華文明と王朝制度の変遷を辿っていく。近世から近代にかけては、ヨーロッパ勢力のアジア進出と「中国史の世界史への組み込み」の過程を丁寧に追っていきたい。現代については、中国・日本・アメリカ・ロシア・ヨーロッパ諸国の相互関係が中心的な話題となろう。	
	現代史入門		授業のテーマについて講義で解説し、内容を理解するために必要な、歴史的背景、情報、知識を伝える。内容に関連した映像等を講義の中で紹介することもある。	
	房総の文化と歴史		【オンデマンド型】授業の形式にて、千葉県すなわち「房総」、及び東京都区部すなわち「江戸」の地理的、歴史的、文化的な枠組みや特色等について、原則として歴史的な時間軸に沿う形で学修する。 併せて、各自が関心を持つ「地域」の特色や課題の掘り起しに必要な視点等も取り上げ、各自の自主的な資料調査等への取組みを通して、「地域」に関連する問題意識を深めていく。	
	映像メディア史		映画が誕生してから約１２０年、現在、私たちの生活に欠かせないものとなっている映像メディア。その誕生から現在まで、世界はどのようにして映像メディアを利用、活用してきたかを探る。娯楽としてだけではなく、ニュースや報道、またプロパガンダ、広告などにも利用され、映画だけでなく、テレビやミュージックビデオなど幅広く進化を続けている。そうした映像メディアの動きを１２０年の世界の歴史に沿いながら解説をしていく。	
	音楽史		ポピュラー音楽の歴史的展開の概説およびジャンルごとに取り上げる作品を鑑賞し、作品の特徴、作品成立の時代について学ぶ。	
	政治学入門		第一に、民主政治における権力の意味を知り、権力抑止の必要性について学ぶ。第二に、アメリカの大統領制の特質を日本の議院内閣制と比較しながら学ぶ。第三に、現代アメリカ政治における分極化の背景を学ぶ。但し、受講生の理解度に応じて、授業計画の項目を精選する。	
	経済学入門		日常生活の中で多くの経済的行動をし、経済現象に接している。このような行動、現象を自分の言葉で正しく説明しようとすると、意外と難しい。それは、経済学的な考え方や理解力が身についていないからである。授業は、このような経済的行動・現象に対する理解・解釈能力を養うことをねらいとする。そのため、講義は経済学の入門知識としてマクロ経済の仕組みを中心に進める。各種時事問題や関心話題を取り入れて進めていく。	
	社会と経営		企業経営を学ぶための基本的領域としては、経営戦略、財務会計、組織、マーケティングなどがある。本講義では、これらの要素を「企業価値」のアプローチで解説してゆく。具体的には「株主にとっての企業価値」「従業員やその家族にとっての企業価値」「顧客にとっての企業価値」「取引先企業にとっての企業価値」の視点から企業経営の基本と社会との関わり方を学ぶ。SDGｓや事業承継など今日的なトピックスにも触れる。	
	社会と会計		会計は、経済社会を生きていく上で不可欠な知識である。本講義では、会社の会計数字から何がわかるのか、またどのように読み取ったらよいのかについて学習する。本講義を履修することによって、「薄利多売」、「黒字倒産」や「会社が儲かる仕組みをどのように作るのか」などが理解できる。	
	マーケティング論		本講義では、大きく２つのパートから構成される。最初に、マーケティング戦略の基礎を学び、ビジネスにおける戦略の意味や働きについて理解を深め、戦略的思考とは何かを体得してもらいたい。続いて、マーケティングを実践する当事者の視点や立場から顧客価値とは何か、またどのように提供するかといった実践的課題について考えていく。事例を出来る限り豊富に取り上げ、一緒に紐解きながら、理論とそれらの実践について追体験ができるよう努めたい。また、今日的なテーマについても時間の許すかぎり取り上げたい。	
	広告戦略論		広告業界というのはどのような役割を持った人たちが、どのようなビジネスの仕組みの中で働いているのであろうか。そして広告が完成するまでの流れはどうなっているのであろうか。特にマスメディア業界の概要を中心に、最新のデジタルメディアの状況や広告会社のコンテンツ戦略まで踏み込んで学習する。広告代理店、広告制作会社など、広告関連業界に興味があり、将来的に進みたい業界の一つだと考えている学生には是非履修してほしい講座である。	
	社会学	○	単なる生き方指南に堕さないために、家族の恒常的変化と多様性の認識は変わらない底層として、もう一度ニュートラルな視座から「家族」をとらえなおしていく。この視座を身につけることを通して、患者や家族のライフコースに寄り添う援助者としての生涯にわたる態度形成のための「気づき」を提供していく。	主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	社会調査	○	この授業では、前半で社会調査に関する基礎的な知識を理解し、作業を通して実践的に調査法を学ぶ。その作業を通じて、複雑な社会の現実を思い込みにとらわれずに理解するために、客観的な情報を取り出す方法として社会調査という方法を体感する。誰もがデータを扱って、読み解く力が求められる時代にふさわしい力を習得する。	主要授業科目
	法律学概論		法律について一通りの常識を身につけておく必要があることを念頭に、法とは何か、法と裁判、国家と法、家庭生活と法、企業法、財産法等の基本的なテーマについて、身近な事例をとりあげながら、講義する。	
	日本国憲法		日本国憲法の理解を通して国政全般の基本的枠組みを知る。その際、国の統治機構や地方自治制度、現行憲法が掲げる基本原理（たとえば、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義等々）の考察をなし、その全体像の把握に務める。さらに、現行憲法制定の背景を探ることにより、昨今、話題の護憲・改憲論にも論究する。	
	著作権		まず著作権の概念や目的の基本を理解する。著作物とは何であるかを理解した上で、著作権の役割や目的の理解をさらに深めていく。その後、現代における著作権の問題点や今後の展開なども含めて具体例や実例を挙げて考察していく。	
	社会福祉学A		21世紀の福祉社会を生き抜くためばかりでなく、援助職にあるものにとって不可欠な人間観、死生観、社会観、福祉観が身につくように福祉社会のありようを深くとらえる視点から、福祉社会の思想、視点と枠組みおよびその発展について学んでいく。	
	社会福祉学B		本講義では、社会福祉の原理に関する内容を整理し、社会福祉の歴史、思想、哲学、理論、現代の社会問題とその構造的背景、福祉政策の基本的視点、ニーズ・資源を学ぶ。さらに、ソーシャルワークの専門職として個人、家族、集団、地域、社会、世界のウェルビーイングの実現・向上を目指すため、福祉政策の理論や理念、歴史に関する基本的内容と、今日的な展開、動向、課題について事実や現状を身に付けるようにする。	
	経営情報基礎論A		ICTの進展に伴い、企業における情報化が深化してきている今日の社会において、企業が競合相手との競争に勝って生き残るためには情報化が必須条件となっており、われわれ一人一人がICTの利活用のための知識やノウハウを修得することが求められている。この授業では、経営情報学部での学びにおける基礎、特に、情報システム技術の基礎について学修する。ITパスポート試験で出題される大分類項目のうち、基礎理論、コンピュータシステム、技術要素に関する問題の70%以上を確実に正解できる能力を身につけることが到達目標である。	
	世界遺産のいま		担当教員は、地球上の世界遺産のほぼ半分を実際に自分の足で訪れた世界遺産のエキスパートである。 こうした体験を学生と共有し、世界遺産の魅力と課題について、多角的に紹介するとともに、自然環境や文化財の保護にあり方について考える講義とする。	
	美学･芸術学		現代商業社会における「美術」や「芸術」の多様性を確認する。即ち、諸ジャンルの作品創出・制作には、歴史相、享受階層、社会経済関係、技術的条件等が関り社会的に造られている実態があることを確認する。この多様性の確認の上で、先行する学問的分析手法や理論の助けにより、作品創造・享受の理念を問うことを通して、「芸術」ならびに「美」に関する人類的共通基盤の可能性を考察する。	
	表象文化研究		本授業では歴史上の様々な視覚表現の変遷を「ヴィジュアル・カルチャー」として広く考察する。その変化が最も明瞭ともいえる西洋美術史の発展を中心に、音楽や建築、印刷技術などにも触れながら横断的に表現の歴史を学び、教養を高める。史学的な視点に加え、絵画制作の実技におけるテクニカルな部分にも触れていく。また、自身の表現や興味が歴史上どの文脈に関係しているかを考察し、言語化する力を身に付けることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	世界の文学		本講義は幅広い教養を育むための「全学部共通基盤科目」の一つであり、「世界を創造する」というカテゴリーに属し、文学を全人的に体験して創造力を高めることを広い意味での目的としている。従って本講義の到達目標は、読書体験（他には視聴体験）を通して、多種多様な「世界の文学」に触れて教養を育むと共に、個人の創造力を高めることにある。文学は小説・物語・詩・短詩（和歌・短歌・俳句・川柳なども含む）・童話・民話・児童文学・劇作・評論・警句集などの総称である。文学作品の大部分は文字で記載されており、主に読書を通して、時には視聴したり、自ら創作（執筆）するなどして体験して味わうものである。観念的に文学全般を論じても、畳の上の水練（畳の上で水泳の練習をすること）のようなものに過ぎなくなる。そこで、水泳でまずは水に親しむことが重要なように、本講義では古今東西の様々なジャンルの作品を読んだり、視聴するなどして、体験してもらう。受講生は講義終了時には30を超える文学作品に接することになる。その上で、受講生には自分自身の文学観や文学を通しての世界観・人間観を培ってもらいたいと思う。	
	演劇研究		本講義では、日本および海外の主要な演劇作品と作家を切り口にして、演劇の成り立ちを理解するとともに、演劇の持つ力、社会における役割を分析していく。演劇を知るには実際に観るのが一番。その手掛かりとなるよう、講義の中で可能な限り映像資料を視聴し、最新の演劇事情を概観しつつ、各自の演劇体験などをディスカションしていきながら、多種多彩な演劇作品に触れていきたい。	
	古典芸能研究		伝統芸能の一つである落語の歴史と現在について学び、口承文化の継承と変容について考える。また、落語を通して、古今の日本人の物事の見方や捉え方について理解を深めることを目標とする。落語の背景や歴史、落語の発生、変容、寄席の成立、中興の祖、昭和落語史、現代の落語に加え、枕、本題、古典落語、新作落語、寄席、ホール落語、亭号、おはやし、太鼓、寄席文字、色物などの意味を理解する。古典落語から学ぶものとしては、江戸の時間、江戸のお金、遊郭、芝居噺、滑稽噺、怪談噺、人情噺などがあげられる。新作落語から学ぶものとしては、大正昭和の新作落語、現代の新作落語・落語の体験などを通して理解深める。	
	文学を読む		本授業は、オンデマンドによる開講である。日本の近現代文学において人や社会がどのように描かれているか、表現と内容の両面からみていくことで小説を読む力を育む。履修者自身が作品の全編を読み通すことを重視し、比較的入手しやすい短編を取り上げる。作品について基礎的な解説を行ったうえで、文学理論の基礎的概念を導入しつつ、読みを例示する。内容については、生死、家族、運命といったテーマを設けて人間や社会のありようについて考える機会を提供する。	
	教育学		教師として子どもの発達を支援するには、どのような知識が必要となるのか、また、後半では、子どもの学習を促すには、動機づけやわかる授業をどうおこなうかを考えながら学習をすすめる。	
	心理学		心理学に関する基礎的なテーマを取り上げ、身近な事象や経験を通しながら、関連する見識について解説をし、理解を深めていく。	
	基礎の数学		授業は、オンデマンド用の録画を視聴する演習方式で行う。受講者は、動画を視聴するための電子デバイスとインターネット環境、計算を行うための紙と筆記用具が必要となる。毎回の授業では、講師はまずその回のトピックと例題について簡単に解説をする。受講者は出題された演習問題を1問ずつ解き、講師はそれらの問題の解説を行う。	
	ジェンダー論		世界で女性解放運動（フェミニズム）がどのように展開し、女性学やジェンダー研究へと結実したのかを理解する。また現代日本においてジェンダー平等がどの程度達成されているのか、いないのかを多様なデータをもとに理解する。家庭や職場、学校、地域社会など、様々な局面でのジェンダー問題を数値や具体的事例をもとに捉えて理解し、問題を解決していくための方策を考える。	
	根拠への問いー哲学へのとびら		本授業では、オンデマンド講義ファイルを視聴することを通してみずから問いを引きうけ、問いを展開していくことを、受講者ひとりひとりが学びとして進めて行く。毎回、みずから自分自身を振り返って、気づいたことをまとめ、自分なりに問いを一歩でも先に進めることを試みる。受講者自身、答えを出さなければいけない学び、教師と称する立場の者がすでに隠し持って、定めている正解を求め暗記して復唱する学びから、自らを解放し、いかに問いそのものを明確にできるかをこころみる。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学部共通基盤科目群	異文化適応論		この授業では、異文化コミュニケーション学、第二言語習得及び社会心理学の諸分野の視点から異文化適応を考えていく。具体的には、まず、文化や適応などの基礎概念を導入し、異文化体験により生じた不適応の実態と要因を紹介する。次に、カルチャーショックの諸相、U字曲線の適応、W字曲線そしてらせん型の適応について解説する。さらに第二言語コミュニケーションはどのように異文化適応に影響を与えるのか、適応するための相手との違いへの気づき、そして自分自身を知ることなどの大切な知覚要素を取り入れる。最後に適応の条件を紹介し、異文化適応は成長の過程でもあることを認識し、少しでも異文化適応力を身につけることを期待する。	
	宗教学概論		日本人は無宗教とされますが、寺院数だけでもコンビニの総数を上回ります。多文化共生が叫ばれますが、文化と宗教の関係は密接です。本講義では一見すると宗教とは無関係なアニメ・マンガなどからも「宗教」を問います。また、「宗教」からさまざまな現代問題に迫ります。現代人に必須な一般教養として「宗教」を講義します。	
	倫理学概論		倫理学の現代的課題を理解し自らが倫理学の人類的遺産を活かして日々社会的倫理的実践に生きる。具体的には、「善」や「正義」ということがらは、個人や文化によって異なるとか、数学や論理学のような明確な答えがないとか、そのような理由で、道徳的指令集としての「倫理学」が否定されてきている状況を理解した上で、自らが日々、倫理的、政治的、宗教的に中立的であり得ているのか再吟味する。その上で、21世紀におけるみずからの地域社会、市民社会、国家、世界共和制における顕在的、潜在的な現実的コミットを、哲学、倫理学の歴史的な英知を基に、自分自身で再構築して、日々自覚的に実践的世界を生きることを追究する。	
	スポーツ科学A		本授業ではスポーツ実技を行う。スポーツ種目は、競技スポーツ、レクリエーションスポーツ、アダプテッドスポーツから複数の種目を選択して行う。また、スポーツあるいは体力づくりに関連するスポーツ科学の知識を学習し、安全かつ適切な方法でスポーツ・運動を実践する習慣を身につけるようにする。	
	スポーツ科学B		スポーツは、我々の生活を楽しく豊かなものにしてくれる。ところが、スポーツを定期的に行う者は大学入学頃から減少し、その結果、学生のなかには青年期に必要な体力を喪失している者も存在するように思われる。本授業では、主に球技などチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得の４点をねらいとして展開していく。スポーツ種目は、フットサル、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、インディアカ、インディアカテニス、アルティメット、テニス、ソフトボール、レクリエーションまたはアダプテッドスポーツなどから複数行う。	
	しゃべりのスキルUp Ⅰ		コミュニケーションや対話の基盤をなす言語能力は、生きていく上で欠かせないスキルである。加えて目まぐるしく変化を続ける状況を的確に言葉にし説明する力、自身の意見を魅力的に表現する力は、仕事の効率を高め、そのクォリティーを上げる。社会生活のために必要な「言語能力」を今一度見直し、より正しい情報収集力、その情報を元に繰り広げる思考力、そしてそれらを的確に伝える有効な表現力を身に着ける事をこの授業の最終目的 としている。プレゼン、面接等でいかに説得力のある言葉を選び、自身の中にあるイメージや考えを言葉にするか。すべての学部生にとって必要な「しゃべりのスキル」向上を目指す。	
外国語科目群	Fundamentals of English Ⅰ		英語の基礎となる「読む」「聞く」「書く」「話す」の４技能の基礎を習得するための授業である。英語による「コミュニケーション能力」「文化的知識」「アカデミックスキルズ」などの習得を図るため、ペアワークやグループワークを多く取り入れるとともに、オンライン課題に取り組むことによって実践的な運用能力の習得を図る。	
	Fundamentals of English II		この授業は、「Fundamentals of English Ⅰ」で身に付けた英語の基礎となる４技能をさらに向上させる。英語による「コミュニケーション能力」「文化的知識」「アカデミックスキルズ」などの習得を図るため、ペアワークやグループワークを多く取り入れるとともに、オンライン課題に取り組むことによって実践的な運用能力の習得を図る。	
	Oral Fluency Ⅰ		この授業は、英語によるスピーキング、会話、ディスカッション能力の向上を目的とする。ペアワークや小グループで会話やディスカッションに取り組むとともに、会話やディスカッションに応用できる表現や語彙を身に付ける。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目群	Oral Fluency II		この授業は、「Oral Fluency I」で身に付けたスピーキング能力をさらに向上させる。英語によるスピーキング、会話、ディスカッション能力の向上を目的とする。ペアワークや小グループで会話やディスカッションに取り組むとともに、会話やディスカッションに応用できる表現や語彙を身に付ける。	
	TOEIC Preparation A		この授業はTOEICテストのスコアアップを目的とする。特にリーディングとリスニングセクションに重点を置き、テストに関連する文法と語彙の定着・向上に取り組む。模擬テストを定期的に行い、各パートの出題傾向を把握し、問題に取り組むためのテクニックを実践する。この授業では、ショッピングやレストラン、健康面に関する会話など日常的な場面を想定したテーマを扱う。	
	TOEIC Preparation B		この授業はTOEICテストのスコアアップを目的とする。特にリーディングとリスニングセクションに焦点をあて、テストに関連する文法と語彙の定着・向上に取り組む。模擬テストを定期的に行い、各パートの出題傾向を把握し、問題に取り組むためのテクニックを実践する。 このオンデマンドコースは、受講者のTOEICの総合的なスコアの向上を目的としています。TOEICテストのリスニングとリーディングセクションに焦点を当てた指導を行い、テストに関連する文法や語彙の向上、リスニング戦略の開発、そしてより高いスコアを獲得するために必要なTOEIC特有のテスト対策スキルの強化に特に重点を置きます。	
	TOEIC Preparation C		この授業はTOEICテストのスコアアップを目的とする。特にリーディングとリスニングセクションに焦点をあて、テストに関連する文法と語彙の定着・向上に取り組む。模擬テストを定期的に行い、各パートの出題傾向を把握し、問題に取り組むためのテクニックを実践する。 このオンデマンドコースは、学生のTOEICスコアの全体的な向上を目的としています。学生は模擬TOEICテストを定期的に受けることで、一般的に使用される文法や語彙に慣れ、TOEICテストに適用できるリスニング戦略を開発します。	
	TOEIC Preparation D		この授業はTOEICテストのリーディングとリスニングセクションに重点を置き、さらに高得点を目指す。テストに関連する文法と語彙の定着・向上に取り組む。模擬テストを定期的に行い、各パートの出題傾向を把握し、問題に取り組むためのテクニックを実践する。	
	English for Specific Purposes A		この授業は、小規模な聴衆に向けて英語で自分の考えや意見を明確な構成で伝える能力を目的としている。日常的なトピックに関する様々なアイディアを探求し、トピックに基づいた語彙、プレゼンテーションフレーズ、意見のまとめ方を学び、トピックに関するプレゼンテーションやレポートの作成により実践的な能力を養う。	
	English for Specific Purposes B		この授業は、小規模な聴衆に向けて英語で自分の考えや意見を明確な構成で伝える能力を目的としている。より高度なトピックに対するアイディアを探求し、トピックに基づいた語彙、プレゼンテーションフレーズ、意見のまとめ方を学び、トピックに関するプレゼンテーションやレポートの作成により実践的な能力を養う。	
	English for Advanced Studies A		リスニングとディスカッション中心の総合的な英語能力の習得を目的とした授業で、心理学、メディア研究、科学、人文科学の4つのテーマで構成されている。事前学習として、各自テーマについて調べ、授業ではテーマに関する興味、語彙、知識を深めるための実践的なアクティビティを行うことで、英語による実践的なコミュニケーション能力を養う。	
	English for Advanced Studies B		リスニングとディスカッション中心の総合的な英語能力の習得を目的とした授業で、マーケティング、社会科学、メディア研究、言語学の4つのテーマで構成されている。事前学習として、各自テーマについて調べ、授業ではテーマに関する興味、語彙、知識を深めるための実践的なアクティビティを行うことで、英語による実践的なコミュニケーション能力を養う。	
	中国語I		教科書に従って授業を進める。発音、語彙、文法項目、会話、練習問題などの学習を行う。発音（ピンイン）は、読み方と４つの声調のリズムは毎回の授業で聞く・発音するという練習を繰り返しながら定着していく。語彙と文法は、まず教員が意味と用法の解説をする。そのあと学生は例文を訳したり、文を作ったり確認するという形で学習する。会話の学習は、学生はグループ学習により、日本語訳、朗読、置き換え練習で確認し合うという形でする。	
	中国語II		教科書に従って授業を進める。発音、語彙、文法項目、会話、練習問題などの学習を行う。語彙と文法は、まず教員が意味と用法の解説をする。そのあと学生は例文を訳したり、文を作ったり確認するという形で学習する。会話の学習は、学生はグループ学習により、日本語訳、朗読、置き換え練習で確認し合うという形でする。また、中国語検定試験対策の指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目群	韓国語I		ハングルと基礎的な文法を理解し、身近な話題についての簡単な会話と作文ができるように練習する。	
	韓国語II		「韓国語I」を履修した学生を対象とする。「韓国語I」で学んだ内容を確実に復習した上、より多彩な表現と文法を学習し、多様な場面でコミュニケーションができるように練習する。	
	スペイン語I		スペイン語は現在スペインのみでなく、米国やメキシコそして中南米の諸国の人々に母国語として話されています。そこで簡単な会話ができるよう、ABCの読み方、音の出し方から授業をはじめる。 スペイン語Iの学習者は後期のIIの継続学習をすすめる。	
	スペイン語II		スペイン語は現在スペインのみでなく、米国やメキシコそして中南米の諸国の人々に母国語として話されています。そこで簡単な会話ができるよう、ABCの読み方、音の出し方から授業をはじめます。 DELE A1試験が合格できるようになる。 スペイン語I&IIで勉強した文法や単語を深める。	
	ドイツ語I		ドイツ語初級に不可欠な文法事項を習得し、文法の進度に合わせて簡単な日常会話ができるようになることが目標である。 (独検5級：初歩的なドイツ語を理解し、日常生活でよく使われる簡単な表現や文を運用できる。) 読解力が深まる。ドイツ語を学ぶことを通して、ドイツ語を母語とする社会についての知識と関心を深めていってほしい。	
	ドイツ語II		教科書に掲載されている12の課のうち、第4課～第6課まで行う。文法の説明は日本語で行い、練習問題はドイツ語で行う。会話はパートナー練習の形式をとり、日常的なドイツ語が身につくようにする。 なお、ドイツ語Iの単位取得がIIの履修条件になっている。	
	フランス語I		この授業は、初級レベルのフランス語、フランス文化、フランス語圏について学ぶ。この授業はフランス語を学んだ経験のない学生を対象として、基本的な語彙と文法を習得することを目的とし、自己紹介、日常生活における簡単な会話ができるようになることを目指す。聞く、話す、読む、書くの４技能を網羅し、総合的なフランス語の力を養う。	
	フランス語II		この授業は、「フランス語I」で身に付けた初級フランス語文法の理解をさらに深め、やさしいフランス語を使って、自分や自分を取り巻く環境、人々についてさらに詳しく説明できることを目標とする。	
	ハンガリー語I		この授業は、初めてハンガリー語を学ぶ学生のための入門クラスである。ハンガリー語の基本的な文法と語彙を学びながら、日常会話の表現も身につけていく。授業では、必要に応じて英語も併用する。英語からハンガリー語へ、またその逆の翻訳練習も行うことで、ハンガリー語の学習を通して英語力の向上もサポートする。また、「ランゲージシャワー」の手法を取り入れ、自然な言語習得を目指すと同時に、他の言語、特にヨーロッパの言語を使う経験も積むことができる。	
	ハンガリー語II		この授業はハンガリー語Iの続きのクラスである。ハンガリー語の基本的な文法と語彙を学び続けながら、日常会話の表現も身につけていく。授業では、必要に応じて英語も併用する。英語からハンガリー語へ、またその逆の翻訳練習も行うことで、ハンガリー語の学習を通して英語力の向上もサポートする。	
	ポーランド語I		原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法などについて解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習ではなく、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのさまざまな資料も活用しながらポーランドの魅力の紹介をしていく。	
	ポーランド語II		原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法事項について解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習に終わらず、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのヴィジュアル資料なども活用しながらポーランドの多様な魅力の紹介に努めたい。	
	チェコ語I		チェコ語のアルファベット、発音、文法の初歩知識を習得する。徐々に語彙を広げ、日常でよく使われる表現を覚え、会話を練習することにより、会話力の基礎を固める。ヒアリングの練習もし、理解する・話す力を少しずつ身につけることがこの授業の目標である。前期終了時に簡単な文章や自己紹介をチェコ語で言える力を身に付ける。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目群	チェコ語II		正しい発音、文法の初歩知識を習得する。徐々に語彙を広げ、日常でよく使われる表現を覚え、会話を練習することにより、会話力の基礎を固める。ヒアリングの練習もし、理解する・話す力を少しずつ身につけることがこの授業の目標である。前期終了時に簡単な文章や自己紹介をチェコ語で言える力を身に付ける。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。	
	日本語I		この授業では、様々なトピックについて学部につなげるための日本語力を養う。内容を読む・書く・聞く・話すの４技能を通して学び、文法・読解・聴解・文字・語彙などをバランスよく総合的に学ぶ。そして、実際に使えるようにするために自分の言葉でまとめたり、意見を述べたりできるようにする。最後は協働で発表したり議論したりして学びの成果をまとめる。授業外では、毎回、４時間程度の課題と復習を必要とする。	
	日本語II		この授業では、「日本語I」に引き続き、様々なトピックについて日本語で学ぶ。学部につなげるための日本語力を養う。読む・聞く・書く・話すの４技能を通して通して学び、文法・読解・聴解・文字・語彙などをバランスよく総合的に学ぶ。学んだ言語知識が実際に使えるようにするために自分の言葉でまとめたり、意見を述べられるようにする。そして、ペアワークやグループワークをしながら双方向の理解を深めたり、思考力を養う。最後は発表したり議論したりしてで学びの成果をまとめる。授業外では、毎回、４時間程度の課題と復習を必要とする。	
	統合日本語I		この授業では、内容言語統合型学習（CLIL)の４つのC（内容、言語知識・言語使用、思考、協学)の方法を用いる。オーセンティックな教材を用いて、学習者は能動的に授業に参加し、協働学習を通じて、発話力や表現力を養う。内容と言語を学び、それらを自分の言葉でまとめたり、意見を述べたりできるようにする。そして、クリティカルに考えられるようにペアワークやグループワークをしながら双方向の理解を深め、思考力を養う。最後は発表したり議論したりして学びの成果をまとめる。授業外では、毎回、４時間程度の課題と復習を必要とする。	
	統合日本語II		この授業では、「統合日本語I」に引き続き、内容言語統合型学習（CLIL)の４つのC（内容、言語知識・言語使用、思考、協学)の方法を用いて、学生の思考力や協働で学ぶ力を養う。この授業では、言語知識を学ぶだけではなく、学習者は能動的に参加し、発話力や表現力を養う。日本の社会問題や災害問題などオーセンティックな言語素材を通して読む・聞く・書く・話すの４技能を学び、学んだ言語知識が実際に使えるようにするためにペアワークやグループワークをしながら双方向の理解を深める。最後は発表したり議論したりしてで学びの成果をまとめる。授業外では、毎回、４時間程度の課題と復習を必要とする。	
	日本語アカデミック・ライティング		この授業では、アカデミックなライティング力を養うための授業を行う。学部の課題レポートが提出できるようにレポートの書き方、小論文の書き方など、テーマに合わせて書く練習する。書く前には、トピックについて読んだり、話しあったりしながら、理解を深めた上で、自分の考えをまとめ、どのように書くか学ぶ。また、読む資料は教員から与えられたものだけではなく、学習者が能動的に資料を自ら調べて整理し、多角的に捉え、自分の言葉で完結に述べたり議論した上で、書く作業を行う。また、資料の集め方や図書館の使い方なども学びます。授業外では、毎回、４時間程度の課題と復習を必要とする。	
	日本語アカデミック・スピーキング		この授業では、アカデミックなスピーキング力を養うための授業を行う。学部の課題のうちプレゼンテーションができるようになるために発表の仕方やまとめ方を学ぶ。まず、トピックについて情報を集め、協働で読んだり話したりして理解を深めた上で、自分の考えをまとめ、どのように発表するか学ぶ。また、発表の根拠となる資料は教員から与えられたものだけではなく、学習者が能動的に情報を自ら調べて整理し、自分の言葉で完結に述べたり議論したりした上で、プレゼンテーションする。また、資料の集め方や図書館の使い方なども学ぶ。授業外では、毎回、４時間程度の課題と復習を必要とする。	
	社会と文化の日本語A		この授業では、主に地域文化・社会を題材に内容を学び、その学びを通して言語知識を身につける。内容を通してコミュニケーション力を養い、学習者同士が一緒に学び合いながら、言語力を養う。主に地域（千葉周辺）の地理や歴史を題材に内容を学び、その学びを通して言語知識を身につける。言語知識を実際に使えるように自分の言葉でまとめたり、意見を述べたりする。そして、クリティカルに考えられるようにペアワークやグループワークをしながら双方向の理解を深める。毎回、４時間程度の課題と復習を必要とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目群	社会と文化の日本語B		この授業では、映像作品などを見たりしてペアワークやグループワークで理解を深める。映像作品などでは、セリフの書き取りをした上で実際に話してみるなどの活動を通して、日本文化を理解する。漫画作品やなどは、学習者が能動的に自ら調べてまとめ、自分の言葉でストーリーを描写したり、作品について議論したりして作品に関するレポートをまとめる。科学技術に関する情報についても同様に自分の言葉で語れる力を養う。学んだ内容を通して日本語表現・文法・語彙を学ぶ。授業外では、毎回、４時間程度の課題と復習を必要とする。	
キャリア形成科目群	地域ボランティア研修		バランスの取れた福祉社会の形成のためには、行政による福祉事業等の公助のほかにも、住民同士の支えあいである互助活動が果たす役割が欠かせない。本授業では互助活動のうち、ボランティア活動の実践体験を通じて、地域活動に関わる多様な関係者の立場や状況、考え方を理解する力を培うとともに、活動の計画や実施、改善等の企画運営能力の向上を図る。	共同
	福祉疑似体験		本授業は、①高齢者、障害のある人の疑似体験を行うことで、不自由さ及び心理を知る。②心地よい支援とそうでない支援について意見交換し、支援のあり方について考察する。③福祉環境について考察し、福祉環境の問題点を明確化する。具体的な内容として、車いすによる身体障害者体験や点字等による視覚障害者体験、手話による聴覚障害者体験、高齢者疑似体験を実施する。これらの疑似体験を通して福祉利用者がどのような気持ち（不自由さ）を感じているのか、どのような支援がなされているのかを知り、考察することで、利用者を取り巻く問題を明確化して、社会福祉の理論学習につなげていく。授業は日本語を用いて、講義・演習形式で実施する。	共同
	ICT活用論		本科目は福祉の基本的な知識を確認しながら、障害の有無や年齢にかかわらず誰もがより暮らしやすい社会を実現するために必要な知識を学ぶことを目的とする。 ノーマライゼーションの理念を理解し、それを具体的に推進する考え方のバリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶとともに、福祉現場で出会う「福祉機器」・「福祉住環境」情報機器やネットワークを利活用して、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いて情報の読み書き発信する基礎能力を身につけることを目指します。講義は事前学習（小テスト実施）、グループ討議を中心に、視覚教材や実際の機器を活用しながら提示・解説をすすめる。	
	福祉グローバル研修 A		海外での研修に先立って、学内で事前授業を行い、研修地に関する基礎知識の習得及び研修に必要な語学能力のブラッシュアップを行う。そのうえで海外に赴いて福祉実践の現場や協定校において研修を行い、現地の福祉の理念や内容について実践的に学ぶ。また、福祉の背景となる現地の文化についても、現地の大学生との交流を通して学ぶ。帰国後には、研修で学んだ内容についてさらにディスカッションを行って理解を深めたうえでレポート作成、成果発表を行う。	共同
	福祉グローバル研修 B		海外での研修に先立って、学内で事前授業を行い、研修地に関する基礎知識の習得及び研修に必要な語学能力のブラッシュアップを行う。そのうえで海外に赴いて福祉実践の現場や協定校において研修を行い、現地の福祉の理念や内容について実践的に学ぶ。また、福祉の背景となる現地の文化についても、現地の大学生との交流を通して学ぶ。帰国後には、研修で学んだ内容についてさらにディスカッションを行って理解を深めたうえでレポート作成、成果発表を行う。	共同
	ライフステージIPE A		本授業は、薬学科・看護学科・理学療法学科の学生が学部を超えて共に学びあうIPEの一環であり、主に患者（サービス利用者）に焦点を当てた学びを行うものである。到達目標は以下の通りである。① 共有と尊重：対象者を理解する。②患者（サービス利用者）の気持ちを理解できる。③患者（サービス利用者）の保健医療福祉職に対するニーズを理解できる。④患者（サービス利用者）に対する自分の思いに気づくことができる。⑤患者（サービス利用者）を看る視点の違いを理解できる。	共同
	ライフステージIPE B		本授業は、薬学科・看護学科・理学療法学科の学生が学部を超えて共に学びあうIPEの一環であり、主に専門職に焦点を当てた学びを行うものである。到達目標は以下の通りである。①主張と調和：専門職を理解する、②チームケアにかかわる様々な専門職の方々からのレクチャーを通して、各専門職の専門性や大切にしていることを知る。③多職種の専門性を知ることを通して、自らの目指す職種が追求すべきことを再認識する。④価値観の異なる人々とチームをつくる方法を体験する。⑤専門性のことなる学生が考える理想のチームに必要な要素を共有する。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
キャリア形成科目群	ライフステージIPE C		この講義では、3学科（薬学、看護、理学、福祉）の学生チームで、対象者の健康問題を明らかにし、本人が望む生活に向けた医療福祉チームによる支援の道筋を探る手法を学ぶ。とりわけ、それぞれの職種の専門性を発揮しながらチーム内でコンセンサスを形成してゆく、というプロセスを経験することを大切にしてもらいたい。グループワークとコミュニケーションのプロセスを通し、異なる専門性や文化を持った人との対話力を育て、チームケアにおけるリーダーシップ、メンバーシップを発揮できる力を育てることを目指す。	共同
	ライフステージIPE D		目標として、看護学科、薬学科の学生と共に学ぶことにより、多職種連携に必要な基本的知識、視点を理解する。以下の4点を到達目標とする。①福祉現場を見学・体験し地域ケア現場の実態を理解する。②福祉現場の体験を通して、地域ケアの課題やあるべき姿を考える。③専門性の違いが、福祉的問題の理解にどのように影響するのかを考察する。④他職種を理解し、多職種連携の意義を考察する。具体的な内容として、専門職連携教育プログラムに対応したものである。地域における様々な医療・福祉に関するケアの現場や専門職の役割を理解するため、多学部編成チームで3日または4日間の現場体験を行い、学習の成果を発表する。授業は日本語を用いて、実習形式（診療所・歯科クリニック、薬局、高齢者施設等で2-4日間）で実施する。	共同
	基礎ゼミ		基礎ゼミは、高等学校等から大学への円滑な移行を図るため、学生自身が主体的に学び、行動する体験から、大学で学ぶための基礎的な能力とキャリア形成能力を養成する。具体的には、個別指導、集団指導を活用し、情報収集能力、問題発見能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力について、具体的な課題に応用し、大学で学習するための力を養成する。さらに、4年間のキャリアについて考え、今後のキャリアを形成していく基盤となる能力を身につける。	共同
	地域共生演習		現代日本では少子高齢化や人口減少などの大きな社会変動の下で、生活領域における支え合いが弱体化し、多様な課題を抱え社会的孤立を深める人々が増えてきている。このような現状に対して、地域の多様な主体が参画し、制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指すことが求められている。本授業では、様々な演習を通じて、①「地域共生社会」「社会的排除」の概念を理解し、説明できるようになる。②「地域共生社会」の実現に向けた取り組みについて、自分なりに考え説明できるようになる。③地域の多様なニーズ・課題を発見し、解決方法について考え、説明できるようになることを、目標としている。	
	ゼミナールA		ゼミナールは、福祉総合学科のキャリア形成教育に位置づけられている。将来、社会（福祉現場や公務員、企業などの就職先）で問題を見出し、分析、問題解決できる能力の習得を目指す。特に、ゼミナールAでは「基礎ゼミ」をふまえ、問題の分析を行うための研究方法の習得、学生一人ひとりの興味、関心に基づき、文献調査やインターネットなどで情報を調べ、個人、グループでエビデンス（根拠）に基づいた問題を提示できる能力を養成する。	
	ゼミナールB		ゼミナールは、福祉総合学科のキャリア形成教育に位置づけられている。将来、社会（福祉現場や公務員、企業などの就職先）で問題を見出し、分析、問題解決できる能力の習得を目指す。特に、ゼミナールBでは、問題の分析を行うための研究方法の習得、学生一人ひとりの興味、関心に基づき、文献調査やインターネットなどで情報を調べ、個人、グループでエビデンス（根拠）に基づいた問題を提示し、論理的に説明できる能力を養成する。	
	ゼミナールC		ゼミナールは、福祉総合学科のキャリア形成教育に位置づけられている。将来、社会（福祉現場や公務員、企業などの就職先）で問題を見出し、分析、問題解決できる能力の習得を目指す。特に、ゼミナールCでは、問題の詳細を理解するための研究方法の理解、提示した問題の詳細を理解するために、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査、統計調査などを活用し、問題の詳細を理解するための方法論を修得し、活用できるための基礎的な理解ができるようになることを目指す。	
	ゼミナールD		ゼミナールは、福祉総合学科のキャリア形成教育に位置づけられている。将来、社会（福祉現場や公務員、企業などの就職先）で問題を見出し、分析、問題解決できる能力の習得を目指す。特に、ゼミナールDでは、問題の詳細を理解するための研究方法の理解、提示した問題の詳細を理解するために、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査、統計調査などを活用し、問題の詳細を理解するための方法論を活用し、ゼミナール論文のテーマを設定し、計画できるようになることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
キャリア形成科目群	ゼミナールE		ゼミナールは、福祉総合学科のキャリア形成教育に位置づけられている。将来、社会（福祉現場や公務員、企業などの就職先）で問題を見出し、分析、問題解決できる能力の習得を目指す。特に、ゼミナールEでは、提示した問題の理解をふまえ、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査、統計調査などを活用し、問題の詳細を理解するための方法論を活用し、調査を実施、得られたデータを分析することを目指し、それを文章としてまとめていく力も合わせて養成する。	
	ゼミナールF		ゼミナールは、福祉総合学科のキャリア形成教育に位置づけられている。将来、社会（福祉現場や公務員、企業などの就職先）で問題を見出し、分析、問題解決できる能力の習得を目指す。特に、ゼミナールＦでは、提示した問題の理解をふまえ、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査、統計調査などを活用し、問題の詳細を理解するための方法論を活用し、調査を実施、得られたデータを分析し、考察することを目指し、それを文章としてまとめていく力も合わせて養成する。	
	ゼミナールG		ゼミナールは、福祉総合学科のキャリア形成教育に位置づけられている。将来、社会（福祉現場や公務員、企業などの就職先）で問題を見出し、分析、問題解決できる能力の習得を目指す。特に、ゼミナールＧでは、提示した問題の理解をふまえ、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査、統計調査などを活用し、問題の詳細を理解するための方法論を活用し、調査を実施、得られたデータを分析し、考察することを目指し、それを文章としてまとめ、研究結果を発表するためのプレゼンテーション能力も合わせて養成する。	
	ゼミナールH		ゼミナールは、福祉総合学科のキャリア形成教育に位置づけられている。将来、社会（福祉現場や公務員、企業などの就職先）で問題を見出し、分析、問題解決できる能力の習得を目指す。特に、ゼミナールＨでは、今まで取り組んできた問題の分析と理解、問題解決の方法論の理解、問題解決のプレゼンテーションの理解などを通して習得した能力を整理し、問題解決能力の総合的な理解をし、個人のキャリア形成に繋げていく能力の育成を目指す。	
	専門日本語(福祉･介護)		福祉（介護・保育）現場で必要な日本語や表現を習得することを目標とする。 介護・保育の現場における1日の流れを把握し、要所要所で必要な知識、日本語を勉強し、実践する。	
	キャリア日本語(就職)		卒業後の進路（主に就職）に対応できるよう、実践を通して幅広い知識と技法を身につける。特に、（日本語）コミュニケーション力、異文化適応力、ビジネスマナーを含めた社会人基礎力の修得に重点を置く。	
	キャリア日本語(進学)		この授業は、論文の書き方と大学院進学準備のための科目である。大学院進学のための必要なスキルと論文の書き方を主に学ぶ。具体的には、大学院の探し方、大学院の分析、資料の取り寄せ方、志望動機の書き方などを学ぶ。この授業では、読む・話す・書く・聞くの４技能をバランスよく学びます。専門については、学習者が自ら資料を探し、発表し、学部で身につけておかなければならない自分の専門について、語れる、発表できる、論じられる内容の知識を身につける。	
専門基礎科目群	人間学	○	福祉の実践を行う際には、その場に関わる全ての人々の尊厳・権利について深く洞察し、それに配慮することが求められる。もはや援助者側の視点(思い込み)や論理のみで支援を実践することは社会的に許されないだけでなく、様々な問題をひきおこす要因となる。本科目では、履修生が人権や人間の尊厳、社会において人権が侵害される構造、問題の解決に寄与する概念や方法論に関して理解し、現場においてそれらを尊重しながら福祉実践を行うのに必要な考察力を獲得することを目標とする。	主要授業科目
	ジェンダーと福祉社会		ジェンダーと福祉社会では、子ども、女性、家庭、社会保障、介護、保育に関するジェンダーの課題について基礎知識を身につけ、主体的に活動できる力を養う。特に、女性解放運動、ジェンダー平等の取り組みの歴史について理解する。ついで、内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書」などを活用し、子ども期、学校生活、女性就労、セクシュアリティ、家庭生活、育児、中高年期、福祉国家論などにおけるジェンダーの諸課題について理解することを目指す。	
	サステイナブル社会論	○	人間としての尊厳ある豊かな生活を送るためには、持続可能（サスティナブル）な社会の構築、地域づくりが求められている。地域社会で生じる問題を解決し、発展を実現するためには、地域を構成する主体が一対となって課題への認識を深めてゆくこと、問題解決に向けて目標を明確に定めていくことが重要である。本科目では地域コミュニティと福祉の視点から持続可能な社会づくりの実践がどのように展開され、いかなる役割・意義を持つのかを学習することを目指す。	主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目群	福祉文化･社会論	○	グローバル社会で活躍するに必須となる異文化コミュニケーション能力を養うには、異国の社会文化を知ると同時に、自国の社会文化に対する認識を深める必要がある。本授業では、日本の政治・経済・宗教・社会構造・風俗習慣や日本人の思考様式、行動様式等、日本社会文化や日本社会が抱えている問題点について勉強すると同時に、文化の多様性や異文化コミュニケーションについても検討し、グローバル社会で活躍するに必要な国際人としての意識を養い、異文化コミュニケーション能力を高める。	主要授業科目 共同
専門科目群	ソーシャルワークの基盤と専門職I	○	複雑・多様化する社会状況にあって、新しく生じる生活上の困難や問題を解決し相談援助する福祉専門職として、その役割と意義を理解する。そのうえで具体的援助の方法としてのソーシャルワークについて、ソーシャルワークを構成する要因、社会資源の活用、ソーシャルワークの成立過程、社会不安とソーシャルワークについて学び、「地域を基盤としたソーシャルワーク」についての理解を深める。将来、さまざまな福祉領域で実践的に活動できる資質を養う。	主要授業科目
	ソーシャルワークの基盤と専門職II	○	複雑化、多様化する社会状況にあって、ライフサイクルのさまざまな時期に、生活上の課題や問題を持つ人々を支え相談援助する専門職であるソーシャルワーカーについて、その役割と意味、ソーシャルワークの歴史、倫理や価値基準など、より具体的な視点でその基本概念を理解することをめざす。そのうえで、現代に至り成立した「地域を基盤としたソーシャルワーク」の基本となる理論と方法を学び、将来、ソーシャルワーカーや福祉専門職として、さまざまな福祉領域での実践的活動に従事するための資質を養う。	主要授業科目
	ソーシャルワークの理論と方法I	○	本講義においては、ソーシャルワークについて専門的な知識や技能を論理的かつ批判的思考力及び判断力のもと、主体的に活用することができる力を習得する。到達目標は、第１に、相談援助における人と環境の交互作用に関する理論について理解する。第2に、相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。	主要授業科目
	ソーシャルワークの理論と方法II	○	講義形式で、福祉課題を抱えた者からの相談への対応や、これを受けて総合的かつ包括的にサービスを提供することの必要性およびその具体的方法等にかかわる専門知識を学ぶ。授業ではソーシャルワークについて専門的な知識や技能を論理的かつ批判的思考力及び判断力のもと、主体的に活用することができる力を習得する。到達目標は、以下の通りである。１　相談援助の対象とさまざまな実践モデルについて理解する。2　相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。	主要授業科目
	ソーシャルワークの理論と方法III	○	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」をふまえ、現在の社会福祉士に求められる役割、機能を理解する。①社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。②支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。特に、1）ソーシャルワークにおける援助関係の形成、2）ネットワークの形成などについて価値、知識、技術を活用できる力を養成することを目指す。	主要授業科目
	ソーシャルワークの理論と方法IV	○	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」をふまえ、①社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。②個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための事例分析の意義や方法を理解する。特に、1）ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発、2）カンファレンスの活用、3）事例分析の方法について学び、ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際について理解することを目指す。	主要授業科目
	医学概論I	○	目標は以下の3点である。①身体構造や心身機能の特徴を成長や加齢の変化とともに理解する。②主な疾病や障害の病態や治療・ケア、リハビリテーションを理解する。③医療における福祉の役割や支援に生かせる健康政策について理解する。主な内容は、最新の保健情報・研究のエビデンスに基づき、福祉専門職として利用者を支援をするために必要な基本的な医学知識について学ぶ。具体的には、①身体構造や心身機能について（成長や加齢による変化の特徴）、②健康および疾病の捉え方、③疾病や障害の予防・治療・ケア・リハビリテーションと関連する職種、④公衆衛生等を取り扱う。	主要授業科目
	介護の知識と技術		介護を必要とする人が、その人らしく安心して生活できるように、基本となる介護の知識と技術について習得する。また、地域福祉という視点から福祉施設、在宅にかかわらず介護の基本的な思想や理念についても理解を深める。特に人権意識に関連する理念を深められるよう具体的な事例を通してグループワーク等も行い自分の意見を深めていく。ユニバーサルデザイン他介護の分野のＡＩ活用についてもも理解を深めていく。近年災害等が多発していることから、災害福祉についても考えていく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	高齢者福祉サービス	○	高齢者の尊厳を尊重するという視点から、介護保険制度を中心に、高齢者に関する制度・政策、サービスについて学ぶ。また高齢者の生活と特性、家族等の支援者が抱える問題と背景について理解する。加えて高齢者福祉を理解するためには、援助の実践の中で専門職が必要な支援をどのように連携して行われているかを理解することが求められるため、本講義において学ぶ。	主要授業科目
	子ども家庭福祉論	○	社会福祉士として求められる子ども家庭福祉（児童福祉）に関する基本的知識を身につける。具体的には、児童虐待やいじめ、非行、子どもの貧困等の昨今の児童をめぐる問題及びその支援・援助のための法制度や援助技術の知識を児童福祉法に規定されている子育て支援、社会的養護を2つの軸として習得し、児童や子育て家庭の抱える生活上の問題を解決・緩和するための方策を福祉（ソーシャルワーク）の視点からとらえ、実践できる基礎力を養う。	主要授業科目
	子ども家庭福祉		保育者とくに保育士として実習や現場で求められる子どもをめぐる生活問題や子ども家庭福祉に関する基本的な知識を身につける。今般の児童虐待や少年非行、子どもの貧困、ドメスティック・バイオレンスに関わる子どもの影響等子どもをめぐる生活問題や子ども家庭福祉に関する基本的な知識を子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の理念、法制度、実施体系、政策的な動向と展望という点から、その内容と福祉的対応の具体的事例を扱いながら基礎的理解を深める。	
	社会福祉原論	○	社会福祉の原理に関する内容を整理し、社会福祉の歴史、思想、哲学、理論、現代の社会問題とその構造的背景、福祉政策の基本的視点、ニーズ・資源を学ぶ。到達目標は、第1に社会福祉の原理をめぐる思想・哲学理論の理解、第2に日本社会福祉の特性の理解、第３に　社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題についての理解、第4に福祉政策を捉える基本的な視点として概念や理念を理解するとともに人々の生活状のニーズと福祉政策の過程を結びつけての理解することである。	主要授業科目
	福祉政策	○	ソーシャルワークの専門職として個人、家族、集団、地域、社会、世界のウェルビーイングの実現・向上を目指すため、福祉政策の理論や理念、歴史に関する基本的内容と、今日的な展開、動向、課題について事実や現状を身に付けるようにする。到達目標は１．福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理化することができる。２、福祉サービスの供給と利用の過程について理解することができる。３．福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解することができる。	主要授業科目
	社会福祉		本授業は、福祉制度の意義、理念、政策との関連について概観する。また、現代社会における生活問題の現実とその背景を理解することによって、問題解決のためには制度・政策とのつながりが現在どのようにあるのか、そして今後どうあるべきなのかを考える。さらに相談援助技術や社会福祉の専門職についても理解を深めるものである。	
	障がいとリハビリテーション		障がいのある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障がいのある人へのリハビリテーションの基礎的な知識を習得する。学習到達目標は、①障がいのある人の生活を支援するという観点から、障がいの概念や、障害の特性に応じた知識を習得する。②障がいの医学的・心理的側面の基礎的理解を深め、障がいのある人の生活と障害の特性に応じたリハビリテーションを行う知識を習得する。③チームアプローチによる連携と協働について学び、家族を含めた周囲への支援の視点を習得する。	
	障がい児・者福祉サービス		「障害とは何か」という問いは、深いテーマである。授業では、「生きづらさ」を抱えた人へのソーシャルワークについて学んでいく。主に数多い事例を通して考える授業である。本授業の到達目標は、障害者福祉を通して、ソーシャルワークについて考えることであり、その詳細は以下の通りである。①障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。②障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。	
	司法福祉		本授業は、犯罪・非行という社会現象を福祉的視点から考え、加害者の更生や被害者の支援等について理解を深めることが目的である。司法福祉論の基礎を知り、更生保護制度はもちろん、犯罪そのものの意味や人を処罰することの意味を考える。少年や障害者、高齢者と犯罪との関連や犯罪被害者支援など今日的問題として考える力を養う。到達目標は以下の通りである。①相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。②更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。③刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。④司法関連の支援をソーシャルワーカーが行うことの意義について考えることが目標である。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	女性福祉論		ジェンダー格差の大きな日本社会における女性の生活問題・生活困難を理解し、実態的に女性に対する福祉を担ってきた婦人保護事業の現状と課題から、女性福祉を考える。この授業では、女性福祉に関する専門的な知識や技能を論理的かつ批判的思考力及び判断力のもと、主体的に活用することができる力を習得する。なお到達目標は以下の通りである。１　女性問題の背景に存在している性差別的な社会構造を理解する。２　現行社会福祉法体系における女性に対する支援策とその課題について理解する。３　社会福祉分野をジェンダー視点から見直す力を養成する。	
	国際福祉論		本講義では、福祉実践が国境を超える際に考慮・検討すべき要素について考察する。次に国際支援の事例検討を行い、どのような理念、認識のもとでなされるべきか、どのような工夫が必要か、可能かについてディスカッションを通じて理解を高めていく。最後に海外における先進的な福祉政策・実践の事例をとりあげ、その特徴を解説するとともに、日本を含めた他国に導入する際の問題点や改善点について考察する。到達目標は、１）国境を越えて実施される支援についてどのような認識で取り組むべきなのか考察し、文化や価値観、社会状況が異なる人々に手を差し伸べることができる基礎的な力を身に着けること、２）他国での先進的な福祉実践について、表面だけではなくその理念、仕組み、問題点を理解し、自国への応用の可能性や修正すべき点を考察する力を身につけることである。	
	貧困に対する支援論	○	生活保護や低所得者対策については、ここ数年で大きな改正や新たな制度が創設されている。この授業では、どのような理由で貧困者対策が講じられてきたのか、そもそも貧困とは何を指すのかを理解する。その後、生活保護制度が成立した経緯やその後の変遷とともに、時代と社会が変容する中で低所得者に対してどのような対策が講じられてきたのかを理解する。到達目標は、１．貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解することができる。２、貧困の歴史と貧困観の変遷について理解することができる。３、貧困にかかる法制度と支援の仕組みについて理解することができる。４．貧困による生活課題を踏まえ、福祉専門職としての適切な支援のあり方を理解することができる。	主要授業科目
	社会保障論I	○	本授業では、わが国の社会保障制度の概念や対象及び理念を展開過程と共に理解した上で、社会保障制度の体系と概要を学び制度の置かれていている状況や課題を考察する。到達目標は以下の３点である。 ①社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。 ②公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 ③社会保障制度の体系と概要について理解する。なお、「社会保障論Ⅰ」とともに単位修得することで、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目となる。	主要授業科目
	社会保障論II	○	本授業は、社会保障論Ⅰの学びを踏まえ、少子高齢社会における社会保障の意義を理解したうえで制度を支える財政の仕組みを理解し、諸外国の制度の概要を参考としながら、持続可能な制度体系に求められるものは何かを検討するものである。到達目標は以下の通りである。①現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。②社会保障制度の財政について理解する。 ③諸外国における社会保障制度の概要について理解する。なお、「社会保障論Ⅱ」とともに単位修得することで、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目となる。	主要授業科目
	地域福祉の理論と方法I		現代社会における地域福祉の目的、意義、その方法について理論と実践の両面から学んでいく。地域福祉の歴史的展開を踏まえ、社会サービスとの関連で地域包括的ケアの在り方と個人が地域において自立的生活を可能にするための支援方法を示し、地域福祉の主体形成について考察する。①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 ③包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。④地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。なお、「地域福祉の理論と方法Ⅱ」を併せて単位修得することで社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目となる。	
	地域福祉の理論と方法II	○	この授業は地域共生社会の中でソーシャルワーカーが備えておくべき主にマクロ的な知識である福祉行財政システム、福祉計画の意義と種類・策定と運用、地域共生社会の実現に向けた包括的実施体制、災害時における総合的かつ包括的な支援体制について理解する。到達目標は「１．地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。２．地域福祉計画をはじめたとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。３．包括的支援体制の考え方と、多機関協働の意義と実際について理解する。４．地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。」である。なお、「地域福祉の理論と方法Ⅰ」とともに単位修得することで社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目となる。	主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	ソーシャルワークの基礎	○	ソーシャルワークの価値規範と倫理、ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力、ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術を実践的に習得し、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養するため、以下の4点を目標とする。①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。	主要授業科目
	ソーシャルワーク演習I	○	この授業では、「ソーシャルワークの基礎」をふまえ、ソーシャルワーカーが取り組む課題を多角的に分析し、ミクロからマクロレベルの実践領域に対して、ソーシャルワークの価値、知識、技術を様々な事例を活用しながら具体的に転換できる力を養うため以下2点を目標とする。①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。特に、1）ケースの発見・インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・支援の終結と事後評価・アフターケアについて理解する。2）事例を活用した複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について理解することを目指す。	主要授業科目
	ソーシャルワーク演習II	○	この授業では、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」をふまえ、ソーシャルワーカーが取り組む課題を多角的に分析し、ミクロからマクロレベルの実践領域に対して、ソーシャルワークの価値、知識、技術を様々な事例を活用しながら具体的に転換できる力を養うため以下2点を目標とする。①支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。②地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。特に、1）アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーションの視点・ソーシャルアクションについて理解する。2）地域福祉の基盤整備と開発について理解することを目指す。	主要授業科目
	ソーシャルワーク演習III	○	この授業では、「ソーシャルワーク演習Ⅱ」をふまえ、ソーシャルワークの理論と実践とを統合する力を養成する。ミクロからマクロレベルの実践領域に対して、ソーシャルワークの価値、知識、技術を様々な事例を活用しながら具体的に転換できる力を養うため以下2点を目標とする。①ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。②実践の質の向上を図るため、スーパービジョン、コンサルテーションについて体験的に理解する。特に、1）ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワークの対象に対する実践モデルを適用した支援展開について理解する、2）スーパービジョン・コンサルテーションについて理解することを目指す。	主要授業科目
	ソーシャルワーク演習IV	○	この授業では、「ソーシャルワーク演習Ⅲ」をふまえ、ソーシャルワークの理論と実践とを統合する力を養成する。ミクロからマクロレベルの実践領域に対して、ソーシャルワークの価値、知識、技術を様々な事例を活用しながら具体的に転換できる力を養うため以下2点を目標とする。①実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。②ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。	主要授業科目
	ソーシャルワーク実習I	○	本授業は、「厚生省告示第203号および265号」指定施設において必要な実習を行うものであり、80時間相当の配属実習を実施する。授業の目的・ねらいは以下の通りである。① ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ） について把握する。③ 生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。④施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。⑤総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	ソーシャルワーク実習II	○	本授業は、「厚生省告示第203号および265号」指定施設において必要な実習を行うものであり、60時間相当の配属実習を実施する。授業の目的・ねらいは以下の通りである。① ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ） について把握する。③ 生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。④ 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。⑤ 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	主要授業科目
	ソーシャルワーク実習指導I	○	本授業はソーシャルワーク実習Ｉに伴う科目であり、実習は必ず実習指導を受けながら進められる。実習事前学習として実習の意義の理解、ソーシャルワークに係る知識と技術の理解を深めるための個別指導及び集団指導を行う。この授業の到達目標は、１．ソーシャルワーク実習Ｉの意義を理解し、説明できる。２．社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢について説明できる。３．ソーシャルワークに係る知識・技術を具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基本的な能力を身につけることを目指す。	主要授業科目
	ソーシャルワーク実習指導II	○	本授業はソーシャルワーク実習IIに伴う科目であり、実習は必ず実習指導を受けながら進められる。実習事前学習として実習の意義の理解、ソーシャルワークに係る知識と技術の理解を深めるための個別指導及び集団指導を行う。この授業の到達目標は、１．社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を意識した行動ができる。２．ソーシャルワーク実習IIを振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立て、実習報告書として整理できることを目指す。	主要授業科目
	ソーシャルワーク実習指導III	○	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱの学びを基盤として、実習事前学習として実習の意義の理解、ソーシャルワークに係る知識と技術を実践的に理解するため、実習中・後には実習を振り返り、実習での体験を概念化し理論化するための個別指導及び集団指導を行うものとする。到達目標は、１．ソーシャルワーク実習Ⅱの意義を理解し、説明できる。２．社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を意識した行動ができ、自身の行動の根拠を説明できる。３、ソーシャルワークに係る知識・技術を具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を身につけ実践できる。４．実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる自分自身の総合的な能力を言語化できることを目指す。	主要授業科目
	福祉専門研究		本科目では、まず国家試験対策に必要な知識を体系的に学習し、なおかつ適切な形でアウトプットできるような学習法について学ぶ。続いて、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士といった国家資格に共通する分野の出題傾向・正解率などを参照しながら、社会福祉専門職として知っておかなければならない知識について重点的に解説する。 （オムニバス方式/全7回） （1　堀　千鶴子　/1回） 社会福祉原論の基礎に関する内容を解説する。 （3　清水　正美　/1回）） 福祉政策及び貧困に対する支援の基礎に関する内容を解説する。 （8　小島　克久　/1回） 社会保障の基礎に関する内容を解説する （18　馬場　康徳　/1回） 地域福祉の基礎に関する内容を解説する。 （16　松浦　弘典/1回） 高齢者福祉サービスに関する内容を解説する。 （7　小川　智子　/2回） 権利擁護の基礎に関する内容を解説し、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士国家試験について概要と枠組みを説明する。	オムニバス
	福祉応用研究I		本科目では、福祉専門研究で学習した国家試験対策に必要な知識を体系的について適切な形でアウトプットできるような学習法について復習する。そのうえで社会福祉士・精神保健福祉士国家資格の共通科目における出題傾向・正解率などを参照しながら、ソーシャルワーカーとしての知っておかなければならない知識のなかでも、現役受験生に欠けがちな基本的な項目について、重点的に解説して理解を深め、国家試験合格に向けた基礎的な知識の土台を作る。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	福祉応用研究II		福祉応用研究Ⅰの学習成果を前提として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の受験資格をもち、かつ現役での合格を目指している者を対象に、過去の国家試験から頻出テーマを抽出し、頻出テーマについて学習することを通じて、国家試験に対応するために効率的に学習を行うのと同時に、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士として必要な知識の定着化をはかっていく。頻出テーマの抽出と過去問解説は受講生に行ってもらう。	
	福祉応用研究III		福祉応用研究Ⅱの学習成果を前提として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の受験資格をもち、かつ現役での合格を目指している者を対象に、過去の国家試験の頻出テーマに関連する過去問の演習を反復して行うことを通じて、国家試験に対応するために効率的に学習を行うのと同時に、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士として必要な知識の定着化をはかっていく。頻出テーマの抽出と過去問解説は受講生に行ってもらう。	
	福祉応用研究IV		福祉応用研究Ⅲの学習成果を前提として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の受験資格をもち、かつ現役での合格を目指している者を対象に、①過去の国家試験から頻出テーマを抽出しこれについて学習し、②頻出テーマに関連する過去問の演習を反復して行う。①②を通じて、国家試験に対応するために効率的に学習を行うのと同時に、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士として必要な知識の定着化をはかっていく。頻出テーマの抽出と過去問解説は受講生に行ってもらう 。毎月１回の模擬試験を実施することにより頻出事項を繰り返し覚え、知識の定着を図る。	
	社会福祉経営		ソーシャルワークを展開するための経営基盤について知り、新たな発想で新事業を立ち上げることができるようになることが目標である。 福祉サービス提供組織はさまざまである。多様な組織・団体について理解し、その経営について学ぶ。担当教員はＮＰＯ法人を経営しており、実際の経営の仕方をもとに授業を展開する。一般の経営方法と福祉サービスの経営方法の相違点を意識し、福祉経営のあり方について考える。本授業はソーシャルワークを展開するための経営基盤について知り、新たな発想で新事業を立ち上げることができるようになることを目標とし、詳細な到達目標は以下の通りである。①福祉サービスに係る組織や団体について理解する。②福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。③福祉サービスの経営と管理運営について理解する。	
	医療ソーシャルワーク論	○	本科目は、ソーシャルワーカーが対人援助を実践していくために必要となる保健医療サービスの実際と活用について学ぶことを目的とする。誰もが何らかの病気になったり、障害を抱えたりするときに保健医療サービスが必要となる。こうした状況下では、病気そのものの治療だけでなく、クライエントの生きる意味が問われることとなる。医療ソーシャルワークの役割は、このような際にクライエントの生活の連続性を支え、自分らしく生きられることをサポートすることである。そのために本講義では人生の質を高めるという視点から保健医療サービスの実際と活用を学ぶ。相談援助活動を行う専門職として必要な保健医療サービスに関する基礎的な知識を身につけ活用できるようにする。	主要授業科目
	権利擁護と成年後見制度	○	社会福祉の実務は法律を根拠としている。法律の理解を深めながら、特に社会福祉士が担い手として期待されている成年後見制度について学び、社会福祉事業と権利擁護のあり方や課題を考察する。本授業は、基本的に講義形式をとるが、グループディスカッションも行い権利擁護を取り巻く近年の状況への理解を深める。学習到達目標は、①憲法、民法、行政法について理解することができる。②成年後見制度の概要、仕組み、利用現状および課題、最新の動向などについて理解することができる。③成年後見制度に関連する制度（例、虐待防止、消費者、差別解消など）について理解することができる。	主要授業科目
	Oral English for Children A		この授業では、子どもたちに英語を教える際に必要となる教授法やテクニックを紹介する。毎週、教授法を学び、それを様々な子供向けゲームやアクティビティで実践します。授業で実践した活動をもとに、授業計画を作成する。	
	Oral English for Children B		この授業は、「Oral English for Children A」で身に付けた教授法やテクニックをさらに向上させる。毎週、教授法を学び、それを様々な子供向けゲームやアクティビティで実践します。授業で実践した活動をもとに、授業計画を作成する。	
	保育の表現理解(音楽)A		「音楽入門」において修得できた各個の段階に続けて学習を進めていく。本科目で新たに設定する課題A「ピアノの演奏能力」、課題B「童謡唱歌等課題曲の弾き歌い」（挨拶の歌、季節の歌、行事の歌など）、課題C「“コールユーブンゲン”より抜粋」、課題D「手遊び歌課題曲」は、ガイダンスにおいてより具体的な資料を配布する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	保育の表現理解(音楽)B		「音楽入門」において修得できた各個の段階に続けて学習を進めていく。本科目で新たに設定する課題A「ピアノの演奏能力」、課題B「童謡唱歌等課題曲の弾き歌い」（挨拶の歌、季節の歌、行事の歌など）、課題C「“コールユーブンゲン”より抜粋」、課題D「手遊び歌課題曲」は、ガイダンスにおいてより具体的な資料を配布する。	
	保育の表現理解(造形)A	○	幼児の造形表現の指導を行う上で必要となる基本的な知識と技術を身につける。造形表現活動に必要な材料、道具、使用方法、造形美術の知識を習得し、演習を通じて活用する技術を身につける。幼児の視点に立った豊な感受性を養うために自然素材や人体、身近なものを使った造形活動を取り入れ、創造性や表現力を養う。作品を講評しあい、お互いの表現を認め合うことによって、造形表現への理解や感性を深める。授業形態は、講義と演習とする。	主要授業科目
	保育の表現理解(造形)B	○	幼児の造形表現の指導を行う上で必要となる基本的な知識と技術を身につける。造形表現活動に必要な材料、道具、使用方法、造形美術の知識を習得し、演習を通じて活用する技術を身につける。幼児の視点に立った豊な感受性を養うために自然素材や人体、身近なものを使った造形活動を取り入れ、創造性や表現力を養う。作品を講評しあい、お互いの表現を認め合うことによって、造形表現への理解や感性を深める。授業形態は、講義と演習とする。	主要授業科目
	保育の表現理解(体育)A		保育者として何を準備し何に注意しながら、どこまで働きかけ、どのような声をかけていけば、子供たちに「遊び」を仕掛けていけるのか、また、支えていけるのかという実践力を養う。複数人で保育にあたるなど「チーム」単位で活動を展開する際の役割分担や留意点などについて実践を通して理解する。 以上を目標に本授業では、乳幼児の活動のほとんどが遊びと不可分であるという観点から、様々な活動を「遊び」として立ち上がらせ、発展させていく具体的なスキルについて触れていく。それとともに、授業の後半では演習形式をとり、チームとして「遊び」の世界をいかに支えていくかという保育実践力を学ぶ。	
	保育の表現理解(体育)B		保育者として何を準備し何に注意しながら、どこまで働きかけ、どのような声をかけていけば、子供たちに「遊び」を仕掛けていけるのか、また、支えていけるのかという実践力を養う。複数人で保育にあたるなど「チーム」単位で活動を展開する際の役割分担や留意点などについて実践を通して理解する。 以上を目標に本授業では、乳幼児の活動のほとんどが遊びと不可分であるという観点から、様々な活動を「遊び」として立ち上がらせ、発展させていく具体的なスキルについて触れていく。それとともに、授業の後半では演習形式をとり、チームとして「遊び」の世界をいかに支えていくかという保育実践力を学ぶ。	
	幼児国語		話すこと・聞くこと・書くこと・読むことのそれぞれについて、学習指導すべき（したい）ことを捉え、それをどのような教材を用い、どのような学習活動を組織することによって達成するかを考えていくという基本姿勢とそれができる能力の初歩を身につける。国語科教育における基本的な考え方の養成をねらいとして講義する。学習指導要領の理解を出発に、言語能力養成について本質的な問題を考え、読む・書く・聞く・話すの各領域の授業構想の基礎力に培う。	
	子どもの生活と社会	○	幼児の生活が「家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつもの」（幼稚園教育要領）であることに留意し、幼児にとって身近な社会生活の場である「地域」において豊かな生活体験が得られるようにするために、子どもの生活と社会についての理解をフィールドワークを交えながら深めていく。また、幼稚園だけでなく小学校の「生活科」教育へのつながり、展開を視野に入れた保育ができる幼稚園教諭となるための基本的素養を培うことを目標とする。	主要授業科目
	音楽入門A		鍵盤楽器演奏および歌唱の能力、音楽の基礎知識等は、個人ごとに経験の有無などにより差があるため、各人の進度に応じた学習を進めることを基本とする。本科目で設定する課題A「大学ピアノ教本」、課題B「童謡唱歌等課題曲の弾き歌い」（挨拶の歌、季節の歌、行事の歌など）、課題C「“コールユーブンゲンより抜粋”」、課題D「手遊び歌課題曲」は、ガイダンスにおいてより具体的な資料を配付する。	
	音楽入門B		鍵盤楽器演奏および歌唱の能力、音楽の基礎知識等は、個人ごとに経験の有無などにより差があるため、各人の進度に応じた学習を進めることを基本とする。本科目で設定する課題A「大学ピアノ教本」、課題B「童謡唱歌等課題曲の弾き歌い」（挨拶の歌、季節の歌、行事の歌など）、課題C「“コールユーブンゲンより抜粋”」、課題D「手遊び歌課題曲」は、ガイダンスにおいてより具体的な資料を配付する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	幼児文化論	○	子どもを取り巻く様々な環境や文化について学ぶことを目標とする。児童文化史を概観することによって基礎的な知識を習得する。現代の子どもの生活文化や遊びについて検討し考察を深める。講義で学んだ事を児童文化財制作へと展開していく。幼児文化と文化財についての講義と児童文化財をテーマとした制作や、子どもの生活をテーマとした制作行い、発表形式の実演の演習を行いながら理解を深める。制作物は教育実習などを通し活用し展開していく。	主要授業科目
	子どもの食と栄養A		子どもの健やかな心身の発育・発達を目指すためには、生活の基本としての「食生活」の意義や栄養に関する基本的知識を理解することが必要である。そのためには、栄養学、調理学、食品学などの知識や子どもの身体発育・発達、精神的特徴などを学び、調理実習を通して、基本的な調理技術や材料の扱い方なども習得する。また、食の大切さ、食の面白さ、食べることの楽しさなど、食育についての理解を深めて、保育現場などで実践することができる。以上を目標に、子どもの健康と食生活の意義、栄養に関する基本的知識、子どもの発育・発達と食生活、食育の基本と内容などについて学習する。子どもの発達段階に合わせた献立作成を試み、子どもたちの食に関する興味・関心を深める方法について考える。調理実習を通して調理手順を考え、基本的な調理技術と食材の扱い方を学ぶ。	
	子どもの食と栄養B		子どもの健やかな心身の発育・発達を目指すためには、生活の基本としての「食生活」の意義や栄養に関する基本的知識を理解することが必要である。そのためには、栄養学、調理学、食品学などの知識や子どもの身体発育・発達、精神的特徴などを学び、調理実習を通して、基本的な調理技術や材料の扱い方なども習得する。また、食の大切さ、食の面白さ、食べることの楽しさなど、食育についての理解を深めて、保育現場などで実践することができる。以上を目標に、子どもの健康と食生活の意義、栄養に関する基本的知識、子どもの発育・発達と食生活、食育の基本と内容などについて学習する。子どもの発達段階に合わせた献立作成を試み、子どもたちの食に関する興味・関心を深める方法について考える。調理実習を通して調理手順を考え、基本的な調理技術と食材の扱い方を学ぶ。	
	子どもの保健		１．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。２．子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。３．子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。４．子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。 以上を目標に子どもの心身の発育、発達、健康状態の把握の方法について理解し、健康増進の実践のための知識と技術を習得し、子どもの疾病と予防を地域の社会資源と連携し支援できるように演習方式で授業を行う。	共同
	子どもの健康と安全		１．保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について２．保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について３．子どもの体調不良等に対する適切な対応について４．保育における感染症対策について５．保育における子どもの発達や状態等に即した適切な対応について６．子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、関連するガイドライン等を踏まえ具体的に理解することを目標に、子どもが発育、発達に応じた健康、安全行動ができるように親子支援をする（健康教育、健康支援、環境づくり）。また感染症対策、衛生管理・事故予防及び安全対策、危機管理・災害対策を計画、実施、評価し、親子が安全に生活できるように支援できるように授業を行う。	
	特別な保育ニーズの理解と支援A	○	幼稚園や保育所も特別支援教育の対象となっており、個別の指導計画を立てることが望ましいとされている。各障がいについての理解を深めるとともに、支援の必要な子どもたちの保育について理解し、一人ひとりの子どもの発達に応じた指導を計画し、実践する力を養う。この科目では、障がいの概念や障がい児保育の変遷、身体と脳、各障害（肢体不自由、自閉症スペクトラム、ADHD、 知的障害、学習障害）の特徴と望ましい支援について学ぶ。	主要授業科目
	特別な保育ニーズの理解と支援B	○	幼稚園や保育所も特別支援教育の対象となっており、個別の指導計画を立てることが望ましいとされている。各障がいについての理解を深めるとともに、支援の必要な子どもたちの保育について理解し、一人ひとりの子どもの発達に応じた指導を計画し、実践する力を養う。この科目では、各障害（視覚障害、聴覚障害、言語障害、重症心身障害）の特徴と望ましい支援について学ぶ。また、地域社会への参加・インクルージョンや合理的配慮等の基本的考え方を身につけるとともに、家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。	主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	乳児保育	○	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について、３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について等、乳児保育の意義・目的全般について理解する。保育所、乳児院等多様な場での乳児保育の現状と課題について理解する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と、3歳以上児の保育への移行を見据えた生活と遊びについて理解する。乳児の心身の健康的な成長、発達の支援、保護者支援のための知識、技術を習得できるように講義、演習方式の授業を実施する。	主要授業科目
	乳児保育演習	○	保育所、乳児院等多様な場での乳児保育の現状と課題、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と、3歳以上児の保育への移行を見据えた生活と遊びについて等、乳児保育で学習した乳児の心身に関する知識と技術に基づき、乳幼児（０ー３歳未満）の養護、保育（環境整備、遊びの支援）、保護者支援（相談、家庭保育支援）の実践の技術について演習し、実践できる能力を身につける。また保育指導計画（短期、長期、個人、集団）の作成に基づき保育する能力を身につける講義、演習方式の授業を行う。	主要授業科目
	保育の心理学	○	受胎から死に至るまでの生涯発達の過程のうち、特に乳幼児期の発達に焦点をあて、各発達段階における、身体的、心理的、社会的発達を学ぶ。本講座の到達目標は以下の通りである。１　発達の概念を理解する。２　身体と運動機能の発達を理解する。３　ことばや認知機能の発達を理解する。４　感情や社会性の発達を理解する。５　発達理論（エリクソン、ピアジェ、ヴィゴツキー、心の理論等）を理解する。６　発達障がいについて理解する。	主要授業科目
	子どもの理解と援助	○	より具体的な保育実践について心理学の視点から学んでいく。本授業を通して、子どもの身心の発達と保育実践の関係、生活や遊びを通した子どもの学び、保育における発達援助について理解を深め、実践に活かせるようになることを目指す。特に教育心理学をベースとし、幼児教育・保育に関連する知見を講義していく。また、グループワークを行い、課題に対して心理学の知見を活用しながら解決する力を養っていく。グループ討議・発表では、発表内容に対しての質疑を行った上で、解説を加えていく。	主要授業科目
	子ども家庭支援の心理学	○	保育の心理学で学んだ内容を基礎としながら、乳幼児や乳幼児を取り巻く人々に関する発達理論を中心に以下の内容を学ぶ。１．生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。２．家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。３．子育て家庭を巡る現代の社会的状況と課題について理解する。４．子どもの精神保健とその課題について理解する。また、乳幼児の発達に果たす家族、家庭の機能について自身で考える。	主要授業科目
	保育実習(保育所)I	○	保育実習1は初めての保育所実習である。入学後学んできた知識や技術がどれほど身についているかを保育実践の場で総合的に確認し、自己課題を明確化する場でもある。また、保育者としての使命感や子どもへの愛情を深め、保育者としての資質の向上を図ることや、子どもの発達に即した援助を実践的に学び、実践的な能力を養うことを目的とする。さらに、入所児童だけでなく、子どもたちを取り巻く環境についても知り、自らの生活する社会や福祉について問題意識を持ち、積極的に学ぶ態度を養う。	共同 主要授業科目
	保育実習(施設)I	○	保育実習Ｉ（保育所）をふまえ、厚生労働省が定める「児童福祉施設及び指定する社会福祉施設」のうち、福祉総合学部が個別契約した主に千葉県内の施設において90時間以上の実習を行う。児童福祉施設について習得した知識と、これまで学んだ保育技術を基礎としながら、施設養護に関わる保育士に必要な指導技術や、知識を習得する。さらに、施設を利用する子どもの理解や保育士の職務内容だけでなく、多職種の専門職が相互に連携することで実践される養護活動の実際を体験的に学ぶ。	共同 主要授業科目
	保育実習(保育所)II	○	実習（保育所）IIは、２回目の保育所実習で、保育士に関する実習の完成形となるため、以下を目標として1回目の保育所実習よりも踏み込んだ内容を行う。保育所の保育を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技能・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解・判断力を養うとともに、子育て支援を行うために必要とされる能力を養う。 物的環境の配慮と構成、一人ひとりに応じた言葉かけや援助、計画と記録などについても学ぶ。また、指導実習（部分・責任実習）を行わせていただき、実習の総まとめとする。さらに、家庭と地域の実態にふれて、子ども家庭福祉のニーズを理解し、判断力や子育てを支援するために必要とされる能力を養う。	共同 主要授業科目
	保育実習(施設)II	○	保育所以外の児童福祉施設について習得した知識と、これまで学んだ保育技術を基礎としながら、施設養護に関わる保育士に必要なより専門的な指導技術や、知識を習得する。さらに、施設を利用する子どもの理解や保育士の職務内容だけでなく、多職種の専門職による相互連携を意識した養護活動の実際を、実践しながら学ぶ。	共同 主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	保育実習指導(保育所)I	○	実習の意義を理解し、実習を円滑に進めていくための準備を行う。保育観察の仕方、日誌の書き方を学ぶ。実習で必要な保育実践技術を確認し、指導計画の立案などを実践的に学ぶ。実習内容や指導計画を用いてグループ討議などをしながら、学習内容を明確にするとともに、実習体験を深化させ今後の実習に向けての自己課題を明確にする。保育や子どもの育ちに十分な関心と基礎的な知識を持ち、自身で目標設定できる力を身につける。実習後に客観的に振り返り、反省と新たな目標設定ができ、課題解決に取り組める力を身につける。	共同 主要授業科目
	保育実習指導(施設)I	○	保育実習（施設）Ｉを行うにあたって求められる知識の習得や諸手続を事前に完了させ、施設における実習を円滑に行えるようにするとともに、事後の実習の振り返り等を通して、保育者として必要な素養を身につける。保育実習（施設）Ｉに関わる知識、学習内容を・課題を明確化するとともに、保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化についても学ぶ。具体的な到達目標としては、１．保育実習の意義・目的を理解する、２．実習の内容を理解し自らの課題を明確にする、３．実習施設における利用者の人権・権利への配慮やプライバシーの保護と守秘義務等について理解する、４．実習の計画・実践・記録・評価の方法や内容について理解する、５．事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にするを掲げる。	共同 主要授業科目
	保育実習指導(保育所)II	○	すでに保育実習を経験をした学生が、そこでの学びをふりかえりつつ、保育を専門とする職業人としての第一歩を踏み出すための、さらなる準備をおこなう。柔軟な感性と視野をそなえた保育士としての素養を身につけることをめざす。 講義や演習を通して、現場によりそった保育指導が行えるよう実習のカリキュラムのしくみや、事前準備など必要な知識を学ぶ。また、実習事後には個人とグループで振り返りをし、定着させる。指導案については、事例をもとに個人の創意工夫をできる限りとりいれた計画をつくり、実際の適用を経て実践的な感覚を身につける。	共同 主要授業科目
	保育実習指導(施設)II	○	保育士実習の仕上げとしての施設実習（保育実習III（施設））を円滑に進めていくための知識、学習内容を・課題を明確化するとともに、保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化についても学ぶ。	共同 主要授業科目
	保育内容総論	○	幼稚園・保育所等就学前保育における子ども理解、保育の計画、環境の構成、援助の実際について知識や理解を深め、保育者として保育を構想する力や実践力を身につける。保育内容を総論的にとらえる視点を身につけ、幼稚園教育要領及び保育所保育指針の示す保育の基本及び保育内容の考え方や指導法について理解する。環境を通しての保育、遊びを通しての総合的な指導ということについて理解する。幼稚園・保育所で身につける心情・意欲・態度について考える。幼稚園・保育所等就学前保育における子ども理解、保育の計画、環境の構成、援助の実際について学ぶ。	主要授業科目
	保育内容演習(健康)		乳幼児期における「健康」について、多面的に把握する。領域「健康」の内容を踏まえた保育実践をイメージできるようにする。以上を到達目標とし、本授業では、領域「健康」のねらい及び内容と他領域との関連について扱っていく。その際、保育現場における具体的な諸問題や小学校との連携に関する対応等も交えることで、実践に結びつけながら理解を深める。それらの上で、乳幼児期における「健康」について考察していくことを目指す。	
	保育内容演習(人間関係)	○	乳幼児期の社会性の発達を踏まえながら他領域と関連付けながら、領域「人間関係」のねらいや内容を理解する。「他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」保育の理論と実践について学び、「幼児教育において育みたい資質・能力」及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、さらに小学校の教科に発展しつながる保育方法を考える。指針や教育要領における内容の取扱いについて解説をしながら、主に演習形式で進める。	主要授業科目
	保育内容演習(表現)	○	乳幼児の造形的な表現における発達段階など、基礎的な知識を得ることで幼児の実態を捉え、乳幼児理解を深める。２年で学んだ造形の基礎知識を基に、実際に現場で用いる多様な教材や用具に触れ、表現や指導力を深める。また幼児の表現活動を援助するための技能、環境構成、働きかけについて学び、実践力を身につけることを目指す。造形表現の意義を理解し、保育の現場で幼児の主体的な造形表現活動を促すことができる指導力を身につける。	主要授業科目
	社会的養護	○	現代社会における社会的養護の意義と課題について、歴史的な変遷や社会的養護の制度と実施体系や施設養護の実際の理解を深めていき、児童福祉施設等で働く保育士としての専門性を高めていく。内容としては、１．現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する、２．子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する、３．社会的養護の制度や実施体系等について理解する、４．社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する、５．社会的養護の現状と課題について理解できるものとなっている。	主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	社会的養護演習	○	社会的養護の実践を理解するとともに、各児童福祉施設の援助者としての知識、技能の習得と専門性の理解を深め、到達目標に沿いながら保育者として実践する力を身につける。現代の社会の中で保育士は児童福祉施設等の援助者として、子どもたちと関わり、子どもの権利を守る者として、重要な役割を担っている。児童の心身の成長・発達を保障し、支援するために必要な知識、技能の習得を目指すとともに、専門職としての専門性を高めることをねらいとして、受講生が主体的に授業に参加し、必要な素養を習得できるよう演習形式で、グループワークを中心に授業を展開していく。	主要授業科目
	子ども家庭支援論	○	現代日本における家族の姿を統計指標から把握するのと同時に、「家族の多様性」と「ジェンダーの理解」の基本理念と実践のあり方を様々な角度から捉えることで、子育て家庭を支援する際に保育士として必要な素養を身につけることを目的とする。子育て家庭に対する支援の意義・目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本、子育て家庭に対する支援の体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について学習する。	主要授業科目
	保育･教職実践演習A	○	大学４年間で学んだ保育に関する知識、保育実習・教育実習・ボランティア等で得られた技能を統合し、これまでの保育・教職課程を振り返り、保育者として責任を果たすうえで、不足しているものを再確認し、それを補う方法をフィールドワークをとおし発見し、学び、実践で活躍できる保育者を目指す。保育実習／教育実習を終了し、保育者を希望する学生が模擬保育や保育現場に出かけて幼児と直接関わり、保育指導、教材の準備、教室環境の整備などの総合的な保育体験を行う。授業形態は演習形式で、模擬保育等を行った後には、履修者全員で話し合い、新たな気づきを得る。	主要授業科目
	保育･教職実践演習B	○	大学４年間で学んだ保育に関する知識、保育実習・教育実習・ボランティア等で得られた技能を統合し、これまでの保育・教職課程を振り返り、保育者として責任を果たすうえで、不足しているものを再確認し、それを補う方法をフィールドワークをとおし発見し、学び、実践で活躍できる保育者を目指す。保育実習／教育実習を終了し、保育者を希望する学生が模擬保育や保育現場に出かけて幼児と直接関わり、保育指導、教材の準備、教室環境の整備などの総合的な保育体験を行う。授業形態は演習形式で、模擬保育等を行った後には、履修者全員で話し合い、新たな気づきを得る。なお、保育・教職実践演習Bでは、Aより一層実践的な経験を積む内容とする。	主要授業科目
	保育原理	○	保育所では、０歳児から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児を対象として、保育を行っている。長い子どもは６年間保育所生活を送ることになる。乳幼児期は人間形成の基礎を培う重要な時期であり、子どもの健全な心身の発育を図るためには正しい児童観と保育観をもち、子どもの発達を見通して発達段階にふさわしい関わり方が必要である。少子化の今日、保育に対するニーズは多様化し様々な保育形態が増えている。さらに在宅母子の育児支援も保育士の重要な仕事となっている。具体的には次の内容を学習する。①保育の意義及び目的について理解する。②保育に関する法令及び制度を理解する。③保育所保育指針における保育の基本について理解する。④保育の思想と歴史的変遷について理解する。⑤保育の現状と課題について理解する。⑥諸外国の保育について考察する。	主要授業科目
	保育者論	○	保育者の専門性への基本的理解と、自分がめざす保育者像をもてるようにする。歴史的な名著、言葉から保育哲学を学び、現在の自分に置き換え意識化し学習するように講義をする。様々な問題を論議し、共有化し、問題解決のために何をしなくてはいけないか考察する。 日本の保育に必要な保育思想を身につけると同時に新しい保育をデザインする力を養う。保育者の役割と倫理、あるべき姿について学び理解する。保育士の置かれている現状を知り、保育の専門性と保育者の連携・協働について理解する。現代における保育の課題へ関心をもち、保育者として資質向上とキャリア形成について理解する。	主要授業科目
	幼児教育原理	○	１．教育の本質や目的及び教育の基礎理念、思想、歴史について説明できる。２．今日における幼児教育のあり方について主体的に考えることができる。３．教育を実践する者としての教育に対する見方や態度をもつことができる。 以上を目標に、教育を実践する者となるために、教育の本質や目的、教育の基礎理念や思想、歴史、制度について理解を深める。あわせて、今日における幼児教育の課題について考え、今後の幼児教育の方向性について展望する。	主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	教育社会学		学校がその存立と発展を進めている点に問題関心を持ちつつ、今日の家庭教育―学校教育の抱える課題点にアプローチすると共に、特に２１世紀に入って上記の社会動向に対応して教育基本法が改正され、それをふまえての諸施策の展開について取り上げる。次に現代日本の公教育の成立過程及びその後の発展という歴史的社会的視点からのアプローチを行うとともに、日本国憲法の下での現代公教育の基本原理や理念そして各段階の学校制度の特色について理解を進める。更に教育委員会の役割と分担、更に文科省の役割と教育財政についても基本的枠組みや近年のデータを参考に授業を進めていく。あわせて今日の地域と学校の連携や開かれた学校の在り方に言及すると共に、学校安全の問題について、安全教育や防災教育の計画と実施、更には危機管理体制の在り方について取り上げ考察する。	
	保育･教育課程論	○	「カリキュラム」という言葉の意味と、カリキュラムの制度的な側面として位置づけられる「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容を理解する。また保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価についての意義と実践的な側面として位置づけられる各教育・保育機関の理念や方針に基づいて構想される保育・教育課程や指導計画について理解する。保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、保育士として保育計画をデザインする際に大切にしたい考え方について古典を通して学び、教師・保育士が創造する学びの履歴という視点から、自由な発想に基づく保育計画をデザインする。	主要授業科目
	保育内容指導法	○	保育内容5領域「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」を総合的なものとしてとらえるとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」として、子どもたちの成長を連続的なものとして捉え、幼児期の姿と小学生の姿をつなげていくために、保育の総合的指導を理解する。子どもの発達を育む「遊び」の理解に重点を置き、子どもにとっての「遊び」の意味と、「遊び」を支える保育者の役割や具体的援助について考えること幼保連携型認定こども園教育・保育要領を通して、保育者としての実践力を獲得する。また遊びと生活を充実させる、保育の計画、実践、評価について学ぶ。	主要授業科目
	幼児教育研究(遊びの援助)	○	子どもにとっての遊び・生活とは何か、その意味と現状の問題などを考え、実践的な技術を身につけていくというのが、本講義の趣旨である。具体的な到達目標は以下の通りである。１子どもの発達に応じた遊びを理解する。２子どもの遊び・生活はどのように展開し、それによって子どもたちは何を学んでいるかを理解する。３保育者としての遊びの理解と援助について、知識と技術を深める。４自信をもって指導できる遊び 100+α の実践力をつける。子どもの発達とともに遊びも変化していく。遊びとは何かを考えることから始め、子どもの発達に合わせた遊びについて講義と演習を通して具体的に学んでいく。また、それらの遊びをより効果的に実施するための技術を学ぶ。	主要授業科目
	幼児教育方法論	○	幼児期に必要とされる養護と教育の一体化の中で、教育の持つ役割について理解を深める。①子ども達の主体的な育ちを支える保育者の援助のあり方について理論的・実践的に学ぶ。②効率的、効果的な方法として情報機器及び教材の活用をできるようにする 。以上を目標に、幼児教育の歴史的な変遷及び現代の幼児を取り巻く環境等をしっかりと提示し、その分析を試みながら、幼児教育の難しさと大切さを把握するために必要な教育方法を理論的・実践的に学んでいく。さらに、目まぐるしく発達、進歩する情報機器にも注目し、利用できるものを積極的に取り入れ、現場で活用するための基本から応用について、指導案に生かせるように実践指導する。幼児教育の方法についての講義を中心としながら、指導計画を立案する演習も取り入れながら進める。	主要授業科目
	教育実習(事前及び事後指導を含む)	○	幼稚園教諭としての基礎的な保育技術や知識を習得し、実践の場で活用できる力を養う。幼稚園教諭の職務、他職種との連携、人権教育、子ども理解と保育技術、子育て支援について理解を深め、幼稚園での実習を円滑に行えるようにするとともに、事後の実習振り返りを通して、幼稚園教諭として必要な素養を身につける。教育実習は、これまでの保育実習経験と３年次までの全ての学習経験をふまえ、幼稚園教諭に必要な指導技術や知識を習得する。実習園で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに、子どもの発達の理解とそれにあった指導案を考え、それを実施できる能力を養う。授業は講義および演習で事前学習を行い（実習準備）、4週間の教育実習を実施、実習後は実習について振り返りのバズセッションや面談を通して、実習での学びを深める。	共同 主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	地域における子育て支援A	○	保育施設は地域における子育ての支援を行うことも重要な役割であると位置づけられている。地域における子育て支援に関する統計、データ、実践（国内外、実習地域）を分析し、アセスメントし、現状の分析、課題について討議し、アセスメント、エビデンスに基づく地域子育て支援実践計画（計画、実施、評価、分析）を作成し、発表、討議する。また多様な保育環境にある保護者を理解し保育相談支援について、事例を通し理解し実践につなげる授業を行う。	主要授業科目
	地域における子育て支援B	○	保育施設は地域における子育ての支援を行うことも重要な役割であると位置づけられている。地域における子育て支援に関する統計、データ、実践（国内外、実習地域）を分析し、アセスメントし、現状の分析、課題について討議し、アセスメント、エビデンスに基づく地域子育て支援実践計画（計画、実施、評価、分析）を作成し、発表、討議する。保育専門職として地域の子育て支援を実践できるよう、「地域における子育て支援A」で学んだ内容を活用しながら、学内外子育て支援施設において実践の経験をする。	主要授業科目
	子どもの権利と福祉	○	子どもの権利とは何か、子どもの権利を確かなものにするために、親の責任や国の責任は何か、国際社会において子どもの権利をどのように保障するか等について、「子どもの権利条約」を中心に講義をする。また、地域の子どもたちのために何ができるか、地域の問題を見つけ、解決策を提案する．保育の専門家として、子どもたちの権利を脅かすような問題を自ら発見し、問題解決に取り組み、子どもたちの福祉を実現する力をつけるため、子どもの権利やSDGsについて学ぶ．そして、世界や日本の子どもたちの状況を調べ、グローバルな視点で子どもの権利と福祉に関わる地域の問題を見つけ、改善策を考える。	主要授業科目
	子どもの発達と相談	○	出生から小学校入学までの乳幼児期の理解と発達相談を中心に授業を行う。幼児を理解するための方法を学び、出生から小学校入学までの子どもの発達を理解し、発達相談･教育相談における相談内容、その支援方法、連携のとり方などについて学ぶ。講義形式で理論を学んだ後、ロールプレイによる演習、話し合いなど演習形式で実践的に学ぶ。この科目の到達目標は、１．保育・教育現場における幼児を理解するための理論と方法を学び、子どもの発達に合った適切な指導ができるようになる。２．乳幼児期に起こりやすい問題について理解し、支援の方法を学ぶ。３．相談活動に役立つカウンセリングの基礎的な知識を理解する。	主要授業科目
	特別支援保育	○	特別な保育ニーズの理解と支援等の授業で習得した「障がい」、「障がい児」についての知識を実践で活かし、障がいを持つ子どもたちの充実した生活とは何かを考え、家族を含めた支援のあり方について考える。また、その中で、障がいを持つということ、持って生きるということへの考察を図る。講義科目ではあるが、毎回、演習や討論を取り入れる。この授業の到達目標は以下の通りである。１　障がいについて、知識と理解を深める。２　障がいを持つ子を理解し、その支援の方法について学ぶ。３　その子どもにあった支援ツールを作成できる。	主要授業科目
	子どもの人間関係と観察	○	１　幼児教育や保育、心理学の研究方法のひとつである観察法を学び、使えるようになること。2　観察を通して、子どもの仲間関係や保育を理解する。3　子ども理解や保育の在り方を理解するための客観的視点の重要性と記録の意義を学ぶ。 以上を目標に、心理学的観察の手法、記録方法や分析方法について、意義、理論を学んだ上で、観察のトレーニングを行う。授業形態は講義形式であるが、理論の学習だけでなく、演習を通して実践的に学ぶ。	主要授業科目
	保育内容演習（環境）	○	保育所保育指針、幼稚園教育要領における幼児教育・保育の基本の一つである環境についての全体構造を理解し、環境から経験し身に付けていく内容と指導の留意点並びに評価の考え方を理解する。幼児期の発達を踏まえながら環境を通して小学校との連携を保育・教育の中でどのように考え、デザイン構成できるかが目標である。理論も踏まえながら、毎回、旬の保育現場の写真やVTRを視聴し子どもと保育・教育の臨場感を感じながら現場に即した授業を行う。また、学生自身も保育・教育の環境となることを自覚する為に必要な課題・制作・発表を行う。	主要授業科目
	保育内容演習（言葉）	○	１．領域「言葉」のねらいと内容、及びその指導法について述べることができる。２．乳幼児期にふさわしい環境とはどのようなものか具体的に理解できる。また、その環境の中で保育者はどのように援助をしたらよいかを述べることができる。３．子どもの言語の獲得過程について述べることができ、合わせてその過程において保育者はどのように援助したらよいかについて述べることができる。４．子どもが好奇心・探究心をもってかかわりたくなるような保育教材を工夫して作り、発表できる。以上を目標とし、「幼児教育で育みたい資質・能力」を柱としながら乳幼児期の言葉の発達を踏まえた領域「言葉」のねらいや内容を踏まえ、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現」したり、「人の話を注意して聞こう」としたり、言葉の楽しさに気付くなどがどのような保育で実現されるのかについて理解を深める。	主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	保育実践と表現A		地域の幼児を招いて12月に開催される「クリスマス会」において、表現系授業の総合的実践として、「子ども自ららが児童文化財に親しむ体験」機会の提供を通し、観点や手法など生きた学習を実践する。物語を取り上げた視聴覚作品を企画・制作し、幼児教育現場の「表現」や「関心」における音楽の重要性、有効性、可能性を学ぶために手法としてリズム遊び、ごっこ遊び、歌の創作やアンサンブルの手法を学習する。さらに「身近なものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ体験」「身近な自然、ものの色や形、それらのイメージに親しむ体験」を子どもが出来るための音楽的領域手法を考察する。	
	保育実践と表現B		地域の幼児を招いて12月に開催される「クリスマス会」において、表現系授業の総合的実践として、「子ども自ららが児童文化財に親しむ体験」機会の提供を通し、観点や手法など生きた学習を実践する。物語を取り上げた視聴覚作品を企画・制作し、幼児教育現場の「表現」や「関心」における音楽の重要性、有効性、可能性を学ぶために手法としてリズム遊び、ごっこ遊び、歌の創作やアンサンブルの手法を学習する。さらに「身近なものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ体験」「身近な自然、ものの色や形、それらのイメージに親しむ体験」を子どもが出来るための音楽的領域手法を考察する。	
	子どもの生活と遊びA		子どもの身近な環境や生活の中にある様々なものを使って造形表現や遊び道具の制作を行なっていく。授業は、主に制作演習を通じて行う。学生自身が普段の生活の中で、様々なものの可能性を感じながら、材料や素材集めを行って制作することで、想像力や表現力を養い学び、将来の子どもとの関わりへと繋げていく。表現活動や手作りできる遊び道具の制作を行い、季節や児童文化財、伝承遊びを取り入れ、実際に制作したものでの遊びも体験しながら、子どもへの理解を深めていく。	
	子どもの生活と遊びB		子どもの身近な環境や生活の中にある様々なものを使って造形表現や遊び道具の制作を行なっていく。授業は、主に制作演習を通じて行う。学生自身が普段の生活の中で、様々なものの可能性を感じながら、材料や素材集めを行って制作することで、想像力や表現力を養い学び、将来の子どもとの関わりへと繋げていく。表現活動や手作りできる遊び道具の制作を行い、季節や児童文化財、伝承遊びを取り入れ、実際に制作したものでの遊びも体験しながら、子どもへの理解を深めていく。	
	精神医学I		急速に進む少子高齢化に伴いその医療、介護、福祉を担うスタッフへの期待が高まっている。その期待に応えるためには、＜人間＞についての幅広い知識が必要となる。なかでも精神医学は人間の＜こころ＞について学ぶもので大変重要な科目である。精神医学1では精神医学の基礎理解目指す。精神医学とは何かを理解し、こころの病気のなりたちと治療について基本的な知識を学ぶ。国家試験を目指す学生に対して、必要な知識の習得と専門職として実践に役立つ基礎能力を養う。	
	精神医学II		精神医学Ⅰで学んだ精神医学の基礎知識をもとに、精神障害の種類、それぞれの特徴、及び、診断方法、治療方法について学ぶ。その学びを通して、精神障害者への理解を深め、専門家としての関わり方を学びつつ、国家試験に必要な知識の習得を目指す。毎回、黒板を使って講義形式で授業を進める。適宜、授業のテーマに関連する資料を配布し、説明を行う。講義の合間に、精神障害の理解を深めるために、少人数のグループワークを取り入れる。精神医学Ⅱでは、できるだけ具体的な事例を用いて授業を展開し、精神障害についての実践的な知識を養う。	
	精神保健学I		国民のメンタルヘルスに深い関心を持ち、専門職としての知識と実践力を学び考える 。ＷＨＯの健康の概念、精神的健康、予防の概念、疾病と健康の連続性など精神保健学の基礎的な視点を理解する。各ライフサイクルにおける精神保健の諸問題とその第1次予防の重要性を理解する。また、私たちのメンタルヘルスにかかわる法や制度の概要についてもあわせて理解し、早期発見、早期治療、リハビリテーションのあり方について理解を深める。私たちの精神保健は、個人、家族、集団、組織、地域、社会、文化、環境などによって影響を受けている。精神的健康の維持、増進が人や社会の関係性の中で促進されることをめざし、専門職としての自覚も意識できるよう授業展開を進める。	
	精神保健学II		国民のメンタルヘルスに深い関心を持ち、専門職としての知識と実践力を学び考える 。現代の精神保健における個別課題を取り上げ、その基本知識と対応策について理解すること。主な項目は、家庭や学校、職場などにおける精神保健・虐待問題・いじめ・ひきこもり・自殺対策とうつ病・認知症の理解と対応・アディクション関連問題など、現代において社会的問題としても取り上げられる各課題に焦点をあてている。その社会的背景、具体的支援の実際について追及し、第1予防、第2次予防、第3次予防といった各次元での対応策や支援体制なども理解することも大切である。これらを通して、現在の日本の精神保健の現状と課題を把握するとともに、専門職としての役割を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	精神保健福祉の原理I	○	本講義では、1　精神障害者福祉の理念と歴史的展開、2　精神障害と精神障害者の概念、3　精神障害の排除と障壁をめぐる歴史と構造について学ぶ。精神保健福祉について専門的な知識や技能を論理的かつ批判的思考力及び判断力のもと、主体的に活用することができる力を習得する。到達目標は、以下の通りである。1「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組みについて理解する。2　精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。3　精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。	主要授業科目
	精神保健福祉の原理II	○	本講義では、1　精神障害者の生活特性、2　精神保健福祉の原理と理念、3　精神保健福祉士の役割と機能、について学ぶ。精神保健福祉について専門的な知識や技能を論理的かつ批判的思考力及び判断力のもと、主体的に活用することができる力を習得する。到達目標は、以下の通りである。1　精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。2　精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。3　現在の精神保健福祉士の基本的枠組みと倫理綱領に基づく職責について理解する。4　精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。5　近年の精神保健福祉士の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。	主要授業科目
	臨床心理学		ストレス社会の中で、人は精神的に不健康状態に陥ることがある。この授業は、講義形式で行うが、できる限り心理検査などのワークも取り入れる。代表的な理論モデルと主な心の問題について概観するとともに、アセスメントや介入技法について学ぶ。さらにその応用として子育て世代を対象に、メンタルヘルスと子育て支援について理解する。この講座の到達目標は以下の通りである。１臨床心理学とその研究方法を理解する。２理論モデルとそれに基づく技法について理解する。３心理アセスメントの方法を理解する。４発達障がい、統合失調症、うつ病、不安障害を理解する。５虐待が脳に与える影響を理解する。６メンタルヘルスや子育て支援について理解する。	
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)I	○	精神障がい者の社会的課題を適切に分析することができる。そして、これらの課題を支援するための具体的な援助技術の展開方法について説明、活用できる力を養成する。特に、①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解し、具体的な援助技術を養う。	主要授業科目
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)II	○	精神障がい者の社会的課題を適切に分析することができる。そして、これらの課題を支援するための具体的な援助技術の展開方法について説明、活用できる力を養成する。特に、①精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。②個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。③精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解し、具体的な援助技術を養う。	主要授業科目
	精神保健福祉制度論	○	近年、障害者福祉施策は施設中心から地域中心に大きく転換し、自立生活など福祉の新しい理念が続々と登場している状況である。精神保健福祉の施策も同様に大きな転換を迫られているが、必ずしも、地域在宅医療や精神障害者にかかわる福祉は十分に進んでいるとは言いがたい状況がある。ここに精神保健福祉の特殊性があらわれており、精神保健福祉士に求められる役割も明確となる。本授業では、こうした視点から、精神障害者に関する制度やサービスを一度捉えなおして、人権擁護と自立支援を前提としたソーシャルワークを行うための基本的知識を押さえ、説明できることをめざす。また、専門職として、今後の精神保健、医療、福祉について、どうあるべきかを考察できる力をつける。	主要授業科目
	精神障害リハビリテーション論		精神障害者の障害の特長を理解し、全人間的復権の視点から精神科リハビリテーションの基礎知識を身につける。その際に個人の機能だけでなく、家族や環境へ働きかけることの重要性を理解する。また、精神障害者のリハビリテーションの理論と方法、プロセス、技法も理解をすることも重要であり、特に実施機関、施策・制度、社会資源、専門職等についての役割等も理解を深め、その上で、様々な事例を紹介しながら、地域を基盤とするリハビリテーション体制における多職種の協働・連携のあり方や精神保健福祉士の果たすべき役割を考察することを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	精神保健福祉援助演習I		精神保健福祉士国家資格は、理論を基礎に演習に進み、最終的のその成果を実習で試行することで受験資格が取得される。演習はその意味で、理論と実践の「橋渡し」をすることが目標である。この授業では、精神保健福祉に関する知識や援助についての理論的学習をもとに、精神保健福祉士に求められる相談援助の実際、特にその基本となる援助技術の方法を実践的に習得するとともに、その方法を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができる資質と能力を養う。具体的には、相談援助にかかわる基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を体験し習得する。	
	精神保健福祉援助演習II		精神保健福祉士国家資格は、理論を基礎に演習に進み、最終的のその成果を実習で試行することで受験資格が取得される。演習はその意味で、理論と実践の「橋渡し」をすることが目標である。この授業では、精神保健福祉に関する知識や援助についての理論的学習をもとに、精神保健福祉士に求められる相談援助の実際、特にその基本となる援助技術の方法を実践的に習得するとともに、その方法を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができる資質と能力を養う。具体的には、精神保健福祉援助演習Ⅰの学びをふまえて地域福祉の基盤整備と開発について理解し、概念化し、理論化・体系化できるようになることが目標となる。	
	精神保健福祉援助演習III		精神保健福祉士国家資格は、理論を基礎に演習に進み、最終的のその成果を実習で試行することで受験資格が取得される。演習はその意味で、理論と実践の「橋渡し」をすることが目標である。この授業では、精神保健福祉に関する知識や援助についての理論的学習をもとに、精神保健福祉士に求められる相談援助の実際、特にその基本となる援助技術の方法を実践的に習得するとともに、その方法を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができる資質と能力を養う。具体的には、精神保健福祉援助演習Ⅱの学びをふまえて事例の検討やロールプレイなどの演習により学習を進める。	
	精神保健福祉援助実習指導I	○	授業では個別指導及び集団指導を通して、以下について学びを深める。1　精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解　2　実習施設・機関・病院に関する基本的な理解　3　実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解　4　精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解　5　実習ノートへの記録内容及び方法に関する理解　授業では、専門的な知識や技能を論理的かつ批判的思考力及び判断力のもと、主体的に活用する力を習得する。	主要授業科目
	精神保健福祉援助実習指導II	○	精神保健福祉領域での現場体験（120時間）を通して精神保健福祉士として仕事をすすめていく上で必要な「専門知識」「専門技術」及び「関連知識」の内容の理解を深めると共に、職業倫理について学び、福祉専門職員になるための自覚を養成する。併せて、福祉施設・機関の利用者、他機関との関係・連携、利用者の家族関係と支援者、地域社会のあり方等についても理解を深める。なお授業では、内容に応じて個別指導及び集団指導を行う。	主要授業科目
	精神保健福祉援助実習指導III	○	精神科医療機関における精神保健福祉実習を通して、（１）精神保健福祉援助並びに障害者の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。（２）精神障害者の置かれている現状を理解し、生活実態や課題について把握する。（３）精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術などを体得する。（４）精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。（５）総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職と連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。	主要授業科目
	精神保健福祉援助実習I	○	精神保健福祉援助実習1では、120時間の地域に関わる実習を通して、以下について体得・理解を深める。（１）精神保健福祉援助並びに障害者の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。（２）精神障害者の置かれている現状を理解し、生活実態や課題を把握する。（３）精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術などを体得する。（４）精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。（５）総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携について理解する。	主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	精神保健福祉援助実習II	○	精神保健福祉援助実習1では、90時間以上の精神科医療機関における実習体験及び実習指導者による指導を通して、以下の事項について達成する。（１）精神保健福祉援助並びに障害者の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。（２）精神障害者の置かれている現状を理解し、生活実態や課題について把握する。（３）精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術などを体得する。（４）精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。（５）総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職と連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。	主要授業科目
	福祉専門書講読A		「社会福祉とは何か」を理解するために、福祉に関する文献や専門書籍を精読する授業と位置づけている。まず、文献や専門書籍に関する購読、まとめる、プレセンテーションの方法について講義をする。また、指定する文献や専門書籍を輪読し、まとめてプレゼンテーションするという購読プロセスの演習を行う。そして、福祉専門書を購読する力を見つけることができるようにする。学習到達目標は、①社会福祉について興味関心を持つようにする。②文献や専門書籍の精読方法を身につける。③文献・専門書籍の選択からプレゼンテーションするまでできる。	
	福祉専門書講読B		この授業は福祉専門書購読Aの授業の延長線と位置づけられる。福祉専門書購読Aの授業を通して、「社会福祉とは何か」と「福祉専門書購読方法」を理解したうえで、自分の興味関心のある領域の文献や書籍を複数選択して精読をし、まとめてプレゼンテーションを行う。そして、社会福祉理論の勉強とゼミ選択につながることができるようにする。学習到達目標は、①身分の興味関心のある福祉分野を見つけることができる。②興味関心のある福祉分野に関する文献・専門書籍を選択して精読し、まとめてプレゼンテーションすることができることを目指す。	
	人間関係とコミュニケーション	○	人間関を形成するためのコミュニケーションについて、自己の理解、福祉サービス利用者や家族、同僚に対する他者理解、そして地域社会との連携における情報の共有など、様々な場面を想定し広く学習する。各回のテーマについてグループワークを取り入れた学習を行う。	主要授業科目
	チームマネジメント論		福祉の現場や福祉企業におけるチームマネジメントの重要性とリーダーシップのあり方を理解する。福祉の現場は、さまざまな専門職が関わる専門領域であることをふまえ、組織の中で、各専門職がその専門性を発揮し活躍するために、いかなるチームマネジメントやリーダーシップ性が求められているのかを追求する。また、他職種の専門職とどのようにかかわっていけばいいのかについても追求し、チームマネジメントについて学ぶ。この授業では、施設や地域活動のリーダーシップとチームマネジメントを中心に、事例検討や実践的な課題も取り入れる。そこでは、グループディスカッションを活用しながら、相互に学び合い、資質向上にもつながるよう、主体的に取り組んでいただきたい。	
	生命科学		本授業は大きく３つの段階的な到達目標を掲げる。第一に生物学の基礎を学び理解することである。具体的には細胞や遺伝子など生命現象の仕組み、生命進化、生態系の仕組みについて基本的な事項を理解する。第二に現代社会の様々な場面において実用化されている生命科学の応用技術の基礎知識を身につけることである。第三に、本講義で学んだことを活かして、人間や自分自身、自然環境を理解すること、また、医療・福祉・食料生産等の現場における「いのち」や人間の尊厳について考えることにつなげることである。	
	リハビリテーション論		広義のリハビリテーションを理解することにより、他のコメディカル職種と連携できるようになることを目ざす。さらにリハビリテーションの視点を介護福祉の実践に活用できる知識、技術を身につける。また、医療的な側面から見たリハビリテーションの展開方法と、介護福祉的な展開方法学び現場で生かせる知識を養う。授業は講義及び実技を中心に展開する。可能であれば施設見学なども実施し、実際に補助具等に触れ理解を深めるよう促す。	
	レクリエーション活動援助法 A	○	介護福祉とレクリエーションの関係を理解するとともに、その範囲を理解する。さらにレクリエーション活動を通して援助法についても考察できるようになることを目指す。 介護福祉サービスにおけるレクリエーションの位置づけを明確にし、これからの福祉社会におけるレクリエーション・サービスの全体像を理解することをねらいとする。レクリエーションという概念について論理的に学ぶだけでなく、実際の活動を通して関わりや支援を理解していく。	主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	レクリエーション活動援助法 B	○	社会福祉サービス利用者の日常生活における福祉レクリエーションの意義・価値を理解するとともに、介護現場におけるレクリエーション支援者としての必要な知識ができるようになることを目指す。福祉レクリエーション理論に根ざしたレクリエーション活動を通して援助法について考察できる。具体的なプログラムの作成と実際の活動を通して関わりや支援を理解していく。後半では、プログラムを共同で作成・実施・反省・改善し、その流れを共有し学ぶ。	主要授業科目
	介護概論	○	介護福祉士の専門職として、介護福祉の理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解する。また、介護を必要とする人(高齢者や障害を持つ人）を「生活する人」として受け止め、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など「その人らしさ（個別性）」を大切にすることを学ぶとともに、介護福祉士の役割と機能を理解することを目的とする。介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護の歴史や関連法規から、介護実践の基本姿勢についてノーマライゼーション、ICF、介護福祉士の倫理などを講義を中心に学ぶとともに、介護を必要とする人の個別性や多様性、複雑性を理解し、高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な問題と捉える能力を養う。介護を必要としている人の個々の状態に応じた自立の意味や自己決定、ICFの考え方、介護予防についても十分に理解し、尊厳を支えるチームケアの必要性を理解する。	主要授業科目
	コミュニケーション技法 A	○	社会福祉の一端を担う介護専門職として、利用者や家族、同僚、地域社会と信頼関係を確立できるよう、相手の立場や環境を理解するための基本的態度を体得することを目指す。「人間関係とコミュニケーション」と関連させながら、小グループでロールプレイや検討、討議、発表など行う。さらにそこで得られた体験の振り返りや解説を通して、個人の反省、分析、考察を深め、一定の整理された概念としてコミュニケーション技術を習得していく。	主要授業科目
	コミュニケーション技法 B		聴覚障がい者、視覚障がい者に関する基礎的理解及び、コミュニケーションに方法を学ぶことを通し、障害による情報の入手困難や対人関係におけるコミュニケーションのバリアがあること、更にコミュニケーションの手段の方法について理解を深める。 （オムニバス／全13回） （6 林和歌子・114 長谷川智恵子／7回）手話が音声言語と異なる言語構造を有していることへの理解を深め、手話習得に必要な観る力や表す力等、基礎表現能力を習得し、コミュニケーション意欲を高める。 （6 林和歌子・115 御園政光／6回）点字、指点字などによるコミュニケーション方法があることを理解し、ガイド方法の説明、情報支援機器、合理的配慮規定などについて学ぶ。	オムニバス
	生活支援技術IA	○	年齢や障害いかんにかかわらず、また施設、在宅を問わず介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。また、自立支援に資する介護を他の職種と連携し、各領域で学んだ知識と技術を統合し介護実践に必要な観察力、判断力及び思考力を養う。「こころとからだのしくみ」で学んだ人体の構造や機能に基づき、あらゆる介護場面において共通する基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、適切に実施できることをねらいとする。	共同 主要授業科目
	生活支援技術IB	○	年齢や障害いかんにかかわらず、また施設、在宅を問わず介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。また、自立支援に資する介護を他の職種と連携し、各領域で学んだ知識と技術を統合し介護実践に必要な観察力、判断力及び思考力を養う。あらゆる介護場面において共通する基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、状況によって介護技術が適切に実施できることをねらいとする。	共同 主要授業科目
	生活支援技術II	○	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から要介護高齢者や障害者の自立に向けた居住環境の整備の重要性を理解するための知識を習得する。居住環境という視点だけではなく地域社会、社会福祉施設等、地域を包括した地域資源などからも考察をしていく。また、災害時や緊急時において自ら判断し専門職として適切な行動ができるよう知識と演習も行う。介護福祉施設において介護負担の軽減や感染症対策からも注目されているＡＩについて知識を深めていく。	主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	生活支援技術III	○	目標は、利用者一人ひとりの疾病や障害の基礎的な医学的知識を踏まえ、心身の状態・状況に応じた適切な介護技術を他職種との連携も考慮して計画・実践できるような技術を習得する。主な内容として、 健康障害がある利用者の自立と安全・安楽に配慮した日常生活における基本的な生活支援技術を、根拠を理解したうえで実践できるように講義と演習にて学んでいく。必要な生活支援に関しては、グループワークで症例を用いて話し合うことで具体的な支援をイメージできるようにする。障害がある利用者に対する生活支援技術は、演習計画書を立案したうえで実技演習を行う。この他、小テストによる知識の確認も交えて進める。授業は日本語を用いて、講義・演習形式で実施する。	主要授業科目
	生活支援技術IV		「調理分野」では、人間に切り離せない食事というものを通して、食事は単なる栄養摂取の手段ではなく、楽しみであることを忘れずに、日常の食生活に活用できる調理技術や、食品の特性に関する知識をもち、個々の喫食者にあった生活習慣病の予防食、高齢者、障害者の食事支援能力を身につけ、実践の場で活用できる力とする。「被服分野」では、介護福祉士の役割は、他の福祉専門職との連携を図り、高齢者や障害者が自分らしく、また心身ともに健やかに社会生活を維持できるように支援することである。そのためには介護利用者の衣生活におけるニーズを知ることが大切であり、それに応えるためには衣服に関する知識・技術を習得し、応用することが必要である。そこで、「介護用ウエストポーチ」の製作などの実習を通して、基本的な縫製技術と適切な素材、管理法を学び、介護福祉士として配慮すべきことを自ら考え、積極的に貢献できるようにする。	
	医療的ケアA	○	目標は、医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるというために、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識を習得することである。主な内容は、医療的ケア実施の法的根拠など基礎的な知識を理解したうえで、喀痰吸引や経管栄養の基礎的知識や実施手順について、他職種との連携方法も含めて学んでいく。この他、バイタルサインの測定方法や市民による救命蘇生法、感染予防（消毒と滅菌の違い、個人防護具の正しい使い方等）、医行為でない生活支援技術についても学ぶ。毎回の授業後に小テストを行い、学生自身が理解度を確認できるようにしている。授業は講義形式で実施する。	主要授業科目
	医療的ケアB	○	目標は、医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるというために、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な技術を習得する。主な内容は、喀痰吸引と経管栄養について根拠に基づく安全な手技を習得する。「技術訓練」の回数については以下の通りとする。①喀痰吸引→口腔：５回以上、鼻腔：５回以上、気管カニューレ内部：５回以上（手順通りに正確に行えるまで実施）②経管栄養→胃ろう又は腸ろう：５回以上、経鼻経管栄養：５回以上 （手順通りに正確に行えるまで実施）③救命蘇生法演習：１回以上、小テストによる知識の確認も交えて進め、演習形式で実施する。	主要授業科目
	介護過程I	○	「介護過程」は、介護職員の専門的知識・技術をもって行われる利用者を主体とする生活支援の展開方法である。「介護過程Ⅰ」では、介護を展開する基本理論を学び、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。また、利用者の心身の状況に合わせた適切な介護を実践するための思考過程である「介護過程」の必要性について理解し、適切な状況判断ができる根拠となる情報を導き、その構成要素と展開プロセスについて総論的に理解することを目的とする。	主要授業科目
	介護過程II	○	高齢者や障害を持つ人々へ多様化する介護ニーズに対応できる専門知識として、「介護過程I」で学んだ介護過程の内容をさらに他職種によるチームアプローチの展開や実践できることを目指し、介護過程の展開方法が理解できることを目的とする。到達目標は、１．介護過程の構成要素や流れについて、説明することができる。２．本学の介護過程の様式を使って、介護過程を展開することができる。３．介護過程の構成要素を理解し、利用者の尊厳を守り、QOLを目指した介護過程が展開できる。４．介護過程とケアマネマネジメントの関係性が理解できる。５．多職種協働のチームアプローチの必要性が理解できる。	主要授業科目
	介護過程III		「介護過程Ⅰ」「介護過程Ⅱ」で学んだ介護過程の理論と、「介護実習Ⅰ」「介護実習Ⅱ」で体験した知識や技術を統合することで、介護過程の意義・目的・方法について実践的理解が促進される。その結果、「介護実習Ⅲ」において、介護過程の全プロセスが適切に展開できるようになることをねらいとする。また、ＩＣＦの考え方に基づき、アセスメント→介護計画の立案→実施→評価のプロセスに沿って介護過程を展開することが、根拠を持った科学的介護の実践に必要不可欠であることを理解する。また、利用者の望む生活の実現に向けた多職種協働（チームアプローチ）における、介護福祉士の役割が理解できる。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	介護総合演習I	○	介護実習の教育効果を高めるために、介護実習に向けての心構え、社会福祉の専門書としての接遇マナーをはじめ、福祉施設全般の基本的な予備知識、効果的な実習をおこなうための動悸づけ等の準備を行う。さらに基本的な介護技術の確認、施設のオリエンテーションでおさえておきたい実習施設基本的な情報など、介護実習中に十分実践力を身につけることができるようにする。実習後は振り返りを行うことで、より効果的な介護実習となるようにする。	共同 主要授業科目
	介護総合演習II	○	介護実習の教育効果を高めるために、介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけ等の準備を行う。また、介護実習1を振り返りながら介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。介護技術の確認、介護過程の展開方法の確認をし、実習に向けて自己の課題を明確化できる。実習後の事例報告などから、自らの実践を振り返り介護実践の科学的探究の道筋を理解できる。学習到達目標は、①介護実習では、知識や技術などの学びを統合し介護実践につなげることができる。②介護場面で遭遇した課題を解決するための応用力、判断力、主体的な行動力を身につけ専門職としての態度を養う。③学んだ課題をまとめ、報告、連絡、相談を通して解決の道筋を考えることができる。	共同 主要授業科目
	介護総合演習III	○	本科目では、学外の社会福祉施設にて行う介護実習Ⅲの前に十分な事前学習を準備するとともに、介護実習終了後に実習を振り返り、自己の学習課題を明確にしながら介護福祉士として社会で活躍するための演習を行う。学習到達目標は、①介護実習に向けて、知識や技術などの学びを統合して適用でき、実践力を身につけることができる。②介護場面で遭遇した課題を解決するための判断力、応用力、主体的な行動力が発揮できる。③介護実習で学んだ課題をまとめ、報告・連絡・相談・討議を通して解決への道筋を作ることができる。④介護福祉士としての基盤となる様々な角度からの思考力、根拠に基づいた介護実践を融合して論理的に表現できる。⑤実習記録の書き方やレポートのまとめができる。⑥介護過程の展開方法が理解できる。⑦専門職としての福祉理念、職業倫理、求められる課題の把握など総合的な対応能力を習得できる。	共同 主要授業科目
	介護総合演習IV	○	介護総合演習Ⅳは、介護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して学んだ、理論と実践の統合をおこなう。さらに、 介護実習II・IIIで各自が取り組んだ介護過程の展開をふりかえり、利用者理解を出発点とした根拠に基づく介護実践を介護福祉士の専門性であることに気付くことを目的とする。そのうえで「求められる介護福祉士像」に照らして養成教育全体の学びを振り返り、専門職としての自らの介護観を確立し、実習報告会で発表することができることを目指す。	共同 主要授業科目
	介護実習I	○	介護福祉士養成課程において対人援助職としての基本的な態度、人間関係を構築する基礎となるコミュニケ―ション技術の習得を基本目標とする。施設における利用者の生活リズムとともに介護者の役割を学ぶ。また、日々のコミュニケーション等を通じて利用者を理解していくとともに、利用者の心身状況について理解し、どのような生活支援を受けているかを把握する。実習が進む中で、基礎的な生活支援技術の場面に立ち会い、その根拠や介護の原則を理解し、一部実践する。実習後は振り返りを行うことで、より効果的な介護実習となるようにする。授業は日本語を用いて行い、介護老人福祉施設および介護老人保健施設、認知症対応型共同生活介護など高齢者関連の施設で12日間（90時間以上）の実習を行う。	共同 主要授業科目
	介護実習II	○	介護実習ⅡはICF（国際生活機能分類）の視点に基づき、利用者の生活全体を理解する。さらに受け持ち利用者の介護過程の一部実践を通して、心身の状況に応じた介護を組み立てる能力を養う。 様々な勤務形態の経験とともに、介護過程の展開を通して、ICF（国際生活機能分類）の視点に基づき受持ち利用者の生活全体を把握し、心身の状況に応じた介護を組み立てる能力を養う（介護計画の立案までは必須）。また実習後は振り返りを行うことで、より効果的な介護実習となるようにする。授業は日本語を用いて行い、介護老人福祉施設および介護老人保健施設、障害者支援施設などの施設で23日間（180時間以上）の実習を行う。	共同 主要授業科目
	介護実習III	○	ＩＣＦの視点に基づき、利用者の生活全体を理解し、受け持ち利用者の介護過程の一部実践を通して、心身の状況に応じた介護を組み立てる能力を養う。学習到達目標は、①訪問介護サービスの利用者とニーズと訪問介護サービスの役割の理解。②在宅での身体介護、生活援助を理解する。③サービス提供責任者の業務について、その役割と他職員との関係や連携について理解する④利用者と介護関係を構築する技術をより深める。⑤生活支援の場面を通した生活リハビリテーションや心身の活性化に関する知識・技法を学ぶ。⑥心身の状況に応じた質の高い介護サービスを提供するために、受け持ち利用者について介護過程の一部（アセスメント・介護計画の作成）を実践する。⑦利用者との介護関係を基盤とし個別性に基づく生活支援技術とその根拠と原則を学ぶ。⑧他職種の役割を理解し連携の在り方を学ぶ。⑨地域社会における施設の役割を理解する。	共同 主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	発達と老化の理解 A	○	ライフステージに応じた心身の発達と健康課題について学習を深める。生涯発達の過程における課題にアプローチする上で必要となる、対象の発達を多面的に捉える力を身に着ける。学習到達目標は、①成長と発達の過程における基本的考え方が説明できる。②発達段階における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解できる。	主要授業科目
	発達と老化の理解 B	○	人間の成長と発達の過程における、身体的・社会的変化及び老化が及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。学習到達目標は、①高齢者に多くみられる疾病、症状を理解し、生活支援の中で効果的な援助ができる。②高齢者の健康の維持・増進について理解し、生活を支援するための基礎的な知識を理解できる。	主要授業科目
	認知症の理解 A	○	目標は、認知症の人を中心に捉え、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的支援のための基礎的な知識を身につける。主な内容は、認知症を取り巻く日本の状況とともに、認知症に関する医学的な基礎知識を学ぶことで、認知症に伴う心理状態の変化や生活への影響について考えていく。認知症の人や家族の生活の困りごとや必要とする支援を具体的にイメージできるように実際の映像（ドキュメンタリーや映画）を用いて進めていく。毎回の授業後に小テストを行い、学生自身が理解度を確認できるようにしている。授業は講義形式で行う。	主要授業科目
	認知症の理解 B	○	目標は、認知症の理解Aで学んだ認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解を踏まえ、認知症のある人がその人らしく生活できるように、認知症ケアのアセスメントの方法や実践方法を習得することと、認知症の人を支える家族を支援する制度を理解することを目的とする。主な内容は、認知症の人が地域で最後までその人らしく生活ができるように、アセスメントの方法や実践方法を講義を中心に学んでいく。また、社会福祉サービスの制度や多職種連携などを学び、認知症の人を支える家族への課題を理解し、支援が行えるようにグループワークも交えながら検討していく。授業は講義形式で行う。	主要授業科目
	医学概論II	○	目標は、以下の3点である。①身体構造や心身機能の特徴を成長や加齢の変化とともに理解する。②主な疾病や障害の病態や治療・ケア、リハビリテーションを理解する。③医療における福祉の役割や支援に生かせる健康政策について理解する。主な内容は、 最新の保健情報・研究のエビデンスに基づき、福祉専門職として利用者を支援をするために必要な基本的な医学知識について学ぶ。具体的には、①身体構造や心身機能について（成長や加齢による変化の特徴）、②健康および疾病の捉え方、③疾病や障害の予防・治療・ケア・リハビリテーションと関連する職種、④公衆衛生等を取り扱う。毎回の授業後に小テストを行い、学生自身が理解度を確認できるようにしている。（国試対策のための、解説を主に行う）授業は、講義形式で行う。	主要授業科目
	からだのしくみ	○	介護実践に必要な観察・判断力の基盤となる人体の構造と機能の基礎的な知識を理解できることを目的とする。主な内容は介護を必要とする人の生活支援を行うため人体の構造や機能の基礎的な知識を学ぶ。到達学習目標は、①生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響、気づくべき変化や医療職との連携について理解できる。②終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識、気づくべき変化や医療職との連携について理解できる、である。	主要授業科目
	リスクマネジメント論		リスクマネジメントとは現実に起こっている、あるいは起こりそうな問題を、その解決方法とともに明確に提示することによって、質の高いケアを供給することです。福祉の世界でのリスクマネジメントの基本的な考え方を理解するために、福祉における現実に起こっている問題とは何か、それを解決するために組織とネットワーク、介護保険制度、といったテーマを取り上げます。理論についての講義を中心とし、身近な話題と結びつけながら考えることを目指す。	
	福祉ビジネス論		子育て支援や高齢者・障がい者の介護、環境保護、まちづくり・地域の活性化など私たちの周りには解決しなければならない様々な社会的課題がたくさんある。このような社会的課題の解決に向けて、ビジネスの手法を活用して取り組むのが「福祉ビジネス」である。福祉の世界も介護保険の創設とともに、福祉施設も経営を考えることが必要になった。これまでの「措置」の世界とは異なり、利用者は自らの意思で福祉施設を選択し「契約」するために、福祉施設にもある意味でも競争が出現し、サービスの質が問われるようになった。つまり福祉だけあるいは経営だけではもはや解決できない課題があることを人々が認識するようになった。福祉と経営を学ぶ意義は今後ますます大きくなっている。この福祉ビジネス論では、福祉現場での仕事と一般企業のビジネスの両方に必要なマインド・知識・技術を学び、複雑・多様な問題の解決に取り組むことができるようにする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	福祉マネジメント論		社会福祉サービスの質の向上に向けて、福祉分野だけでない他分野のあらゆる組織の「経営」やマネジメント機能が注目されている。本授業では、経営学における組織論、及びサービスマネジメント論における主要な概念を理解することにより、学生が、集団・組織・環境をマネジメントする基本的な視点を得られることを狙いとする。	
	災害福祉論	○	本講義では災害によって生じる人々の生活課題および、日本および世界的な災害支援の実際と支援者の役割、支援に関わる基礎知識、他職種連携の必要性など災害福祉について包括的に学ぶ。講義を通して、1）災害時、災害後における福祉施設、避難所等における課題とあり方について理解できる、（2）災害時、災害後に必要とされる支援体制や支援方法について理解できる、（3）災害前、災害時や災害後における国や自治体の防災、減災に対する政策動向を理解できることを到達目標とする。	主要授業科目
	福祉運営論		高齢者福祉事業を取り巻く環境や携わる人々の紹介し、各事業体による違いや、組織と運営（経営）の理念や使命について学ぶ。現場における具体的な事例などを交えながら、高齢者福祉施設運営全般の理解を深める。	